7．自己点検・評価報告書

2020年度第2クォーター　掲載目次

専任教員

【所属】

人文学部　キリスト教学科・・・・・・・・・・・・・・1
人文学部　人類文化学科・・・・・・・・・・・・・・・6
人文学部　心理人間学科・・・・・・・・・・・・・・11
人文学部　日本文化学科・・・・・・・・・・・・・・16
外国語学部　英米学科・・・・・・・・・・・・・・・21
外国語学部　スペイン・ラテンアメリカ学科・・・・30
外国語学部　フランス学科・・・・・・・・・・・・・34
外国語学部　ドイツ学科・・・・・・・・・・・・・・38
外国語学部　アジア学科・・・・・・・・・・・・・・40
経済学部　経済学科・・・・・・・・・・・・・・・・43
経営学部　経営学科・・・・・・・・・・・・・・・・50
法学部　　法律学科・・・・・・・・・・・・・・・・61
総合政策学部　総合政策学科・・・・・・・・・・・65
理工学部　システム数理学科・・・・・・・・・・・73
理工学部　ソフトウェア工学科・・・・・・・・・・75
理工学部　機械電子制御工学科・・・・・・・・・・77
国際教養学部　国際教養学科・・・・・・・・・・・79
法務研究科　法務専攻(専門職学位課程)・・・・・・87
教職センター・・・・・・・・・・・・・・・・・・・88
情報センター・・・・・・・・・・・・・・・・・・・91
外国語教育センター・・・・・・・・・・・・・・・・91
体育教育センター・・・・・・・・・・・・・・・・・104

非常勤教員

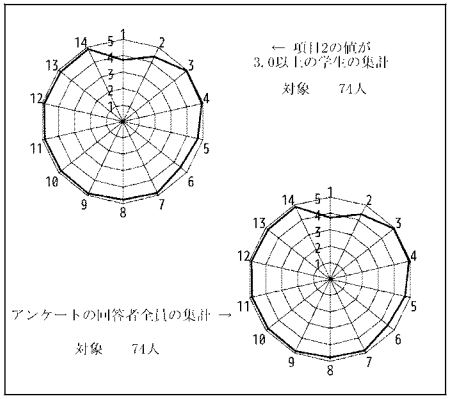
【所属】

人文学部　人類文化学科・・・・・・・・・・・・・・105
人文学部　日本文化学科・・・・・・・・・・・・・・107
外国語学部　英米学科・・・・・・・・・・・・・・・111
外国語学部　スペイン・ラテンアメリカ学科・・・・111
外国語学部　フランス学科・・・・・・・・・・・・・112
外国語学部　アジア学科・・・・・・・・・・・・・・113
経済学部　経済学科・・・・・・・・・・・・・・・・114
経営学部　経営学科・・・・・・・・・・・・・・・・117
法学部　　法律学科・・・・・・・・・・・・・・・・119
総合政策学部　総合政策学科・・・・・・・・・・・122
国際教養学部　国際教養学科・・・・・・・・・・・122
共通教育　仏語・・・・・・・・・・・・・・・・・・123
共通教育　中国語・・・・・・・・・・・・・・・・・123
共通教育　日本語・・・・・・・・・・・・・・・・・125
共通教育　共通・・・・・・・・・・・・・・・・・・127
共通教育　韓国朝鮮語・・・・・・・・・・・・・・・138
教職センター・・・・・・・・・・・・・・・・・・・138
外国語教育センター・・・・・・・・・・・・・・・・140

人文学部 キリスト教学科
佐藤　啓介　先生

2020年度Ｑ２　「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名　宗教論[HC・HJ]
授業コード　10A01-001
教員名　佐藤　啓介
教員コード　102874
登録人数　118
回答数　74
回答率　62.7%
休講回数　0 回
補講回数　0 回



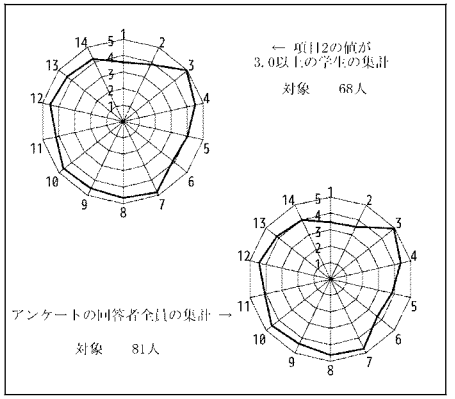
授業評価結果を踏まえた点検・評価

本科目の到達目標は「１．宗教を構成する基本的な要素や、その社会における役割を理解している」「２．宗教的なものに対する人間の関心や関わりを考えることで、人間そのものへの理解が深まっている」「３．現代世界において多様な信仰をもつ人々に対する寛容や理解の姿勢を身につけている」「４．無宗教から宗教を考える視点や、宗教のもつある種の危うさへのまなざしなど、宗教を多角的に考えられる」の４点であり、到達目標に関わる項目５・６はそれぞれ4.70、4.50と高く、目標は達成できたと思われる。
その２項目以外の、授業運営に関わる項目（3～14）については、100人以上の受講者がいる科目であるが、ほぼすべてが4.80以上と非常に高い数値を示しており、総合的な満足度も4.86であり、例年に比較してもその高さは特筆すべきものがある。オンライン授業については学生の学習環境に配慮しつつ、効果的な教育ができたと評価できる。次クォーター以降も、同様の授業実践を継続していきたい。

人文学部 キリスト教学科
RAJCANI, Jakub　先生

2020年度Ｑ２　「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名　宗教論[HA・HP]2
授業コード　10A01-003
教員名　RAJCANI, Jakub
教員コード　103281
登録人数　104
回答数　81
回答率　77.9%
休講回数　0 回
補講回数　0 回



授業評価結果を踏まえた点検・評価

オンライン形式による様々なチャレンジにも関わらず、掲げておいた目標を達成することができたと思います。目標を必ず最初の授業で紹介するので、学生がなぜ目標が何であったか分からない、あるいは目標達成されたか分からないと言っているか不明です。全体的に、いつものことながら、両極端の意見があって、つまり非常に満足してくれた学生と不満のある学生がいて、これでひとまず良いのではないかと思います。表現が難しいとか、英単語が分からなとか、それは学問そのものの本質であり、各自の知ろうとする意欲や調べる努力にもよります。

自由記述から以下の点に関してコメントしたいと思います。

・「先生の問いかけに対して何人もの生徒が発言していたが、先生には聞こえていなかったようなので改善していただきたい」→ 他の授業でこの経験は全くありませんでしたし、普通にこちらで聞こえていた学生もいましたので、こちら側の問題でないと思われます。改善の術は特にありません。

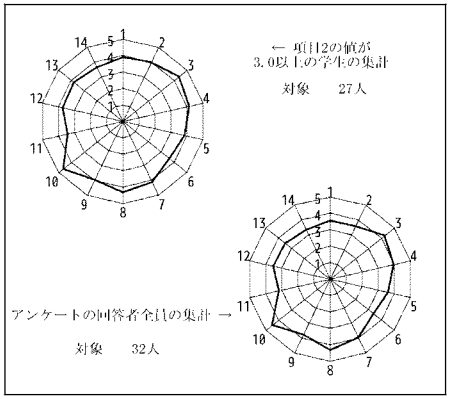
・「資料DLサーバのデータを早く出してほしかった」→ 本来、当日教室で配っている資料ですが、今回オンライだったので、印刷したい人のために前日の夕方にアップロードしていました。直接授業で使う資料でもなく、あくまでも後からもう一度読み直し、復習するための資料でした。こちらも授業と授業の間に準備をしていますので、1日前より早くということは如何せん無理です。

また、現在もっと学生に能動的に関わらせる形を探っていますが、授業の内容の準備とともに、この教育技術的な面もより有効に活用できるように力を入れています。ただ、いろいろな工夫はしつつも、常に学生の気を紛らわし、何としてでも集中力を保ってもらうことが目的ではないので、眠くならない対策は各自でも考えていただきたいものです。

人文学部 キリスト教学科
VARGHESE, Rejimon　先生

2020年度Ｑ２　「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名　宗教論[P]1
授業コード　10A01-013
教員名　VARGHESE, Rejimon
教員コード　100555
登録人数　48
回答数　32
回答率　66.7%
休講回数　0 回
補講回数　0 回



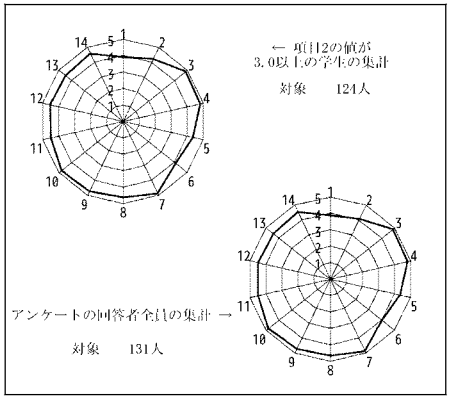
授業評価結果を踏まえた点検・評価

この授業の科目名は宗教論［P］1で、［副題］は啓示宗教の理解を巡ってであった。この授業を時にzoomで、時に講義資料アップロードのみで行なっていた。コロナ禍のため、対面式でこの従業を行うことは無理だったので、それなりの不便があった。
（１）この授業の到達目標は、学生は宗教学とは何か、何故宗教が必要かを理解することと、三つの啓示宗教の歴史と救済のシステムの知識を身につけることによって、宗教に対して開かれた心を持ち、宗教によって体制された世界及び文化をよりよく理解することであった。「宗教について基礎から学ぶことが出来た」や「新しい知識が増えた」という学生からのコメントはこの授業の目標に到達したことを示すと思う。
（２）授業評価項目1から14の平均は3.75と3から14の平均は3.78だが、過去に比べるとこの平均は低い。主な原因はオンライン授業式にあると思われる。
（３）来年度に対面式授業に戻りたいが、万が一コロナのためまだ無理であるとするならば、学生が指摘したこと、例えば、画面共有を利用して、パワーポイントなどで資料を提示しながら授業を進めることやzoomの授業回数を増やすことなどを考慮しながらこの授業を行ないたいと思う。

人文学部 キリスト教学科
HERA, Marianus Pale　先生

2020年度Ｑ２　「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名　宗教論[P]2
授業コード　10A01-014
教員名　HERA, Marianus Pale
教員コード　102689
登録人数　150
回答数　131
回答率　87.3%
休講回数　0 回
補講回数　0 回



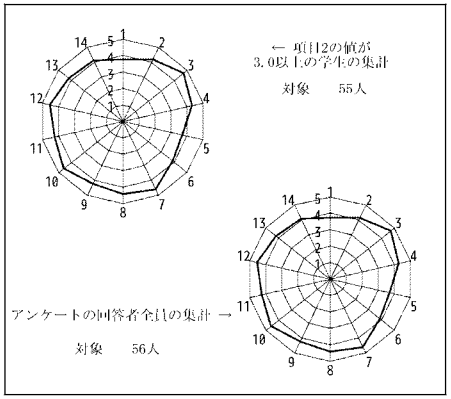
授業評価結果を踏まえた点検・評価

まず、質問1の結果からはっきりとわかるように、今年度も必修科目である宗教論という授業に対する学生の興味は低いということがわかります（3.87）。多くの学生は宗教に関して勉強したことがないだけではなく、宗教に対して否定的なイメージを持っていることがうかがえます。
しかし、最後には、「宗教を身近に感じることができた」「宗教を疎遠していたが、私たちの身近な問題から取り上げてくれたため、興味がわきやすかった」「日本人の教授ではないからこそ、日本を海外から見た時の視点や感じることを聞けたことが良かった」などの声が上がっており、全体的に授業目標に達成できたと思っています。
今回はオンライン授業という新たな形式での授業だったので、授業の途中で画面がフリーズすることなどオンラインでのトラブルはあったものの、無事に終えたことは情報センターの先生がた・職員がたに感謝しています。音声が途切れていること、流した映像の質が悪いなどの学生の声はこれからの課題にしたいと思っています。
今回はWebClassおよびダウンロードサーバーを利用して、これらが大変便利なツールであることを実感しています。対面授業でも活用して行こうと考えています。

人文学部 キリスト教学科
渡邉　学　先生

2020年度Ｑ２　「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名　思想史に学ぶ人間の尊厳5
授業コード　10D03-005
教員名　渡邉　学
教員コード　017186
登録人数　117
回答数　56
回答率　47.9%
休講回数　0 回
補講回数　0 回



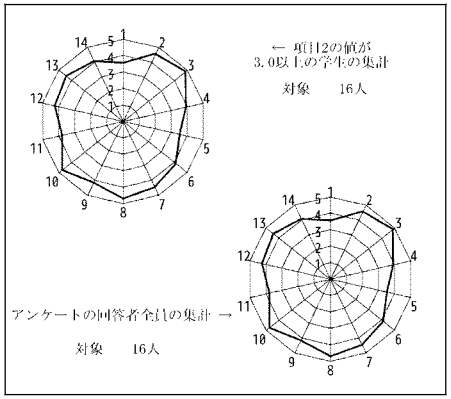
授業評価結果を踏まえた点検・評価

到達目標に関しては、オンライン授業という異例な形式ながら、目標を達成することができたと考える。毎回の講義に対して小テストを課し、1週間程度の余裕を持たせて解答させた。また、質問や感想なども記入できるようにして、次の講義までに寄せられた質問に関しては講義のはじめに答える努力をした。毎回提出する小テストに20%配点し、レポートに80%配点した。そのため、学生の小テストに対する解答が充実したものになったのは評価できる。学生の感想には「授業後の小テストの実施により、その日の講義を整理し次の授業につなげることができたので良かった」という指摘があった。講義内容に関しては、難易度が高くてわかりにくいという指摘もあったが、アニメや映画などのポップカルチャーの例を多く取り入れてわかりやすくする努力をしたため、その点、わかりやすかったという感想が複数あった。そして、「質問に丁寧に答えてくれたのでとてもよかった」という感想もあった。設問項目の平均値に関して言えば、5と6が若干低かった。今後は、講義の到達目標を深く理解させるとともにそれに関する手応えを感じさせるように努力したい。講義の改善すべき点としては、予習復習のポイントを明示して学習効果を高める努力をすること、PowerPointに図式や画像などを増やし視覚的にも興味を抱きやすいものにすることが挙げられる。当初、Zoomの使用について慣れていなかったため、動画の共有に際して音声を共有できないトラブルがあったが、今後はこのようなトラブルを起こさないように努めていきたい。

人文学部 キリスト教学科
井上　淳　先生

2020年度Ｑ２　「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名　ラテン語I講読[HC]
授業コード　11J05-001
教員名　井上　淳
教員コード　100301
登録人数　23
回答数　16
回答率　69.6%
休講回数　0 回
補講回数　0 回



授業評価結果を踏まえた点検・評価

設定目標には到達できた。評価は概ね良かった。特に評価が高かった項目は、3の4.88、8の4.69、10の4.75であった。授業の進むスピードに関しては早すぎると言う人とちょうど良いと言う人の両方がいて、個人差がある。今回の最終レポート課題として選んだ原典は、ティルベリのゲルウァシウス(Gervasius Tilberiensis)の『皇帝のくつろぎ』(Otia Imperialia) III, 58である。受講者が持っている羅和辞典（研究社）でも訳せるようにラテン語の原文を所々調整した。日本語訳は次の通り。

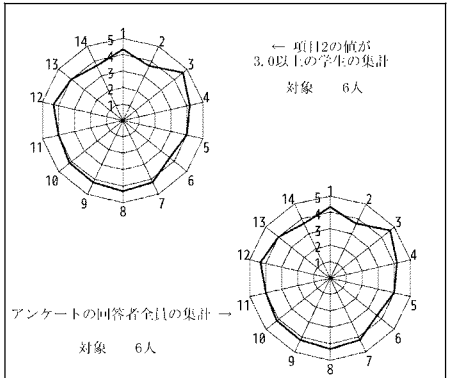
(1) ヒスパーニア（スペイン）には、かなりの大きさの平面に広がった一つの岩があります。
(2) その頂上では、正午の時刻ごろ、
(3) 武具を携え、兵士たちの様式で、お互いを槍で打ちかかる兵士たちが見られます。
(4) しかし、もし誰かがその場所に近寄ると、
(5) そのようなものは全く何も現れないのです。

これからも、できるだけ興味深いラテン語原典を探してゆきたい。

人文学部 キリスト教学科
松根　伸治　先生

2020年度Ｑ２　「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名　ラテン語I講読＜全＞
授業コード 11J05-002
教員名　松根　伸治
教員コード 101833
登録人数　20
回答数　6
回答率　30.0%
休講回数　0 回
補講回数　0 回



授業評価結果を踏まえた点検・評価

Q1、Q2を通してラテン語文法の初歩を学んできたが、項目6（到達目標に向けて力がついてきていると思うか）の平均値は3.67で低かった。また、項目14（全体としての満足度）も例年に比べて評価が低く、同じく3.67である。オンライン授業で様々な工夫をしてみたものの、今回の授業評価結果からは、今年度前半はうまく成果が出なかったと判断せざるえをえない。予習や課題提出の手順はとくに念入りに説明したつもりだが、項目2（予習復習など）の数字がやはり3.67にとどまることから、自分なりの学習ペースをうまくつかめないままの受講者がいるものと思われる。Q1授業開始直後の時期にネット環境やマイクが不調な人、辞書の入手が遅れた人も散見され、混乱気味のスタートだったことが今も影響しているかもしれない。また、アンケートの回答者数が非常に少なかった。いつも以上に協力を呼びかける必要があったと反省している。

Q3以降の方針。自由記述では、提示スライドに板書風の書き込みをする方法を評価する声があったので、このスタイルは続けながら洗練させる努力をしたい。文法の学習に加えて、ローマやキリスト教の文化に関する情報も示しながら、ラテン語学習の意欲を高める機会を多く作りたい。

人文学部 キリスト教学科
岡嵜　隆哲　先生

2020年度Ｑ２　「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名　ラテン語III講読＜全＞
授業コード 11J07-001
教員名　岡嵜　隆哲
教員コード 103614
登録人数　7
回答数　4
回答率　57.1%
休講回数　0 回
補講回数　0 回

レーダーチャートなし
(回答数4件以下のため集計しない)

授業評価結果を踏まえた点検・評価

①開講当初に設定していた目標と到達の程度について。

Readingテクストをかんたんなレヴェルのものから読み進めつつ、並行して基本文法の復習もするというやり方で、ラテン語学習二年目の受講生たちがじっさいのラテン語文献を読む力を徐々に身につけていくという目標にかんし、一定ていどの達成に至ったものと考える。オンライン授業の形式の中で、受講生たちは毎回の暗唱課題などについても真剣に取り組み、その結果は期末試験にも反映されていたと見なしうる。

②数値データおよび自由記述等を踏まえての担当科目に関する総合的な自己点検・評価。※

オンライン形式を利用し、Webの資料など、画面をとおしさまざまな資料の提示ができたところがよかったのではないかと思われる。

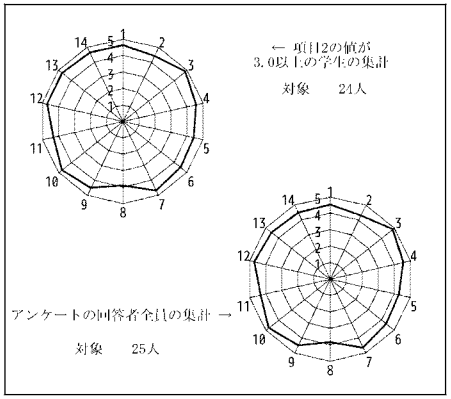
③次クォーター・学期以降に向けての改善点、今後の抱負、方針など

ここまで受講生全員がZOOMにおける映像onの状態での対面形式ということで、ふつうのやり方のときよりも毎回の課題・宿題の確認などにプレッシャーを多く感じさせていたことが考えられる。課題ができていないばあいにむしろ欠席を選択するという生徒もいたのではという点も案じ、次クォーター以降、できるだけリラックスした気分で、それでいて授業には真剣に取り組んでもらえるようなやり方を考えたいと思う。

人文学部 キリスト教学科
清水　美佐　先生

2020年度Ｑ２　「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名　キリスト教芸術A(美術)
授業コード　21C08-001
教員名　清水　美佐
教員コード　152757
登録人数　35
回答数　25
回答率　71.4%
休講回数　0 回
補講回数　0 回



授業評価結果を踏まえた点検・評価

① 目標は、
・キリスト教主題の主要な図像について、内容を読み取り、説明できる
・図像の典拠となる資料にふれ、描かれた主題内容の理解を深める
である。試験結果を見る限りほとんどの学生が設定目標に十分到達できた。

② 今年度は基本的に80分講義+10分質疑応答の形式で行なった。本授業はパワーポイントで美術作品画像を映して説明するものであるため、履修生の使用機材が良ければ、教室授業よりオンラインの方が高い教育効果を得られる。各人が手元で画像を鮮明に見ることができ、私語に悩まされることもない。配布資料がデータ形式に変わったため、カラーで大きく見られるようになり復習しやすくなったと思われる。しかし履修生の受講環境が悪い場合、教育効果に大きな差が出やすい。画面が小さければ作品画像をよく見ることができず、音質が悪いと長時間講義は体調に負荷がかかる。そのため、学生の受講環境差を考慮し、画像に添える字を大きくする、拡大画像スライドも多数準備する、ゆっくり話す、資料を充実させるなどして分かりやすさに努めた。自由記述回答では「説明スピードがちょうどよい／分かりやすい」との声が多数得られ、オンライン授業に際して留意したことに一定の効果があったと思われる。改善希望点には「声が小さい」との回答が多く、これは改善しなければならない。

③ 引き続き、履修生の受講環境に留意したスライドづくりを心掛け、聞き取りやすい声での授業に努める。

人文学部 キリスト教学科
MCMULLEN, Matthew　先生

2020年度Ｑ２　「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名　宗教史II
授業コード　21C58-001
教員名　MCMULLEN, Matthew
教員コード　103838
登録人数　6
回答数　4
回答率　66.7%
休講回数　0 回
補講回数　0 回

レーダーチャートなし
(回答数4件以下のため集計しない)

授業評価結果を踏まえた点検・評価

The goal of the course was to introduce basic concepts and early history of Buddhism by focusing on the life of the Buddha. This goal was sufficiently achieved.

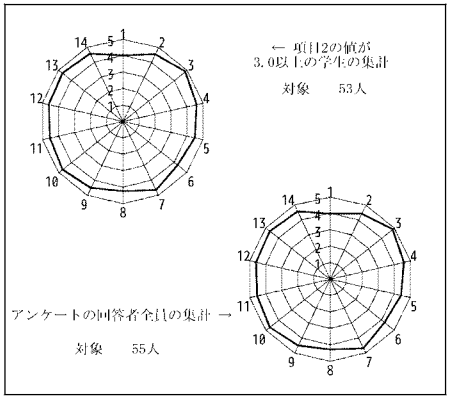
The instructor's level of Japanese is insufficient to teach lecture courses. This course typically involves more discussion from the students, which was difficult to do in an online forum.

The next online course will incorporate more media and less talking from the instructor.

人文学部 人類文化学科
ANTONY SUSAIRAJ　先生

2020年度Ｑ２　「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名　宗教論[P]3
授業コード　10A01-018
教員名　ANTONY SUSAIRAJ
教員コード　103820
登録人数　75
回答数　55
回答率　73.3%
休講回数　0 回
補講回数　0 回



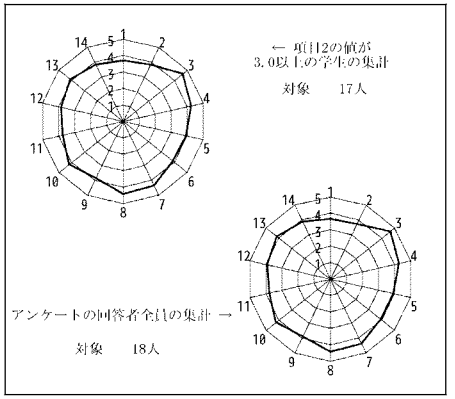
授業評価結果を踏まえた点検・評価

1. The goals set for the course: The goal set for this course to make the students understand the basic elements of world religions. It is achieved to the maximum by clarifications after the every lectures, guest lectures by people of different religions, and finally by assessment with tests.
2. 4.5
3. Giving more times to think and answer when I ask question to the students.

人文学部 人類文化学科
谷口　佳津宏　先生

2020年度Ｑ２　「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名　哲学・倫理学における人間の尊厳1
授業コード　10D02-001
教員名　谷口　佳津宏
教員コード　016550
登録人数　39
回答数　18
回答率　46.2%
休講回数　0 回
補講回数　0 回



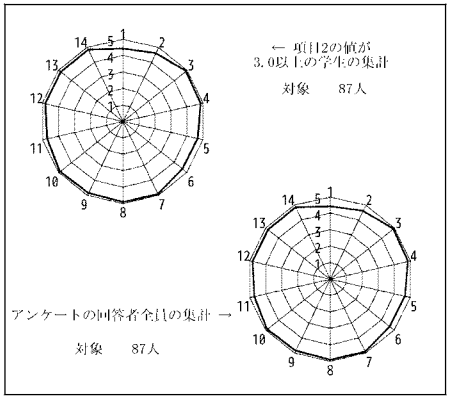
授業評価結果を踏まえた点検・評価

開講当初に設定していた授業の到達目標は，1.南山大学の理念を第三者に説明することができる，2.ヒトと理性的存在者の異同を説明することができる，3.法と道徳の違いを説明することができる，4.哲学書をある程度理解することができる。の4つである。設問項目5の数値をみるかぎりでは，到達の程度は必ずしも十分とは言えないようにもみえるが，その理由の一端は，設問項目1の数値に示されているように，全学の選択必修科目である本科目では抽選漏れでまわってきた受講生も含まれていることにあると考えられる。自由記述欄には「南山大学の理念である「人間の尊厳のために」について、より深く考えることができたことがこの授業の評価できることです。また、授業の題材として哲学者のイマヌエル・カントを用いることにより、今まで考えたこともなかった様々な知識を得ることができたことがこの授業の良かった点です。」というコメントもみられた。また，「毎回zoom画面が真っ暗で授業を受けている感じがしなかった。資料を画面に移し［ママ］、先生の顔もオンにして授業をしてほしい。」というコメントもあったので，今後は顔をさらすことにしたい。

人文学部 人類文化学科
和泉　悠　先生

2020年度Ｑ２　「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名　哲学・倫理学における人間の尊厳4
授業コード　10D02-004
教員名　和泉　悠
教員コード　103645
登録人数　151
回答数　87
回答率　57.6%
休講回数　0 回
補講回数　0 回



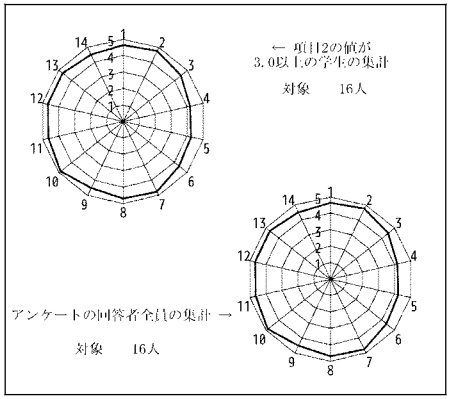
授業評価結果を踏まえた点検・評価

①の到達目標について、ほぼ毎回提出された、講義内容に関する質問やコメントと中間・期末テストの採点結果を踏まえると、多くの学生が十分になく達成していた。
②手前味噌であるが、数値データおよび自由記述を踏まえると、限られたリソースの中で苦慮して設定した講義内容・手法が非常に有効であり、高く評価されたと思われる。特に、受講者数が同程度の授業の数値データと比較すると、かなり高く評価されている。その理由として、たとえば、「質問対応や授業構成関しては独自の工夫がなされており、ありがたさを感じるほどであった。通信関連での心配な面が他の授業では多かったが、本講義ではそれがほとんどなかったのでオンラインでもかなり安心して授業を聞くことができた」などにあるように、講義内容を提示するやり方を一部オンデマンド式を採用し工夫した点が満足度につながったと考えられる。
③オンラインでの学習が続くとして、基本的な講義の形態はQ2で自身で確立した手法を維持する。テスト採点が学期末までずれ込んだ、という課題は本年度に固有の事情もあるが、採点のしやすさを考えた課題の設定には、まだ再考の余地があると思われる。こちら教員側の負荷が大きくなりすぎずに、教育効果の高い課題を（受講人数に合わせて）調節できるような仕組みを考えておくべきである。

人文学部 人類文化学科
坂下　浩司　先生

2020年度Ｑ２　「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名　ギリシャ語II文法＜全＞
授業コード　11K02-001
教員名　坂下　浩司
教員コード　100471
登録人数　21
回答数　16
回答率　76.2%
休講回数　0 回
補講回数　0 回



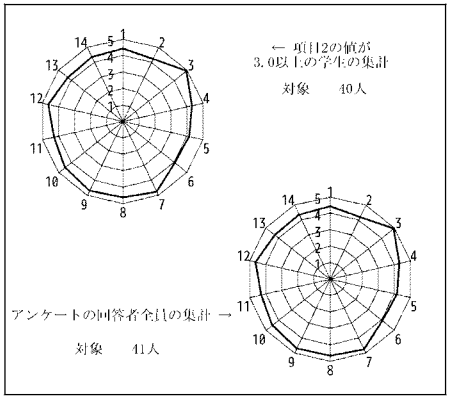
授業評価結果を踏まえた点検・評価

開講当初に設定していた目標は、（１）「古典ギリシア語の初級文法の〔Q1の「Ｉ」よりも〕さらに進んだ知識が身についている」、（２）「古代ギリシアに関係したさまざまなアクティヴィティーをこなせている」、（３）「幅広い映像資料に親しめている」であった。（１）は期末レポートの結果からして到達できたと思われるが、（２）についてはネット上で見ることができる図版のスケッチのみで限定的であり、（３）は私のパソコンではDVDをオンラインで視聴してもらうことができず全くできなかったが、これはしかたなかった。数値データは、どれも「４」以上で、よかったと思われる。自由記述は、よかった点としては、「文法の他にも、古代ギリシアに関する知識が得られる点」、「豆知識が多く、知識が広がりました」、「全く触れたことがないものでしたが、とても楽しく学べた上に、何度も大切な点を先生が説明してくださいました」、「わからないところもわかるまで一緒に教科書を引いて教えてもらえるところがよかった」、「ほかの科目は課題や提出物が多くて大変でしたが、…ゆっくり提出できたのでストレスなくできました」などであった。改善点としては、「板書をしてほしい」というものがあった。実は板書はしていたのだが、ホワイトボードの板面が小さくまた手でもつタイプだったので有効には使えなかった。教員の自宅からでは板書はこれ以上は困難であり今後の課題としたい。

人文学部 人類文化学科
青山　幹哉　先生

2020年度Ｑ２　「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名　日本史A1
授業コード　12B03-001
教員名　青山　幹哉
教員コード　019323
登録人数　84
回答数　41
回答率　48.8%
休講回数　0 回
補講回数　0 回



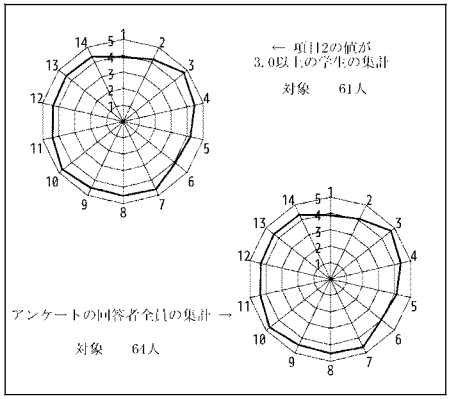
授業評価結果を踏まえた点検・評価

①　設定した到達目標は、(1) 日本中世史についての知識を習得することができる、(2) 一つの歴史的事実に対して複数の見方があることを理解し、多面的な思考力を養うことができる、であった。項目6の平均値は4.07であり、また、受講生の成績からみるとB以上が約半数にとどまっていたので、到達の程度としては中程度であったと判断する。
②　本科目は2019年度Q1学期における学生評価の対象であった。今期はオンライン授業となったため、やや異なる点もあるがほぼ同じ項目なので比較してみると、アップした項目が13，ダウンした項目が1、であった。項目１が「１」ないし「２」であった学生3名のうち、項目14が「５」であった者は2名、「１」であった者は1名、であった。また、今期はオンライン授業を意識して、図版・イラストを増やした補助教材（パワーポイント）を作成した。これについての自由記述では「パワーポイントを使ってよりわかりやすく、興味をそそるような資料を提示しており、とても面白かった」等、好評であった。
③　自由記述で2名から「授業スピードが少し遅かった」との意見があった。「遅い」との指摘は初めてであり、受講生全体を考えた場合にはこの程度のスピードで適切かとも思うが、今後さらに再考したい。また、学期中の課題（小レポート）については、この授業では4回が適切であることを確認したので、次回も同様に行うつもりである。

人文学部 人類文化学科
藤川　美代子　先生

2020年度Ｑ２　「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名　異文化との接触4
授業コード　13A02-004
教員名　藤川　美代子
教員コード　103115
登録人数　196
回答数　64
回答率　32.7%
休講回数　0 回
補講回数　0 回



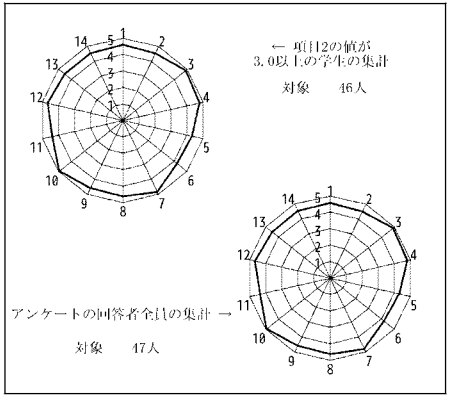
授業評価結果を踏まえた点検・評価

１）受講生の期末レポートを見ても、「①自らと異なる環境に暮らす人々の生活や考え方について理解するための素地を作ること。②マイノリティの人々の生活世界を捉えるために必要な視座を獲得すること。③現代中国に存在する社会的・文化的問題について、自分なりの意見を持てるようになること。④異文化の理解を通して、自らの文化を相対化する姿勢を身につけること」という当初の目標は、概ね達成されたものと考える。
２）オンライン授業に対応するために、①自習＝事前に配信されるレジュメおよびスライドに詳細な解説を加えた詳細版資料の熟読、②オンライン視聴＝予告された時間帯にZoomミーティングにて配信される関連映像の視聴、③課題＝レジュメ・資料・映像に関わる設問に答え、不明点を質問という3本柱で授業を構成しなおし、④期末レポートのみで評価する方針とした。①②③はすべて受講生の自主性に任せられるものだったが、自由記述回答を見ると、特に①詳細版資料の熟読と②オンライン視聴によって、中国社会に対する理解を深められたことがわかった。毎回の②オンライン視聴への参加率が高かったことにも、受講生の自主性の高さが現れていた。また、従前の対面式授業と比較すると、スライドの詳細な説明に時間制限が課せられない分、事前に予定したすべての授業内容を完遂することが可能となり、学生にとっては実り多い内容となったものと考える。その意味で、当該科目の進行は予定どおりに行われたと評価できる。
３）次年度の授業形態がいかなるものになろうとも、学生の理解度を助けるために、今回作成したスライドの詳細版資料を適宜配布するといった対策をとることも視野に入れるつもりである。

人文学部 人類文化学科
斎藤　喬　先生

2020年度Ｑ２　「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名　思想・文化をめぐって1
授業コード　13A06-001
教員名　斎藤　喬
教員コード　103192
登録人数　63
回答数　47
回答率　74.6%
休講回数　0 回
補講回数　0 回



授業評価結果を踏まえた点検・評価

①2020年Q2では、Q1での経験を踏まえて対面授業の内容を余すところなくオンライン授業で実施することを目標としていたが、受講者からの反応およびミニテストや期末レポートの記述を見る限り、結果としてはむしろオンライン形式の方が当初予定していた授業内容を的確に伝えられると実感した。そのため到達の程度として90%は達成できたと考えている。

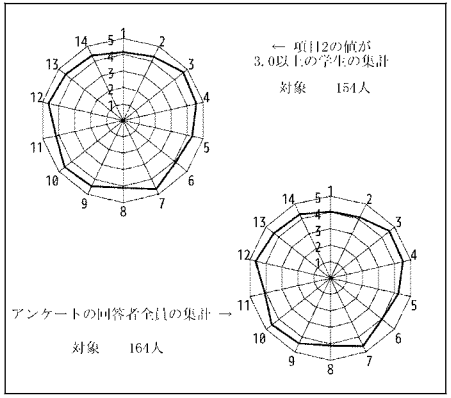
②数値データを見ると、学際科目の設問1-14の平均値4.37および設問3-14の平均値4.40をそれぞれ0.22、0.20ポイント上回っており、設問別に見ると到達目標に関わる項目番号5および6がやや低い数値となって出ている。これはおそらく、シラバス記載の到達目標を受講者がやや難しめに設定されていると感じた結果であろう。自由記述にZoomやWebClassでの資料提示の仕方について不備を指摘するものがあったが、総合的に見てこちらの学問的狙いに対して多くの受講者がぴたりと応じてくれたため、自己評価としては僭越ながら及第点を突破したものと思っている。

③これまで紙媒体で配布することを前提に準備してきた対面授業用の資料を、全てオンライン授業用のPDFに変換・調整する作業が急務であり、Q3以降では受講者にハード面での不具合を感じさせないように工夫する必要がある。また、シラバスの到達目標については授業中に折を見てかみ砕いて説明し、受講者各自の達成度に関する自己評価を上げることができるように取り組んでいきたい。

人文学部 人類文化学科
宮沢　千尋　先生

2020年度Ｑ２　「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名　アジアとの出会い1
授業コード　13B02-001
教員名　宮沢　千尋
教員コード　019562
登録人数　272
回答数　164
回答率　60.3%
休講回数　0 回
補講回数　0 回



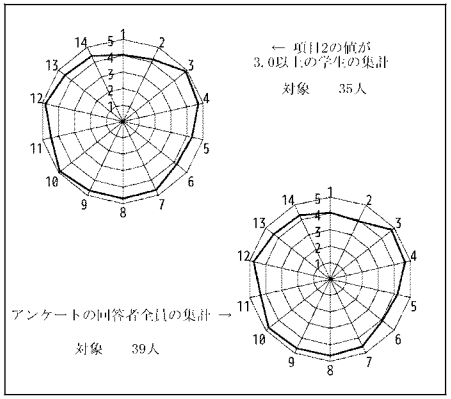
授業評価結果を踏まえた点検・評価

①履修者が270名超と通常の3倍程になり、不可になる学生を少なくすることが目標であったが、単位取得者が249名でC は数名、ほとんどの学生はB以上だった。授業評価でも項目5が4.27、項目６が4.02、項目13が4.37、項目14は4.29であり、ある程度当初の目標と到達度は達成された。
②授業評価に回答した学生は履修者の60.29%、項目２が3.0以上の学生は56.6%だった。項目14、項目1～14の平均、項目3～14の平均を0.2から0.3下回ったがいずれも4. 0を超えているので一定の水準は超えたと考える。自由記述で多くの学生が好意的に評価したのは、チャットなどで寄せられた質問に丁寧に答えたことである。授業時間内に答えられなかったものは、webclassで全員にメイル配信した。これが好成績に反映したと考える。
③改善を望む意見で最も多かったのが、「講義資料のどこを説明しているかわからないので画面共有してほしい」というもので、改善する。項目10も学際科目の平均を下回ったので信頼のおけるウエブサイトやバーチャルアーカイブズなどを紹介したい。
　「参加者数の数に関わらず、開始時間ぴったりに授業を始めよ」という要請が1件あったが、オンライン環境が学生ごとに異なるので、5分以上開始は遅らせないが一定数の参加を待ってから開始という現在の方針を維持したい。

人文学部 人類文化学科
浅石　卓真　先生

2020年度Ｑ２　「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名　情報サービス論
授業コード 15P03-001
教員名　浅石　卓真
教員コード 103263
登録人数　67
回答数　39
回答率　58.2%
休講回数　0 回
補講回数　0 回



授業評価結果を踏まえた点検・評価

①開講当初に設定していた目標と到達の程度について
開講時には以下の３つの目標を設定した：「1. 図書館の情報サービスの概要を説明できる」「2. 情報サービスで使われる基本的な情報源（参考図書、データベース、ウェブ上の情報源）の用途を理解できる」「3.リンク集とパスファインダーを分析・評価できる」。
当初の予定とは異なりレポートでの評価になったが、1～3のいずれについても概ね想定どおりの理解度を確認することができた

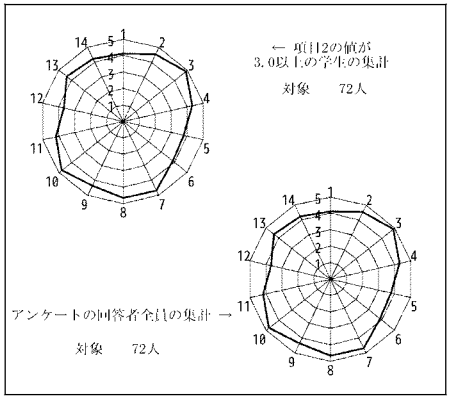
②数値データおよび自由記述等を踏まえての担当科目に関する総合的な自己点検・評価。
項目3から14の平均が4.51と同人数の講義を上回っており、大きな問題はないと考える。ただし「あなたはこの授業の到達目標に向けて力がついてきていると思いますか」が4.08とやや低いため、成果を実感できるようにする点に改善の余地はある。

③次クォーター・学期以降に向けての改善点、今後の抱負、方針など
自由記述を見ると「資料が見やすい」「質問の時間が設けられている」「映像や実際のウェブサイトを多く例示した」ことが評価されているため、これらは後期も継続したい。また、後半になってから取り入れたzoomのブレイクアウトルーム を取り入れたグループワークについても、継続したい。

人文学部 人類文化学科
林　晋太郎　先生

2020年度Ｑ２　「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名　言語学入門
授業コード 22C01-001
教員名　林　晋太郎
教員コード 103741
登録人数　80
回答数　72
回答率　90.0%
休講回数　0 回
補講回数　0 回



授業評価結果を踏まえた点検・評価

①開講当初に設定していた目標と到達の程度について
本科目では、(i) 言語学は「認知科学」の一分野であることを具体的な例を用いて他人に説明できる、および(ii) 様々に異なった特徴を持つ様々な言語の間にも普遍的な特徴があることが理解でき、具体的な例を用いて他人に説明できる、の2点を到達目標に設定した。この目標への到達度合いを測る材料として、2回の小テストと期末試験を実施した。点数の上ではいずれも個人差が少なからずあったものの、全体的に見ると問題なく目標に到達できていると判断できる。

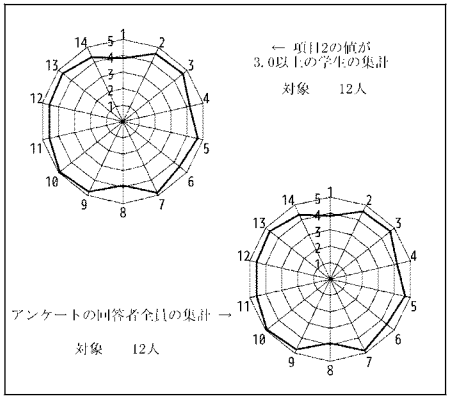
②数値データおよび自由記述等を踏まえての担当科目に関する総合的な自己点検・評価
本科目の設問1-14の平均値は4.32であり、全体の平均値の4.39を下回る結果となった。また、本科目の2019年度の平均値は4.45であり、昨年度からの低下が見られた。本年度とりわけ平均値が低かったのは項目12であり、昨年度は同じ内容を問う項目の平均値が4.27であったのに対し、本年度は3.69に留まった。対面授業からオンライン授業に切り替わったことを踏まえ、課題の解説や質問の機会の確保などをより工夫する必要があったが、十分ではなかったと考えられる。

③次クォーター・学期以降に向けての改善点、今後の抱負、方針など
予習課題や小テスト、リアクションペーパー課題による理解度の確認を高く評価する意見が自由記述に複数見られた。この取り組みは次クォーター以降も継続したい。

人文学部 人類文化学科
上峯　篤史　先生

2020年度Ｑ２　「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名　考古学入門
授業コード　22C02-001
教員名　上峯　篤史
教員コード　104108
登録人数　35
回答数　12
回答率　34.3%
休講回数　0 回
補講回数　0 回



授業評価結果を踏まえた点検・評価

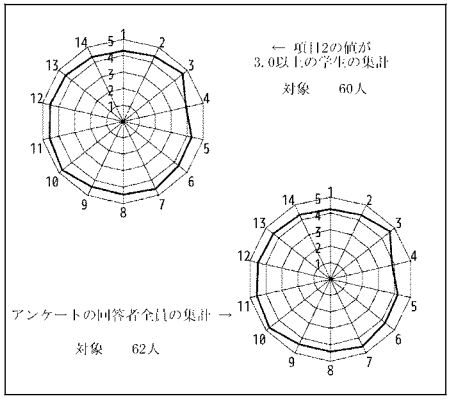
①目標と到達の程度
シラバスに記載したほか、ガイダンス資料にも記載し、初回の授業で周知した。
②担当科目に関する総合的な自己点検・評価
　集計データでは、設問1（授業前の興味）、設問3（開始時間の遵守）、設問4（授業構成や進度）、設問8（授業音声の聞きやすさ）が「開講主体別平均値」をやや下回る。設問1・3は、多くの設問に低評価をつけた回答者1名が平均値を下げているにすぎず、クラス総体としては問題がなかったと考えている。この回答者は自由記述でも辛辣な意見を述べており、他の回答者の自由記述と比較しても、明らかにミスマッチである。実際は授業開始時間が遅れたことは一度もないので、設問3には誤答も含まれる。
　設問8では、火曜日2限に3度ほど、教員側のインターネット回線が不良に見舞われたことが顕著にスコアに表れている。自由記述にも、同現象への指摘が目立つ。この点を指摘する回答者全員が設問4で低評価をつけているので、回線不良による授業の中断にともなう授業終了時刻の延長が2、3度あった点が問題視されていると認識している。これに関しては、「中段時間が10分をこえた場合は、終了時刻を越えても授業を続けるが、授業終了時刻になったら自由退室とする（授業の録画データを作成し、オンライン授業ポータルサイトにて公開）」としてきた。

③改善点・方針
次クォーター以降は、シラバスの記載、初回の授業説明において、授業内容よりも授業方法や雰囲気を伝えるように工夫し、受講登録のミスマッチを回避したい。次クォーターでもインターネット回線不良が見られた場合は、授業実施場所を変更するなど、工夫と原因究明にあたりたい。

人文学部 心理人間学科
伊東　留美　先生

2020年度Ｑ２　「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名　美術A2
授業コード　12A05-002
教員名　伊東　留美
教員コード　063834
登録人数　94
回答数　62
回答率　66.0%
休講回数　0 回
補講回数　0 回



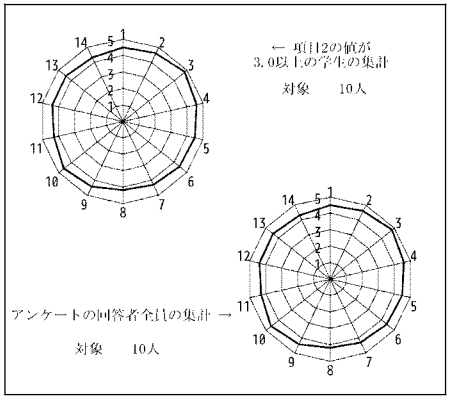
授業評価結果を踏まえた点検・評価

本講義は、共通教育科目（基盤：思想と文化芸術）に該当し、全学部の学生を対象に開講されている。本講義の到達目標は、昨年度同様、「1.日本の近代化がどのように芸術作品に表現されているか理解できること」「2.日本史と西洋史の流れに沿って、芸術の変容が理解できること」「3.鑑賞した作品について日本の近代化の観点からから意見を述べることができること」の3つである。到達目標に関する項目（項目5と6）については、4およそ4.25であり、概ね、学生達は到達目標を知ったうえで力をつけたと感じていたようである。　本講義において学生の評価が比較的高かった（4.5以上）項目は、教員の態度（項目3と7）、オンライン授業での適切な対処（項目10）、学生の意欲を引き出すための情報提供（項目11）、質問や相談の機会の確保（項目12）であった。担当者も、これらの項目については意識的に取り組んでいた点であったので、肯定的に捉えたい。　一方で、評価が比較的低かった点（4.0以下）は、毎回の授業の構成と進行速度であった。シラバスに沿って行ったが、オンライン授業でパソコンの画面切り替えやインターネットサイトに頻繁に繋げたりしたため、時間が予定通り進まないことがあった。それ以外にも、自主学習日を組み入れたが、補足説明の時間をシラバスに含めないまま行ったことで、その後の授業内容の進行に影響が出たこと、また課題の作品の鑑賞時間を設けたが予定以上に時間がかかってしまったことがあげられる。これらは、改善点として、次回取り組んでいきたい。　昨年度の授業評価で本講義が対象となったが、その時の改善点として、学生が作品に対する意見を述べる機会をさらに提供することをあげた。しかし、今年度はオンラインによる遠隔授業となり、美術史の講義の在り方を見直す必要が生じた。学生の意見は、振り返りのコメントシートに書いてもらうという方法で行った。一方で、直接的に意見を交換する機会を希望する学生たちもいた。引き続き、この点も改善点として検討していきたい。

人文学部 心理人間学科
池田　満　先生

2020年度Ｑ２　「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名　教育の方法・技術論1
授業コード　15A09-001
教員名　池田　満
教員コード　103141
登録人数　18
回答数　10
回答率　55.6%
休講回数　0 回
補講回数　0 回



授業評価結果を踏まえた点検・評価

①開講当初に設定していた目標と到達の程度について。
オンラインでの授業実施という制約の中で，十分に目標に到達できたと考える。

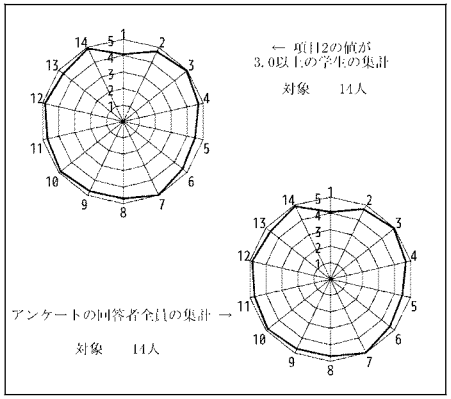
②数値データおよび自由記述等を踏まえての担当科目に関する総合的な自己点検・評価。
すべての項目について4点台であったことから，授業運営について好意的評価が得られたと考える。

③次クォーター・学期以降に向けての改善点、今後の抱負、方針など
学生による主体的な学びを促進するよう，体験学習を中心とした授業構成を継続したい。

人文学部 心理人間学科
解良　優基　先生

2020年度Ｑ２　「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名　教育の方法・技術論4
授業コード　15A09-004
教員名　解良　優基
教員コード　103910
登録人数　30
回答数　14
回答率　46.7%
休講回数　0 回
補講回数　0 回



授業評価結果を踏まえた点検・評価

本授業の目標は，以下の3点であった。
・「教育の方法と技術」を学ぶことの意義と必要性について理解する
・教育心理学の理論をもとに教育の方法と技術を捉える視点を身につける
・学習内容を踏まえ，児童・生徒の主体的な学びを支援するための適切な具体案を提案することができる

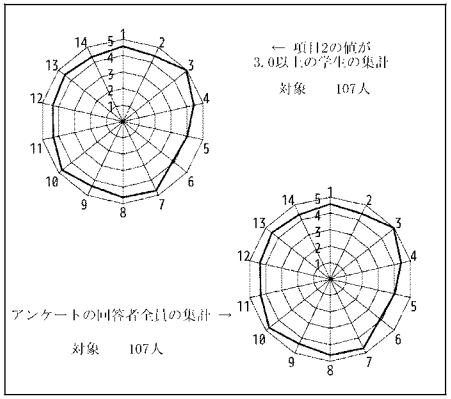
毎週の課題とレポートの内容から，上記の目標については概ね達成したと感じている。
ただし，レポートの出来としては昨年よりも多少全体的に点数が低下した。
その要因はオンライン授業になったことのみに求められるかは不明だが，影響がなかったとは言えないように感じている。
具体的には，授業の内容としては例年よりも多少削減せざるをえなかった。
また，こちらも自転車操業となってしまい，課題へのフィードバックが十分にできなかった点は大きな反省点である。

一方で，学生からの授業評価の数値は例年同様，あるいは例年よりもむしろ高い印象であった。
さまざまな制約がある中で，多くの学生は意欲的に授業に取り組んでいたように感じた。
したがって，上記の結果は授業自体のクオリティというよりも，学生の授業への取り組みの姿勢を反映した結果と受け止めている。
来年度の授業形態がどうなるかは予測できないものの，授業で扱う内容の厳選と課題へのフィードバック，そして授業時間のマネジメントなどは次回への課題としたい。

人文学部 心理人間学科
浦上　昌則　先生

2020年度Ｑ２　「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名　心理学概論
授業コード 23A01-001
教員名　浦上　昌則
教員コード 018788
登録人数　112
回答数　107
回答率　95.5%
休講回数　0 回
補講回数　0 回



授業評価結果を踏まえた点検・評価

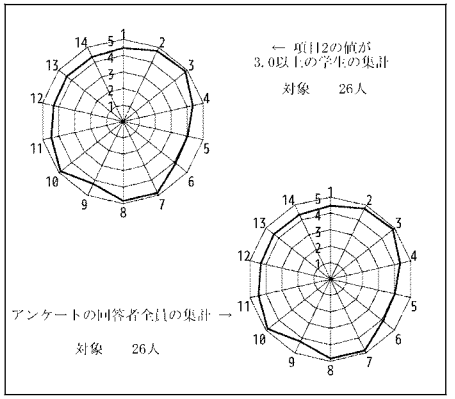
この授業は，今後心理学を学んでいくための導入という位置づけである。心理学の考え方の特徴を踏まえつつ，心理学の歴史，心の仕組みや働きについて扱う。心理学の考え方を支える科学的知識を理解することや，代表的な６つの心理学領域の概要や特徴についての理解などを目指した。なお，例年，各自で調べ，受講生同士で紹介するというペアワークを6回採用しているが，今回は図書館が使えないとか，遠隔であるといったデメリットがあるなか，発表時間短くし人数を増やして，ブレイクアウトルームを活用して実施した。

授業評価の回答は，平均値がほぼ４程度であり，数値的には目標に近づけたといえるのではないだろうか。自由記述の評価でき点にはブレイクアウトルームに関することが多く，「ブレイクアウトルームでの教え合いで、理解が深まった」「オンラインであるにもかかわらず、ほかのメンバーとかかわる時間を取っていただいたこと」などという意見が見られた。改善点としては課題の多さに関するものが多かったが，例年よりは少ないので，これはなんともしようのないことである。できるだけオンラインのメリットを活用しようとしたが，手探りの面が多かったと反省せざるを得ない。

人文学部 心理人間学科
林　雅代　先生

2020年度Ｑ２　「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名　心理人間学基礎演習IB
授業コード 23A05-001
教員名　林　雅代
教員コード 018796
登録人数　27
回答数　26
回答率　96.3%
休講回数　0 回
補講回数　0 回



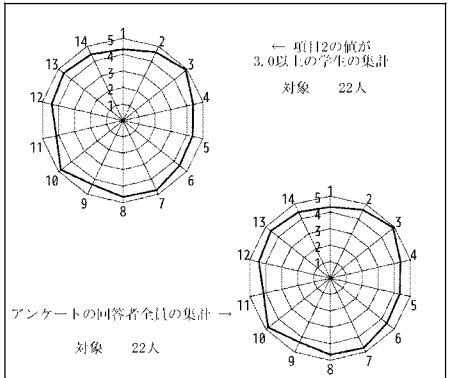
授業評価結果を踏まえた点検・評価

基礎演習IBは、例年同様の内容で実施しているが、今回はオンライン授業となったため、４名の担当者で授業内容を精選し、グループ発表に代えて、個人でのレジュメ作成を丁寧に行うことを中心課題とした。オンライン授業の制約の中でも、授業中に受講者同士の意見交換の時間を取ることもある程度行った他、各課題に対して、受講者個々人に対するフィードバックを可能な限り行った。受講生は全体として非常に熱心に取り組んでおり、担当者からみると例年以上に個々人が力をつけたと感じられる授業であった。受講者の受講態度に関する自己評価（評価項目２）の4.77という数値は、妥当な評価と思われる。授業に対する評価に関しては、すべての項目で４を超えているものの、個別にみると、到達目標の理解や達成がもっとも低く、担当者の受講生の理解度への配慮、質問・相談等の対応が相対的に低かった。自由記述をみると、「良かった点」として質問対応が丁寧という声と、「改善すべき点」として説明が足りないという声があり、相対的に評価が低い項目に関わる点での受講者の評価が分かれ、それが到達目標の理解と達成を低めているのではないかと思われた。担当者の負荷との兼ね合いで、どこまで丁寧に説明したり、提出課題に対してフィードバックしたりできるのかという問題はあるが、丁寧な説明や対応を心がけることは必要であろう。

人文学部 心理人間学科
川浦　佐知子　先生

2020年度Ｑ２　「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名　心理人間学基礎演習IB
授業コード 23A05-002
教員名　川浦　佐知子
教員コード 055855
登録人数　26
回答数　22
回答率　84.6%
休講回数　0 回
補講回数　0 回



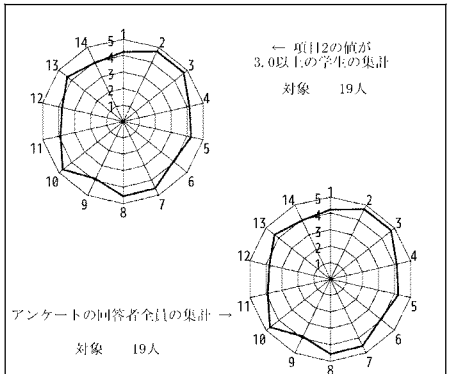
授業評価結果を踏まえた点検・評価

到達目標を、１）文献をクリティカルに読解することができる、２）文献の要点を論理的にまとめることができる、３）効果的な発表レジメを作成することができると定め、オンライン授業を行った。Zoom授業では、心理学や社会学におけるデータ収集・分析の方法や、学術論文を批評する際のポイント、及び発表レジメの作成の仕方などについて講義した。授業ではブレイクアウトルーム機能を用いて、グループで話し合う時間を設け、学生が互いに理解を分かち合う機会を設けた。また、チャット機能を使って問いを投げかけたり、質問を受け付けたりすることで、学生の授業参加意識を高めることを心がけた。双方向のやりとりについては「学生同士で、改善すべき点や参考にすべき点を共有できる機会があったのがよかった」というコメントが寄せられている。自主学習においては、ウェブクラスの機能を用いてお互いの課題を読み合い、コメントする機会を設けた。予習復習に関する設問２の平均値は4.59であり、学生は５つの課題に取り組むことでペースを落とすことなく、主体的に授業に取り組んだと考えられる。「少しずつ課題をこなしていくことが、頑張ってみようというモチベーションになった」というコメントも見られた。設問７の教員の取り組み姿勢については4.73であった。「授業内の説明が丁寧で、授業外でも質問にしっかり対応してくれた」、「課題に対して丁寧なコメントがあった」というコメントがあった。設問13の回答からは、学生が知識、技能を習得したという実感を得ていることが窺える一方（平均値4.59）、設問11の学習意欲を引き出すための指導や情報提供は4.14とやや低い。「課題提示に関する情報提供が不十分であると感じた」というコメントが自由記述欄にあったことを受け、オンライン授業ではより具体的、詳細にこちらが求めるものを説明することを心がけたい。

人文学部 心理人間学科
藤田　知加子　先生

2020年度Ｑ２　「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名　心理人間学基礎演習IB
授業コード 23A05-004
教員名　藤田　知加子
教員コード 100382
登録人数　26
回答数　19
回答率　73.1%
休講回数　0 回
補講回数　0 回



授業評価結果を踏まえた点検・評価

①
最終課題の達成度から推察するに，全体的には，「論文を読んで適切に要約し，レジュメを作る」「批判的に講読し，適切なクリティークができる」という目標は，概ね到達できていると考えて良い。

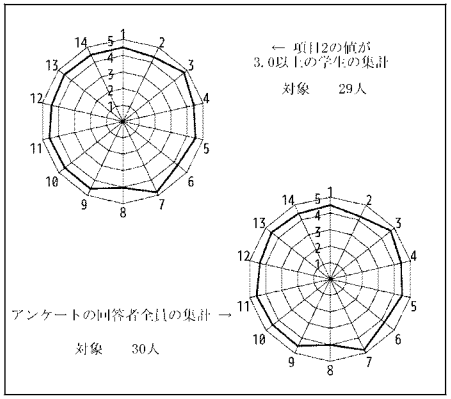
②
例年よりも課題量は減らし，課題の作業時間は増やし，と，できるだけ慣れていない学生にも無理なく取り組めるように設定したが，一度も大学と言う文化で授業を受けたことのない高校を出たばかりの子どもが，ひとりで課題をこなすことは相当に困難であったようで，「課題が多かった」や「 1人でやるには大変だった」という感想が見られた。これ以上の課題削減は学習内容まで縮小させてしまうため，今後の検討が困難な問題であると考える。
一方で，複数の学生から「説明が丁寧でわかりやすい」「グループワークの時間が多くて良かった」「課題の提出を求めるだけでなく、どのようなことをポイントに考えればいいかを教えていただけたので、課題に取り組みやすかった」などの自由記述もあり，「判らないからできない，大変と感じる」というわけではないと言うことも推察された。

③
来年度も遠隔授業であれば，対面授業時以上に，学生自身の目標達成感が充足できるような取り組みの工夫が必要であろう。

人文学部 心理人間学科
高橋　亜希子　先生

2020年度Ｑ２　「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名　臨床教育学
授業コード 23C12-001
教員名　高橋　亜希子
教員コード 103582
登録人数　76
回答数　30
回答率　39.5%
休講回数　0 回
補講回数　0 回



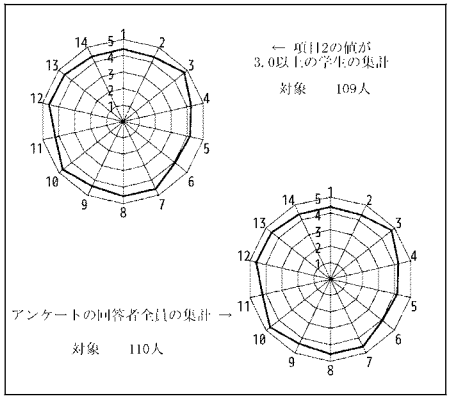
授業評価結果を踏まえた点検・評価

今回の授業は、実習形式の授業をオンラインで行うという初めての慣れない試みで、授業者も試行錯誤でした。
通常の授業では、１　観察実習として、違う写真を配布し、互いに文章で特徴を書き、交換する。２　授業の映像を見て観察や考察の記述をする　３　絵本や小説を基に問いを立てて学生が授業を行う、という３つのワークがあり、それぞれの作業において、学生同士が話し合う機会があったため、それをオンラインという方法でどう行うかというハードルがありました。１は、ブレイクアウトルームでペアを作り、互いに写真を送る、形にしましたが、あまりうまくいかず失礼しました。２は、zoom で映像を共有し、ワードファイルに記入してもらい、ウェブクラスに提出する形で行いました。これについてはうまくいったと思いますが「映像を見ながらワードに書き込むことは難しかった。」「Zoom、ビデオのリンク、ワークシートなど、授業中にパソコン上のページを行ったり来たりすることが多く、少しやりにくかった。」という一つの画面で複数の作業を行う問題があったと思います。３の問いを立てて授業については、学生さんも意欲的に準備してくれて、ブレイクアウトルームでさまざまな話ができ実りが多かったようです。
全体的に、対面時と同程度の評価となり、「ブレイクアウトルームを適切に使用し、学生同士意見の交流がしっかりできた」「オンライン授業ということをうまく利用した授業方式であったと感じた。ブレイクアウトルームを活用していたため、相談しやすい環境にあって良かった。」
「映像資料を用いたり、生徒同士での交流の機会があったりして、対面の授業と近い感覚で受講できた。」など、実習形式や学生同士の対話の機会を多く残したことが評価されてよかったです。

人文学部 心理人間学科
坂中　正義　先生

2020年度Ｑ２　「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名　臨床心理学(臨床心理学概論)
授業コード 23C67-001
教員名　坂中　正義
教員コード 102720
登録人数　135
回答数　110
回答率　81.5%
休講回数　0 回
補講回数　0 回



授業評価結果を踏まえた点検・評価

本授業の到達目標は以下の通りであった。
・臨床心理学の理論と実践についての基礎的事項を理解している。
・臨床心理学を学ぶ上で重要な姿勢(自分にひきつけて考え、自身と対話する)を身につける。
・自己理解を深める。
・自分なりの心理援助を模索する手がかりをつかむ。

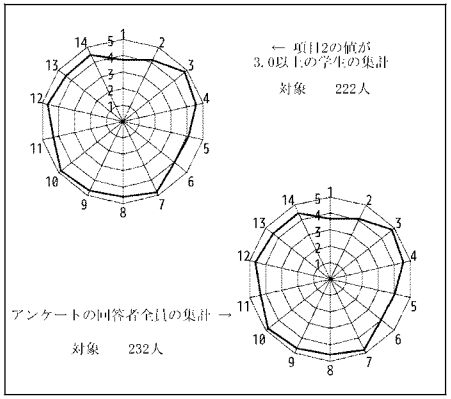
この目標を実現するため、以下の取り組みを中心に授業を展開した。
・内容を身近に感じることが出来るような説明を心がけた。
・実際のカウンセリング事例を提示した。
・単元ごとの質問タイムと提出課題を設定した。
・可能な限りブレイクアウトルームでの話し合いの時間を設定した。
・毎回、振り返りシートを用いて自己理解を促した。

単元毎の提出課題、レポート、定期試験、授業剽評価アンケートによる到達目標達成度4.05等を勘案すると到達目標について各学生なりの形で一定の手応えを感じていることが伺えた。
授業評価アンケートの全項目が4以上を示した。全体との比較では大半の項目が平均並、科目登録者数別との比較においては平均を上回る項目が7割をしめていた。
よって、今後もこの水準で授業が維持できるよう努力するとともに、到達目標に貢献するような新たな試みも試行錯誤していきたい。

人文学部 日本文化学科
福本　拓　先生

2020年度Ｑ２　「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名　人文地理学1
授業コード　12B09-001
教員名　福本　拓
教員コード　104126
登録人数　314
回答数　232
回答率　73.9%
休講回数　0 回
補講回数　0 回



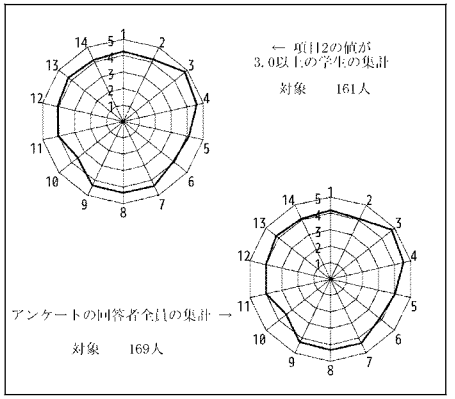
授業評価結果を踏まえた点検・評価

①目標と到達の程度について
本講義の目的・目標は，人文地理学の観点についてその特質と有用性を理解することにある。到達目標の理解(Q4)は4.06，目標に向けて力がついてきているか（Q5）は3.97と低調であった。昨年度を踏まえて，導入回・まとめ回にて全体の目標との接合を目指したが，さしたる改善がなかった点は反省材料である。ただし，毎回のコメントシートを見る限り，個別のトピックを通じた目標達成は一定程度実現できたと考えている。
②総合的な自己点検・評価
授業への取り組みの姿勢（Q7，4.78）適切な授業進行（Q8，4.60）質問の機会（Q12，4.66）は平均を上回っており，多人数かつオンライン授業という環境で，スムーズな授業運営はできたと評価しうる。自主的な学習を促す適切な指導や情報提供（Q11，4.33）は相対的に低かった。オンライン授業という環境下で，事前学習資料の準備など参加への意欲を高めるための方策をとったが，その効果が十分でなかったことは課題である。自由回答や普段のコメントシートでは，難易度の評価についてはかなり幅があり，大人数講義の難しさがあった。
③今後の改善点・方針
難易度が高いという感想に対して，理論的なトピックへの比重をやや下げたほうが良いかもしれない。ただ，ディシプリンの理解としては疎かにできない部分であり，そのバランスの在り方は引き続き検討していきたい。

人文学部 日本文化学科
籾山　洋介　先生

2020年度Ｑ２　「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名　ことばとは3
授業コード　13E02-003
教員名　籾山　洋介
教員コード　041806
登録人数　326
回答数　169
回答率　51.8%
休講回数　0 回
補講回数　0 回



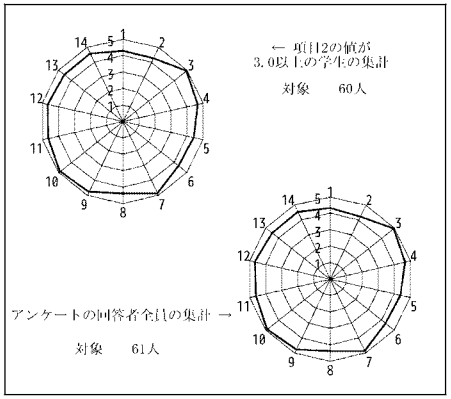
授業評価結果を踏まえた点検・評価

受講者が提出したレポート（3回）を評価した結果、授業の内容を十分に身に付けた（授業の目標に十分達した）学生が約40%、授業の内容を相当程度身に付けた学生が約40%、一部を身に付けた学生が約18%、授業の目標に達しなかった学生が約2%であった。「具体例に基づく説明が理解しやすかった」「ハンドアウトがわかりやすかった」「自習課題によって理解を深めることができた」「チャットを使ってやりとりしたのがよかった」「先生と生徒の隔たりが少なく質問や相談がしやすい環境ができていた」などの意見があった。これらについては、今後もオンライン授業をする場合、継続していきたい。一方、「前の週の自習課題について、翌週にもっと詳しい説明をしてほしかった」という意見があった。ある程度説明したつもりであったが、今後、さらに的確な補足説明をするようにしたい。また、Q２の途中まで受講者をミュートにしていなかったため、一部の受講者の声が聞こえ、受講に支障があったという意見があった。Q３以降、確実にミュート設定にするよう注意したい。

人文学部 日本文化学科
坂井　博美　先生

2020年度Ｑ２　「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名　日本文化史概説
授業コード 24C02-001
教員名　坂井　博美
教員コード 102981
登録人数　125
回答数　61
回答率　48.8%
休講回数　0 回
補講回数　0 回



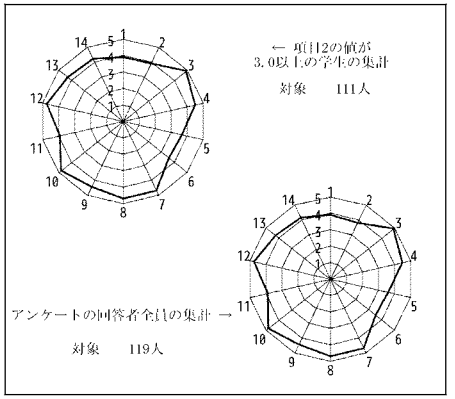
授業評価結果を踏まえた点検・評価

今回は、ZOOMによるオンライン授業となり、機器の使用に不慣れな部分があったが、受講生のみなさんの協力によって全回無事に終了することができた。使用する資料やその提示方法、課題の内容などを、対面授業とは変更した。これについては、「教員は学生の理解度に配慮し、また、教科書、配布資料、視聴覚教材、課題、実技などを効果的に使って適切に授業を進めましたか。」という問いへの回答の平均値が4.75であり、「毎回の課題、質問、次回の授業での回答というサイクルがとてもしっかりしてい」たなど肯定的な回答が多く、おおむね目標は達成できたと考える。受講者が教員側には見えないことで、関心や理解度を見極めることが難しいという問題はあったが、受講者自身にオンライン上の資料を閲覧してもらうなどを行い、これまでの授業とは異なる関心の方向性や理解の深化もみられ、利点もあり、その経験は、今後の授業にも生かしていきたいと考える。一方、動画の視聴について、問題が残った。動画が途切れ途切れになったり音声が聞き取りにくかったという回答がよせられた。音声の問題については、動画をみながら解説したため、受講者に直接音声を流す形式でなく私のパソコンのマイクを介して音声を流す形にしてしまったことも一因とかんがえられるため、この点について改善したい。

人文学部 日本文化学科
平子　達也　先生

2020年度Ｑ２　「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名　日本語学概論
授業コード 24C04-001
教員名　平子　達也
教員コード 104112
登録人数　158
回答数　119
回答率　75.3%
休講回数　0 回
補講回数　0 回



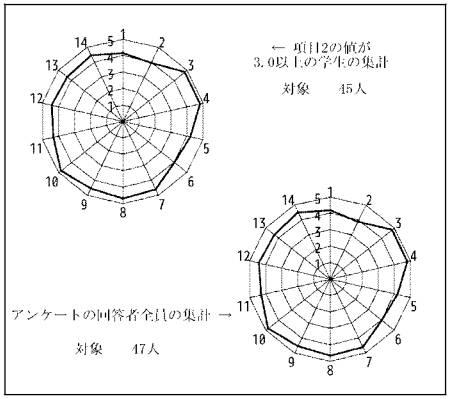
授業評価結果を踏まえた点検・評価

①開講当初の目標としては「日本語に関する言語学的研究のための基本的な知識を身に付けている」と「日本語に関する言語学的研究のための基礎的な力を身に付けている」を掲げた。この目標到達の程度を測るために、第１週目に日本語に関する13個の質問を学生に提示し、その時点での知識に基づいて答えてもらった上で、その質問に対する自らの答えを、授業内容に基づき専門用語を用いて答え直すこと、また、その回答を専門用語を用いないでわかりやすく説明することを最終課題として課した。課題の意図は、早い段階で学生に説明し、採点基準も示したが、アンケートと課題の答案からは課題の意図を理解し、目標に十分到達できている学生が多数である一方で、明らかに意図を理解しない学生も一定数見受けられた。②数値データからもその点は明らかで、項目5・6の数値が低い。復習の機会を設ける声が複数あった。項目11の数値が低めであるのとも関連するが、学習の方法が分からない学生がいるようである。以上より、１年生が多い授業であることもあり、もう少し丁寧に課題の意図や取り組み方、復習の方法などについて説明すべきだったと考える。ただ、高い評価をしてくれた学生も多く、自己評価としては及第点とする。③今後は、課題の意図や取り組み方・学習の方法などについての丁寧な説明とフィードバックをすることを心がけたい。

人文学部 日本文化学科
森田　貴之　先生

2020年度Ｑ２　「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名　日本文学史A
授業コード　24C29-001
教員名　森田　貴之
教員コード　102286
登録人数　68
回答数　47
回答率　69.1%
休講回数　0 回
補講回数　0 回



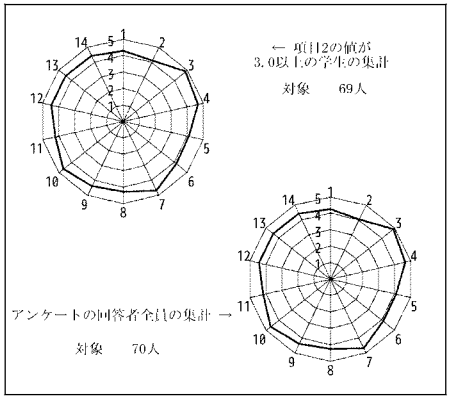
授業評価結果を踏まえた点検・評価

設問1の授業開始前の興味が4.17であるのに対して、設問14の満足度も4.49であり、当初の講義目標は大旨達成されたと考えている。
調査対象科目は、日本文化学科の学科科目の一つであり、日本文学史のうち、学生にはあまりなじみがないものの含まれる中世文学史のを扱っており、専門性の高い内容をあつかっている。そのため日本文学や古典文学を扱う経験の乏しい学生にも配慮し、できるかぎり現代の事象や一般論のようなものと結びつけながらできるだけ具体的な関心を高められるように努めた。その意図はある程度は伝わっていたと感じる。時にはワークショップ的な活動も行って学生の主体的な理解を導くよう試みたが、その点においても自由記述欄の回答にも好意的なものが多かったように思う。オンライン講義についても大きな問題はなかったと考えている。
　次学期、次年度へむけさらなる向上をはかりたい。 全体の平均値から比べて大きく下回る事項はなかったと思うが、今後も学生の状況に気を配り、授業内での課題の在り方、フィードバックの仕方など、学生への動機付けを含めた授業運営を工夫したい。また本アンケートの回収率が47／68であった。授業評価がオンライン化されて以来最も高い回答率であった。いつの日か対面になった際も、回収率が高くなる工夫をしたい。

人文学部 日本文化学科
辻本　裕成　先生

2020年度Ｑ２　「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名　物語・日記文学研究
授業コード　24C32-001
教員名　辻本　裕成
教員コード　019042
登録人数　110
回答数　70
回答率　63.6%
休講回数　0 回
補講回数　0 回



授業評価結果を踏まえた点検・評価

　本授業のアンケート結果の平均値は、いずれの項目も４を超えており、一定の評価を受けることができたと言えよう。
　オンラインによる講義は、今年度がはじめての経験で、どうなることかと思っていたが、大過なく終えることができたことに安堵している。これは、オンライン授業の環境整備に尽力くださった学内の各位、またコンピューター・リテラシーに乏しい教員に懇切に指導してくださった周囲の教員各位のお蔭である。心より感謝したいと思う。

　さて、本授業のシラバスに掲げた到達目標は以下の通りであった。

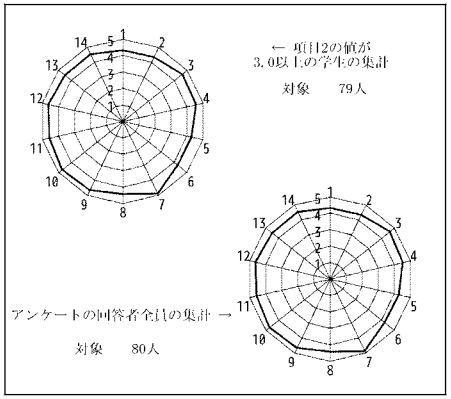
１　いくつかの古典作品をある切り口から並べて読んでみるとどのようなことが見えてくるか、考えることができる。
２　現代とはちがった時代に於ける人間の心性を考えることができる。
３　古典文学を専門にやろうという人は古典文学研究の入門として授業を受け、今後の専門的研究についての指針を得ている。専門にするつもりがない人は古典文学が面白いものであることをわかっている。

　１については自由記述をみていると、ある程度成功したように思われる。多くの作品を取り上げたことに対する肯定的な評価がいくつかあった。２については、毎回のリアクションペーパーで、これに当たることを書いている学生が少なくなかったので、これもある程度成功したものと思われる。３については心もとない。今後、授業の学問的レベルをあげ、なおかつわかりやすいものにするため、試行を重ねたい。

人文学部 日本文化学科
岸川　俊太郎　先生

2020年度Ｑ２　「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名　近現代文学研究
授業コード　24C35-001
教員名　岸川　俊太郎
教員コード　103907
登録人数　134
回答数　80
回答率　59.7%
休講回数　0 回
補講回数　0 回



授業評価結果を踏まえた点検・評価

2020年度Q2の開講科目「近現代文学研究」について自己点検・評価報告を以下に行う。

まず、①開講当初に設定していた目標と到達の程度については、概ね達成できたと考える。この点については、「学生による授業評価」の設問5、設問6でそれぞれ、4.29、4.26という評価を得たことからも確かめられる。

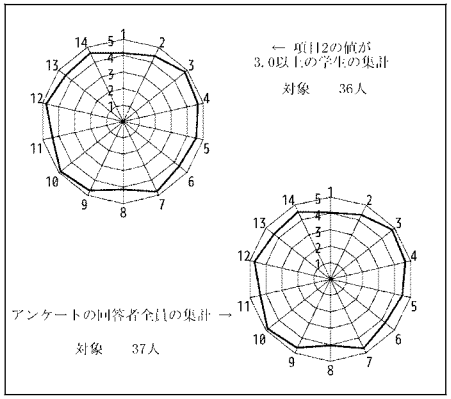
次に、②数値データおよび自由記述等を踏まえての担当科目に関する総合的な自己点検・評価についてであるが、「学生による授業評価」では、設問3と8を除く全ての設問項目で全学部（全体）の平均値を上回った。また、全体的な評価となる設問13、14では、それぞれ4.51、4.53という高い評価を得た。以上の数値データから、当該授業の目標並びに学生に求める理解は概ね達成することができたと判断する。

最後に、③次クォーター・学期以降に向けての改善点、今後の抱負、方針について述べる。設問3（「オンライン授業において、事前に予告された開始時間は守られていましたか。」）と設問8（「オンライン授業中に、教員の声や音声機器の音はよく聞き取れましたか。」）については、わずかながら全学部（全体）の平均値を下回ったため、次クォーター・学期以降に向けて改善したい。いずれもオンライン授業を行う情報環境が原因であるため、情報機器の扱いにより習熟し、学生が受講しやすい授業作りを目指したい。また、授業の中継時間についても見直し、双方向型の授業と課題学習型の授業を上手く組み合わせながら、学生の授業理解度を向上させたい。

人文学部 日本文化学科
西岡　淳　先生

2020年度Ｑ２　「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名　漢文学
授業コード　24C44-001
教員名　西岡　淳
教員コード　019315
登録人数　58
回答数　37
回答率　63.8%
休講回数　0 回
補講回数　0 回



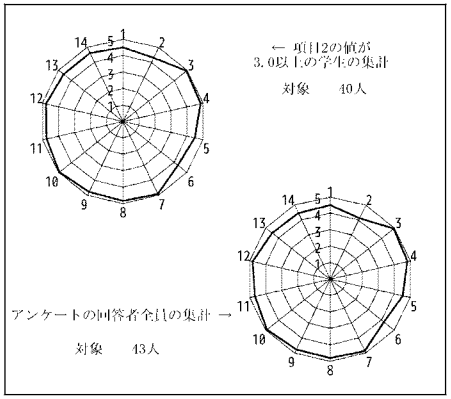
授業評価結果を踏まえた点検・評価

漢和辞典を引いて、返り点を施した漢詩を読めるようになることがこの授業の目標である。受講者は辞書を準備し、まずDLサーバーにアップした教材の日本語訳（余裕があれば書き下し文も）を授業時間内に作成する。授業の後半に担当者が読解・解説し、各受講者が自分で添削した答案を毎回Webclassに提出、これを担当者が閲覧しコメントを付して次回までに返却する形式である。全評価項目の平均値は4.49で、提出物の出来具合からも、授業目標はほぼ達成されたと考えられる。その中で、項目1「受講前にこの科目に興味を持っていたか」、および8「オンライン授業中に、教員の声や音声機器の音はよく聞き取れたか」がいずれも平均値4.05とやや低い。特に8については、自由記述に改善すべき点として「声が小さく、聞き取りにくかった」という記述が複数あったことから、責任は担当者にあると思われ、改善の必要がある。他には、スライドの画面が小さめで見にくいとの意見もあり、これも技術的に解決できると思われる。評価できる点としては、「毎回丁寧なコメントが付されている」（複数）のほか、「解説が丁寧である」「読んだ直後に解説があるのでありがたい」「自分に少しずつ力が付いていることを実感できた」等の記述があった。

人文学部 日本文化学科
上田　崇仁　先生

2020年度Ｑ２　「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名　日本語教授法
授業コード 24C58-001
教員名　上田　崇仁
教員コード 103619
登録人数　60
回答数　43
回答率　71.7%
休講回数　0 回
補講回数　0 回



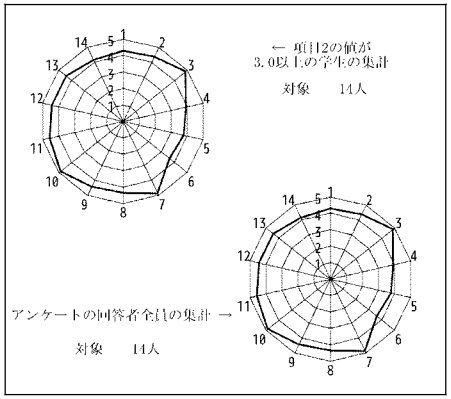
授業評価結果を踏まえた点検・評価

①目標と到達の程度について
　本学でこの授業を担当したのは初めてであり、知識を習得しそれを活用する、ということを目標とした。最終課題を見たところ、おおむね、こちらの意図した程度には到達した学生がほとんどであると感じた。
②自己点検、評価
　設問２が低くなっている。初めて触れる学生が多く、予復習に関する手掛かりがなかったためかと考える。次回以降は、参考文献やWebページなどを指示してもいいかと思う一方で、予断を持たずに授業に臨んでほしいという部分もあり、もう少し考えたい。また、設問６も低いが、これについては、今後、模擬授業を行う授業での実践で体感できるのではないか。
③改善点等
　自由記述回答から、同一の項目について、よかったと感じている学生と改善するべきと感じている学生とがいることがわかり、非常に悩ましい。
　話すスピードについては、教員の側からは、受講者の中に日本語のノンネイティブが存在すること、さらに、通信環境を原因とした音声の聞き取りにくさがあるかという配慮だったが、それを「聞きやすい」ととらえた学生と「ゆっくり過ぎた」ととらえた学生とがいた。
　授業は、基本的に60分の講義と30分の自主作業（宿題）という構成で行った。自主作業時間がきちんと授業時間内の取られていたことを評価する学生と、もっと講義をしてほしいと望む学生とがいた。
　オンライン授業のために急きょテキストの購入を求めつつ、経済的事情から購入できない学生へのフォローもするつもりだったが、講義時間の確保のために、テキスト内容のフォロー時間が少なくなったということもあった。時間配分については今後も検討を進めていきたい。

人文学部 日本文化学科
岩崎　典子　先生

2020年度Ｑ２　「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名　第二言語習得研究
授業コード 24C59-001
教員名　岩崎　典子
教員コード 103983
登録人数　20
回答数　14
回答率　70.0%
休講回数　0 回
補講回数　0 回



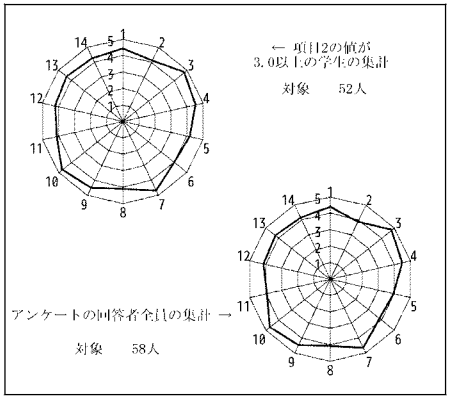
授業評価結果を踏まえた点検・評価

①目標は概ね達成できましたが、全体にZoom授業の場合は学生の様子がわからないため、特に時間配分や進行速度の調整が難しく、やや遅れ気味で、内容を少し削ったり、深められない場合もありました。②数値も自由記述も進行速度の調整などに関するものが多く、やはりそれが一つの課題でした。Zoom授業の場合はあらかじめ内容を削る必要があったのかもしれません。③今後、内容を絞る必要がありそうです。情報提供ではなく対話形式を目指すために事前のスライド提供は困難ですが、事前の予習の方法については工夫が必要だと思われます。現在、この科目のテーマである第二言語習得研究を容易に伝えるための教科書を共同執筆中で2021年9月に刊行予定ですが、来年度この科目を開講する予定のQ2には、刊行前のpdfが使用可能であると思われるので、その教科書の部分採用も念頭に来年の授業の進め方については検討したいと思います。

外国語学部 英米学科
上村　直樹　先生

2020年度Ｑ２　「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名　南北アメリカとの出会い1
授業コード　13B05-001
教員名　上村　直樹
教員コード　102463
登録人数　116
回答数　58
回答率　50.0%
休講回数　0 回
補講回数　0 回



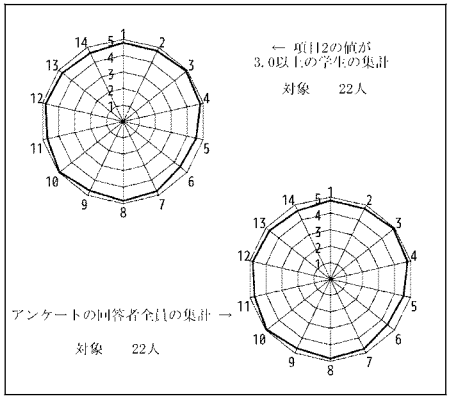
授業評価結果を踏まえた点検・評価

本講義の開講に際して設定した到達目標は、① 南北アメリカ社会の多様性を理解している、② 米州関係の歴史的展開を理解している、③ 南北アメリカにおける異文化間の交流・摩擦・共存の歩みを理解している、の3点であった。この点に関して到達目標に直接係わる設問5、6の数値がそれぞれ思いがけず3.98、3.86と低かったが、これは、今回、オンラインでの授業開催に気を取られ、講義資料等にこの点を明記し、授業の中で繰り返し触れて注意喚起を図ることを失念していたことがその要因の一つと考える。講義担当者としては、この目標達成のために必要と考える講義内容が15回の授業を通じて受講生にほぼ提供できたと考えており、また講義の際の質疑応答や最終試験（レポート）の結果などからも目標の到達度は、比較的高いのではないかと考えている。しかし、今後は、講義の際に授業全体のテーマやその日のテーマについて触れる際に、到達目標自体に関する説明等も改めてしっかり行うにように努めたい。またZoom講義に関するものも含めて、今回、講義のよい点や改善点等に関して多くの指摘が自由字述欄にあったので、次回以降の授業に活かしていきたい。

外国語学部 英米学科
浅野　享三　先生

2020年度Ｑ２　「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名　英語科指導法D1
授業コード　15B60-001
教員名　浅野　享三
教員コード　070912
登録人数　27
回答数　22
回答率　81.5%
休講回数　0 回
補講回数　0 回



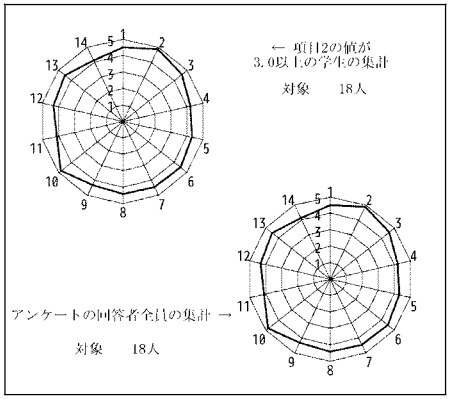
授業評価結果を踏まえた点検・評価

①当初の目標と到達の程度
　シラバス記載の4つの目標のうち，項目別評価の値から判断して，2番を除いて達成できたと判断している。しかし2番も，Zoomを利用したことから事実上，デジタル教材利用経験をし，その長所・短所について実感したと思われる。
②総合的な自己点検評価
　質問項目1～14及び3～14ともに平均値は4.74だった。最高値は，設問10「4.95」，最低値は設問6「4.45」だった。設問10は「妨げ行為に対する対処」に関して，設問6は学生自身が目標到達に近づいたかどうかに関してだった。また，以下のごとく肯定的な自由記述が数多く得られたことは，学生の満足度だけでなく学びも多かったことを示すものと考えられる。紙幅の都合で一部のみ引用する。
　・先生が熱心だった。
　・Zoomのブレークアウトセッションを用いてグループでディスカッションしたり、模擬授業や課題発表の際にコメントをしたりするなど
　　ただ先生の話を聞くだけではなく、授業の中で生徒がなにかアクティビティを行うことが多くていろいろなことを学ぶことができました。
　・ゲストスピーカーを招いて経験を話していただいたり、教育実習に行った先輩のお話を聞く機会が設けられていてとてもよかったです。
　・課題のフィードバックも毎回すぐにしてくださったのでよかったです。
③次の学期以降の抱負
　Zoom利用の授業に慣れたので，学生の学びがさらに深まるような工夫をし続けていきたい。

外国語学部 英米学科
TOLAND, Sean　先生

2020年度Ｑ２　「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名　Academic English A II1
授業コード　31A02-001
教員名　TOLAND, Sean
教員コード　103616
登録人数　26
回答数　18
回答率　69.2%
休講回数　0 回
補講回数　0 回



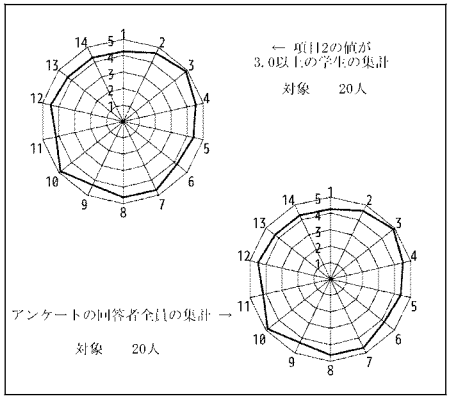
授業評価結果を踏まえた点検・評価

The student comments revealed that several individuals are frustrated with studying online, using ICTs, and starting their post-secondary careers off campus. These concerns echo the comments that other instructors have received teaching in the coronavirus era. I did the following things to enhance my students' learning experiences in the AEA course: a) created a website, b) uploaded 6 explainer/instructional videos to a YouTube channel, c) posted detailed and easy to follow instructions on WebClass, d) provided students with examples of exemplary work (e.g., posters, flags, model essays, etc.), and e) gave learners detailed feedback on their assignments. I provided 15 minutes at the end of each lesson for a 'Q & A' (Question & Answer) session. I also stayed online extra time to help students who required assistance. The AEA students were asked to do the following: a) read the posts on WebClass before each lesson, b) ask questions during the 'Q & A' session, c) talk with me after class, and d) send me a WebClass message (or email). This system has worked well in my other classes. Thus, I encourage the Class 1 students to do the same. The AEA course is a 'content' class so the workload is greater than a 'communicative' English class. I will pass along the students' homework concerns to the AEA course coordinator. The goals of the AEA course have definitely been achieved. I will continue to work hard and improve the overall quality of the AEA course.

外国語学部 英米学科
TEE, Ve-Yin　先生

2020年度Ｑ２　「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名　Academic English A II2
授業コード　31A02-002
教員名　TEE, Ve-Yin
教員コード　101626
登録人数　26
回答数　20
回答率　76.9%
休講回数　0 回
補講回数　0 回



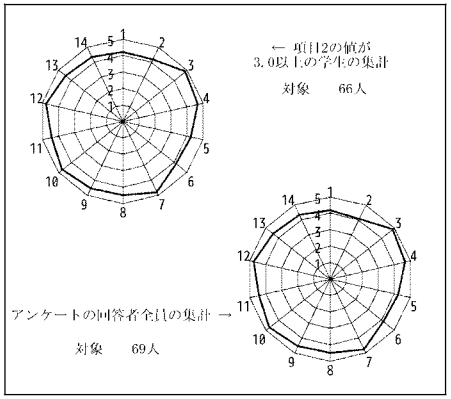
授業評価結果を踏まえた点検・評価

Having been put in the unusual situation of holding online lessons for an English skills course, my aim was simply to convey to students the basics of academic work. I believe all my students understood how the exchange of ideas through presentation and debate impacts upon the writing process, as well as the necessity of research. The majority of students displayed a good awareness of referencing conventions, and the very best gained some consciousness of discourse including how to position themselves. As the evaluations and comments that I have received indicate, the students were generally satisfied with the speaking opportunities (the debate part of the course while causing me the most anxiety proved the most successful) that were given to them. They appreciated the time I gave them to confirm their understanding with each other in small groups in Japanese, as well as the option of approaching me at the end of every lesson for further clarification (in English or Japanese). One student wanted less Japanese to be used, and another commented on an occasion of confusion because the explanation I had offered in Japanese wasn't clear enough. With the former, the origin of the feeling was the student's sense of lacking the necessary language to use English even on occasions that I had asked that English be used. With latter, I think the student was referring to an activity that I had not staged properly, which fortunately only happened once during the entire second quarter. Given the unusual circumstances and my lack of experience, I did better than I had expected.

外国語学部 英米学科
鈴木　達也　先生

2020年度Ｑ２　「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名	Special Topics in English: International Studies A1
授業コード	31B04-001
教員名	鈴木　達也
教員コード	017871
登録人数	95
回答数	69
回答率	72.6%
休講回数	0 回
補講回数	0 回



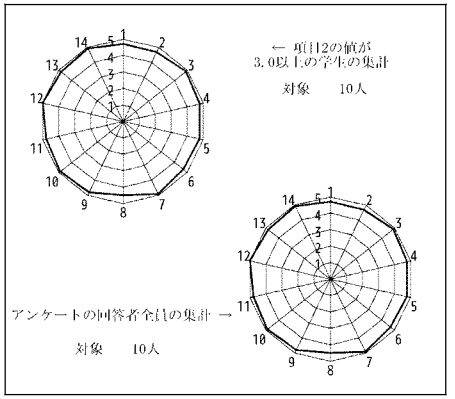
授業評価結果を踏まえた点検・評価

本講義の目標は二つあり、国際研究に関する基礎的な概念を理解することと、国際研究に関わる最近の問題について理解することであった。これらの目標について理解できたかどうかが4.26、到達目標に向けて力がついてきているかどうかも4.16の評価を得ており、まずまずの達成度であると考える。授業を通して新しい知識を得たり、理解が深まったと感じているかどうかについても4.43の評価を得ており、授業への満足度も4.32である。4.0を割った評価項目はなく、項目1から14の平均が4.48、項目3から14の平均は4.54となっていることから、登録者数95名という比較的大きなサイズの授業であり、かつ基本的にすべて英語で教える授業としては、満足のいく結果であると考えている。自由記述欄のコメントから、Zoomのブレイクアウトルームを活用してディスカッションを多く取り入れたことが学生の内容理解を助け、好評価を得た理由の一つであることが分かる。また、差別、フェイクニュース、異文化コミュニケーション等、授業のトピックに合わせた動画を活用したが、それも理解を深める助けとなったというコメントが多くあった。一方、動画の視聴の際に映像が乱れたとの報告もあり、ネットワークの問題が依然として存在していたことが窺える。次クォーター以降は、ブレイクアウトルームのディスカッションをさらに有意義なものにする工夫を凝らし、受講生の満足度をより高めたい。

外国語学部 英米学科
PURCELL, William　先生

2020年度Ｑ２　「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名	Special Topics in English: International Studies A2
授業コード	31B04-002
教員名	PURCELL, William
教員コード	016501
登録人数	24
回答数	10
回答率	41.7%
休講回数	0 回
補講回数	0 回



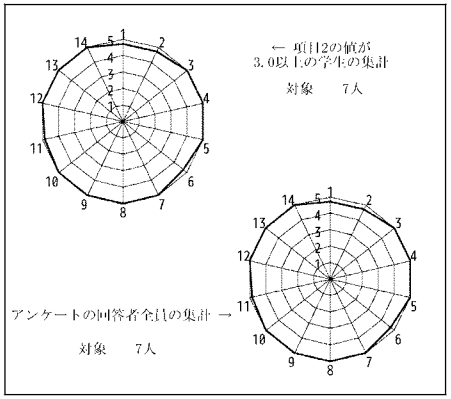
授業評価結果を踏まえた点検・評価

Only about half of the students actually took the time to respond to the evaluation. That I found a little disappointing. Those who did that the time to respond evaluated the class highly, for which I am grateful. Some also took the time to offer comments. These suggested satisfaction despite the circumstances under which we were compelled to proceed. For me this was a brand new course, and something very experimental, so I was at times at a loss about how to proceed under these on-line learning conditions. Overall I was satisfied with the final product. The students indeed seemed interested in the content and I think they came away with a better understanding of the cultural issues and conflicts that dominated the American cultural upheaval of the 1970s. I look forward to doing this particular course again.

外国語学部 英米学科
CRIPPS, Anthony　先生

2020年度Ｑ２　「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名	Special Topics in English: International Studies A3＜2019生用＞
授業コード	31B04-003
教員名	CRIPPS, Anthony
教員コード	102357
登録人数	11
回答数	7
回答率	63.6%
休講回数	0 回
補講回数	0 回



授業評価結果を踏まえた点検・評価

All the goals for this course were met.

I am very pleased with how the course went. Having taught online for many years I knew that one of the keys to a successful online course is to prepare the course carefully. I prepared enough material for the students to be challenged while at the same time remaining flexible.

The students were excellent and they participated to the best of their ability. The improvement in their presentation skills was tangible and their dedication was exemplary.

I was also very pleased with the students' feedback:

(1) プレゼンのスキルの向上を、親身に教えてくださった。わからない単語を聞いた際には、授業後にも教えてくださった。生徒の良いところを引き出そうとする努力が感じられた。

(2) Clear explanation, feedback that was easy to understand, doing mini-presentation to keep students motivated, leave many options to students, not boring, and fun.

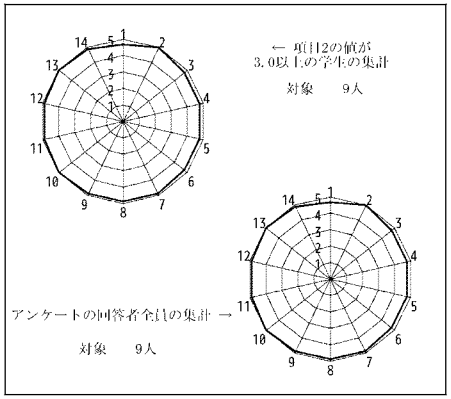
(3) プレゼンテーションの力が身に付いた。

(4) 先生の人柄が良かった。休憩があった。

外国語学部 英米学科
伊藤　聡子　先生

2020年度Ｑ２　「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名	Special Topics in English: International Studies A5＜2019生用＞
授業コード	31B04-005
教員名	伊藤　聡子
教員コード	102445
登録人数	19
回答数	9
回答率	47.4%
休講回数	0 回
補講回数	0 回



授業評価結果を踏まえた点検・評価

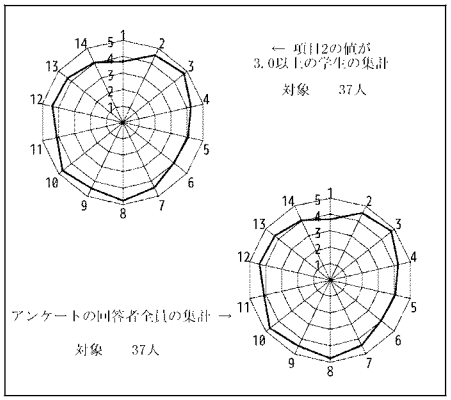
この授業は学習者中心型の授業とすることを目標とし、取り上げたトピックについて各自でリサーチをした内容を基にグループディスカッションとプレゼンテーションをしてもらう形で構成していた。オンライン授業化に伴い、当初はこの目標に沿った授業構成を保つにはどうすればよいか苦慮したが、プレゼンテーションの形式などを変更することで、当初の計画にできるだけ近い形で授業を行えるよう工夫した。その際、特に意識したのはオンラインでのグループ活動が対面とは異なるという点である。回答数が少ないため全体的な意見を反映しているとはいえないが、主体的な学習に関する項目2が極めて高くなっており、授業が充実していたというコメントもあることから、オンライン授業でも学習者中心型の授業はなんとか実現できたと考える。

授業評価では成長の実感（項目6）、意欲（項目11）、理解度（項目13）、満足度（項目14）も予想以上によい評価を得ることができたが、これはオンライン授業化で受信型・自習型の授業が増える中で、学生同士のグループ活動とプレゼンテーションの機会を確保した授業形式が目新しかったという側面もあるだろう。改善点としては、オンライン授業では接続や操作の問題で教員・学生の双方ともに思いのほか時間を取ってしまうことが多い点を考慮し、時間によりゆとりをもたせた授業構成を心掛けていきたい。

外国語学部 英米学科
平松　彩子　先生

2020年度Ｑ２　「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名	Special Topics in English: International Studies B4＜2019生用＞
授業コード	31B05-004
教員名	平松　彩子
教員コード	103468
登録人数	65
回答数	37
回答率	56.9%
休講回数	0 回
補講回数	0 回



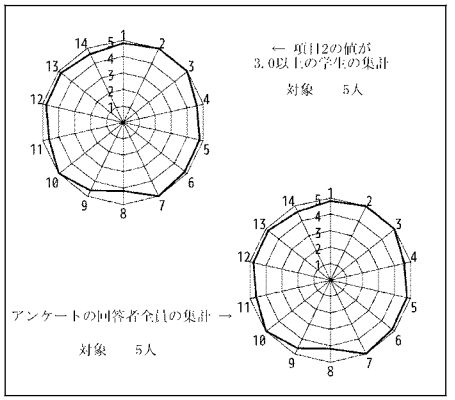
授業評価結果を踏まえた点検・評価

1. The objectives of the course were the following: 1) Students earn introductory knowledge on the questions and methodologies that the political science has developed for analyzing the contemporary issues; 2) Students develop critical thinking skills and use them; and 3) Students gain the skills to effectively communicate their thoughts in English through small group discussions, oral presentations in front of the class, and in writing. These objectives were sufficiently achieved in the class throughout the course of the quarter.
2. The student evaluation revealed the following: the group presentations provided them great opportunities to connect with others and learn the materials only if the group as a whole was keen to learn from these activities. If the members weren't as excited and serious, their peers felt the activities were difficult to coordinate and they tended to lose the motivation for the class.
3. In order to facilitate a better environment for the group work, the class size would need to be reduced to 50, at most. That would allow the movie clip lectures to be moved into real-time instructions in Zoom and incentivize the students to be on the same page at the same time.

外国語学部 英米学科
山辺　省太　先生

2020年度Ｑ２　「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名	Special Topics in English: Culture A1
授業コード	31C06-001
教員名	山辺　省太
教員コード	103138
登録人数	8
回答数	5
回答率	62.5%
休講回数	0 回
補講回数	0 回



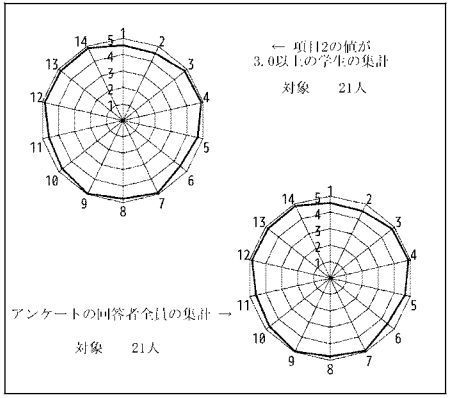
授業評価結果を踏まえた点検・評価

はじめてのオンラインの授業、しかも英語での演習・講義だったので、正直授業運営は困難を極めた。そのせいか、すべての授業が終わった後、何ともやりきれない思いが残ったのだが、学生のコメントを読んでとても救われた心地がした。来年度はいつもどおりに対面式で行われることを切に願うが、オンラインで教えた経験を活かし今後の授業改善に努めていきたい。文学は学生・教員間の自由闊達な議論が重要であると、改めて感じた授業であった。

外国語学部 英米学科
今井　隆夫　先生

2020年度Ｑ２　「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名	Special Topics in English: Culture E＜国際科目群＞（英米学科生用）
授業コード	31C10-901
教員名	今井　隆夫
教員コード	104239
登録人数	23
回答数	21
回答率	91.3%
休講回数	0 回
補講回数	0 回



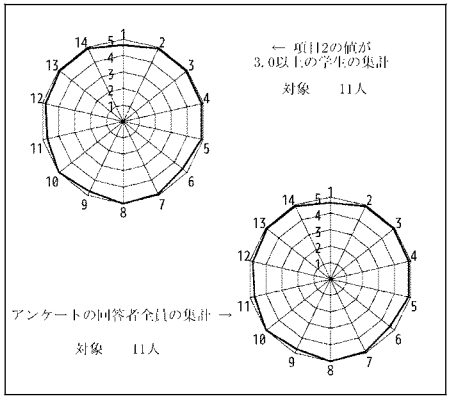
授業評価結果を踏まえた点検・評価

①今回初めて開講した科目であるが、Zoomによるオンライン双方向授業という制約の中で行ったが、対面授業にほぼ近い形で実施することができ、開講当初に設定していた目標である、海外ドラマを用いての日常英語表現の習得とイメージ文法の観点からそれらの表現を学ぶことについて達成できたと考えらる。
②数値データおよび、受講生の記述から、いずれも大変高い評価であり、この授業の内容は学生が学びたいことと合っていたことがうかがえる。具体的には、よかった点として次の記述があった。「先生の授業は何回受けても面白いし、いつも新しい発見があります。」「今回もこの授業を受講できてよかったです、ありがとうございました。」「先生の授業に対する熱意」「新しい表現や文法の細かなニュアンスの違いなど学べて楽しかった。またこのような授業があれば取りたい。」「実際に使える英語表現を多く学べてよかった。」「オンライン授業でも、通常の対面授業とあまり変化なく講義を行ってくださったことです。」「知らなかった表現などを学べた。ビデオ教材が面白い。」「自分の知らない表現をたくさん知ることができ、自分でも使ってみようと思った。」「今まで考えたこともなかったにた英文の違いを学ぶことができた。」一方、改善点として、次の2点の記述があった。「特定の人に当てすぎず、まんべんなく発言させても良かったのかなと思う。どうしてもゼミ生の人に発言が寄ってしまうかなあと感じた。」「授業時間の延長がしばしばみられる。」1点目については、自主的に手を挙げていた学生から当てていたため、同じ学生が何度も手を挙げ、他に希望者がなかったため、同じ学生に何度も当ててしまったが、多くの学生が手を挙げてもらえるよう次回は方法を考えたい。なお、いつもあたっていた学生はゼミ生には限らかなった。授業時間の延長については、5分ほど伸びてしまったことがありましたので、今後は、気を付けたい。

外国語学部 英米学科
DORMAN, Benjamin　先生

2020年度Ｑ２　「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名	Special Topics in English: Interdisciplinary Studies B＜国際科目群＞1（英米学科生用）
授業コード	31C17-901
教員名	DORMAN, Benjamin
教員コード	100695
登録人数	23
回答数	11
回答率	47.8%
休講回数	0 回
補講回数	0 回



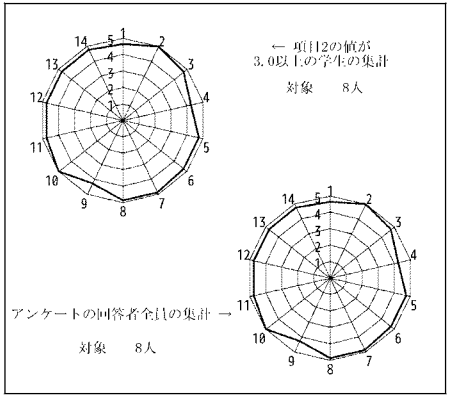
授業評価結果を踏まえた点検・評価

The course focused on aspects of Australian identity from a variety of different perspectives, including issues relating to language, literature, Australians' experiences in wartime, relations between Australia and the US, indigenous Australians, and Australia in the post-1945 period with respect to immigration. It included showing parts of films, including "Gallipoli" and "Rabbit-Proof Fence," and some episodes from two television series' — "The Sounds of Aus" and "The Making of Modern Australia." For the first online version of this course, I attempted to use a combination of asynchronous (pre-recorded lectures) and synchronous instruction (Zoom). During Zoom sessions, I divided the students into different groups, separated by 40-minutes time slots (e.g. group 1 from 1:30-2:20, etc.). This allowed me to engage students in close discussion for each topic. Overall, the course ran smoothly throughout the quarter. The students were, in general, highly motivated to learn and the attendance rate was high. Some students indicated that they were happy with the content and also the online delivery. For each week, I set students a written homework assignment to which I sent back on individual response to each student via Loom, an online video messaging service. While this was an effective way to present my ideas to each student, based on student comments, the amount of work I required from them may have been slightly excessive. In future online courses, I will not require weekly written assignments. Instead, I will ask students to submit 3 or 4 assignments throughout the course.

外国語学部 英米学科
手塚　沙織　先生

2020年度Ｑ２　「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名	Special Topics in English: Contemporary Japan B
授業コード	31C22-001
教員名	手塚　沙織
教員コード	103911
登録人数	17
回答数	8
回答率	47.1%
休講回数	0 回
補講回数	0 回



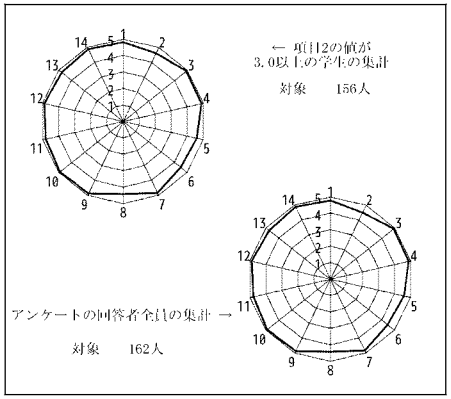
授業評価結果を踏まえた点検・評価

同講義の目標は「物議を醸したイシューを取り上げ、それに関する討論/議論を通じ、現代日本社会と文化を理解する」と「それらのイシューを分析及び討論/議論する能力を身につける」の２点である。学生からのアンケートや最終授業の学生からの感想、学生のグループディスカッション、ディベート、最終プレゼンからも、学生が上記の目標で挙げる能力を身につけたと思う。この授業は、アクティブラーニングを主としているため、今年度は、オンラインにて、グループディスカッション、グループディベート、クラスメートに対する評価といったアクティブラーニングを3時間の連続コマという限られた時間でどのようにさせれば良いのかと悩み、考え抜いた。これらをスムーズに行えるよう、ほかの学生と話しやすく、学生が教員に質問しやすい環境を整えるために、ZoomとSkypeを併用することにした。Zoomでは教員からの全体講義と討論、Skypeではチームディスカッションと授業後のアナウンス、教員への質問を気軽にできるようにした。学生は上記の目標を達成したため、考慮した部分は概ね報われたが、それでも、やはりオンラインでの授業は休憩を通常以上に長めに取る必要があるなど、対面とは異なり、時間配分と進行が非常に難しかった。学生が受動的ではなく、能動的な授業をオンラインで行う場合は、時間配分や学生間での議論への介入のタイミングなど多面的な考慮を要する。これらの点は、アクティブラーニングを取り入れた私の同講義での課題点となる。来年度も同講義がオンラインであれば、上記の点を踏まえたい。

外国語学部 英米学科
今井　達也　先生

2020年度Ｑ２　「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名	コミュニケーション研究の基礎
授業コード	31D04-001
教員名	今井　達也
教員コード	102469
登録人数	250
回答数	162
回答率	64.8%
休講回数	0 回
補講回数	0 回



授業評価結果を踏まえた点検・評価

①開講当初に設定していた目標と到達の程度について。
目標は身近な人間関係やコミュニケーションについて自覚的になり、学んだ内容を使って分析できるようになることであった。授業評価を読んでいると、基本的には学生は達成目標に到達していたように思えた。なお、授業中のディスカッションにおいても、理解が高まっていると感じることがあった。

②数値データおよび自由記述等を踏まえての担当科目に関する総合的な自己点検・評価。※
数値データは概ね良かったが、１つ悪かった点は

4.50 受講に際して、予習や復習を含め、主体的に授業に参加し、内容を理解しようとする努力をしましたか。

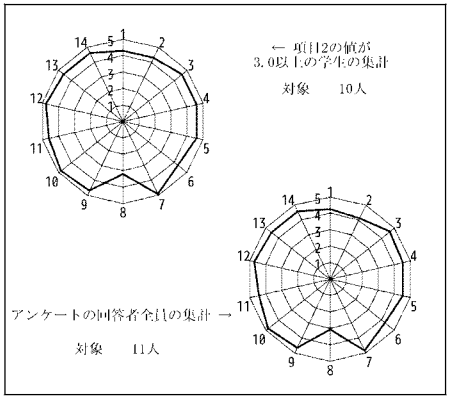
であった。授業の参加は強制ではなかったし、予習なども必要としなかった。もう少し学生が主体的に授業に参加できる工夫が必要である。

③次クォーター・学期以降に向けての改善点、今後の抱負、方針など
上記の点を踏まえ、学生が積極的に復習や予習が出来るように、課題を設定することが必要だと感じた。

外国語学部 英米学科
大井　由紀　先生

2020年度Ｑ２　「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名　社会学研究の基礎（アメリカ）
授業コード 31D07-001
教員名　大井　由紀
教員コード 101888
登録人数　48
回答数　11
回答率　22.9%
休講回数　0 回
補講回数　0 回



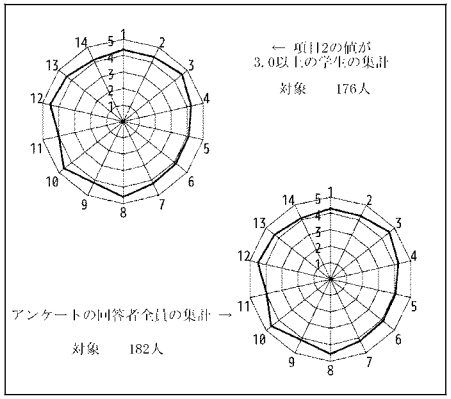
授業評価結果を踏まえた点検・評価

本講義の目標は、1.）アメリカ社会が抱える諸問題を理解する、2.）社会学で用いられる概念・理論を学ぶ、3.）自分や社会が抱える問題を自力で考える力を養う、という3点でした。講義で内容を伝達するだけでなく、グループでのディスカッションやワークを通して、意見を交換したり発展させたりする機会を作ることができたかと思います。トピックごとに参考文献も紹介し、おすすめの文献をピックアップして伝えることで、授業外や今後の自発的な学習の下地を作ることができたのではないかと思います。回答数が想像以上に少なかったため、次回以降は学生さんに回答していただけるよう工夫したいと思います。途中からオンライン授業に参加する人数が10人ほど減りましたが、期末課題の提出状況を鑑みると、登録していた5年生以上が途中でドロップアウトしたためだったようです。単位が不要になったからかもしれませんが、人数制限を設けており、かつ登録できなかった学生さんもいた講義であるため、途中でのドロップアウト率を低くするため、開講対象年次をカリキュラム上絞っていただけたらと思います。現状ですと、1-4年生が受講可能となっていますが、一般教養の講義であるならありえるかもしれませんが、科目名に「基礎」とある以上、1・2年次、せめて3年次までに限定していただければ幸いです。4年次で「基礎」の講義を受講しても、それを基盤としてその後積み重ねることは時間的に難しいと思います。3学期以降もオンラインで実施になりますが、グループでのディスカッションやワークをとくに強化し、対面授業以上の成果を参加学生さんに感じていただけるよう改善したいと思います。現在、オンライン授業のさまざまな実践について他大学の先生方と意見交換するプロジェクトに参加しており、よい点を積極的に取り入れていきたいと思います。学生さんから指摘があった音声については、通信環境を整えたいと思います。

外国語学部 英米学科
川島　正樹　先生

2020年度Ｑ２　「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名　アメリカの歴史
授業コード 31E01-001
教員名　川島　正樹
教員コード 048116
登録人数　258
回答数　182
回答率　70.5%
休講回数　0 回
補講回数　0 回



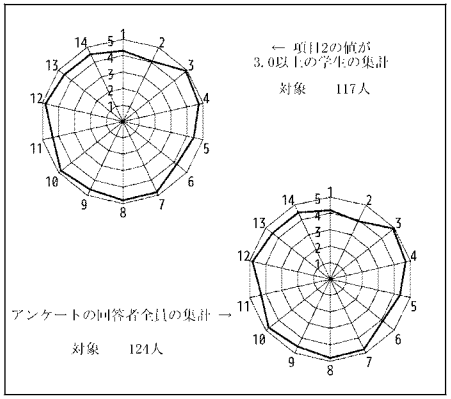
授業評価結果を踏まえた点検・評価

①この授業は英語科の教員資格科目の英米学科科目で今年は例年の約1.5倍の受講生数259名の大規模講義科目である。項目４の平均点が4.08、項目5の平均点が4.09であった。前年度の同一項目の平均点が4.22と4.27であったことを踏まえれば、評価の低落は顕著である。また項目13の平均点が4.32、項目14の平均点が4.12に留まり、昨年度の4.53と4.39と比較して低落が顕著となった。
②他の数値も全般的に低落した。顕著な低落が見られたのは例年高い評価を得てきた（昨年度は4.55）項目７が4.20に終わったことである。ただし、自由記述欄の項目15には73名の記述があり、どれも非常に心づけられた。その一方で、項目16にも31名の記述があった。大変に辛辣なものもあったが、話すスピードを落としてほしいなどの参考になる改善提案も散見された。全般的には大量の受講生を相手としたオンライン授業の制約の中で、思ったよりも高評価だったと判断する。
③最終授業に実施したWevClassを活用した筆記試験において、主に受講生側のインターネット接続上の不備や操作上のミスから、25通の不満が寄せられ、対応に追われた。次回においてはこのような不測の事態に対処する準備を事前に整えることにしたい。具体的には何度もエントリーが可能とし、また手に負えない不具合が生じた際には別途メール添付を受け付ける等で対応を可能としたい。

外国語学部 英米学科
花木　亨　先生

2020年度Ｑ２　「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名　政治とコミュニケーション
授業コード 31E09-001
教員名　花木　亨
教員コード 101269
登録人数　198
回答数　124
回答率　62.6%
休講回数　0 回
補講回数　0 回



授業評価結果を踏まえた点検・評価

この授業では、バラク・オバマの演説の特徴を理解すること、現代アメリカ社会についての理解を深めること、大統領の演説やその他の政治的メッセージを分析できるようになることを目標とした。目標はある程度達成されたように思うが、さらなる改善の余地もある。

項目3から14の平均値は4.59だった。これは科目登録者数が同程度（121～240名）の科目の平均値4.42を上回っている。一定の評価は得られたようだが、さらに高い数値を得られるように努力したい。

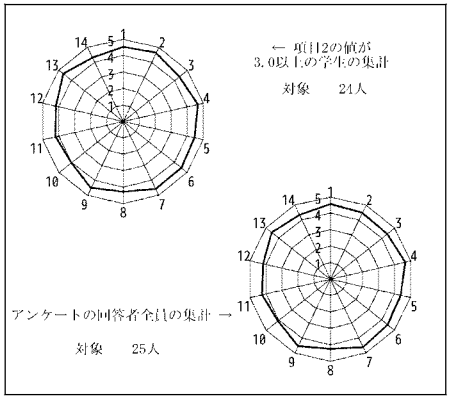
自由記述欄を読むと、視聴覚資料を多く用いたこと、講義資料や教員の説明がわかりやすかったこと、授業の後半にZoomのチャット機能を使ってコメントを受け付ける時間を設けたこと、そのコメントに対して丁寧に応答したことなどが好意的に評価されたようだ。その一方で、授業の進め方や趣旨についての説明が不十分だと感じた人もいたようだ。互いに矛盾する意見もあったが、さらに多くの受講者たちの満足度をできるだけ高められるように努めたい。

受講者数が多い授業であり、しかもオンラインということで、いろいろと心配もあったが、大きな問題は生じなかったようで、ほっとしている。Q3、Q4に向けて、オンライン授業の技術を磨き、引き続き、学生の主体的な学びを促すような授業運営を目指していく。

外国語学部 英米学科
SHILLAW, John　先生

2020年度Ｑ２　「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名　第二言語習得論＜国際科目群＞
授業コード 31E14-901
教員名　SHILLAW, John
教員コード 100560
登録人数　65
回答数　25
回答率　38.5%
休講回数　0 回
補講回数　0 回



授業評価結果を踏まえた点検・評価

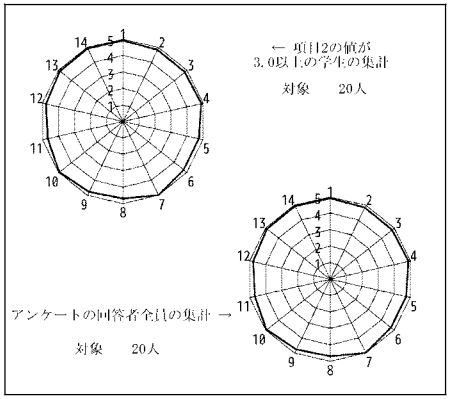
Like most teachers, I have found it challenging to teach classes online during Q1 and Q2. This class was particularly challenging because of the content. Second language acquisition is a new area for all the students who took the course and makes great demands on their linguistic and academic knowledge. Unfamiliar and abstract concepts are difficult to transmit in the classroom, and doubly so when the teacher and students have no opportunity to give or take feedback in real time. Fortunately, I had PowerPoint slides prepared for classroom use, but I needed to add my spoken explanation to them. This was something that I'd never done before and at first I struggled to master the technology. It wasn't helped by intermittent problems with several different microphones.

In the end, I think that the slides worked well and I got positive feedback from a number of students. I was also pleasantly surprised that the overall evaluation was so positive, on a par with evaluations I've received in the past from classroom-based lectures. If I had to repeat the class online there are few things I would change, except to supplement the slides with more examples, which some students requested.

外国語学部 スペイン・ラテンアメリカ学科
泉水　浩隆　先生

2020年度Ｑ２　「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名　スペイン語IV[FS]1
授業コード　11D04-005
教員名　泉水　浩隆
教員コード　102114
登録人数　26
回答数　20
回答率　76.9%
休講回数　0 回
補講回数　0 回



授業評価結果を踏まえた点検・評価

今回の授業評価は、オンライン授業になってから初めてのアンケートということもあり、どのような反応があるか心配していましたが、結果としては設問4～18の平均値が4.83、全設問の平均も4.83、すべての項目において4.70以上という評価になりました。レーダーグラフもほぼ外周に沿うような形になっていますので、当初想定していた授業形態と大きく異なることにはなったものの、この授業の目標はほぼ達成されたと言えるのではないかと考えます。授業進度もほぼ予定通りでした。

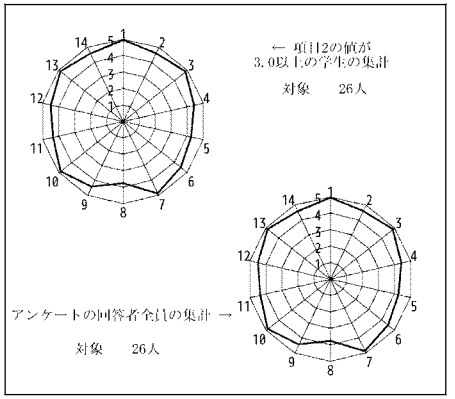
受講生もネットでの回答に慣れているせいか、これまでのアンケートより自由記述欄の記載が多くなりました。具体的な例をあげると、「非常にわかりやすかった。音声も途絶えることもなく、聞き取りやすかった」「ホワイトボードに細かく書いてくださったお陰でオンラインという環境ではあるが理解が深まった」「説明がとても分かりやすかったです」「zoomのホワイトボードを使って、生徒も画面上で解答できるという点が画期的で、授業を理解しやすかったです」などという回答がありました。一方で、「ダウンロード教材をもっと早くあげてほしい」「宿題かどうかの指示が分かりづらい時があった」という指摘もありましたので、これについては、今後留意したいと思います。

得られた結果を見る限り、オンラインというこれまでとは異なる手段での授業展開を行わざるを得なかったにもかかわらず、全体としては特に大きな問題はなかったということが確かめられました。今後も同様の方針を持続し、スペイン語文法の基礎の構築へ資するような授業にしていく所存です。

外国語学部 スペイン・ラテンアメリカ学科
前田　明美　先生

2020年度Ｑ２　「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名　スペイン語IV[FS]2
授業コード　11D04-006
教員名　前田　明美
教員コード　101377
登録人数　27
回答数　26
回答率　96.3%
休講回数　0 回
補講回数　0 回



授業評価結果を踏まえた点検・評価

ほぼ全員の学生から多くのコメントをいただき大変有難く思う。

まず改善の必要があるのはオンライン授業の音声の質である。個人の努力では如何ともし難い面もあるが、少なくとも学生から気軽に指摘してもらえるような雰囲気づくりに努めると同時に、聞こえづらかった場合でも授業を補足できるよう資料作成にも留意したい。

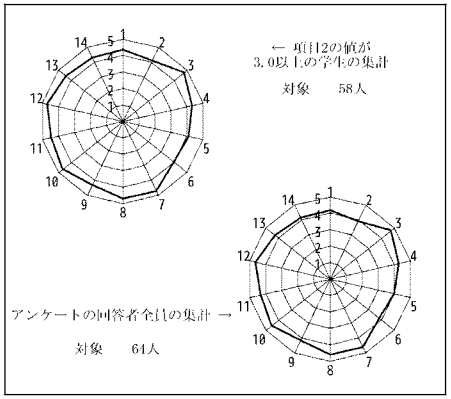
課題の評価についての疑問も挙がっていた。Q1ではWebclassで評価を付け、授業で一括して解答を行った。評価は10点刻みであるため、自己採点と乖離していると感じたかもしれない。Q2では個別に添削して返却した。いずれも手元では詳細に記録を残している。

一方で温かい言葉も受け、専攻初習外国語としての第一歩を踏み出せたのであれば、安堵する気持ちである。授業の冒頭で行う小テストに効果を認めるコメントも多かったことから、今後も継続して実施したい。質問を歓迎し、時間を割いて対応しているつもりであったが、学生側にはまだ遠慮があるようだ。先の通信状態と併せて、今後はより自由に発言をしてもらえるよう工夫し、よりよい授業にしていきたいと考える。

外国語学部 スペイン・ラテンアメリカ学科
淺香　幸枝　先生

2020年度Ｑ２　「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名　南北アメリカとの出会い2
授業コード　13B05-002
教員名　淺香　幸枝
教員コード　000165
登録人数　149
回答数　64
回答率　43.0%
休講回数　0 回
補講回数　0 回



授業評価結果を踏まえた点検・評価

項目1～14の平均値は4.30であり、項目3～14の平均値は4.35であった。授業目標はおおむね達成できたといえる。4.5以上の設問は、5項目に亘っている。オンライン授業においても事前に予告された開始時間が守られ、質問や相談の機会が十分に設けられ、課題や実習に対する事前・事後の指導が十分であった。またオンライン授業中に教員の声や音声機器の音がよく聞き取れた。担当教員の授業に取り組む姿勢に誠実さ、真剣さを感じることができ、オンライン授業中に授業の妨げになる行為に対し適切な対処がされていたと回答している。授業を通して、新しい知識を得たり、理解が深まったという項目については4.27であり、全体として授業に満足したとしているのは、4.13であった。

オンライン授業に際して、授業を通じて最も気を付けたのは大学での通常の授業の要である学生と教員との双方向のコミュニケーションである。課題に対して、教員だけでなくほかに参加している学生の異なる意見も聞き、多様性を理解しながら自らの意見を主張できることである。

学生の自由記述欄には、この点を高く評価する記述が多く、授業を通じて順に課題を仕上げていくという当初の目的に達したことが分かった。南北アメリカ・新世界の先住民は征服と征服者が持ち込んだ天然痘に感染して人口が10分の1まで激減したという史実に対して、現代文明のあり方について南北アメリカとの出会いから一緒に考察することができたのは幸いであった。

外国語学部 スペイン・ラテンアメリカ学科
ESCANDON, Arturo　先生

2020年度Ｑ２　「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名　スペイン語科指導法C
授業コード　15B63-001
教員名　ESCANDON, Arturo
教員コード　102090
登録人数　5
回答数　4
回答率　80.0%
休講回数　0 回
補講回数　0 回

レーダーチャートなし
(回答数4件以下のため集計しない)

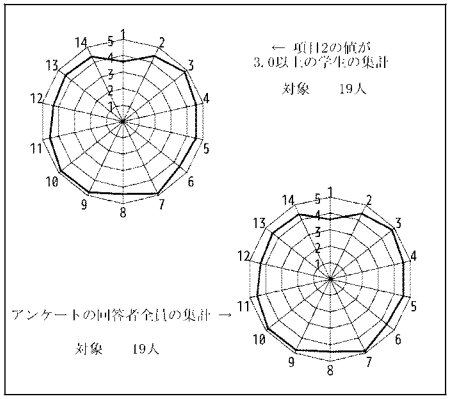
授業評価結果を踏まえた点検・評価

The course aimed at having students getting acquainted with the main principles and tenets of Vygotsky's Sociocultural Theory and applying them in both curriculum and instruction design. I believe these aims were achieved. Through lectures, individual and group work, including reading, presentations and the creation of pedagogic material, students engaged in activities that helped them visualise what curriculum and instruction design is about. Considering the course was delivered completely online, I am quite satisfied with the outcome and I look forward to teaching this course again next year.

外国語学部 スペイン・ラテンアメリカ学科
中沢　知史　先生

2020年度Ｑ２　「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名　基礎演習1
授業コード　32A07-001
教員名　中沢　知史
教員コード　104348
登録人数　25
回答数　19
回答率　76.0%
休講回数　0 回
補講回数　0 回



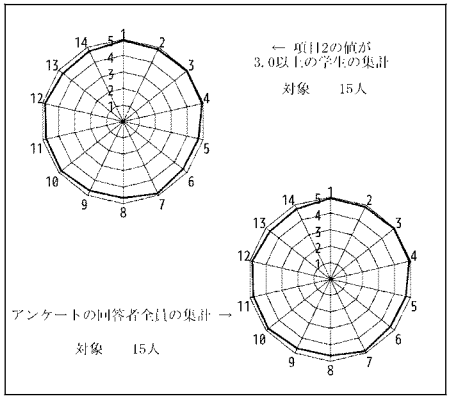
授業評価結果を踏まえた点検・評価

本科目の目標は、受講者がアカデミック・スキルを実践的に身に付けることである。具体的には、学術リソースと研究倫理についての知見、学術的文章の作成、プレゼンテーションから成る。対面での少人数ゼミという形態を前提に設計されたものであるが、全面オンライン化への移行に伴い計画の一部変更を余儀なくされた。受講者である一年生は登校することなく、また互いに面識のない状態にとまどい苦慮しながらもオンライン授業に適応し、積極的に授業に参加し課題に取り組んだ。学生の回答から、本科目を通じて大学で主体的に学ぶためのスキルについて理解が得られたことが窺える。また、学生が提出した課題について個別にフィードバックするとともに、授業の中でシェアしたことで教室全体の理解度が高まった。今後の課題は、オンライン環境のもとで演習という場をいかにより良く組織化するかである。具体的には、学生同士の横のつながりを促し、円滑なコミュニケーションが行えるよう工夫することである。また、学生によるプレゼンテーションについても、オンラインを前提とした形態に対応して指導計画を策定していきたい。

外国語学部 スペイン・ラテンアメリカ学科
CARDENAS, Abel　先生

2020年度Ｑ２　「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名　スペイン語口語表現特殊研究I
授業コード　32B05-001
教員名　CARDENAS, Abel
教員コード　017525
登録人数　19
回答数　15
回答率　78.9%
休講回数　0 回
補講回数　0 回



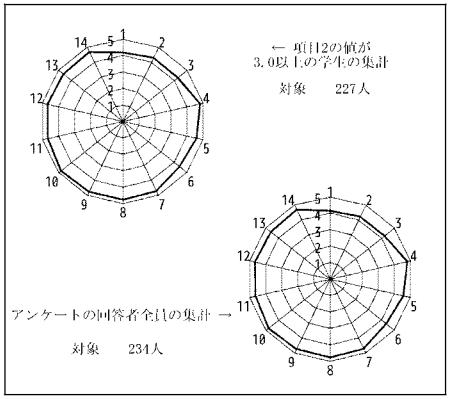
授業評価結果を踏まえた点検・評価

The main objective of this course was to help students further develop their oral skills in Spanish. This was achieved by the use of authentic communicative tasks centered on thematic areas selected by students during a survey carried out at the beginning of the course. The results of the survey clearly show that students were extremely satisfied with the course. As can be seen from the radar chart and the table provided, all of the aspects included in the categories about the course in general, class management and overall evaluation received an average score of 4.78, which is higher than the average achieved by other courses in the department, the faculty and across the university campus. In addition, although there were very few comments provided by the students in the open-ended questions of the survey, they confirmed their complete satisfaction with the course. Among the positive aspects that were highlighted by the students were: the use of a variety of pair and small group tasks, the relevance of the themes selected, and the non-threatening atmosphere of the class, which allowed them to participate and take risks without feeling worried about making mistakes.

外国語学部 スペイン・ラテンアメリカ学科
小阪　知弘　先生

2020年度Ｑ２　「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名　スペイン文学B
授業コード 32C02-001
教員名　小阪　知弘
教員コード 103689
登録人数　404
回答数　234
回答率　57.9%
休講回数　0 回
補講回数　0 回



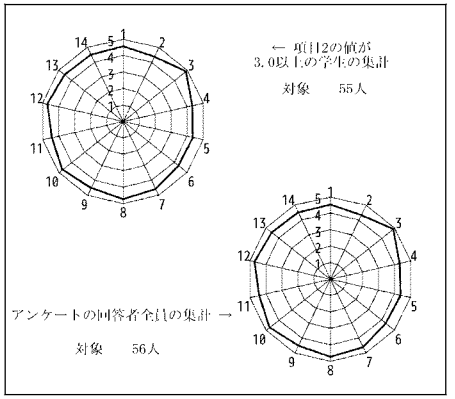
授業評価結果を踏まえた点検・評価

①開講当初に設定していた目標については、設定していた目標に到達できたと自負している。なぜなら、スペイン近現代文学を滞りなく扱うことができたからである。開講当初に設定していた到達の程度に関しても、ある程度到達できたと判断している。なぜなら、学生たちの提出したレポートが、講義で扱った記号分析や、比較考察、シンボル分析などが反映された良く書けたレポートが多かったからである。
②数値データおよび自由記述等を踏まえての担当科目に関する総合的な自己点検・評価に関しては、全ての数字データが4.15以上であったことから、学生たちが担当者の講義をそれなりに評価していたと判断している。自由記述に関しても、担当者の人柄や、講義展開と内容に関して、好意的かつ肯定的な記述が多く見られたことから、本担当者によるオンライン授業は実りのある内容であったと結論づけることができる。
③次クォーター・学期以降に向けての改善点、今後の抱負、方針に関しては、今後は時間いっぱいを用いて講義を展開できるよう精進していく所存である。また、学生が380人以上集まり、成績入力の際に、ミスが生じてしまったので、次年度からは学生の人数を限定して、講義と成績入力にミスが生じないように心がけるつもりである。

外国語学部 スペイン・ラテンアメリカ学科
永田　智成　先生

2020年度Ｑ２　「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名　スペイン史A
授業コード 32C03-001
教員名　永田　智成
教員コード 103900
登録人数　88
回答数　56
回答率　63.6%
休講回数　0 回
補講回数　0 回



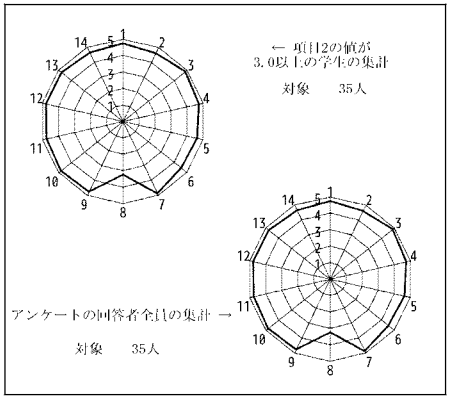
授業評価結果を踏まえた点検・評価

開講当初に設定していたスペイン史2000年の流れや根底にある多宗教・多文化的な要素の存在と重要性を理解し、他国の歴史との相違点を歴史的な観点から説明できるようになるという目標は、多くの受講者が達成できたと思われる。今次講義はオンライン講義となり、担当者としても初めての試みであったため、戸惑うこともあったが、対面式の授業で培ったノウハウを生かし、なるべくいつも通りの授業を心掛けた。その結果、数字として表れる評価は、概ね良好であったと考えられる。他方、毎年寄せられるクレームとオンライン授業ならではのクレーム双方があったことも事実である。この講義は、現代から古代へと遡っている。歴史の流れがわからなくなるというクレームは毎年寄せられるが、流れなどは自分で年表を作成するなりして復習すればわかることで、その作業を怠っているために起こるクレームであると理解している。現代における諸現象について、過去とのつながりの上で成り立っていることを説明する上で、この講義スタイルは有効であると確信しており、今後も変更するつもりはない。他方、ZOOMでの音声が途切れるといった現象は、当方に問題があるのか、受講側に問題があるのかわからないが、当方としても、ヘッドセットをよいものにするなどして、善処するつもりである。

外国語学部 スペイン・ラテンアメリカ学科
牛田　千鶴　先生

2020年度Ｑ２　「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名　ラテンアメリカの文化と社会A
授業コード　32C23-001
教員名　牛田　千鶴
教員コード　100657
登録人数　47
回答数　35
回答率　74.5%
休講回数　0 回
補講回数　0 回



授業評価結果を踏まえた点検・評価

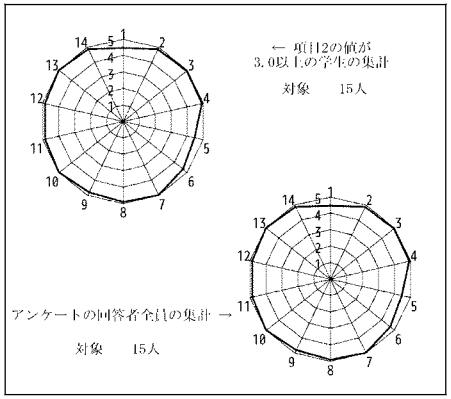
「オンライン授業中に、教員の声や音声機器の音はよく聞き取れましたか。」という設問8.の平均値が3.26であったのは、第3クォーターもオンライン授業が継続されることとなった現状にあっては、なんとしても改善しなければならない部分である。自由記述欄にその理由を探ってみたが、「ネット接続が不具合のことを考えて、講義資料が細かく記載されていて助かった」「オンライン授業で不慣れな所もありながら、先生が学生に対して一生懸命に授業を展開する姿勢が見られたのでこちらも学習意欲がわいた」「最初はネット環境が不安定だったが、途中からよくなったのでよかった」「時々先生の声が途切れてしまっていたが、授業を大変楽しむことができた」等のコメントが確認できたのみで、特に否定的な指摘はなかった。学期途中で自宅の回線を強化し、PCも買い換えたのだが、今後も引き続き対応に努めたい。

その一方で、「担当教員の授業に取り組む姿勢に誠実さ、真剣さを感じることができましたか。」という設問7.の平均値が4.86であったことは喜ばしい結果であった。「インプットだけでなくスモールグループでのディスカッションでアウトプットの機会がありよかった」「授業内容にリアリティがあり深く学ぶことができた」「一番この授業の課題、レポートが楽しくて、自分の新たな興味に気づけた」といったコメントにも、担当者としては励まされる思いがした。オンライン環境上の技術的な部分を除き、授業の目的は概ね達成できたものと考えている。

外国語学部 フランス学科
松川　雄哉　先生

2020年度Ｑ２　「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名　フランス語II＜S・全＞
授業コード　11B02-014
教員名　松川　雄哉
教員コード　103644
登録人数　27
回答数　15
回答率　55.6%
休講回数　0 回
補講回数　0 回



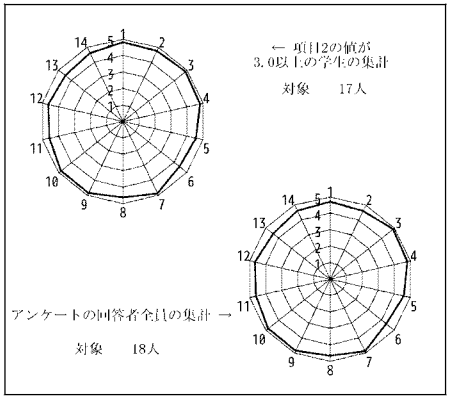
授業評価結果を踏まえた点検・評価

授業がオンライン化したことで、シラバスを変更したが、滞りなく第2クォーターの授業を終えることができた。今回の授業評価アンケートの結果を受けて、全体としてとても良い評価であったと言える。特に、授業外の課題やZoomでの授業においてフランス語の発音を重点的に扱ったことがよく評価された。オンライン授業下では、学生個人の自ら学ぶ姿勢が必要となってくる。文法や語彙は教科書を読めば自分で学習できるが、発音を一人で学ぶことは難しい。そのため、Zoomの授業を学生の自主学習の補助として位置付けることでうまく学生のニーズに答えられたのだと考えられる。今回の授業評価アンケートで平均値が低かった設問は、「５．この授業の到達目標を理解することができましたか」と「６．あなたはこの授業の到達目標に向けて力がついてきていると思いますか」である。この点について、今後は第1回の授業と授業計画の周知をもっと徹底していきたい。

外国語学部 フランス学科
茂木　良治　先生

2020年度Ｑ２　「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名　フランス語III[FF]1
授業コード　11B03-004
教員名　茂木　良治
教員コード　102698
登録人数　31
回答数　18
回答率　58.1%
休講回数　0 回
補講回数　0 回



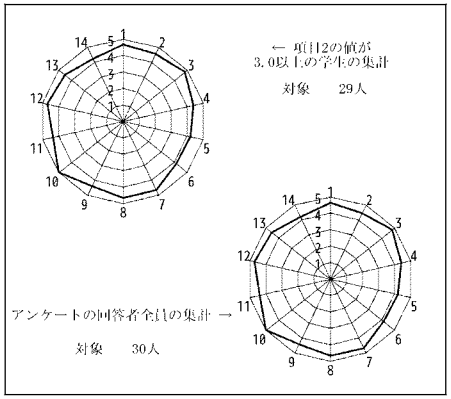
授業評価結果を踏まえた点検・評価

今年度からTendances1という新しい教科書を採用した上に、オンラインでの開講であったため、例年とは異なる授業の進め方をした。課題を提出することで評価する方法とし、月曜日はzoomを通して、解説中心のオンライン授業を行った。対面授業と比べて、受講生が授業内容を理解しているのか把握するのがとても難しかったが、授業評価アンケートの項目3から14までの平均点が4.69点で、比較的高い数値であったことからわかるように、授業運営は比較的円滑だったことがわかる。特に、項目9の「教員は学生の理解度に配慮し、また、教科書、配布資料、視聴覚教材、課題、実技などを効果的に使って適切に授業を進めましたか。」で、4.83点と高得点であったことからわかるように、課題などが適切だったことがうかがえる。一方で、項目6の「あなたはこの授業の到達目標に向けて力がついてきていると思いますか。」は4.39点であり、他の項目と比べると低い点数であった。今後は、学生たちが目標に到達していることを確認する機会などをzoomセッションの時に導入するといいと考える。今回の授業では、課題へのフィードバックに重きを置いて指導を行ったため、自由記述の回答で、「生徒の立場を考えて、親身に教えてくれたこと。宿題で間違っているところや解説を個人あてに全部送ってくれたこと。」などの記述が多数みられたことは良かった。一方で、「もっと発音する授業を取り入れたほうがいいと感じた。」というコメントがあるように、授業開始当初はzoomを通して発話させることは学生たちのプレッシャーになると思い、あまり実施していなかったが、今後はもう少し取り入れることを検討する。

外国語学部 フランス学科
平田　周　先生

2020年度Ｑ２　「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名　フランス語III[FF]2
授業コード　11B03-005
教員名　平田　周
教員コード　103583
登録人数　33
回答数　30
回答率　90.9%
休講回数　0 回
補講回数　0 回



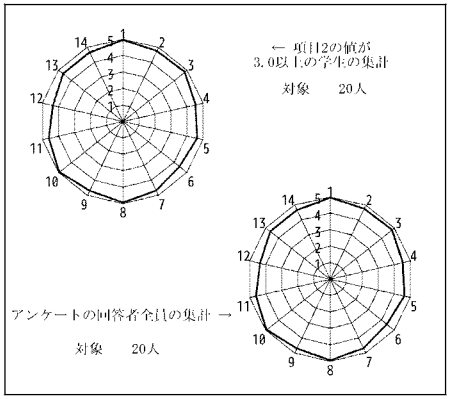
授業評価結果を踏まえた点検・評価

（1）フランス語IIIでは、当初予定されていた文法項目および会話文等のテキストに関する解説をすべて無事に終えることができました。オンライン授業という形態にもかかわらず、毎回の講義で課した課題の結果を見た限りでは、多くの学生が意欲的かつ持続的に取り組み、優れた理解を示してくれました。また毎回学生から質問があって、それに対する答えを共有することで、クラスのまとまりができたように思います。
（2）自由記述では好意的なコメントを多く頂きましたが、問題点として、「授業の内容が課題のレジュメを読むだけでほとんど意味がない。これなら授業をしなくても、課題だけ提出すればよい。授業中に当たる生徒が少なすぎてほかの生徒は暇」という指摘がありました。おそらく対応として二通り考えられると思います。①報告者の授業での説明が「レジュメを読むだけ」にしか思えないのであれば、課題のみを提出させ、評価に値するレベルであれば、オンラインでの出席をしなくても良いとする。②まず、実際に人の話を聞くようにさせ、授業中に他の生徒が当てられたときにも、自分が当てられたのと同じように、当事者として課題を考える、言い換えればクラスの一員として協力的に考える能力を身につけるように指導を徹底する。②で記した聞く能力や忍耐力、そして社会性は、社会で人間関係を築くときに必要な共感力の形成にとって必要なものですが、テストなどで計測することが難しい非認知能力であり、それ自体を身につけることが講義の目的ではありません。したがって、②を授業で伝えた上で、あまり意味が伝わらないようであれば、①の選択肢もあるということを伝えます。
（3）　後期もオンラインということで、学生も疲れが溜まると思います。そうしたことにも気を配りながら、1回1回の講義で試行錯誤をして、より多くの学生にモチベーションをもってもらい、内容理解を促すことができるように励みたいと思います。

外国語学部 フランス学科
COURRON, David 先生

2020年度Ｑ２ 「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名 フランス語IV[FF]1
授業コード 11B04-004
教員名 COURRON, David
教員コード 019026
登録人数 21
回答数 20
回答率 95.2%
休講回数 0 回
補講回数 0 回



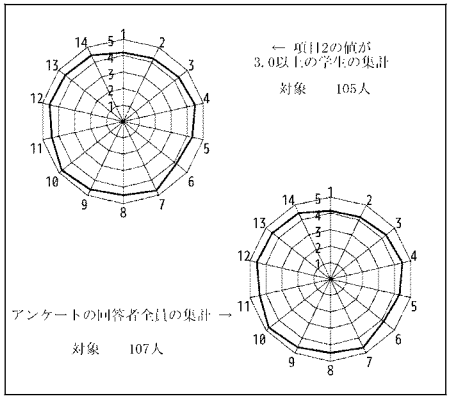
授業評価結果を踏まえた点検・評価

1. Initial course objectives
The aim of this course was to have students practice French through both oral and written exercises, with a particular attention given to acquisition of grammatical patterns in various contexts.
2. Degree of achievement of initial course objectives
This quarter, despite the introduction of a new method and the challenge of online classes, most of the students committed themselves to meet the challenges mentioned above. Many valued the very precise and practical grammatical explanations I gave them as well as my support for those who could get their materials on time.
3. Areas requiring improvement and general remarks
According to many students' comments, I managed to create a stimulating atmosphere for studying. I will then do my best to preserve it in the future. A majority seem also to have appreciated my precise checking of their homework as well as the fact that I gave them extra materials on my home page. Moreover my taking into account students remarks all along the course helped me to adapt contents according to the level of understanding which proved to be highly rated.

外国語学部 フランス学科
齋藤 山人 先生

2020年度Ｑ２ 「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名 フランスの政治
授業コード 33A08-001
教員名 齋藤 山人
教員コード 104150
登録人数 166
回答数 107
回答率 64.5%
休講回数 0 回
補講回数 0 回



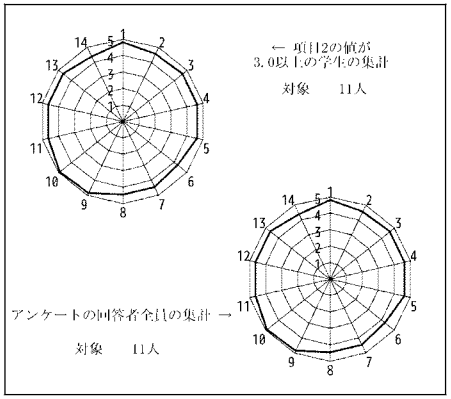
授業評価結果を踏まえた点検・評価

①「フランスの政治」を開講するにあたって目標としていたのは、移民問題やテロ事件、黄色いベスト運動を始めとする現代フランスの政治的問題がどのような起源を持っているのかを、歴史的に遡って明らかにすることであった。この目標については十分に達成されたと考えられる。ただし、本講義は学部一年生や他学科の学生にも開かれているため、フランスの文化・社会を入門的に概説する機会も同時に設けた。それゆえ、多くの学生にとってわかりやすい授業になったと思うが、専門的な知識を持っている学生にとっては、到達目標がややぼやけてしまった印象があるかもしれない。② 数値データを見る限り、概ね満足度の高い授業を実施できたものと考えられる。自由記述においても、説明のわかりやすさや丁寧さを評価する意見が顕著に見られるため、授業方針は間違っていなかったと考えられる。③ 自由記述の中には、もっと早いタイミングで授業のスライドを上げて欲しいという意見もあった。今学期はオンライン授業に対応するべく、前年の講義資料を大幅に改正・変更する作業を行ったため、授業直前まで準備に追われて事前にアップロードすることが困難であった。今後は、授業前にオンラインで講義資料を共有できるように努め、なるべく多くの学生の要求に応えたいと考えている。

外国語学部 フランス学科
REBOLLAR, Patrick　先生

2020年度Ｑ２　「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名　フランス語ワークショップA2
授業コード 33B02-002
教員名　REBOLLAR, Patrick
教員コード 100084
登録人数　24
回答数　11
回答率　45.8%
休講回数　0 回
補講回数　0 回



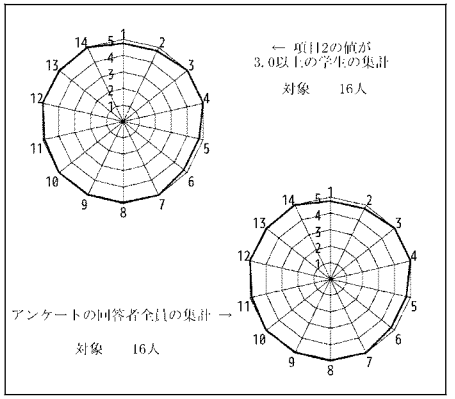
授業評価結果を踏まえた点検・評価

This course was a workshop given by Zoom in the situation we all know this year and I have chosen an experimental set of activities with French language and culture, implying : 1. listening recorded short dialogs to be repeated by the students, to improve the pronunciation, melody and rythm of the speech ; 2. listening musics from the Ghibli Studio Movies with an online quiz ; 3. using this quiz as a starting point for answering written questions about the movies, with evaluation and work in progress improvement ; 4. viewing and studying French Short Movies to answer oral questions and to write texts about the characters in the movies. The technical conditions permitted to have a real direct communication between us during the courses and also, in the same time, use real and public Documentation in the Internet as Google Translation, Wikipedia, Youtube to improve the self-learning skills of the students. They actively participated and produced excellent texts. I used a web page to prepare and summarize the activities. So students could review and redo what they wanted when they wanted. Students can also use this webpage and the links it contains after the end of the 2nd quarter to continue their self-study.

外国語学部 フランス学科
小林　純子　先生

2020年度Ｑ２　「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名　フランス社会特殊講義A
授業コード 33C16-001
教員名　小林　純子
教員コード 102488
登録人数　23
回答数　16
回答率　69.6%
休講回数　0 回
補講回数　0 回



授業評価結果を踏まえた点検・評価

本講義は、受講生がフランス語で書かれた社会学的調査の内容を理解し、世界を社会学的に認識するということはどのようなことかを体験することを通じて、自ら社会学的な視点で問題提起ができるようになることを目指している。

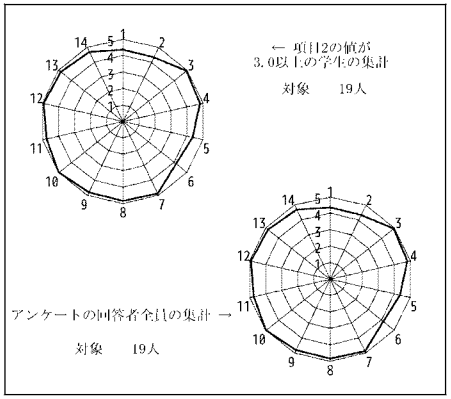
フランス語の解説の方法、ディスカッションのためのテキストとテーマの選定、課題とのバランス、プレゼンテーションへのコメントなどに工夫を要したが、自由記述欄をふまえると、受講生同士の意見交換は理解の促進に役立つことがわかった。また受講生に対するフィードバックも有効であることがわかった。

しかしながらディスカッションとそれに対するフィードバックは、クラス規模によっては少人数クラスほど効果的に遂行できないことから、オンライン講義であってもさらなる工夫が求められる。そのため受講生の理解を深めることができるような別の方法も取り入れるなど、オンライン授業のメリットを活かして次クォーター以降にも工夫を重ねていきたい。

外国語学部 ドイツ学科
水守　亜季　先生

2020年度Ｑ２　「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名　ドイツ語II＜H＞1
授業コード　11C02-001
教員名　水守　亜季
教員コード　103678
登録人数　20
回答数　19
回答率　95.0%
休講回数　0 回
補講回数　0 回



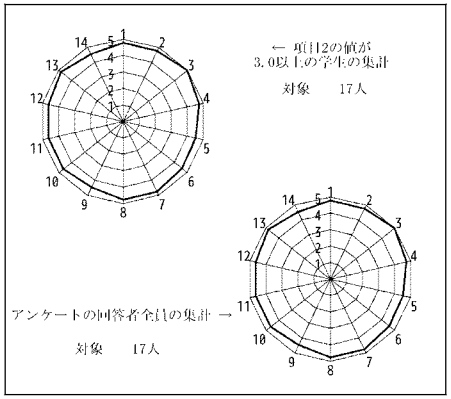
授業評価結果を踏まえた点検・評価

この授業では、CEFR（ヨーロッパ言語共通参照枠）に基づいたA１レベル相当の教科書を用い、ドイツ語を「実際に使える」能力の養成、主体的学習の活性化、学習ストラテジーの向上を図った。そのため授業には、①ペアワークやグループワーク、②文法規則などを学生自らが発見する活動、③既に持っている知識・経験を手掛かりにドイツ語の意味を推測するトレーニング、④ポートフォリオを用いた学習の振り返り、といった要素を取り入れた。授業形態のみならず、オンライン授業も、学生にとっては新しいものだったので、①進度と課題の分量を負担のないよう調整する、②毎回の授業後にまとめのプリントを電子データで配布する、③授業後の時間、メール、オフィスアワーを用いて学生の相談を随時受け付ける、などの工夫をし、学生に必要以上の負担がかからないよう最大限の配慮をした。そのためか、授業全体の満足度を問う設問(14)の4.68、設問(3)～(14)の平均値4.75、はいずれも学生からの高い評価を示しており、授業形態についても、授業の内容についてもよく理解してもらえたことが見て取れる。さらに知識の増加や理解の深まりについて問う設問(13)の4.84は極めて高い数値であり、アクティブラーニングの効果が全体として学生にも感じられていることがうかがえる。自由記述でも、グループワークを通した協働学習、ZOOMのコメント機能等を用いた学生参加の機会（自律学習）、チャレンジしやすいクラスの雰囲気を評価する声が多かった。次期からも状況に合わせて学生の学びの環境を整えるために努力を続けたい。

外国語学部 ドイツ学科
BAYERLEIN, Oliver　先生

2020年度Ｑ２　「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名　文化の比較＜国際科目群＞1
授業コード　13A01-901
教員名　BAYERLEIN, Oliver
教員コード　100842
登録人数　32
回答数　17
回答率　53.1%
休講回数　1 回
補講回数　0 回



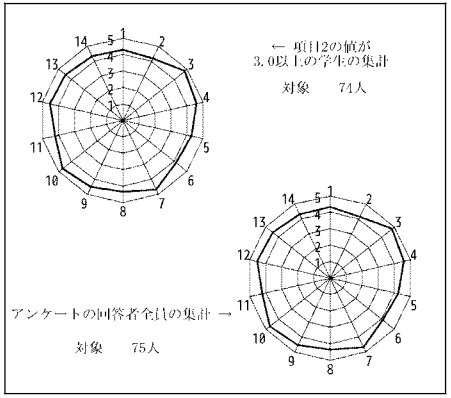
授業評価結果を踏まえた点検・評価

As I have been involved in the learning and teaching of languages with the help of technical aids for 20 years, I felt very comfortable during the online lessons in both Q1 and Q2.
I was used to this kind of teaching, both technically and didactically.
This preparation has now paid off, as can be seen from the good evaluation by the students. Although this course with many participants took place under difficult conditions (I first had to guide the students to my Moodle site from the not so helpful platform "Webclass" and I had to overcome the obstacle, that the students couldn't use the library etc.), I managed to conduct the course in such a way that the overall satisfaction was above 4.5. And the important Q 13 was evaluated with more than 4.8 points.
One problem with these courses - regardless of whether they are "online" or "offline" - is that every year students, whose ability to speak English is insufficient, register in this course. This is a pity for the other students.

外国語学部 ドイツ学科
中屋　宏隆　先生

2020年度Ｑ２　「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名　ヨーロッパとの出会い5
授業コード　13B04-005
教員名　中屋　宏隆
教員コード　102885
登録人数　100
回答数　75
回答率　75.0%
休講回数　0 回
補講回数　0 回



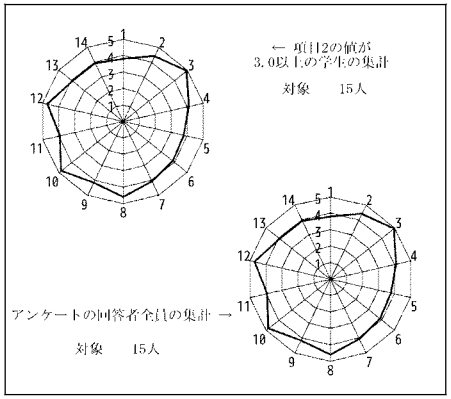
授業評価結果を踏まえた点検・評価

①開講当初に設定していた目標と到達の程度について。（１）履修者は、情報を整理し分析する力・Eラーニングスキルを習得することができる（２）履修者は、国際性の修得／異文化・多様性を理解する力を習得することができる、という二点の目標を挙げていたが。（１）に関しては、初めてのオンライン形式での実施ということもあり、それほど実施出来なかった。
②数値データおよび自由記述等を踏まえての担当科目に関する総合的な自己点検・評価。
アンケート結果の総合部分である、項目1から14の平均が4.43、項目3から14の平均が4.46であった。平均が4.5を下回ったのは残念であるが、まずまずの高さだったと言えるであろう。特に低かったのが、設問2の4.13と設問6の4.12である。設問2は履修者に対して、ほとんど事前の予習は要求しなかったので、仕方のない面もある。設問6に関しては、①でも述べたように、目標達成が難しかった面も影響したのかもしれない。今後の検討課題としたい。
③次クォーター・学期以降に向けての改善点、今後の抱負、方針など
来年度の授業では、目標の明確化とそれに向けてオンライン上で何が出来るかを検討していきたい。

外国語学部 ドイツ学科
岡地　稔　先生

2020年度Ｑ２　「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名　文献講読（ドイツ語圏の文化）
授業コード　34A23-001
教員名　岡地　稔
教員コード　015206
登録人数　36
回答数　15
回答率　41.7%
休講回数　0 回
補講回数　0 回



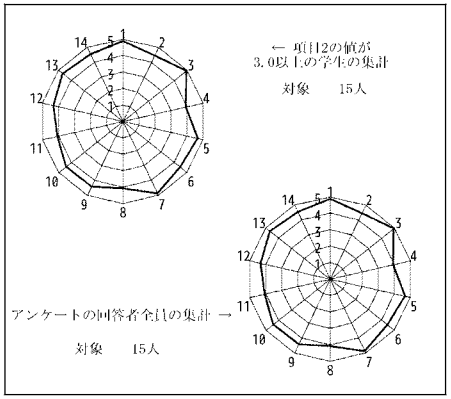
授業評価結果を踏まえた点検・評価

本授業はドイツ学科の専門科目で、３年次生に対する必修科目の一つである。学生の回答は、残念ながら受講生の3分の1ほどの15名しかなく、回答の平均値は、特定の受講生の恣意的な回答によって、極端な数字が出ることが予想されるが、とりあえずこれに従って以下、自己点検・評価をおこなっていく。
本科目に対する当初設定した到達目標は (1)精読を通して読解力を身につける、(2)的確な訳文の案出、の2点であった。回答の平均値は設問項目1から14の平均で4.22、設問項目3から14の平均で4.24であり、全体としては及第点と思われる。到達目標に関わる設問5「この授業の到達目標を理解することができましたか」、6「あなたはこの授業の到達目標に向かって力がついてきていると思いますか」はそれぞれ3.80、3.87と、及第点とはいえ、やや低いように思われる。ただ特定の受講生の回答を除いて補正すると、それぞれ4.15、4.23となり、おおかたの学生には到達目標が理解され、その目標について力がついてきていると感じ取られているように思われる。
初めてのオンライン授業ということで、授業の準備、授業中・授業後の様々な配慮、とりわけ受講者の集中力を保つための配慮、等には十分に意を尽くしたつもりであるが、これに相応する設問項目12「質問や相談の機会が、十分に設けられていましたか、あるいは課題、実習等に対する事前・事後指導は十分でしたか」の評価平均値は4.73であり、この点に関する受講生の評価は十分得られたように思われる。ちなみに、自由記述欄の、この授業の良かった点、評価できることは何ですか、の項目で、「オンライン授業が初の試みであるということを十分に考慮して、進行速度を調整していただけた点」「進度が適切だったこと」などの回答を得た。次期もオンライン授業となることでもあり、引き続き努力を重ねたい。

外国語学部 ドイツ学科
林田　雄二　先生

2020年度Ｑ２　「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名　ドイツ語実践演習B
授業コード　34D03-001
教員名　林田　雄二
教員コード　017434
登録人数　27
回答数　15
回答率　55.6%
休講回数　0 回
補講回数　0 回



授業評価結果を踏まえた点検・評価

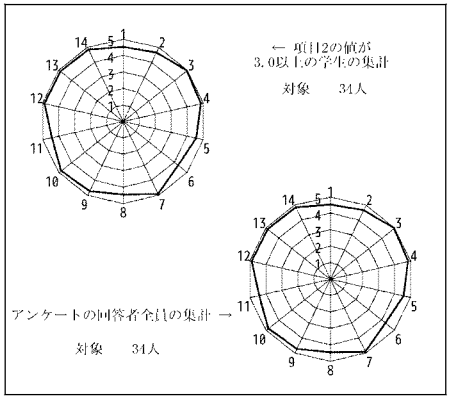
この講義は、ドイツ語テキストを読んで理解するばかりでは無く、それを音声的に、感性的、また身体的に表現することを目的とする。その点で、音声面しか追求できないオンライン授業は、この授業には適していない。音声面についても、比較的大きな声で授業するので、履修者のネット環境によっては音割れ、音のタイムラグ、音の質などの問題が生じたようである。その上、履修者は閉ざされた環境の中で座って、マイクを通して応答しなければならなかった。そのような劣悪な環境の中でどうにか授業を組み立て、「自主学習」日には個人練習をしたりした結果、学生からは高い評価を受けた。受講生は1年生から4年生まで存在したが、受講生の三分の二を1年生が占めていたので、1年生を前面に出して授業を行った。その結果、上級生には一部物足りない部分があったようだ。

①目標と到達：口頭試験の結果を見る限り、難解なゲーテの"Erlkö nig"を素晴らしいパーフォーマンスで表現する学生もおり、十分な成果が残せた。
②自己評価は先に述べた。
③オンライン授業下での実践授業の可能性を探るために、Zoom の可能性を見極めたい。

外国語学部 アジア学科
蔡　毅　先生

2020年度Ｑ２　「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名　中国語II発音・聴力2
授業コード　35A02-002
教員名　蔡　毅
教員コード　100086
登録人数　35
回答数　34
回答率　97.1%
休講回数　0 回
補講回数　0 回



授業評価結果を踏まえた点検・評価

本授業は初級中国語授業として、全体からみれば、開講当初に設定した授業目標はおおむね達成したと思います。しかし、自己反省の立場から、次の改善すべき点に重点をおいて述べたいと思います。

統計の数値から見れば、（5）の「到達目標を理解する」、（6）の「到達目標に向けて力がついてきている」という点では、評価がわりと低いものであります。これについては、学生に対する要求が足りなかったのみならず、自分もそれをあまり重視しなかったのではないかと思います。

なお、（11）の「学生の学習意欲を引き出し、積極的な授業参加や自主的な学習を促す」という点でも評価は高くありません。これは上記の（3）と関わりがあり、やはり学生の積極性を引き出すことには工夫をこらさなかったと思います。

今回は初めてのオンライン授業の評価であることに鑑み、今後の改善策として、

その一は、遠隔授業であっても学生に対して予習や復習などはもっときびしく要求し、勉強の自覚を一段と高くさせることです。

その二は、対面でなくても授業中はもっと学生に質問できるような機会を与え、授業後はもっと学生の意見や希望を聞き、いかに学生の授業への興味を引き起こすのかについて、さらに真剣に対応することです。

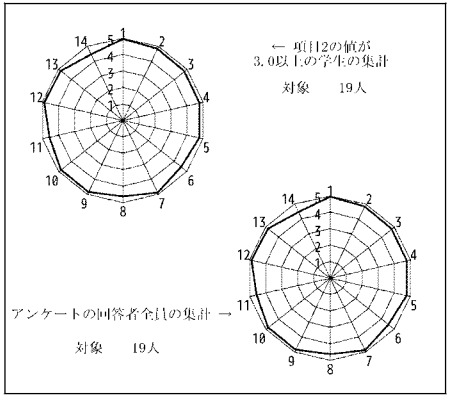
また、学生の自由記述には褒める話が多く、指摘や要望などはありませんでしたが、授業の内容と方法についてもさらに工夫する必要があると思います。

これからは一層の努力を払い、いい授業を学生に提供できるように、取り組んでいく所存であります。

外国語学部 アジア学科
張　玉玲　先生

2020年度Ｑ２　「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名　中級中国語I読解1
授業コード 35A09-001
教員名　張　玉玲
教員コード 101049
登録人数　23
回答数　19
回答率　82.6%
休講回数　0 回
補講回数　0 回



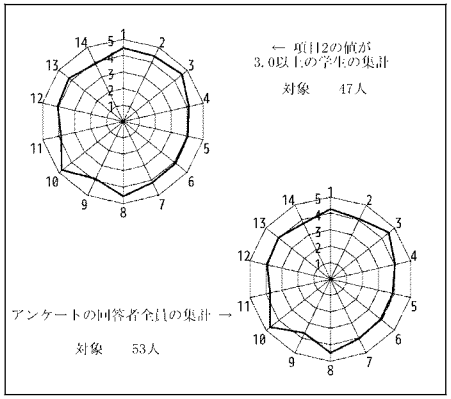
授業評価結果を踏まえた点検・評価

（１）構造の比較的単純な文章を材料として、①精確な読解力（中国語検定2～3級程度）を身につけるとともに、②こんにちの中国社会や中国の人々の暮らしについての理解を深めることが、開講当初設定していた目標と到達度でした。
（２）各設問項目の数値データおよび自由記述を見る限り、学生の授業への期待値も満足度も高かったように思います。ホワイトボード機能で比較的に多くの例文を学生と一緒に作ること、またチャット機能で気軽に質問ができるのが、学生の授業への満足度につながったのではないかと考えます。画像がオフにすることで、気恥ずかしさもかなりなくなったのだと推測されます。しかし一方、学生の音声も画像もオフにせねばいけない中で、一人ひとりに対して、発音（朗読）の確認・指導、ネット環境の確認を行うことは不可能で、このあたり、今後も続くであろうオンライン授業の課題ではないかと考えています。
（３）今後、学生一人一人の学習意欲、語学のレベル（得手不得手）に合わせつつ、より高い達成感（満足度）を持たせるような授業設計を工夫していくことを今後の目標としたいと考えます。

外国語学部 アジア学科
松戸　庸子　先生

2020年度Ｑ２　「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名　中国圏の文化と社会
授業コード 35B03-001
教員名　松戸　庸子
教員コード 100087
登録人数　106
回答数　53
回答率　50.0%
休講回数　0 回
補講回数　0 回



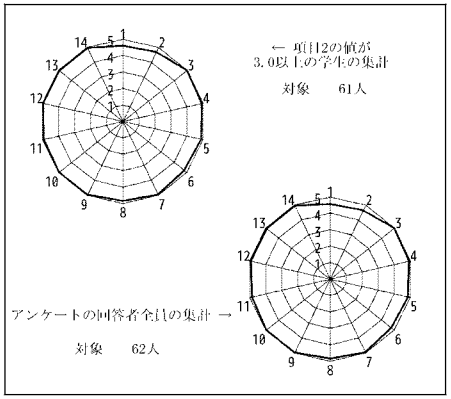
授業評価結果を踏まえた点検・評価

水曜日に2コマ連続の講義科目で、受講生は106名だった。
①開講当初の目標の達成度は８割程度だと判断している。オンライン授業になったことで、従来の講義方法（従来の対面授業で使用していた新聞や雑誌などのコピーや、写真等の資料）のアップが少なくなったのと、受講生の反応を掌握できず、必要以上に時間をかけたり、反対にさっと流してしまったかもしれない。
②「項目1～14」「項目3～14」の数値4.08と4.07で、平均値を下回り、全体としては「理工学部共通科目」のポイントと同じレベルであった。受講生は106名だった。科目登録者数別の集計の平均値も4.34と4.37なので、これよりもやや低かった。自由記述解答では、評価が二極分化しており「何度も繰り返して説明してもらえて理解し易かった」と反対に「何度も同じ話が出て来てつまらなかった」という正反対の意見があった。また、プラスの評価は、講義内容で、「追加情報や時事的内容に目配りがあってアジア全体のことが分かった」とか「作成された年表を使用されて一連の流れが理解できた」とか「中国圏のニュースに目を向けるようになった」などの意見があった。反面、批判的な意見は技術的なものがほとんどで「視覚的資料が少なかった」「スライドの配布が無く、各自がメモを取るっ形式は止めて欲しい」「講義資料のアップが無い時はスクリーンショットのみで目が疲れた」等の意見であった
③3Qは4Qは講義科目は一コマも無いので、すぐには今回の学生の指摘を直接生かすことはできないが、オンライン授業形式は講義する側としても初めての経験であったので、今後は対面授業とは本質的に異なる点を考慮して、視覚的な資料を、しかも講義資料化して受講生に親切な授業に努めたいと思う。

外国語学部 アジア学科
宮原　佳昭　先生

2020年度Ｑ２　「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名　中国近現代史研究
授業コード　35C16-001
教員名　宮原　佳昭
教員コード　102232
登録人数　87
回答数　62
回答率　71.3%
休講回数　0 回
補講回数　0 回



授業評価結果を踏まえた点検・評価

本授業の到達目標は次の3点である。①近現代の中国における重要事件や人物、各政権のイデオロギーを理解している。②それぞれの事件や数字の表面的な丸暗記ではなく、根底にある「中央と地方」「政府と民衆」それぞれの論理とパワーバランスを理解している。③平素より、中国に関する最新情報を積極的に収集し、その内容を理解している。

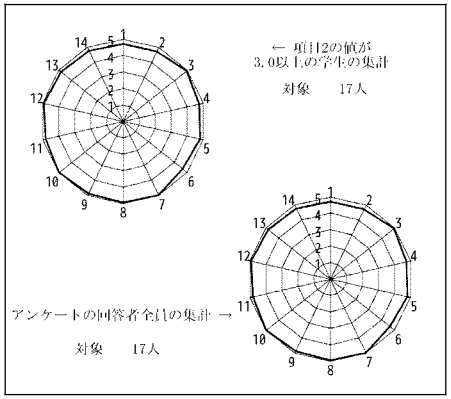
上記の目標を達成するため授業において工夫したことは、次の2点である。①各単元をオンライン双方向授業2回分にまとめたうえで、オンライン双方向授業を毎日長時間受け続ける学生の疲労に配慮して、各回60分を講義、30分をリアクションコメントの記入や質問対応の時間とした。②単元の授業2回の後に自主学習回を設け、直近の中国関連の新聞記事を要約させることで、授業内容と時事問題をリンクさせて考える習慣を身につけさせようとした。これらは学生の自由記述欄でも好評であり、授業の目標到達にとって有益であったと考えている。また、毎回の授業冒頭に教員の音声が聞こえているかを確認したり、授業後に質問の時間を十分にとったりするなど、学生とのコミュニケーションを意識したことも同じく好評であった。

一方で、学生2名から「60分よりも長く授業してもらいたかった」「レジュメの内容をカットせず全て説明していただきたかった」というコメントが寄せられた。今後は65-70分などオンライン双方向授業のより適切な講義時間を模索したい。

外国語学部 アジア学科
MANGGA, Stephanus　先生

2020年度Ｑ２　「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名　上級インドネシア語会話A
授業コード　35D05-001
教員名　MANGGA, Stephanus
教員コード　103578
登録人数　23
回答数　17
回答率　73.9%
休講回数　0 回
補講回数　0 回



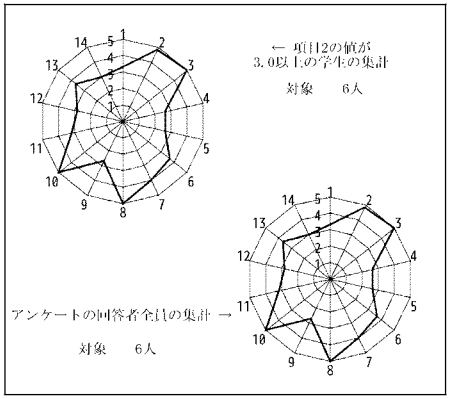
授業評価結果を踏まえた点検・評価

1. The goals of this course are 1) able to communicate appropriately according to context and 2) able to listen and retell the related speech. What the achieved of the goals are 1) students were able not only to communicate appropriately but also able to answer questions properly according to context; and 2) they were able to describe in their own way what they read and hear. In addition, they were able to make presentations without text.
2. I am grateful to students who have evaluated this class. Regarding to the comments of the students, I agree that the class speed is neither too fast nor too slow. This is evidenced by statement from the evaluation that, 「授業速度が早すぎず遅すぎずでありがたかったです」. During the class I tried to give the students a lot of opportunities to speak and spent a lot of time speaking Indonesian. This is evidenced by statements from the evaluation that 「生徒が発言する機会が多く、インドネシア語を使う時間が多かったこと 」 . Besides, giving articles to read during class is also a good way to improve their skills . This is evidenced by statements from the evaluation that, 「インドネシア語の記事をたくさん読めるので、読解力が身につく」.Thus, it is not an exaggeration to say that students not only like this class, but also they can improve their Indonesian language skills through this class.
3. For the next quarter, I will try to maintain the good methods of teaching, while continuing to look for new ways so that the results will be even
better.

外国語学部 アジア学科
稲垣　和也　先生

2020年度Ｑ２　「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名　インドネシア言語研究
授業コード 35D13-001
教員名　稲垣　和也
教員コード 103887
登録人数　6
回答数　6
回答率　100.0%
休講回数　0 回
補講回数　0 回



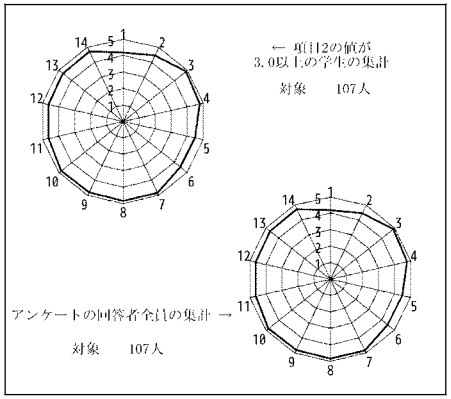
授業評価結果を踏まえた点検・評価

①開講当初に設定していた目標と到達の程度について
本授業が掲げた到達目標は３点ある：（１）インドネシア語を分析できるようになる、（２）インドネシア語を分析するための方法論を身に付ける、（３）インドネシア語に見られる言語現象を問題化できるようになる。このうち、（１）、（２）については、ほぼ全ての受講生に十分な向上が認められ、設定していた目標におおむね到達したと考えてよい。（３）については、少なくとも問題化というプロセスを受動的には学習することができた。そのため、設定していた目標に部分的にではあるが到達したと思われる。
②数値データおよび自由記述等を踏まえての担当科目に関する総合的な自己点検・評価
学生による授業評価は、回答数が６件であった。平均スコアが４．００未満の設問は、１，４，５，６，９，１１～１４であった。４．００未満の設問数が昨年度と比べて約２倍となり、多くの課題を残したと考えられる。特に、①で述べたように、本授業の到達目標はおおむね達成されたと評価できるが、受講生の目標達成に対する実感の度合い（設問５）を見ると、スコアは２．６７となっており、教員と受講生の間で評価が分かれている。したがって、いくらかの割合で、教員による過大評価と受講生による過小評価が生じている。
③次クォーター・学期以降に向けての改善点、今後の抱負、方針など
来年度に改善が求められるのは、（i）到達目標（３）に関して、受講生がより主体的に言語現象を問題化できるよう工夫する。（ii）到達目標に対する理解とその目標達成度（設問５，６）を向上させるため、毎回の授業で到達目標を意識させる。（iii）課題量を減らし、進行速度を落とし、質問機会を増やすことで、理解度と知識の定着に重点を置いた授業構成にシフトし、技能獲得の満足度を高める（設問４，９，１３）。

経済学部 経済学科
宮脇　千絵　先生

2020年度Ｑ２　「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名　民族問題と人間の尊厳2
授業コード 10D08-002
教員名　宮脇　千絵
教員コード 152580
登録人数　188
回答数　107
回答率　56.9%
休講回数　0 回
補講回数　0 回



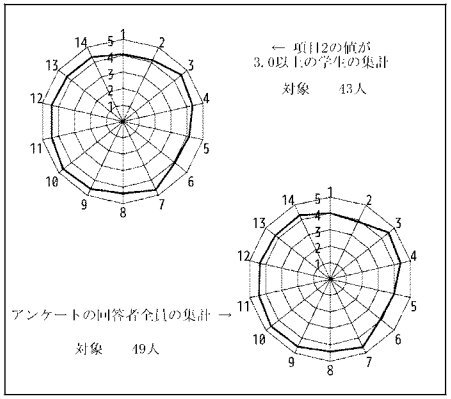
授業評価結果を踏まえた点検・評価

①オンライン授業になったことに伴い、使用を予定していた映像資料のほとんどをカットしたり、自主学習に振り替えた回もあったりしたが、目標の達成度に大きな影響はなかった。
②おおむね良い評価だった。自由記述では「レジュメが用意されていたこと」「リアクションペーパーに対するリアクションのアップ」「自主学習の量や締切が適切だった」「分かりやすかった、楽しかった、写真が多いスライドだった、教員の研究内容が紹介されて興味深かった」などを評価する声が多かった。
③オンラインになってのメリットとして、毎回のリアクションペーパーの内容が例年より良かったこと、自主学習日を設けることで、文章を読んで考える時間を設けることができたことが挙げられる。
リアクションペーパー（400字程度）は、Zoomでの授業終了後から原則その日の21時まで（ただし21時以降も緩やかに受付）にWebClassから提出してもらったが、授業後に改めて考えたり調べたりしたことを書いてくる学生も多く、授業終了時にその場で回収していた例年と比べ、全体的にレベルが高いものとなった。また、提出されたリアクションペーパーに対しては、例年なら授業冒頭に口頭で少し紹介、解説するにとどまっていたが、今回は文字化して配布資料とした。毎回、良いコメントの紹介、疑問点や誤解点の解説、その他補足的な説明等を加えてまとめ、配布することで、学生にとっても、他の学生の良いコメントや異なる意見を知る良い機会になり、結果として回を追うごとにレベルの高いリアクションペーパーが増えたのではないかと思う。
リアクションペーパーや自主学習において、1人で考えて書く時間を取れたことはオンラインのメリットだと感じたので、対面授業に戻ったときにも、WebClassなどをうまく活用していく方法を考えたい。

経済学部 経済学科
林　順子　先生

2020年度Ｑ２　「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名　日本史A3
授業コード　12B03-003
教員名　林　順子
教員コード　101007
登録人数　128
回答数　49
回答率　38.3%
休講回数　0 回
補講回数　0 回



授業評価結果を踏まえた点検・評価

本講義は、江戸時代の社会構造、たとえば身分や人事に関する考え方や、人々が生きていく上で必ず遭遇する諸問題、例えば出産、子育て、教育、高齢者介護などを理解し、現在の問題を考察するものである。回答の平均値は全体平均をほぼ上回っており、提出されたレポートの内容や学生の感じる理解度を問う設問13, 14の回答平均値も悪くなかった。

昨年は板書しながらPowerPointで画像資料を見せて説明していたが、今回は図らずもPowerPointのみでの講義であったため、やりやすくはあった。ただ、板書を併用していたのは、数年前オフラインでPowerPointのみで講義したときに学生の集中力が持たなかったためである。今回の評価に改善を促すコメントはほとんどなかったが唯一「ときどきダレる」と書いた学生がおり、やはりPowerPointの弊害はあったと思う。

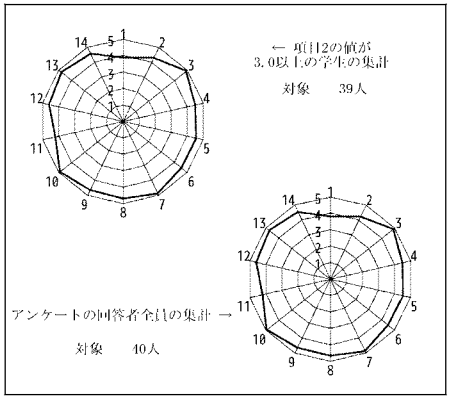
それを避けるために、学生からのアドバイスもあって、時々〇×式の質問を投げかけて「手を挙げる」ボタンで返答してもらった。オフラインの時よりも挙手に参加した学生が多かった。周囲を伺わずに気楽に参加できるのがオンラインの長所と考える。

より積極的に学生の反応をみる手段としてはzoomのチャット機能があるだろう。講義期間中に学生からもこの機能の活用を促すようなコメントを受けたが、上手な利用方法が思いつかず機能をオフにさせてもらった。他教員がどのようにこれを活用しているか意見を伺いたいところである。他にもまだ知らないzoomの機能がありそうなので、勉強して色々試してみたい。

経済学部 経済学科
大鐘　雄太　先生

2020年度Ｑ２　「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名　データ処理入門1
授業コード　40B03-001
教員名　大鐘　雄太
教員コード　103641
登録人数　45
回答数　40
回答率　88.9%
休講回数　0 回
補講回数　0 回



授業評価結果を踏まえた点検・評価

① 開講当初に設定していた目標と到達の程度について

この授業では、「ワードとエクセルの基本的な操作ができる」ことを目標とした。(1)提出された課題がよくできていたこと、(2)授業の到達目標に向けて力がついてきていると思うかどうかに関する設問（設問6）が4.50であったこと、の2点から判断して、目標は到達できたと考えている。

② 数値データおよび自由記述等を踏まえての担当科目に関する総合的な自己点検・評価

この授業は今回初めて担当したため、昨年度以前との比較はできないが、(1)設問3から設問14までの12項目のうち、積極的な授業参加や自主的な学習を促すための情報提供に関する設問（設問11）以外はすべて4.50以上であったこと、(2)設問3から設問14の平均が4.64であったこと、(3)自由記述の内容も好評であったこと、の3点から判断して、全体的にはよくできたと考えている。

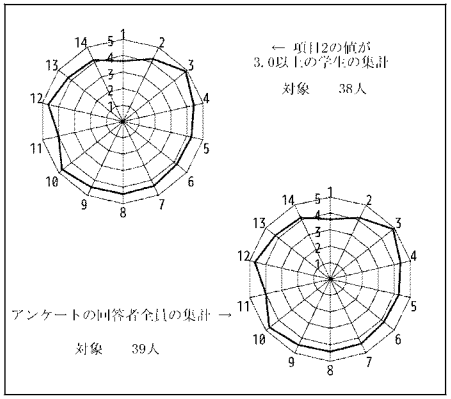
③ 次クォーター・学期以降に向けての改善点、今後の抱負、方針など

次クォーターのデータ処理入門では、自主的な学習を促すための情報提供を増やすことにより、全体的な満足度のさらなる向上を図る予定である。

経済学部 経済学科
吉根　勝美　先生

2020年度Ｑ２　「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名　データ処理入門6
授業コード 40B03-006
教員名　吉根　勝美
教員コード 018358
登録人数　44
回答数　39
回答率　88.6%
休講回数　0 回
補講回数　0 回



授業評価結果を踏まえた点検・評価

本授業は、日本語ワープロと表計算ソフトの基礎を習得し、データの分析から何かを発見し、レポートとして表現する力をつけることを目標としており、定期試験レポート提出者のうち、２／３程度は大学１年生なりのレポートを完成させたと判断している。

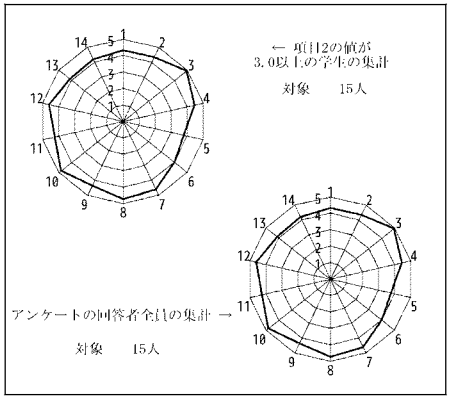
５段階評価で２と１の回答者が合計２名以上だったのは、設問（１）５名、（６）３名、（５）（１４）各２名の計４問であった。自由記述で良かった点をあげた学生が２８名もの多数にのぼったことは、例年と大きく異なる。そのうち９名が、質問への対応をあげており、教室における授業よりもオンライン授業の方が質問しやすいようであった。質問はチャットで受け付け、回答は、画面共有も用いつつ、授業参加者全員に対して音声で回答したことが効果的だったと思われる。一方、改善すべき点・困った点をあげた学生は計５名であった。授業内容が物足らないという回答のほか、オンライン授業を受けること自体が大変（２名）、ＰＣ動作の遅さ、教員の音量不足といったオンライン授業ならではの回答が目立った。教員のタイピング音が思いのほか拾われるようで、音声のボリュームに配慮すべきであった。

本授業は、ＰＣによる演習を含む新入生対象の必修科目である。新入生のＰＣスキルは、更に多様化が進んでいるようであり、今後の経済学部での学習に必要な統計的資料の基本的扱いを習得できるよう、到達目標の細分化・段階化を検討する。

経済学部 経済学科
蔡　大鵬　先生

2020年度Ｑ２　「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名　外書講読(政策)A
授業コード 40C04-001
教員名　蔡　大鵬
教員コード 103260
登録人数　37
回答数　15
回答率　40.5%
休講回数　0 回
補講回数　0 回



授業評価結果を踏まえた点検・評価

［１］授業目標および達成度

本講義は、『World Development Report 2019: The Changing Nature of Work』を輪読し、仕事や企業についての理解を深めると共に、英文の専門レポートを読み、その内容を理解できるようになることを目標としています。授業評価の結果から、上記の目標をほぼ達成できたと考えられます。

［２］点検・評価

授業評価の結果として、設問1から14の平均値は、「4.40」であり、また「設問5」と「設問13」を除き、学部平均を上回り、ある程度満足してもらえていると理解しています。

［３］次学期以後に向けての改善点等

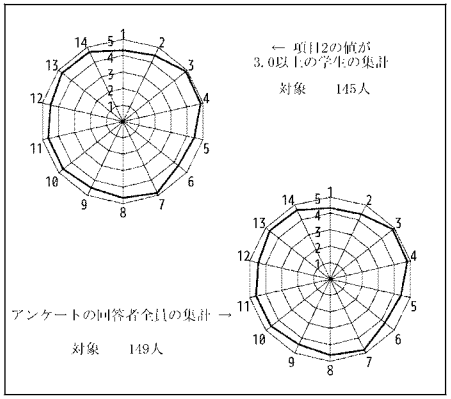
まず、全員顔を出した方がより緊張感をもつとの指摘がありました。顔出しに対して、数回にわたり要請していたが、強制が難しいこともあり、結局のところ、教員のみの顔出しとなりました。学生の顔を見て、理解や気持ち等について直接に確認できない分、普通の対面授業よりも対応や言葉遣いを注意する必要があると痛感しています。今後、言葉遣い等について、さらに気を付けていくと共に、他の教員のやり方を参考しつつ、より集中しやすく、また気持ちの良い雰囲気を醸成していきたいと考えます。

また、授業外でのフォローを増やしてほしいとの要請もありました。数回質疑応答の時間を設けたが、足りていないようです。今後、Zoomで質問できる時間を増やす等で対応していきたいと思います。

経済学部 経済学科
西森　晃　先生

2020年度Ｑ２　「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名　現代経済入門
授業コード 40D01-001
教員名　西森　晃
教員コード 100624
登録人数　207
回答数　149
回答率　72.0%
休講回数　0 回
補講回数　0 回



授業評価結果を踏まえた点検・評価

1年生の入門科目ということで，何よりも，学生に経済について興味を持ってもらうことを重視した。細かい専門的なことは2年次以降で学んでもらうことにして，現実の経済で起きていることや今後起きるであろうことをデータを使って説明し，専門科目を学ぶための準備となるように話をした。予定の内容はすべて話せたし，学生からの評価を見ても（全体の平均4.60，問14の平均4.65）概ね成功したのではないかと思っている。

自由記述欄で好評だったのがブレイクアウトセッションによる学生同士のディスカッションである。2年生の授業でこれを取り入れたら失敗したが，この科目は1年生が大半だからか（大学に来られず，知り合いが少ないことも大きいだろう），皆積極的に参加していたし，「新鮮で面白かった」という声が多かった。ブレイクアウトセッションは，授業内容によって利用しづらいこともあるが，次のクォーター以降では今回の声を参考にオンライン授業で学生の参加意識を高める方法を考えていきたい。

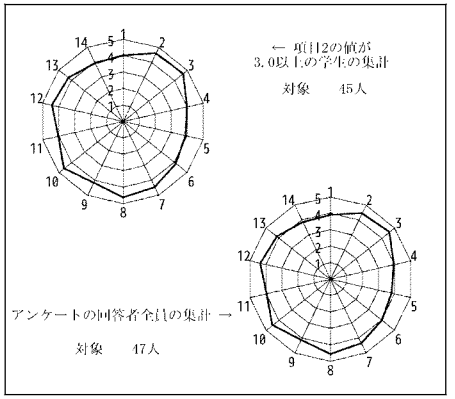
要望として多かったのが，「スライドのコピーがほしい」というものだったが，これは授業中に何度も説明したとおりあえて配らなかったものである。他人の意見をそのまま受け入れるのではなく，「自分で考え，自分でデータを見てもらう」ことを習慣として身につけてほしいと思って行ったことなので，そこはご了承願いたい。

例年より自由記述欄の入力が多く，ありがたかった。オンライン授業の副産物であろう。

経済学部 経済学科
井上　知子　先生

2020年度Ｑ２　「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名　理論経済学A
授業コード 40D15-001
教員名　井上　知子
教員コード 019166
登録人数　91
回答数　47
回答率　51.6%
休講回数　0 回
補講回数　0 回



授業評価結果を踏まえた点検・評価

改善した方が良い点に書かれていたことで特に気になったのは、「オンライン授業のために他の授業での課題も多く、この授業の課題が負担であった」、「課題の難易度が高かった」、「問題を解かないといけないので1限と２限の間に休憩することができなかった」という意見である。ここでいう「課題」とは、例年は、「確認問題」として授業中に解いてもらい、紙に書いて提出してもらっている問題のことである。今年度は授業中に講義資料DLサーバで配布し、事後にウェブクラスのテスト機能で回収した。問題の数についていえば、図を描く課題を出すことができなかったため、例年の3分の2程度である。対面授業の際は時間を区切って他の受講者と相談することを認めていたが、今年度はこれが出来なかったので、受講者は課題をすべて自分一人で取り組まねばならず、特に、数学が苦手な人にとっては、時間がかかって休憩時間が取れない、授業後の復習時間が多く必要など、負担が大きかったかもしれない。

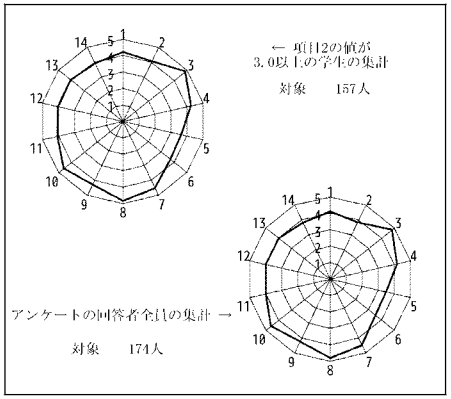
ウェブクラスのテスト機能で入力するのが難しい数式については、ワードの数式入力を用いてレポート形式にして提出をしてもらった。自由記述欄に、「数式入力ができるようになってよかった」と課題提出について前向きな意見もあった。

数学の証明問題などをウェブクラスのテスト機能でおこなうには限界があるので、来年度対面授業になったら、課題の一部については、以前のように手書きで提出してもらい、こちらで赤ペンを入れるという方法に戻したいと思う。

経済学部 経済学科
太田代　幸雄　先生

2020年度Ｑ２　「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名　マクロ経済学特論
授業コード 40D22-001
教員名　太田代　幸雄
教員コード 100347
登録人数　284
回答数　174
回答率　61.3%
休講回数　0 回
補講回数　0 回



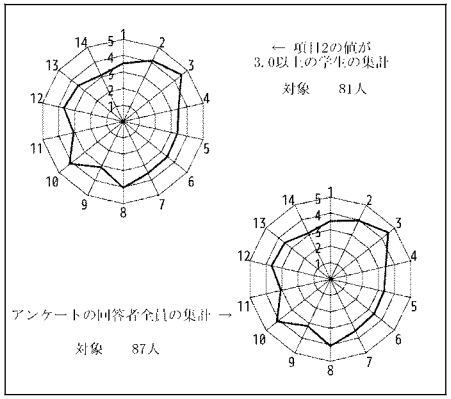
授業評価結果を踏まえた点検・評価

【開講当初に設定していた目標と到達の程度について】
この科目は，経済学科1年次生以上向けの選択科目であり，Q1に開講された必修科目「マクロ経済学」の応用科目である。現在の1つ前のカリキュラムまでは必修科目に含まれていたものであり，この理論を修得することで他の科目の理解が進むと考えられる。ただし，応用ということで，数学上の知識も問われる科目となっている。今回の講義は，報告者が初めて担当する科目であり，しかもリモートでの講義ということもあり，十分に注意しながら進めたつもりである。数値データで見ると，平均値が4を上回っているため，まずまずと考えられるかもしれないが，学部平均値を下回る項目がいつもより多いことを考えると，リモートによる講義の難しさを痛感する結果であった。
【数値データおよび自由記述等を踏まえての担当科目に関する総合的な自己点検・評価】
データとしては，回収率が全受講生中約61%と，これまで担当者が実施したアンケート中では平均的な数字であったことが挙げられる。また，アンケート結果としては，全項目で1番平均値が低かった設問（設問5）が3.52であったことを考えると，講義初回等に説明した講義の到達目標等を理解してくれていなかった学生が一定数いたのであろうと考える。理解度をいつも学生の表情で確認してきたため，対面で講義できないことの不自由さを非常に痛感している。ただ，そのような状況下でも平均値で4を上回ったという事で，この科目に興味を持っている学生もいるようであると推測している。
【次クォーター・学期以降に向けての改善点，今後の抱負，方針など】
自由記述欄を見ると，講義の進行スピードや，質問の機会について不満を持っている学生もいるようである。リモート授業は今年度中はまだまだ続くであろう。今後修正を試みたいと考えている。

経済学部 経済学科
神野　真敏　先生

2020年度Ｑ２　「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名　社会保障論A
授業コード 40D38-001
教員名　神野　真敏
教員コード 103880
登録人数　164
回答数　87
回答率　53.0%
休講回数　0 回
補講回数　0 回



授業評価結果を踏まえた点検・評価

本講義では、なぜ社会保険制度が必要なのか、そもそも社会保障とはどのような制度なのかなど、実際のデータを用いつつ理論的に社会保障の重要性・問題点などについて講義しつつ、学生が、①社会保障を経済学的視点から分析できるようになり、②社会保障の存在意義と問題点を理解し、自らの言葉で説明でき、その結果、③望ましい社会保障制度を経済学的視点のもと、自ら考えられるようになれるように講義してきた。

しかしながら、学生からは、講義内のチャットに対しての対応が好ましくなかったこと、また資料における不備など、多くの反省材料を指摘された。さらに、小テストにおいては、その設定時間が短く、そのうえ設問の不備なども少なからず見つかったため、これらは成績に直結する事柄でもあり、学生からは大変憤慨した書き込みが見受けられた。その結果、いままで受けた講義の中で1番酷かった、あるいは、二度と受けたくないなどの書き込みまであった（昨年度の他の科目でも同じような感じで講義をしたものの、ここまでの低い評価や書き込みはなかった。そのため、onlineという特質を的確にとらえられなかったためと思われる）。

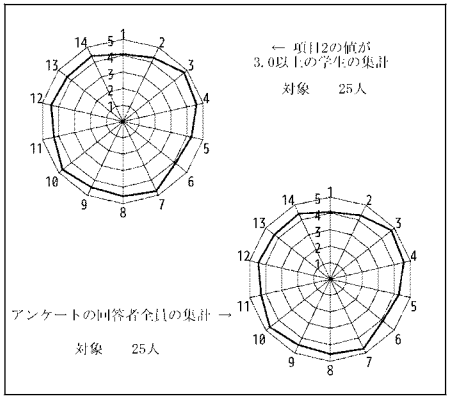
ただ、慣れないonlineでの講義ではあったものの、これは他の先生方や学生も同じであり、学生にこのような書き込みをさせてしまうような講義をしたこと自体、教員として真摯に反省しなければならないと思っている。

学生からの声を重く受け止め、教員として最低限ではあるが、改めて、チャットなどでの適切な学生対応、不備のない資料作り、講義において書き込む時間を十分に取ること、そして小テストの設問の不備をなくすことなど、後期の授業に大いに生かしていきたいと考えている。

経済学部 経済学科
相浦　洋志　先生

2020年度Ｑ２　「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名　地域経済学A
授業コード　40D40-001
教員名　相浦　洋志
教員コード　103642
登録人数　44
回答数　25
回答率　56.8%
休講回数　0 回
補講回数　0 回



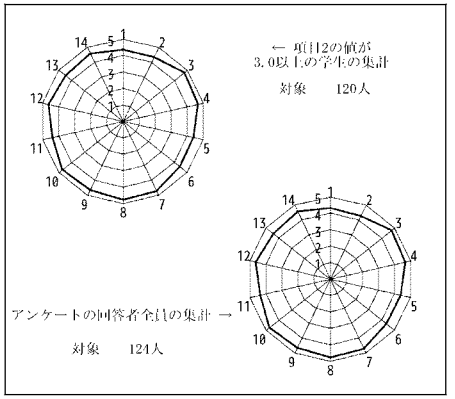
授業評価結果を踏まえた点検・評価

この授業は地域経済の発展および空間構造の理論を主にミクロ経済学を基に明らかにしました。また、理論が現実に沿ったものであるのかを検証するため、中小企業庁が選定する"がんばる商店街"の取り組みを実例としてグループワークを行いました。
授業のオンライン化により、当初の予定より若干授業の進度が遅くなりましたが、授業15回目の余裕時分を用いておおよそ予定通りの内容をこなすことができました。また、グループワークもZoomのブレイクアウトセッションを用いて当初の予定通り行うことができました。グループワークについては、むしろオンラインで行った方が学生が積極的になった感じが致しました。事実、授業アンケートの自由コメントでグループワークが参加態度が悪い学生がいるという回答が例年より少なかったです。
Zoomにおいても当初の予定通り授業を行うことができた結果、授業アンケートのすべての項目において学部平均を上回る得点を得ることができました。特に、授業の構成や進行速度・授業に取り組む姿勢・総合的な満足度において学部平均より0.3ポイント以上上回ることができました。

経済学部 経済学科
稲垣　一之　先生

2020年度Ｑ２　「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名　国際金融論B
授業コード　40D49-001
教員名　稲垣　一之
教員コード　104110
登録人数　282
回答数　124
回答率　44.0%
休講回数　0 回
補講回数　0 回



授業評価結果を踏まえた点検・評価

①開講当初に設定していた目標と到達の程度について
オンライン講義ではありますが、目標としていた内容を全て予定通り解説することが出来ました。学生のアンケートからは、「講義内容が分かりやすい」といったコメントが多数確認されましたので、講義中に解説した内容は受講生に十分に伝わっており、当初の目標を達成することができたと判断されます。

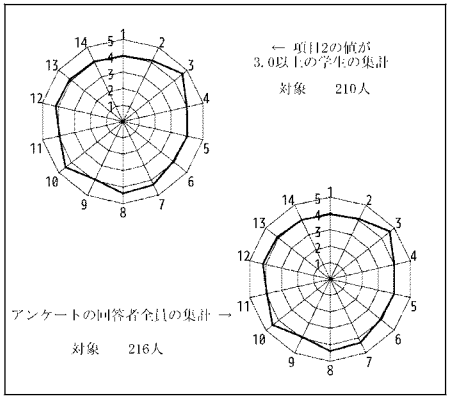
②数値データおよび自由記述等を踏まえての担当科目に関する総合的な自己点検・評価
「説明が丁寧で分かりやすい」、「ホワイトボードを使った講義であるため、対面授業と変わらない理解度を得られた」といったコメントが多数寄せられました。講義に対する満足度も学部平均より十分に高いため、問題なく講義を進めることが出来たと判断されます。

③次クォーター・学期以降に向けての改善点、今後の抱負、方針など
Q3は、ゼミを除けば外書購読の講義のみとなるため、今回の講義とはカラーが大分異なります。オンライン形式となるため、講義の進め方を十分に練ったうえで開始したいと思います。

経済学部 経済学科
林　尚志　先生

2020年度Ｑ２　「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名　アジア経済論A
授業コード　40D54-001
教員名　林　尚志
教員コード　017897
登録人数　430
回答数　216
回答率　50.2%
休講回数　0 回
補講回数　0 回



授業評価結果を踏まえた点検・評価

この授業では、「近年、東アジアにおいて（日本を先頭とする）“雁行型”の発展パターンが、なぜ＆どのように変容しつつあるのか」という疑問に注目しながら、「今後のアジアとの分業関係のあり方」について理解や関心を深めることを目標とした。また、「さぐるべき一連の疑問」を列挙した“教材プリント”および“関連資料”を事前に配布した上で、授業では“板書レジメ”を作成しながら、これら疑問に対する解答を探った。

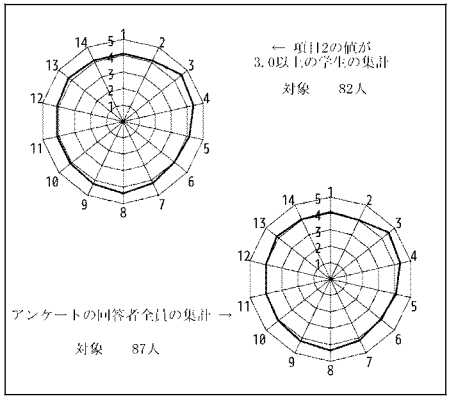
この目標の到達度については、「わかりやすく内容がまとめられていた」、「オンラインでも板書レジメがオフラインの授業のようでわかりやすかった」等のコメントがあり、一定の成果があったと考えられる。

その一方、今後の課題としては、設問（９）と関連し、「授業（板書）レジメが見やすく、内容理解につながった」等のコメントがある一方、「書くべき量が多すぎる」、「板書が速いためついて行けないことがあった」等のコメントもみられたため、「講義内容を深めつつ前者の学生の割合を高める」ことができるよう、レジメ内容を精選し、説明にあたってのメリハリを心がけていきたい。また、設問（１１）と関連し、「（レポート）課題についての資料もわかりやすかった」というコメントがみられたが、「関連文献や資料等の紹介」でも工夫を重ね、学生の学習意欲が高まるよう心がけたい。

経済学部 経済学科
岸　智子　先生

2020年度Ｑ２　「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名　仕事とキャリアの形成
授業コード　40E01-001
教員名　岸　智子
教員コード　100346
登録人数　187
回答数　87
回答率　46.5%
休講回数　0 回
補講回数　0 回



授業評価結果を踏まえた点検・評価

この科目では毎年、外部講師による講演会を実施している。各界で活躍している先輩の話を聞き、質問し、感想文を書いて先輩に読んでもらうことになっている。学生たちはこのような講演会を楽しみにしていたはずである。新型コロナウイルス感染症拡大で、この行事がなくなったことを残念に思い、学生には申し訳ないと思っている。

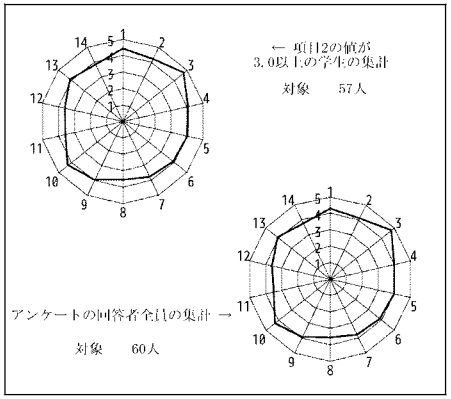
その代わり、授業の準備には力を入れた。講義資料は例年より多く、また読み返して誤解を招く表現を避けた。理論的な説明を避け、実際に就職したときにぶつかる困難の実例や、雇用に関する法律・制度のしくみ、社会常識などのテーマを多く取り入れた。評点は特によいとは言えないが、自分の予想より良かった。わかりやすく、ためになる話を心がけたのがよかったと思う。

来年度は本年度の授業に改善を加え、より実践的で役に立つ内容にしたい。

経営学部 経営学科
井岡　佳代子　先生

2020年度Ｑ２　「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名　経済学A3
授業コード　12C08-003
教員名　井岡　佳代子
教員コード　103647
登録人数　117
回答数　60
回答率　51.3%
休講回数　0 回
補講回数　0 回



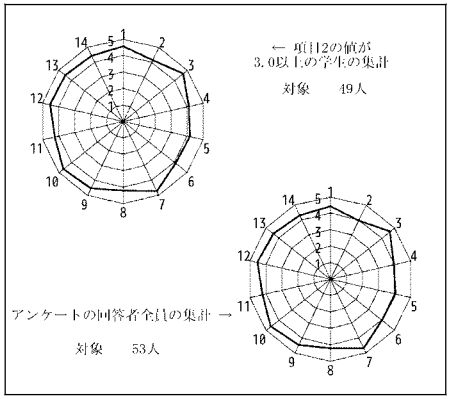
授業評価結果を踏まえた点検・評価

経済学A3では、2019年度まで対面方式で行ってきた内容をオンライン授業方式で実施した。初めてのオンライン授業ではあったが、授業後にZoomを使って生徒からの意見を可能な限り聞いたことで、受講生の理解度を確認しながら授業を進めることができた。また、経済学の初学者に対して、より理解が深まるように、ダウンロード・サーバーに講義資料を授業の前に必ず掲載した。この点について、授業アンケート調査から、開講当初に設定していた目標と到達の程度は達成できたことが示唆される。特に、新入生に対して、「困ったことがないか」等の質問をZoomのチャット機能を利用して生徒に投げかけ、授業環境の整備に注力した。さらに低学年の生徒が飽きることなく授業を受けられるように、映像資料を活用したことも知識の修得に効果的なものであった。ただし、Wi-Fi環境の悪い回や時間帯があったことで、履修生の中には音声が途切れたりした等の不具合が生じた生徒がおり、今後はこの点を重視し改善を試みたいと考えている。

経営学部 経営学科
山下　忠康　先生

2020年度Ｑ２　「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名　経済学B5
授業コード　12C09-005
教員名　山下　忠康
教員コード　101152
登録人数　114
回答数　53
回答率　46.5%
休講回数　0 回
補講回数　0 回



授業評価結果を踏まえた点検・評価

①開講当初の目標
１．税金および税額計算の基本的な仕組みを理解している。
２．不動産に関する基本事項を理解している。
３．相続の基本を理解している。
４．財産評価の基本を理解している。
５．FP３級試験に合格できる。
到達度については、おおむね達成できたのではないか、と考えている。

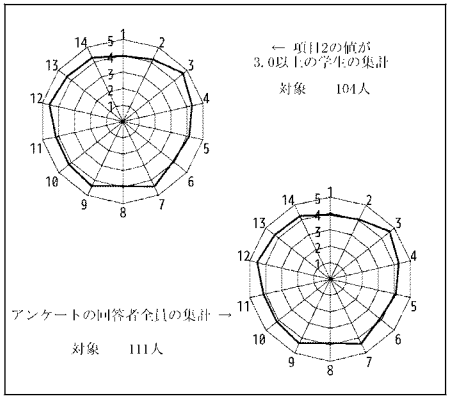
②数値データおよび自由記述に対する自己点検・評価
数値データについては平均的な水準であったと理解している。
自由記述に関しては、今回の授業スタイルに肯定的なコメントが多数を占めていた。
初めてのオンライン授業で、音声の問題等もあったが、都度学生から意見・提案・質問があり、対面授業よりも双方向でアクティブな授業ができたと思っている。

③今後に向けての改善点、抱負、方針
学生からは、自由記述には書かれていないが、授業でのやり取りの中で、WebClassを使った小テストの実施等の要望があった。また、定期試験についても、筆記試験の要望があった。
これらについて、今後どうなるか分からないが、学生の前向きな要望に対して可能な限り対応していきたい。

経営学部 経営学科
長谷川　高則　先生

2020年度Ｑ２　「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名　社会システムと環境3
授業コード 13D06-003
教員名　長谷川　高則
教員コード 000162
登録人数　198
回答数　111
回答率　56.1%
休講回数　0 回
補講回数　0 回



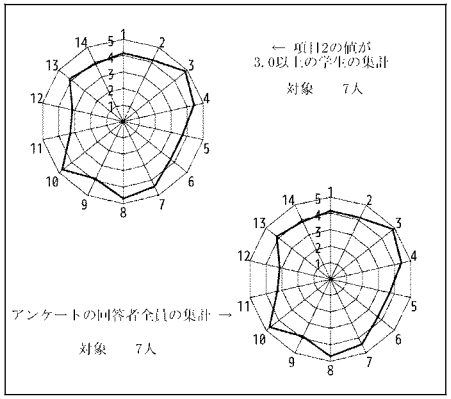
授業評価結果を踏まえた点検・評価

１．授業目標
　この授業では、今後の住環境の在り方を検討するために、住宅政策の変遷を検証し住生活基本法について学習している。今年度も戦後から今日の住宅政策を紹介し、自然災害・少子高齢社会に対応する住環境整備、子育て支援・省エネルギー住宅について考察し、持続可能な社会システムと住環境について検討した。
２．目標達成度
　今回はコロナの影響でオンライン授業となり、授業内容にもコロナに関する内容を追加して授業を行ったが、反省点としては授業範囲の拡大によって内容の整理が上手くいかなかった。最終課題のレポートは授業内容を反映してアフターコロナにおける住宅・住環境のあり方について各自まとめることができたと思う。
３．授業評価
　設問の項目1から14の平均値は4.20であり，前回の値よりも僅かながら向上した。設問3(オンライン授業の開始時間)の平均値が4.63、設問12(質問や相談の機会)の平均値が4.53と高評価であり、チャットを利用した多くの質問もあった。設問1の評価を改善するのは難題であるが、設問6(授業の到達目標)の平均値が3.87と低評価なので、授業内容を見直し分かりやすく説明する必要性を強く感じた。
４．今後の抱負
　エドテックについて理解を深め、教育のデジタル化のスキルを高め、オンライン授業をもっと有効活用できるようにしたい。近未来のテーマも取り入れ夢が持てるように創意工夫し、これからの環境に優しい持続可能な社会システムについて考えられる授業にしていきたいと思っている。

経営学部 経営学科
宮元　忠敏　先生

2020年度Ｑ２　「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名　情報を読む3
授業コード 13E07-003
教員名　宮元　忠敏
教員コード 017293
登録人数　25
回答数　7
回答率　28.0%
休講回数　0 回
補講回数　0 回



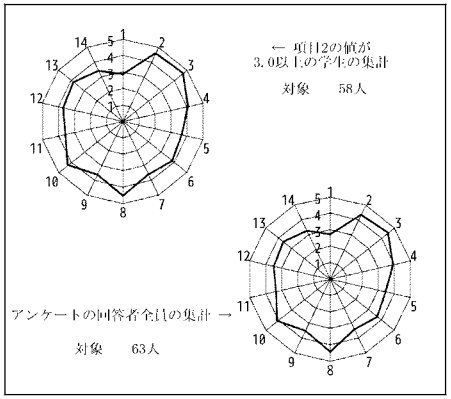
授業評価結果を踏まえた点検・評価

目標と到達　暗号と誤り訂正符号の背後にある0と1の科学について伝授すること。予定した内容を網羅することができた。
自己点検・評価　対面と異なる環境での授業である。特に、講義ノートはon-line用に作成した。対面での手計算の部分がon-lineでは実現しにくいものの、各種結果の提示は対面の場合と比較にならない分量が示せた。以下は履修生の声。「知らないことを学べた」、「具体的な例示がありどのように役立つかイメージしやすかった」「実際に利用する要点、計算方法についてもっとわかりやすく説明してほしい」また、レーダーチャートから、意欲を引き出すこと、質問や相談の機会の提供について履修生は満足度が低い。実際、on-lne授業では学生との距離の取り方が難しい。
今後の抱負　テクニカルな記号を使う授業である。よって、講義ノートの充実を図った。そこには、多くの手計算の結果、計算機結果、グラフ、図を提示した。この点は変わらない。今後もon-lineが続くものと考えられる。対面とon-lineの違いを考えつつon-line用の授業を構築したい。

経営学部 経営学科
池田　亮一　先生

2020年度Ｑ２　「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名　数学I3
授業コード　42B03-003
教員名　池田　亮一
教員コード　101880
登録人数　99
回答数　63
回答率　63.6%
休講回数　0 回
補講回数　0 回



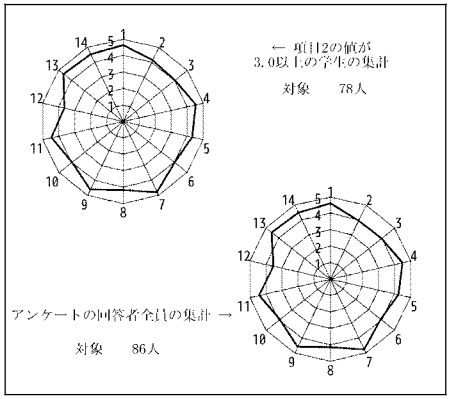
授業評価結果を踏まえた点検・評価

授業目標は(1) 行列の性質を知っている。(2) 行列で連立一次方程式を表現したことがある。(3) 掃き出し法で連立一次方程式を解いたことがある。
(4) 行列式の性質を知っている。(5) 行列式の計算をしたことがある。の5点であったが，このご時世で見事目標は達成できたことは良かったと思う．どちらかというと計算ではなく，連立方程式の性質を直観的に理解することに重きをおき，毎回レジュメのまとめを書いてもらうという今までにおそらく例のない線形代数の授業であったが満足度は3を超え，概ね成功であったと考えている．来クォーター以降もオンラインで行うということであるが，本クォーターは授業内容自体は全く講義をせず，ZOOMではレポートの総評のみを行った．アンケート結果ではぜひ講義をという声もあったので，来学期以降は一部授業内容の講義もZOOMで行うことを考えている．レジュメのまとめレポートの課題は今後も行っていきたい．

経営学部 経営学科
上野　正樹　先生

2020年度Ｑ２　「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名　経営学総論II1
授業コード　42C02-001
教員名　上野　正樹
教員コード　101365
登録人数　139
回答数　86
回答率　61.9%
休講回数　0 回
補講回数　0 回



授業評価結果を踏まえた点検・評価

経営学総論Ⅱ１は経営学の基本を学ぶ。新入生を対象とした必修科目である。経営学のうち経営組織の基本概念の理解と、経営現象の面白さを実感してもらうことを目標としている。登録人数139名で9割以上が1年生である。回答者は86名で回答率は61.9%である。項目1～14の平均は4.26であった。

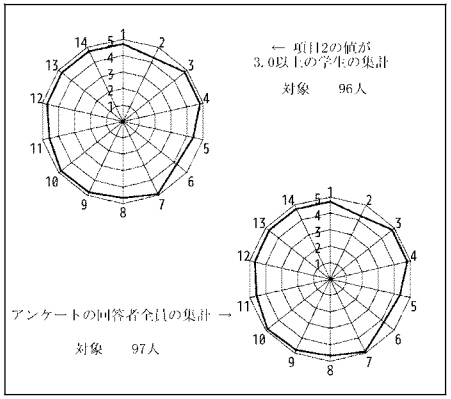
開講当初に設定していた目標と到達の程度について、項目13（新しい知識を獲得できたか）は4.53で90.7%が4点もしくは5点をつけている。項目14（全体として授業に満足したか）は4.48で88.4%が4点もしくは5点をつけている。ここから、9割前後の学生が目標に到達したものと考えられる。

総合的には、項目12（質問や相談の機会が十分に設けられていたか）が3.56で、ここが極端に低かった。その原因はオンライン授業で質問をメールに限定したことによる。次回もオンライン授業の場合、改善点として、メールでの質問や相談を歓迎することを伝えるようにしたい。なお、自由回答の項目15（授業の良かった点）には56件の意見を寄せてもらった。また項目16（改善して欲しい点）には11件の意見を寄せてもらった。すべて吟味して改善に役立てるようにする。

経営学部 経営学科
中島　裕喜　先生

2020年度Ｑ２　「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名　経営学総論II2
授業コード　42C02-002
教員名　中島　裕喜
教員コード　103065
登録人数　136
回答数　97
回答率　71.3%
休講回数　0 回
補講回数　0 回



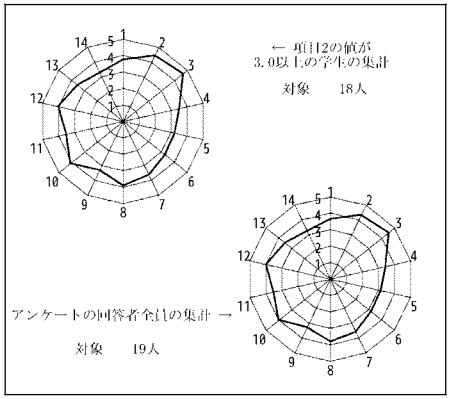
授業評価結果を踏まえた点検・評価

今回は対面での講義ができなかったにもかかわらず、おおむね好意的な評価が多かったように思う。項目７「担当教員の授業に取り組む姿勢に誠実さ、真剣さを感じることができましたか」については4.92と高い評価だったので、教員の思いを受け止めてくれたものと感じている。項目９「教員は学生の理解度に配慮し、また、教科書、配布資料、視聴覚教材、課題、実技などを効果的に使って適切に授業を進めましたか」については、例年進行が速いとか遅いとか評価が分かれるところだが、今回は4.79であるため、こちらもかなり満足をしてもらったように思う。自由記述をみると、おおむね好意的な評価であるが、やはりZoomの内容を何度も見たいという意見もあり、これは通信環境との問題があると思うが、実現が望まれる。１件のみであるが小テストの記載内容があいまいであるという意見があり、耳を傾けるべきと感じた。講義中でも不明な点がないか確認をしていきたいと思う。学生が困難な状況の中で学びの心を保ち続けたことに敬意を表したい。

経営学部 経営学科
白木　俊彦　先生

2020年度Ｑ２　「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名　国際会計論A
授業コード　42C23-001
教員名　白木　俊彦
教員コード　101090
登録人数　31
回答数　19
回答率　61.3%
休講回数　0 回
補講回数　0 回



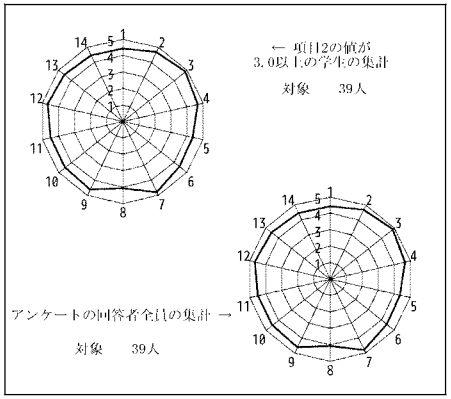
授業評価結果を踏まえた点検・評価

開講当初に設定した到達目標と目標達成度
到達目標を連結財務諸表の基礎理論を理解し、作成に関する技術を習得することにしている。連結精算表の作成を通して連結財務諸表の構造を理解できるようにするため、わが国連結会計基準を中心に解説し、基本的な練習問題から複雑な問題へと演習も含めて解説した。
科目の点検評価
今回は新型コロナの影響でzoomによる講義となった。テキストを指定して、それに従って進め、試験もzoomの講義の中で実施した。私としては、例年以上の内容を解説できたと考えているが、授業評価結果では、例年の評価よりも大幅に評価が下がった。全体的にみると低い評価で、到達目標の理解や実力がついた学生が多かったとは言えない結果であった。教員の誠実さは理解されたが、多くの学生には十分な対応ではなかった。この点は、課題に関して、時間的余裕がないという不満の記述、試験結果からも判断できる。回答内容を分析すると、理解が深まった学生と理解できない学生に分かれており、基礎力不足の学生が多かったように思われる。独学では理解できない点を説明したつもりでいたが、理解度のチェックが足りなかったことは反省すべき点である。
今後に向けての改善点と抱負、方針として、これらの学生に対するオンライン教育について検討したい。

経営学部 経営学科
中尾　陽子　先生

2020年度Ｑ２　「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名　組織心理学A
授業コード　42C25-001
教員名　中尾　陽子
教員コード　064188
登録人数　103
回答数　39
回答率　37.9%
休講回数　0 回
補講回数　0 回



授業評価結果を踏まえた点検・評価

この授業は、組織心理学の集団に関する分野について、知識として理解するだけではなく、それらを日々の生活の中で活用できるようになることを目標としながら展開しました。また、オンライン授業となったからこそ、一方的に教員の講義を聴くだけではなく、参加者同士のディスカッションやグループワークを通して、自分たちで充実した学びの時間を創りあげていくことにもこだわり、取り組んできました。

受講生のみなさんからいただいた自由記述の内容からは、ブレイクアウトルームを用いた様々なグループワークが、肯定的に受け入れられていた様子が伝わってきました。話し合いを通して多様な考えに触れて刺激を受け、自分の考えの幅が広がることを実感していただけたことはとてもよかったと感じています。また、大学の仲間と会い難いこの状況において、対話を通した学びがより一層必要とされている様子も伝わってきました。

グループワークに積極的ではないメンバーがほとんどいなかった様子であることも、本当にありがたいことでした。ブレイクアウトルームに分かれたあとは、私も全てのお部屋を回ることが難しく、受講生のみなさんを信じるしかない部分があります。この授業の目的を理解し、授業運営に協力してくださった受講生お一人おひとりに感謝の気持ちで一杯です。

改善点としては、私の音声が聞き取りにくかったとのFBを複数いただきましたので、今後はよりインターネット環境のよい場所から授業を実施していこうと思います。

経営学部 経営学科
BREMER, Marc　先生

2020年度Ｑ２　「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名　国際財務論A＜国際科目群＞
授業コード　42C31-901
教員名　BREMER, Marc
教員コード　017913
登録人数　5
回答数　3
回答率　60.0%
休講回数　0 回
補講回数　0 回

レーダーチャートなし
(回答数4件以下のため集計しない)

授業評価結果を踏まえた点検・評価

This course is an introduction to international financial decision making by companies. The main issue is how to deal with unexpected exchange rate changes. These changes have been extremely large in recent years. The course also discusses foreign direct investment, portfolio investment and trade finance. The course is offered in English. PDF Notes for each lecture were distributed to students; the Zoom lectures were accompanied by PowerPoint slides.

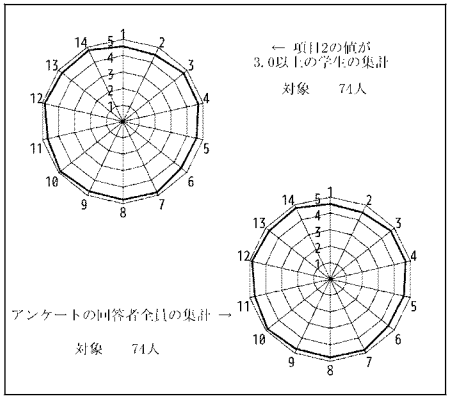
The goal of the course was achieved. All students felt that they learned substantial new knowledge about international financial management. These students are now ready to understand basic international financial decisions at the firms they will join after graduation. In general, all responses by students were good.

The material covered in this course is very advanced. To make it more accessible, I revised the lecture on foreign exchange options to use intuitive examples. Call options were explained as an extension of discount coupons I also added a special lecture to explain foreign currency instruments. These lectures were supplemented by papers published in the Nanzan Management Journal: 'Euros, Eclairs and Foreign Currency Put Options and Canadian Dollars' and ' Mouthwash and Forward Foreign Currency Contracts'.

経営学部 経営学科
川北　眞紀子　先生

2020年度Ｑ２　「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名	マーケティング・コミュニケーションA
授業コード	42C36-001
教員名	川北　眞紀子
教員コード	102879
登録人数	161
回答数	74
回答率	46.0%
休講回数	0 回
補講回数	0 回



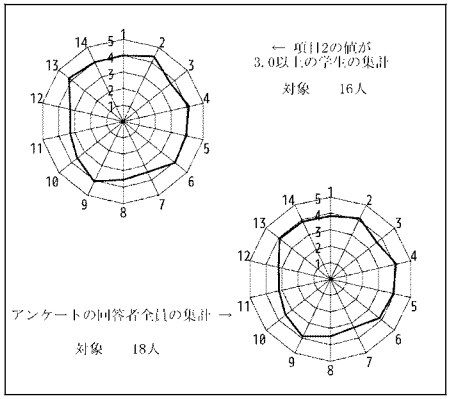
授業評価結果を踏まえた点検・評価

1．当初に設定していた目的は，マーケティング・コミュニケーションの理論と実際についての基礎知識の獲得を，企画立案の実施を通じて深めていくことは，ある程度達成された。理論について講義と現場の方を招いての実務の話，さらに広告立案のためにステップを踏みながらの課題提出，コピーライターさんによる解説，さらに自分たちの課題についての発表や講評を重ねたためである。毎回の授業についてのコメントにも，コミュニケーションや広告への興味関心が高まっていることが見て取れた。
2.　全体満足が4.78と高かった。他の項目もすべて4.5以上であった。問2の学生自らの努力についても4.5と高くなっていた。問12の質問の機会についての項目も，4.86と最も高くなっている。オンラインの授業の要はどんな形であれば相互作用の部分であると思っており，かなり時間をかけて設計をしたのがよかった。「チャットやサポーターを使い、オンラインでもオンラインの利点を活かし対面以上の講義であった」「私が受講した授業の中で、最もチャットが動いていた。チャット活用をすることで、様々な考え方を知ることができた。また、オンラインであることを感じないほど充実していた」と，講義時間内で，他の学生のチャットを見る機会や，声を出して話をする機会を設けたことも大講義にしては珍しいようである。授業時間後に行う小テストで質問やコメントを受け付けているが，1/3くらいの学生がいろいろと書いてきてくれる。それに対する回答コーナーを設けたのも大変だったがよかったようだ。このように相互作用を設計することはオンラインの場合重要だろう。さらに，ゲストにも来てもらったため，そこへの評価も高かった。

経営学部 経営学科
松井　宗也　先生

2020年度Ｑ２　「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名	経営統計学
授業コード	42D05-001
教員名	松井　宗也
教員コード	102275
登録人数	45
回答数	18
回答率	40.0%
休講回数	0 回
補講回数	0 回



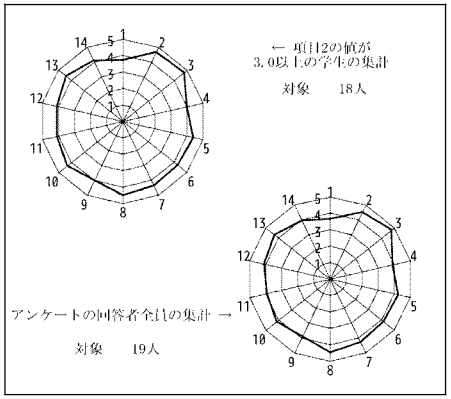
授業評価結果を踏まえた点検・評価

この授業では「経営学を学ぶ上で将来必要となるデータ解析方法を身に付ける」ことを授業目標とした。授業内容は「統計学Ⅰ・Ⅱ」で学ぶ理論的知識を前提として、それをシミュレーションないし実データを用いて実践するというものである。無料の統計言語「R」のプログラミングを用いる。教科書はごく標準的なもので、プログラミングが一から学べるようになっている。他大学（南山大学と同程度かやや上の難易度）と比較しても遜色の無く、また生涯にわたり使える内容である。もちろん卒業論文作成にも役立つ。
実際に学生のレポートを採点すると、学生は完全に授業内容を消化しているとは言い難い。しかし、最終レポート（データを見つけ、「R」と「Excel」で解析し、考察する。）から判断すると、学生の多くは実データの解析がきちんとできているようである。両ソフトウェアの結果もきちんと一致していた。それゆえ、授業目標の6割から7割程度は達成できたと判断する。未消化の内容は、経営学を学びつつその都度必要に応じて補ってくれれば良い。
以下に授業評価集計を踏まえた反省点を述べる。今学期は対面指導ができず、また聴講人数も多かったため、一人一人のパソコンを見回ってプログラミングを指導できなかった。そのためか、評価基準を十分にクリアーしているものの例年よりも評価点が下がっている。また、初めてのオンライン授業ということもあり、授業内容の事前説明に不十分な点があった。この点は反省している。次年度はより丁寧に授業の事前説明文章を作成したい。さらにオンラインでもきめ細やかな指導を行うために、学生の間違い易い点を文章にするなどして、より一層授業の質を高めたい。

経営学部 経営学科
奥田　隆明　先生

2020年度Ｑ２　「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名　データ解析B
授業コード　42D10-001
教員名　奥田　隆明
教員コード　102600
登録人数　50
回答数　19
回答率　38.0%
休講回数　0 回
補講回数　0 回



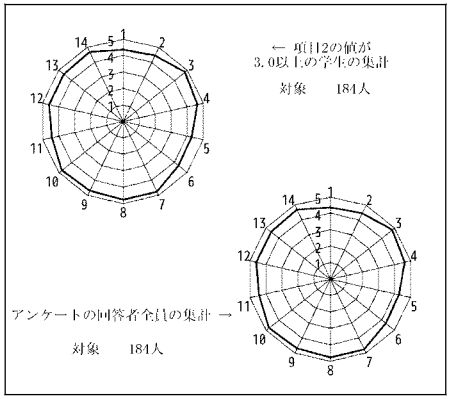
授業評価結果を踏まえた点検・評価

今年度は、都市成長のメカニズムとそのマネージメントについて講義と演習を実施した。受講生の目標理解（設問5）については平均値4.26（一昨年平均4.14）、目標達成については平均値4.16（一昨年4.12）となり、オンライン授業の方が高い値を示している。他方で、受講生の総合的な満足度（設問14）については平均値3.95（一昨年平均4.36）、質問全体については平均値4.17（一昨年平均4.33）となり、オンライン授業の方が低い値を示している。授業の後半では、EXCEL等を用いたデータ分析を行ったが、オンライン授業の場合、学生の進捗状況を把握することができないため、やや一方的な説明になったのではないかと考えている。来年度もオンライン授業が続く場合には、今年度の経験も活かしながら、演習を幾つかのステップに分けて、それぞれのステップで進捗を確認する等の工夫が必要であると考えている。また、ゼミ形式の科目と違って講義形式の科目では、反転授業の形式にする等、新しい工夫が必要であると考えている。

経営学部 経営学科
後藤　剛史　先生

2020年度Ｑ２　「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名　企業論A
授業コード　42E01-001
教員名　後藤　剛史
教員コード　100374
登録人数　300
回答数　184
回答率　61.3%
休講回数　0 回
補講回数　0 回



授業評価結果を踏まえた点検・評価

「オンラインのもとで，授業評価の前回の結果を上回ること」を目標に努力した。企業論Aの前回の授業評価（2014年）での全体的な満足度は4.49，今回のそれは4.67で，目標は達成された。経営科目および登録者数241名以上科目の全体的な満足度はそれぞれ4.32，4.37であり，これらも上回ることができた。自分なりの努力が実を結んだことに，安堵している。

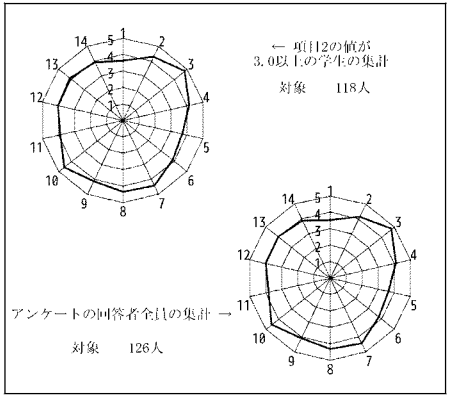
私の授業では，私なりの教育効果に関する考え方に基づき，「教員は手書きで板書し，学生も手書きでそれをノートにとる」というアナログ的な手法をとることとしている。事前の配布資料に適宜空白を用意し，Zoomの共有画面で空白に私の手書きの説明を加えたものを提示することによって，この手法のオンラインでの再現を図った。手間はかかったものの，「ただ画面を見ているよりも授業に参加している感じがして，内容が頭に残った」という学生の感想をかなりの件数，いただいた。諸事情によりノートテイクできなかった学生のために，手書き入りの資料も，事後的に配布した。

たくさんの好意的な自由記述をいただいたので，それらからうかがえる「オンラインならではの利点」を紹介しておく。①板書が見やすい（黒板から近い・遠いということがない），②チャットを用いてリアルタイムで質問や意見を出せる・教員もそれに応答してくれる，③私語・居眠りの存在が目に入らないため集中しやすい。

経営学部 経営学科
薫　祥哲　先生

2020年度Ｑ２　「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名　経営環境論A
授業コード　42E05-001
教員名　薫　祥哲
教員コード　018168
登録人数　209
回答数　126
回答率　60.3%
休講回数　0 回
補講回数　0 回



授業評価結果を踏まえた点検・評価

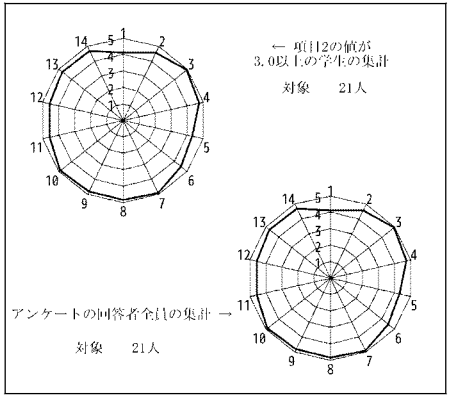
枯渇資源の最適利用，汚染問題，環境資源を公共財や共有資源として捉えた場合の最適な資源利用などついて，ミクロ経済学的なアプローチから講義を行った。また，環境税や排出権取引制度についても，その特徴やメカニズムを説明した。何ごとにも費用とメリットが発生し，これらを比較検討した費用便益分析から最適な環境政策が決定できることの重要性を理解することを目的とした。授業評価項目の設問3～14の全体平均は4.12であり，この目的は概ね達成できたと判断できる。

14回のZoom授業と1回の自主学習，そして学期中3回の練習問題を課し，これらを小レポートとして提出させた。最初に31ページ分のレジュメを資料サーバにアップし，講義では「書画カメラ」を用い，手元の紙にグラフや数式を書きながらレジュメの内容を解説した。自由記述欄のコメントでは，この書画カメラを使った説明が好評であったので，このスタイルを継続したい。また，３回の定期的な小レポートも，授業内容を理解するのに役立ったとの意見が来ていた。Zoom授業を録画したファイルを動画としてサーバにアップした点も好評であった。Zoom授業の接続が不安定になる時があったので，この録画ファイルが役立っていた。なお，「板書スピードが速い」，「早口でしゃべる時があった」，質問を投げかけた時に「チャットでの反応はすぐにできないので，もう少し時間をとってほしかった」といったコメントも書かれていたので，今後，これらの点を改善する必要があると感じた。

経営学部 経営学科
高田　一樹　先生

2020年度Ｑ２　「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名　経営倫理
授業コード　42E07-001
教員名　高田　一樹
教員コード　102887
登録人数　59
回答数　21
回答率　35.6%
休講回数　0 回
補講回数　0 回



授業評価結果を踏まえた点検・評価

① 本科目の目標は次の3つである。1)事業経営、組織運営、専門職としての職務を通じ、当事者が直面しうる倫理的な課題を理解できる。2)責任ある経営について各自の考えを深めることができる。3)自身が大切だと思う価値観について、文章や発言を通じ表現できる。授業のオンライン化により受講者間の意見交換ができなかったことを除けば、課題の提出状況や期末試験の正答率から所期の目標はおおむね果たされた。

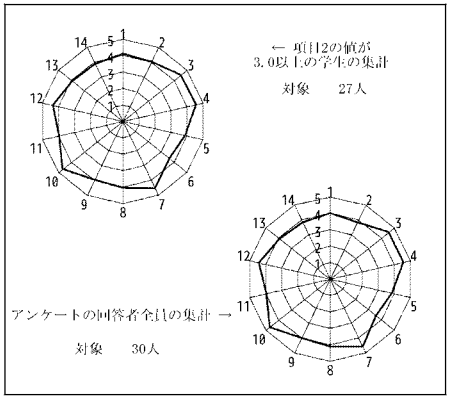
②　昨年度との比較において授業評価は好転し、全項目で4点を上回った。例年、私語注意に関する評価が低調だが、今期は受講者マイクの消音設定によりこの問題は解消された。始業時刻の厳守や視聴覚教材の拡充、講義レジュメの事前掲示も好感を持たれたようだ。各回課している筆記式の課題への評価も過年度に比べ肯定的な自由記述回答が目立ち、開講計画への理解を示唆している。

③　例年、アンケートの回答率が低調である。今期は授業内に2度口頭で告知し、DLサーバに回答依頼文を掲載した。しかし回答率は大幅には好転せず、全体の4割強にとどまった。例年、筆記課題を出しているが、学生の負担と都合を勘案して、提出期間に余裕を持たせた。講義の特色や成績評価の方針については初回のオリエンテーションに詳しく説明している。来期も引き続き講義計画と教材研究に工夫を凝らしたい。

経営学部 経営学科
KHONDAKER, Rahman M.　先生

2020年度Ｑ２　「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名　グローバル・ビジネス論A
授業コード　42E11-001
教員名　KHONDAKER, Rahman M.
教員コード　100361
登録人数　40
回答数　30
回答率　75.0%
休講回数　0 回
補講回数　0 回



授業評価結果を踏まえた点検・評価

本授業の目的は、グローバル・ビジネス戦略に関する基礎的知識を学ぶこと、グローバル・ビジネス経営の理論・応用的戦略を学習すること、異文化環境における経営の実践を学習することである。授業は、テキストを利用せず、オンラインでレジュメおよび関連資料を配布し、ケースなどを利用して、休講・補講なしで、シラバスを終了しました。シラバスの目的を全面的に達成したと思っている。

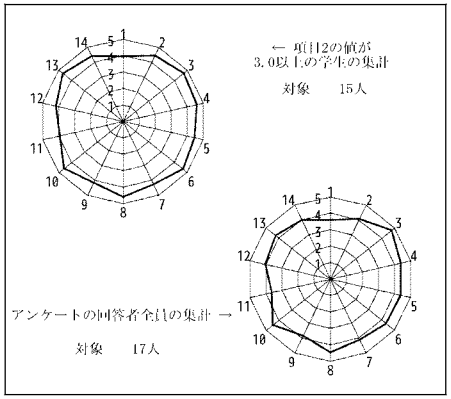
設問1~2「授業への参加について」に関しては、2020年度第2クォーター全科目と経営学部の42001－001～42H04-999番台科目群とを比較すると、多少低めのの評価を受けている。設問3~7「授業全体について」の平均値4.67、4.46、4.14、4.12、4.54 に対して、本科目の評価は、4.57、4.57、3.87、3.57、4.57となっている。設問8~12「授業の運営について」では平均値4.49、4.41、4.55、4.24、4.31　に対して、本科目は4.13、4.00、4.70、3.97、4.43となっている。設問13~14「全体的な評価」では平均値4.39、4.32 に対して、本科目は3.93、3.83となっている。

また、設問15~17「自由記述」では、「毎回時間を守っていた点、質問がないか呼びかけていたこと、中間課題があったため理解の定着に役立った、先生がメモの補足説明を例を挙げながら丁寧にしてくれたこと、Zoomでの説明、課題の頻度等、理解するのに役立つと感じたこと、教科書の代わりに先生が毎回プリントを用意してくださった点、企業の海外進出について学ぶことができたこと」、などがあった。教員として最初オンライン授業の経験であったが、私の努力・労働を考えると、この評価数値について満足ができない。設問17「授業環境（インターネット接続、資料の見やすさなど）」では、「音声も良く聞こえていた、止まることもなくてよかった、時々、インターネット接続が不安定だった」、などがあった。ZOOMへの接続の問題だと思うが、毎回数人が遅れて授業に参加した。今後、より高い水準をめざして様々な改善を試みたい。

経営学部 経営学科
姜　秉国　先生

2020年度Ｑ２　「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名　オペレーションズ・リサーチA
授業コード　42E15-001
教員名　姜　秉国
教員コード　019547
登録人数　24
回答数　17
回答率　70.8%
休講回数　0 回
補講回数　0 回



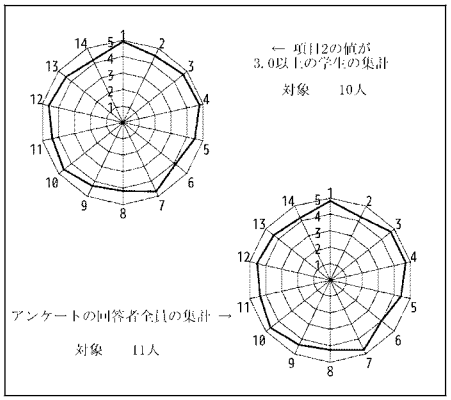
授業評価結果を踏まえた点検・評価

評価項目全般にわたり良い評価を得ている。出来るだけ数式を使わずに平易な言葉で説明したこと、定型的な問題の解答方法よりＯＲのモノの考え方を理解してもらうよう努力したこと，そして身近な応用問題を多く取り入れたことへの評価と受けとめている。オンライン授業を強いれている状況の中で授業目標は十分達成されたものと判断している。普段はＰＣ教室で行っていた授業がオンラインでどこまで可能かということへの不安もあったが、できるだけ教師生徒間のコミュニケーションの確保に力を入れた。だが、オンライン上であるせいか、積極的に質問をする生徒は少なくなってきたような面はある。自由記述式回答には、以下のような回答があった。
ー一緒にやったのでわかりやすく、質問もしやすかった
ー質問に親身になって答えてくれた
ー実技的で、エクセル操作技術を身につけることができた。
そのほか、次のような意見もあった。
ーときどき自身の家の電波がわるく止まることがあった

経営学部 経営学科
HEATHER, James 先生

2020年度Ｑ２ 「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名 ビジネス英語IIオーラル・コミュニケーション1
授業コード 42G03-001
教員名 HEATHER, James
教員コード 103649
登録人数 17
回答数 11
回答率 64.7%
休講回数 0 回
補講回数 0 回



授業評価結果を踏まえた点検・評価

The situation of a sudden world pandemic and the fact that all of our classes were moved to online format I think we did very well to complete the goals of the course. We basically did everything we would have done in the classroom but in Zoom.

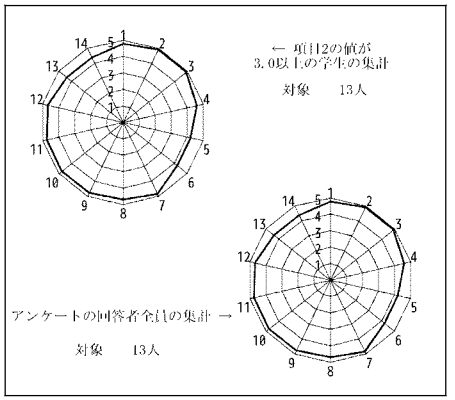
I'm happy to see students give their honest opinions regarding the class and I7m delighted to read all of the positive comments. There is one comment, however, that suggested the amount of time allocated for speaking was too short. I can not understand where this comes from. There was plenty of time for students to use English when they were put into groups for discussion and when they gave their presentations. The teacher can only do so much to facilitate and encourage students to speak. The proverb "You can lead a horse to water, but you can't make it drink" comes to mind.

Teaching via Zoom platform online required on-the-job learning. Based on feedback from students after Q1 I believe the Q2 course was better than Q1. Students wanted more group time, more chance to speak and to discuss things - they got it. For Q3 I will continue to try to learn new aspects of Zoom software and will strive to include more fun speaking activities.

経営学部 経営学科
BIERI, Thomas 先生

2020年度Ｑ２ 「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名 ビジネス英語IIオーラル・コミュニケーション2
授業コード 42G03-002
教員名 BIERI, Thomas
教員コード 102517
登録人数 17
回答数 13
回答率 76.5%
休講回数 0 回
補講回数 0 回



授業評価結果を踏まえた点検・評価

I feel like most students did quite well at achieving and even exceeding the goals even though we unexpectedly changed to the online lessons.

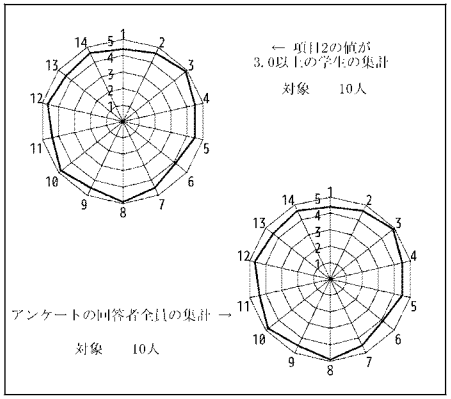
Overall, my scores were at or above averages for this size class, the department, and the university overall. I am pleased to see lots of students rating the items highly. Unfortunately, the weakest point was in the area of understanding and achieving the objectives. Even though I felt students were making progress, it seems I wasn't clear enough in communicating the goals and pointing out student successes. There were several positive comments, and of the two critical comments, one was simply that the lesson was a bit fast and the other was actually related to some students not being as actively involved as they should have been. The latter was a problem I was aware of but which is very challenging to find a solution to in the online environment.

I hope to try to introduce a bit more variety of activities in the fall courses now that both I and the students have become somewhat accustomed to the online environment. I also see that I need to be a bit more explicit about goals and attainments.

経営学部 経営学科
湯本　祐司　先生

2020年度Ｑ２　「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名　英語で学ぶ経営学(マーケティング)
授業コード　42G22-001
教員名　湯本　祐司
教員コード　017533
登録人数　23
回答数　10
回答率　43.5%
休講回数　0 回
補講回数　0 回



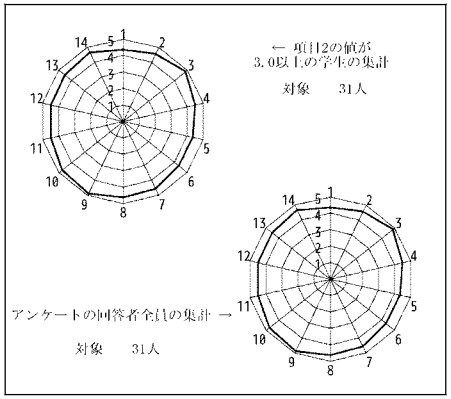
授業評価結果を踏まえた点検・評価

この授業は英語でプライシングの基本的な理論と考え方および事例とプライシングの理論の関連が理解できることを到達目標としている。経営学部の選択科目であり、23名の学生が履修した。他学部生（外国語学部）も1名履修した。
学生の報告、授業毎の課題および期末レポートをみるかぎり、きちんと出席して課題を提出した学生は目標を達成している。授業評価では履修登録者23名のうち10名が回答し、項目１から14の平均と項目３から14の平均はそれぞれ4.56と4.57であり、昨年度より0.2程度上昇した。すべての設問の平均値は4.10から4.90の間にある。自由記述欄の回答は、同じ回答者から「毎回の小テストで内容を復習できる点が良かったです。回答期限が次の日までなので、すぐに復習をしようという意欲が湧きました」と「学生がテキストを訳して授業内でワードファイルを音読する流れが少し単調で、つまらないと感じてしまう時がありました。担当範囲を狭くして、パワーポイントでプレゼンする形式にした方が聞き手側が興味を持てると思います。」というコメントがあった。担当範囲を狭くしてしまうと授業で扱うべき範囲を消化しきれないという懸念があり、パワーポイントによるプレゼンも事前の赤入れが難しくなるので、次年度の改善点としては、学生が報告する際にもっと質問や解説をいれて、その他の受講生に単調さを感じさせないような工夫をしたい。

経営学部 経営学科
窪田　祐一　先生

2020年度Ｑ２　「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名　工業簿記I
授業コード　42H03-001
教員名　窪田　祐一
教員コード　102901
登録人数　91
回答数　31
回答率　34.1%
休講回数　0 回
補講回数　0 回



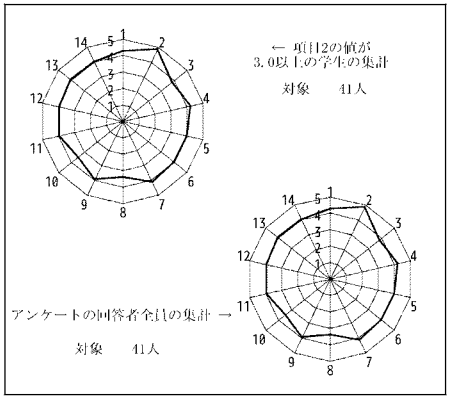
授業評価結果を踏まえた点検・評価

開講当初の設定目標は，受講生が「製造原価，個別原価計算，総合原価計算について説明できる」ようになることであった。期末レポートの内容を確認する限り，この目標はおおよそ達成できたものと推測できる。
授業評価の集計を確認すると，授業の履修時に授業内容に関心をもっていた学生の割合(設問1)が平均4.35(「5」が57.84%)と低かったが，履修後の満足度(設問14)は平均4.65（「5」が74.19%）となっている。評価が高かった項目は，設問9であり，学生の理解度に合わせた教材・課題等の使用であった（平均4.87「5」が90.32%）。
全体的に例年の評価より若干評価が高いところをみると，科目の性質上，Zoomによるオンライン授業との相性がよかったのかもしれない。教材には演習問題があるため，演習の時間をとったり，授業中にランダムに受講生を指名して回答させたりすることも緊張感につながってよかったという声が多かった。またiPadを使ってスライドに手書きで図表や下線を描くなどして板書を見せたことが好評であったようである。
改善点であるが，オンライン授業の中では，多くの学生がおおよそ満足しているようであったが，課題を解く時間が短いという声があった。今後の授業では気をつけたい。

経営学部 経営学科
安田　忍　先生

2020年度Ｑ２　「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名　会計学　/ Accounting
授業コード　48C14-001
教員名　安田　忍
教員コード　101561
登録人数　91
回答数　41
回答率　45.1%
休講回数　0 回
補講回数　0 回



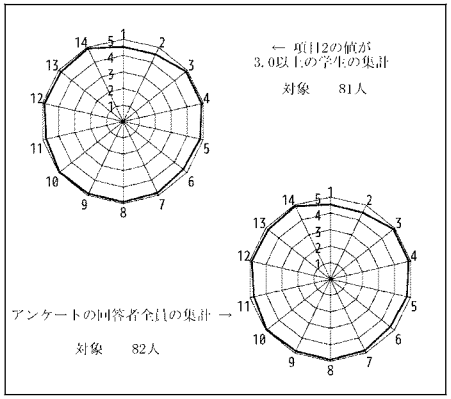
授業評価結果を踏まえた点検・評価

授業目標は、英文簿記・会計の基本を理解することにある。国際教養学部の授業という性格上、英語表記を用いながら、簿記、会計の基本を学習する。本授業ではアクティブ・ラーニングの一部導入が要請されているが、今回、オンライン授業なので、アクティブ・ラーニングを学生個人の主体的学習と位置づけ、自主学習を主体に授業を進めた。質問等はメールで対応し、メールでの対応が困難な場合にZoomを使用した。なお、受講者91名中、国際教養学部33名（外国語35、経済2、経営14、法7）であった。授業満足度は、５（53.7%）、4（17.1%）、合わせて7割強がほぼ満足（3は14.6%）で、平均も4.02であった。通常授業と同程度の質が確保できるよう、テキストのほかに説明資料を工夫し、提出期限を区切った毎回授業の課題提出によって理解を深めるようにした結果、アンケート実施者41名中15名が自由記述において自主学習による今回の授業を、分かりやすく、自分のペースで学習できたので良かったと述べており、教員の意図が学生にも受け入れられたと思われる。10回の課題提出を求めたが、8名は0回なので履修放棄とみなせば、83名中74名（89%）が9～10回の課題を提出しており、自主学習に真面目に取り組んでくれたことが分かる。今後、通常授業でも、今回の体験を生かし、学生が主体的に学ぶ姿勢をもちながらより深く理解できるような授業内容を工夫してゆきたい。

法学部 法律学科
森山　花鈴　先生

2020年度Ｑ２　「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名　性と生命における人間の尊厳7
授業コード　10D06-007
教員名　森山　花鈴
教員コード　103223
登録人数　188
回答数　82
回答率　43.6%
休講回数　0 回
補講回数　0 回



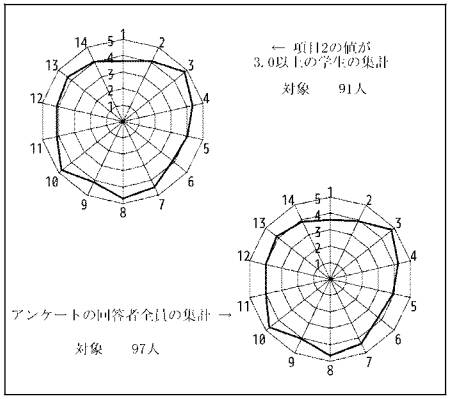
授業評価結果を踏まえた点検・評価

①オンライン授業という形ではあったが、開講当初に設定していた目標については到達していると考える。女性の社会進出や結婚・出産に関する課題について、学生自身が深く考え、学んでいることが日々の課題やチャット、最終レポートから確認することができた。
②大学全体の平均値、人間の尊厳科目での平均値、科目登録者数別集計の平均値をすべての設問で超えることができた。特に、設問4、設問8、設問10、設問14は4.9を超えている。自由記述欄では、授業内容や話し方（スピード、口調など）に関する評価も高く、授業方法（Zoomの講義と課題の時間を明確に区切っていた点など）についても評価が高かった。また、資料（掲示用のパワーポイント資料、印刷用資料）については、「パワーポイントが分かりやすかった」「資料もとても見やすかった」との回答があった。さらに、オンライン授業という形ではあったが、チャットを活用して学生の質問に随時答える形をとっていたため、「チャットでの質問やコメントにすぐ反応してくださっていたのがとてもよかった。普段の講義ではなかなか質問しにくい内容でもチャット機能を使うと質問しやすい」「zoomのときに、生徒が積極的にチャットを送っていて、zoomでも一方通行の授業ではなく、良かった。気軽にチャットで送れて、むしろ対面授業よりも双方向だと思った」などの評価があった。
③今後は、オンライン授業でも見やすい資料の作成や、話すスピードや教え方にも配慮するとともに、随時学生からのチャットを通じて質問に答える形式については評価が高いので、次クォーター以降も形式を検討しながら実施していきたい。

法学部 法律学科
菅原　真　先生

2020年度Ｑ２　「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名　日本国憲法2
授業コード　12C03-002
教員名　菅原　真
教員コード　102064
登録人数　121
回答数　97
回答率　80.2%
休講回数　0 回
補講回数　0 回



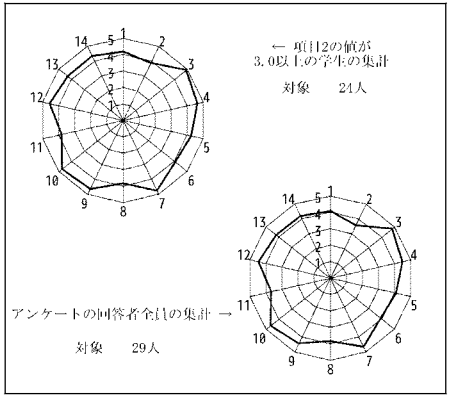
授業評価結果を踏まえた点検・評価

（１）所期の到達目標はほぼ達成できたと思う。但し、オンライン授業ということで、PPT原稿をあらたにつくりなおし、毎回課題を提示し（ミニレポートや動画の閲覧など）、提出された課題に評価を与える、またあまりにもひどい提出物が多いのでレポートの書き方を指導するなど、対面式授業と比べ、多大な労力が必要であった。
（２）数値データは4点台前半でまずまずであったが、課題もある。上記の工夫も行ったこともあり、学生たちからは評価すべき点として、「オンラインの授業でも授業内容・指導方法・授業後の課題も質が高く充実していた」等の意見が多くあり、刺激をうけた。改善すべき点としては、以下の２点がある。すべては遠隔授業の方法に慣れていないことに起因するものであった。まず、レジュメのアップが遅くなったことは一番の反省点である。私としては予習課題としては教科書の指定箇所をよく読んでくることを指示したが、レジュメを見て予習したい学生が数名いることに気がつかなかった。早めにアップすることを心がけていきたい。次に、授業中、学生にいくつか質問をして意見を表明してもらったり条文を読んでもらったりしたが、顔が見えないため、名前を呼んでも返答がない学生については5秒待って次の学生を呼ぶようにしたが、ミュートをすぐに解除できない学生がいたとのことであった。
（３）次年度以降の改善点としては、上記のほか、顔の見えない学生に向かってわかりやすい授業をやらざるをえない場合の工夫をさらに積み重ねることと、そしてZOOMの機能の修得である。

法学部 法律学科
西村　邦行　先生

2020年度Ｑ２　「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名　政治・経済の諸相6
授業コード　13C06-006
教員名　西村　邦行
教員コード　104090
登録人数　84
回答数　29
回答率　34.5%
休講回数　0 回
補講回数　0 回



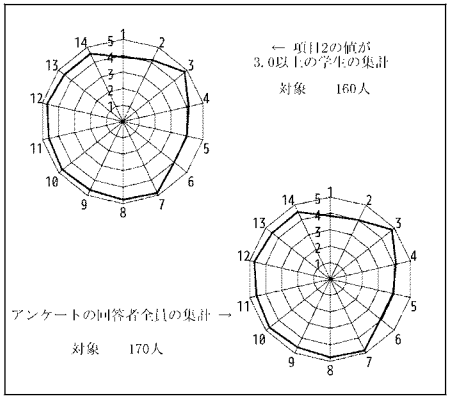
授業評価結果を踏まえた点検・評価

１．シラバスにも記載のとおり、近代以降の日本政治思想史の大まかな流れを理解してもらうこと、そのなかで（今日なお続く）近代という時代の特徴を理解してもらうことを主な目的とした。昨年度の授業では、やや細かい話を補足して分かりにくくなってしまった箇所があったようなので、枝葉の部分はそぎ落として重要な部分をよりゆっくりと丁寧に説明することを心掛けた。
２．全体としてこれまで担当してきた授業のなかでもよい評価がえられた。自身としてもそれなりに満足のいく出来だった。そのなかで特に問題になったのは通信状況で、途中マイクやパソコン本体を変えることである程度改善はされたが、途切れてしまうことはあった。講義の録画をアップロードすることで補えた面もあったが、（Zoomではなく）A棟の通信環境にも左右されるようで、大学側で何とかしてもらいたい（こちらでも無線を5Ghz対応のものに買い替えるといったことは考えたい）。
３．1Qを通じてオンライン授業疲れの話を耳にしていたため、授業中に5分ほど休憩を挟む工夫をとってみたが、評価を見る限り好評だった。3Q以降の授業にも導入しようと思う。その他、講義自体のなかでも受講生を飽きさせない工夫を考えたい。

法学部 法律学科
平林　美紀　先生

2020年度Ｑ２　「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名　契約法（総論）
授業コード　44A22-001
教員名　平林　美紀
教員コード　100773
登録人数　373
回答数　170
回答率　45.6%
休講回数　0 回
補講回数　0 回



授業評価結果を踏まえた点検・評価

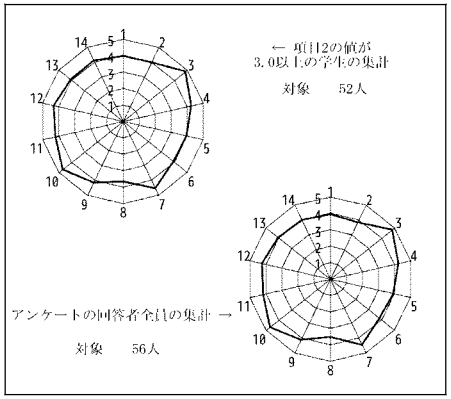
互いに初めてのオンライン授業であったが、受講した学生の多くは、担当者の期待以上によく授業について来てくれたのではないかと感じている。それにも関わらず、到達目標に関する学生自身の自己評価に関わる項目（項目5や項目6）が高くないのは、アンケート実施期間に学期末試験があり、苦戦した者が多かったからではないか（例年は、定期試験期間前にアンケートが終了している）。そのように推測するのは、自由記載欄の回答の多さと内容ゆえである。本講義では、対象範囲を理解するために必要となる他の民法科目の知識についても、積極的に予復習として取り上げることとしているが、そのことを好意的にとらえるコメントを今期ほど寄せてもらったことはなかった。進行が遅れがちになったため、予定していた全範囲を講じることはできなかった点で、知識を授けることは不十分であったかもしれない。しかし、民法をどう学ぶか、どう理解するか、そして民法の面白さを受け取ってくれた学生は少なくなかったと考えている。

授業のスピードについては、繰り返し丁寧に教えることを評価するコメントもあれば、遅いことを指摘するコメントもある。1年生対象ということもあって、徐々にスピードを上げていくようにしているが、次クォーターでは本科目と内容的に連続し受講生もほぼ同じ「契約法（各論）」を担当するので、その際には、上がったスピードのままに講義をしていきたい。また、好評であった質問タイムや確認テストも維持していきたい。

法学部 法律学科
洪　恵子　先生

2020年度Ｑ２　「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名　国際法総論A
授業コード　44B13-001
教員名　洪　恵子
教員コード　103537
登録人数　145
回答数　56
回答率　38.6%
休講回数　0 回
補講回数　0 回



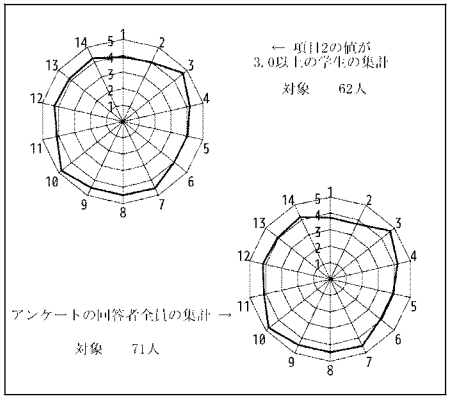
授業評価結果を踏まえた点検・評価

①例えば質問項目６については３．８４だが、項目１３については４．０５で、項目１４の全体としての満足度も４．０であり、自由記述欄を見ても、多くの学生は授業の目的を理解し、かなり到達目標に達成していたように思う。（ただし受講生が約140名で、回答しているのが56名という問題がある。）
②今回は初めてのオンライン（遠隔）授業で、技術的な面で多くの試練があった。声については、よく聞こえたという意見と聞きづらかったという意見の両方があり、私の機器の問題か、受講生の機器の問題のどちらなのかが不明である。
③真面目に授業を聞いている学生とそうでない学生の違いを対面授業のように確認できないので、自由記述欄の否定的なコメントをどのように利用すべきかわからない。毎回、書いていることだが、他の大学の先進的な試みに学んで、本学でもアンケートの方式を根本的に見直す時期が来ていると思われる。（匿名をやめ、自分の発言に責任を持たせることをはじめ、学生自身の学びの振り返りに利用できる性質のものにすることや、ほぼすべての授業に出席している学生にのみ回答を可能とするなど。）

法学部 法律学科
服部　寛　先生

2020年度Ｑ２　「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名　法哲学A
授業コード　44B31-001
教員名　服部　寛
教員コード　103600
登録人数　295
回答数　71
回答率　24.1%
休講回数　0 回
補講回数　0 回



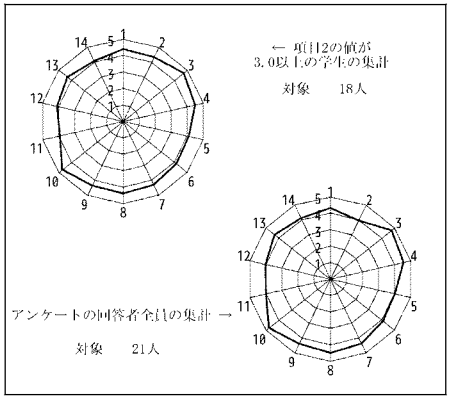
授業評価結果を踏まえた点検・評価

オンラインでの授業ということから、行き届かない点があちこちにあったが、受講者からの評価は、回答を見るに、昨年度よりも全体的に良いものとなった。卑見では、ヴィジュアル的に理解しやすい資料を用意したことも手伝い、学生自身の学習という観点から、受けやすい授業を目指したことが、今回の結果に繋がったものと思われる。他にも、適宜、休憩を多めに設けることも、好意的に受け入れられた。
①オンライン授業により、授業計画を見直すことを迫られたが、他面で、引き締まった形で計画を組み直し、授業の進度についても十分に注意した。また、自主学習のほうで学習の深化を委ねる回（や授業の部分）を設けたことも、授業全体の進行としてプラスに作用した。他面で、授業内容上の課題として、西欧（・西洋）の古代～近代までの世界史＋法思想史という授業内容のボリュームの多さについては、扱う／扱えない内容の取捨選択について、引き続き効果的な道を探っていきたい。②数値データのうち、受講者の関心のそもそもの強さが昨年度よりも大きく（項目１．）、これに相関して、到達目標への力がついた度合い（項目６．）や授業全体の満足度（項目１４．）も昨年度比で数値が上がった。一定程度、授業の方法の改善が功を奏したように見受けられる。
③上述した、内容の多さと、進度の問題と、授業の形式の問題については、課題があり、自由記述等を受けて、以降、改善に努めるようにしたい。

法学部 法律学科
榊原　秀訓　先生

2020年度Ｑ２　「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名　行政救済法（応用）
授業コード　44B98-001
教員名　榊原　秀訓
教員コード　100548
登録人数　76
回答数　21
回答率　27.6%
休講回数　0 回
補講回数　0 回



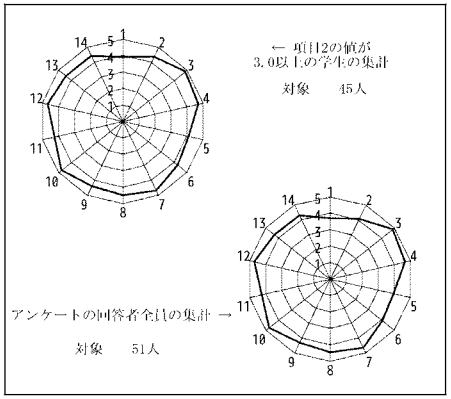
授業評価結果を踏まえた点検・評価

対面授業で行った昨年に続き、本年度も担当したが、オンラインという相違がある。昨年の履修登録者は54名であるのに対し、本年度は76名で若干増えている。本年度は、「応用」の前の第1Qの「基礎」が十分に時間を確保できず、内容が限定されたことから、昨年と比較すると基礎的な部分についても説明することになり、内容に多少の相違がある。本年度の回答数は昨年度と同じ21であるが、回答率は低下した。昨年度、もともと勉強意欲が高い者が多いと予想されることから、それぞれの項目の点も相対的に高く、学生の側の努力にかかわる設問を除くと、4点台であったとしたが、それは本年度も同様であった。
昨年度点数が低かった設問「到達目標に向けて力がついた」が4.24から4.10、設問「質問や相談の機会」が4.14から4.05とやはり他よりは低く、また、「適切な指導や情報提供」も4.00と、昨年度に比べると全体として評価が若干下がったようである。本科目では、昨年の授業をオンラインに移したようなもので、途中で小テストその他のことをしておらず、他の科目と比較するとこういった点が低く評価されたのかと思う。もっとも、自由記述をみると、昨年度のホワイトボードに書く代わりに、紙に書いた図を授業中に示し、授業後に資料としてアップしたので、その点はわかりやすいものと積極的に評価されたようである。それ以外にも、オンラインの授業の仕方については、さらに検討が必要であると感じた。

法学部 法律学科
野口　博史　先生

2020年度Ｑ２　「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名　政治行動論
授業コード 46N08-001
教員名　野口　博史
教員コード 100473
登録人数　154
回答数　51
回答率　33.1%
休講回数　0 回
補講回数　0 回



授業評価結果を踏まえた点検・評価

本講義の目標は体系論にもとづく政治学諸理論の学修および日本・中国など具体例への適応であるが、履修者154人のうち、レポート提出者145人、このうち48人が良好な成績を修めたことから、講義の目標をおおむね達成できたと考える。本講義は、担当者にとってZoomを利用した初めての多人数講義であり、さまざまな試行錯誤をおこないつつ講義を進めたが、レポートの完成度は平均的に思ったより高かった。

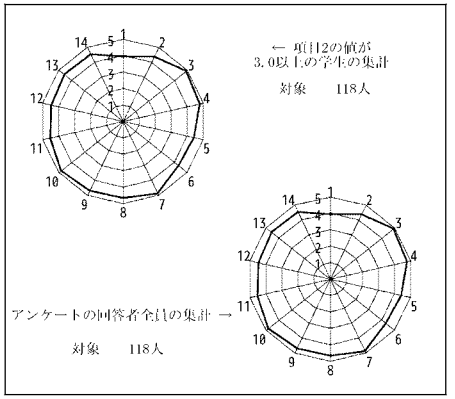
数値データは対面式でおこなわれた過去の同講義と類似しており、オンラインによる数値低下は、これも意外なほどなかった。一方、本クオーターにおいては、受講生の不安や不満も大きかったようで、昨年度までと比較して、きわめて多い自由記述欄への回答があった。

Zoom授業において、最初の10分程度はネットワークが不安定になるので、早めにルームを開くべきなど、貴重な指摘が多々あり、またホワイトボードにかえて試用した手書きの紙による説明はおおきく賛否が分かれ、次クオーターにおける改善の手がかりがつかめた。

総合政策学部 総合政策学科
山田　望　先生

2020年度Ｑ２　「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名　宗教に見る人間の尊厳2
授業コード 10D01-002
教員名　山田　望
教員コード 000211
登録人数　153
回答数　118
回答率　77.1%
休講回数　0 回
補講回数　0 回



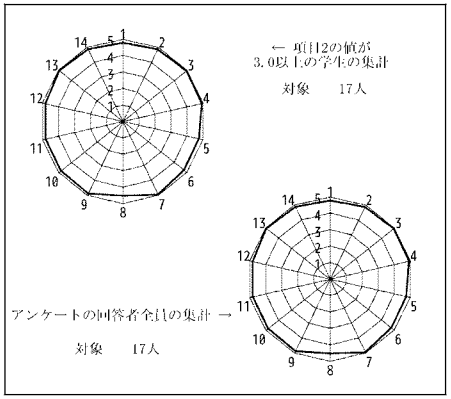
授業評価結果を踏まえた点検・評価

開講当初予定していた目標と到達の程度については、全設問１４のうち８項目が科目分野別平均値を上回っていたこと、１項目が平均値と同値、また、最も重要な１２、１３、１４の設問においても、科目分野別平均値を下回ったものの、格差は２－５ポイント程度であったため、ほぼ目標に到達できたものと判断している。しかしながら、全体評価の上で重要な設問１２、設問１３、設問１４の３項目が、いずれも分野別平均値を下回ったことについては、今後の課題として注目すべき点であると反省している。ところが、今回、オンライン授業に対する評価としてみた場合、看過できないことが一点あった。ある受講学生1名が、１５回の授業が終了した後、WEB CLASSのメール機能を用いて、「いつからオンライン授業が６０分から９０分に変更になったのですか？オンライン授業は６０分だったのではないですか？この授業は最初から９０分の授業となっていて、授業時間が延びたことについて何の説明もなかったため、バイトに遅れてしまい、大変な迷惑を被った。」という趣旨の苦情のメールを送ってきたのである。オンライン授業が６０分から通常の９０分に戻ったのは既にQ2開始当初からのことであると理解していたので、明らかにこの学生は思い違いをしていたものと思われる。本科目のみならず、他のオンラインの授業も履修していたはずで、９０分の授業は本科目のみではなかったことは明らかであろう。今回、全１４の設問全てにわたって、最低の評価をつけた学生が１名おり、この学生が上の苦情を寄せてきた学生がどうかは不明であるが、結果として、評価ポイントが下がる要因になったことは明らかである。オンライン授業への不慣れさ、あるいは確認を怠ったことにより、このような事態が発生したものと思われるので、出てきた数値データの扱いには、対面授業の場合よりも慎重になった方が良いと感じている。

総合政策学部 総合政策学科
山口　和代　先生

2020年度Ｑ２　「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名　日本語II(総合)1
授業コード　11L12-001
教員名　山口　和代
教員コード　049726
登録人数　19
回答数　17
回答率　89.5%
休講回数　0 回
補講回数　0 回



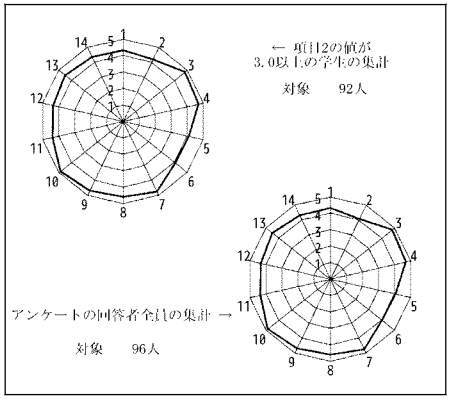
授業評価結果を踏まえた点検・評価

この授業では社会的トピックに関する基礎的な知識を学びながら、学期中に２回発表し、発表内容をまとめてレポートを書くという作業を行い、能動的学習により知識と技能を活用し身に着けることを目的とした作業を行う宿題を多く課した。今学期はオンライン授業への変更により、授業回数も３回少なくなったことから、学生対応やケアについては試行錯誤の連続であった。学生による授業評価の設問への回答結果から授業運営および全体的な評価に関する項目を見ると、4.53から4.94という結果で、オンライン授業での開始時間、授業構成や進度、教員の授業に取り組む姿勢、授業の到達目標への理解・新しい知識の獲得と理解の深まりに関する項目が4.94で、であったことから、学生たちが授業の目標を理解し、力を付けてくれたと思われる。自由記述の良かった点に関しては、12の回答があり、知識の獲得など、授業内容を肯定的に評価する内容であった。改善点については10の回答があり、「なし」との回答が５、オンラインのため、発表に対する他の学生の顔が見えず緊張したが１、教員の声が時々はっきり聞こえなかったが１、相談時間が短くなったが１、など、オンラインでの難しさに言及するものもあった。インターネットの接続については、個々の学生により状況が違うが、接続や音声の不具合に関する回答が６あった。対面授業とは違い、オンライン授業では授業運営の様々な面で時間がかかることが多いが、学生の様子を見ながらモチベーションを下げることなく取り組んでいけるよう、工夫をしたいと思う。

総合政策学部 総合政策学科
中島　靖次　先生

2020年度Ｑ２　「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名　哲学A3
授業コード　12A01-003
教員名　中島　靖次
教員コード　000246
登録人数　155
回答数　96
回答率　61.9%
休講回数　0 回
補講回数　0 回



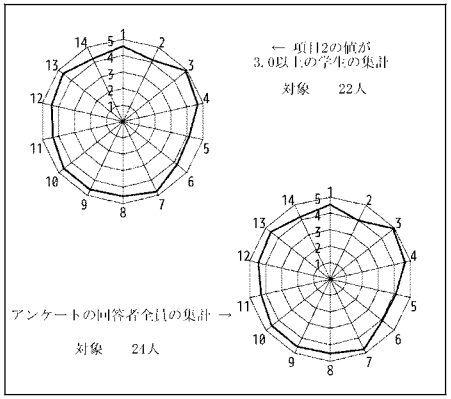
授業評価結果を踏まえた点検・評価

オンライン授業という初めての形式で授業を行ったわけだが、Q2ということもあって担当する側も学生もともにこの形式になれることによって、ずいぶん授業を円滑に進めることができたように思う。自由記述を見ると、こちらが用意した資料についてその質と量の両面で高評価を得たことは、この形式のためのあらかじめの対処としては成功したと思われる。また、対面ではない状況で、いかに抽象的な内容をそれなりの理解へと導くかに意を注いだつもりだったが、その点についても、一定の評価を得たように思う。ただ、資料に線を引くとか、別の資料へと参照するという場合に、ある程度の時間をかけたつもりでいたが、やはり対面のように実際の姿を確認できないので、結果的に学生には、ついてくることができなくなった場面があったようで、それは反省すべき点であった。その他の点で、質問の時間があるとよかったというものがあったが、こちらとしては、「チャット」機能によって、適時、学生は質問してきていたので、対処できていたかと思っていたが、十分ではなかったということかと今後に生かしていきたい。ただ、チャットによる質問の場合には、驚くほど鋭い質問が飛び込んできたり、レポートの内容については、これまで以上に授業内容を理解できている形跡がうかがえるものが多く、非常に質の高いものが提出されていたように思われる。この点は、オンライン授業ゆえの思わぬ副産物として、今後の大学全体の授業形態に生かすことはできないものだろうか。

総合政策学部 総合政策学科
大八木　英夫　先生

2020年度Ｑ２　「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名　自然地理学1
授業コード　12B10-001
教員名　大八木　英夫
教員コード　104123
登録人数　51
回答数　24
回答率　47.1%
休講回数　0 回
補講回数　0 回



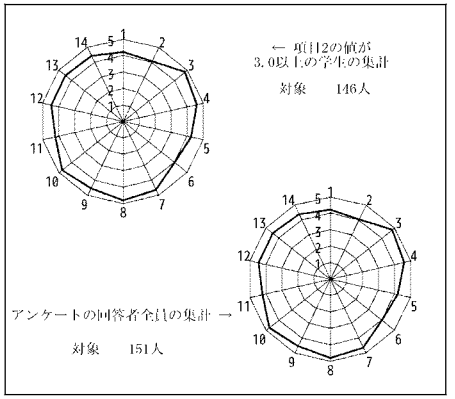
授業評価結果を踏まえた点検・評価

本授業では，自然地理学の地理学上の位置を概説し，各分科を構成している内容の基本的事項について解説し，自然地理学が環境科学の中核をなす学問領域であることを理解し，主に日本を舞台とした自然地理や現代社会で生じている地球環境問題の世界とのつながりについての理解を修得させ，多岐にわたる専門分野における情報（数値）がもたらす意味を基礎的事項として授業を展開させた。内容ついては，常に生じている時事ニュースや科学における最新情報を取り入れて，日本だけでなく世界の各地の情報を提供しながら，学生の意欲を引き出すことに努めた。アンケート結果からは，到達目標に向けて力の修得についてはやや評価されなかった部分があるが，概ね学生からの対応は良好であり，特に，学生の理解度に配慮し，また，教科書，配布資料，視聴覚教材，課題，実技などを効果的に使って適切に授業については，良好な評価を得た。今後に向けては，特に，時事ニュースは，常に変化していくものであり，今後の授業においても古い知識にならないように気を付けながら，環境科学や地球科学等の複数の学問における様々な観点について授業を展開し，自然地理学の基本論理の講義を介して，自然環境について自分で考える能力を身につけさせることを目標としたい。

総合政策学部 総合政策学科
金綱　基志　先生

2020年度Ｑ２　「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名　政治・経済の諸相3
授業コード　13C06-003
教員名　金綱　基志
教員コード　102923
登録人数　256
回答数　151
回答率　59.0%
休講回数　0 回
補講回数　0 回



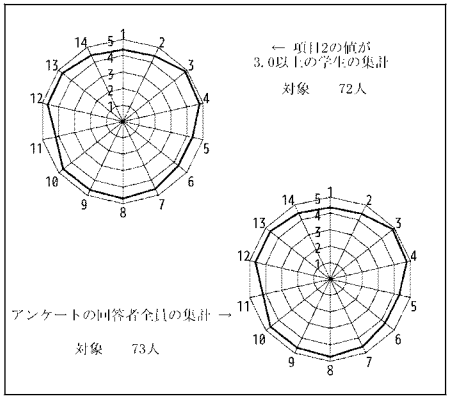
授業評価結果を踏まえた点検・評価

項目1から14の平均が4.44であり、項目3から14の平均が4.49であった。これは、全体の平均値や登録者数別集計の平均値を上回っている。こうしたデータから、講義の目標は達成できたと考えられる。オンライン授業であったが、予想よりも評価は高かった。自由記述回答も、対面授業の時よりも数多く寄せられ、肯定的な評価が多かった。講義の初めに、前回の復習をホワイトボードを使って行った点、チャットで学生の意見を送ってもらった点が、対面授業と場合と異なる点であったが、こうした方法を取り入れたことに対する評価が高かった。対面授業の時よりも、チャットを利用することで、学生は意見を出しやすかったようである。また、学生から送られた意見を講義中に読み上げたことで、他の学生の意見を聞けて良かったという感想もあった。学生の意見に対してコメントを行ったことも評価されていた。今後は、オンラインでの工夫をさらに行うことで、より高い評価が得られるようにしていきたいと考えている。

総合政策学部 総合政策学科
藤本　潔　先生

2020年度Ｑ２　「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名　人間と環境4
授業コード　13D02-004
教員名　藤本　潔
教員コード　100100
登録人数　136
回答数　73
回答率　53.7%
休講回数　0 回
補講回数　0 回



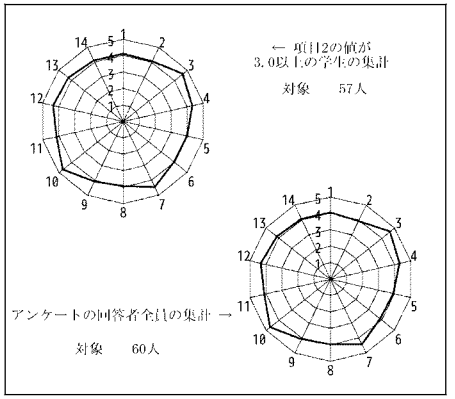
授業評価結果を踏まえた点検・評価

本授業の授業評価は、これまで2005、2007、2010、2011、2014、2018、2019年度に行われている。瀬戸キャンパス時代の2014年度までは受講者数が300名を超えるマスプロ授業であったが、名古屋キャンパス移転後は、2018年度が114名、2019年度はわずか22名、今年度は136名と相対的に少なくなっている。また今年はオンライン授業となったこともあり、過去の評点とは一概に比較することはできないが、設問1-14の平均点が4.54、設問3-14の平均点は4.57で、これまで同様高い評価が得られたことから、本授業の目的は十分に達成できたと言えよう。今回は、いわゆる講義は60分程度に止め、講義の後に質問時間を十分確保した。また、授業の振り返りとして毎回15分程度で記述できる課題をリアクションペーパーとして時間内に提出させた。自由記述欄を見ると、これらの取り組みに対しては、時間配分が適切であった、知識の定着に役立ったなど、好意的に受け取られていたことが確認された。また、学生達もチャットで積極的に質問してくれ、ほとんどの学生がリアクションペーパーもしっかりと記載していたことから、オンラインであっても真剣に授業に取り組んでいたことがうかがえる。今回は、基本的には一通り講義を行った後にまとめて質問を受け付ける形態を取ったが、授業の途中でも双方向のやり取りをしたかったという意見もあり、今後そのための工夫も試みたい。

総合政策学部 総合政策学科
POTTER, David M.　先生

2020年度Ｑ２　「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名　国際政治学B
授業コード　44B48-001
教員名　POTTER, David M.
教員コード　100098
登録人数　249
回答数　60
回答率　24.1%
休講回数　0 回
補講回数　0 回



授業評価結果を踏まえた点検・評価

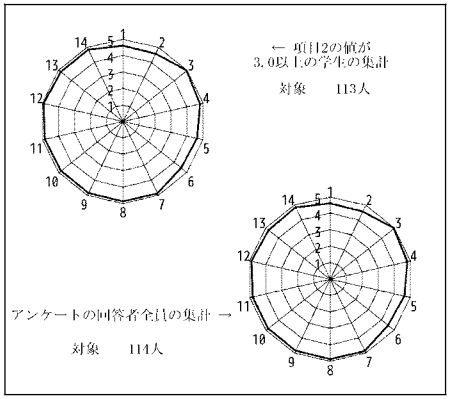
This is a general studies course introducing fundamentals of international politics. Most students are law students.
The survey results are surprisingly good given the fact that the course was conducted online via Zoom. Students are generally satisifed with the course, although the responses to the questions about clarity of course goals is a bit lower than I would have liked.

In future I expect to teach this course as it is. The format worked reasonably well for online teaching (lecture and accompanying powerpoint). I will try to clarify learning goals more clearly in future.

総合政策学部 総合政策学科
狭間　諒多朗　先生

2020年度Ｑ２　「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名　社会と文明
授業コード　46B08-001
教員名　狭間　諒多朗
教員コード　104124
登録人数　244
回答数　114
回答率　46.7%
休講回数　0 回
補講回数　0 回



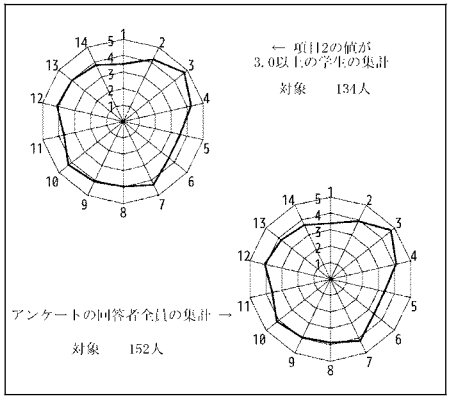
授業評価結果を踏まえた点検・評価

本授業では「①各社会の社会構造を理解する」「②社会意識から社会を理解する視点を身につける」の2つの到達目標を掲げている。①については、家族や労働、教育といった様々な側面からいろいろな社会の構造を解説することができ、受講生の理解も進んだと考えている。②については、権威主義的態度、階層帰属意識といった社会学で長年研究されてきた社会意識について解説することができ、こちらも受講生はきちんと理解できていたように感じている。
数値データをみてみると、すべての項目で4.5を超えており、おおむね高い評価となっている。本授業では準備を入念に行ってから授業に臨むことを心掛けた。その結果、項目番号7の平均値が4.88、項目番号9の平均値が4.83となっており、高い評価を得ている。また、チャット機能を用いた受講生からの質問時間を設けたほか、毎授業後の小課題について必ず次の授業で解説するようにした結果、項目番号12の平均値が4.91と極めて高い評価になっている。これらの工夫が全体的な満足度の向上につながったと考えている。（項目番号14の平均値は4.82）。
一方で、自由回答をみると、授業の内容が薄いという意見も1件あった。今後は、わかりやすさや丁寧さに加えて、授業内容のさらなる充実をはかっていきたい。

総合政策学部 総合政策学科
森　徹　先生

2020年度Ｑ２　「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名　マクロ経済学
授業コード　46D02-001
教員名　森　徹
教員コード　101861
登録人数　259
回答数　152
回答率　58.7%
休講回数　0 回
補講回数　0 回



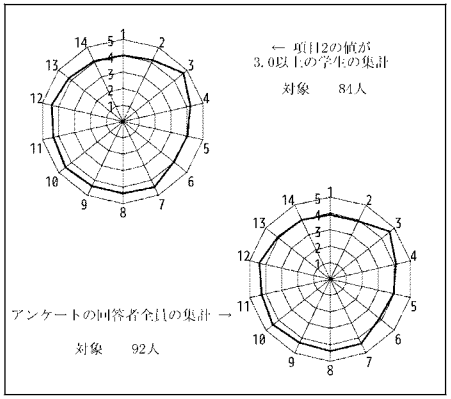
授業評価結果を踏まえた点検・評価

①授業のカバレッジや進行状況から判断すると、当初の到達目標（GDPの意味やその決定理論の理解、財政金融政策の効果の評価能力の育成等）は達成し得たと判断しているが、学生の評価結果から見ると、到達目標の理解やそれに向けての能力の養成に関する実感にはかなり個人差があり、到達目標に関する質問項目の評価の平均値は3.4程度にとどまっている。
②教員の講義内容や授業運営等に関する設問（設問３～14 ）への評価の平均値は3.91と比較的高いと受け止めている。特に、教員の授業への取り組みの誠実さ・真剣さや学生の理解度に対する配慮への評価が平均値で４前後と高い評価を得たことは喜ばしい結果である。しかしその反面授業内容の理解度や満足度に関する評価が3.6～3.8程度にとどまっていることは残念である。自由記述の意見においても、説明が丁寧でわかりやすいという評価が多く寄せられている反面、理解が不十分なまま置き去りにされたとの不満もあり、受講者の中でかなり理解度に違いが見られた。
③オンライン授業であるために理解が進まなかったとの評価は多くはないが、今後の授業においては、単調な説明に終わることのないよう、明確な発生と分かりやすい説明に一層心がけたい。

総合政策学部 総合政策学科
前田　洋枝　先生

2020年度Ｑ２　「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名　地域環境論
授業コード　46D15-001
教員名　前田　洋枝
教員コード　102264
登録人数　172
回答数　92
回答率　53.5%
休講回数　0 回
補講回数　0 回



授業評価結果を踏まえた点検・評価

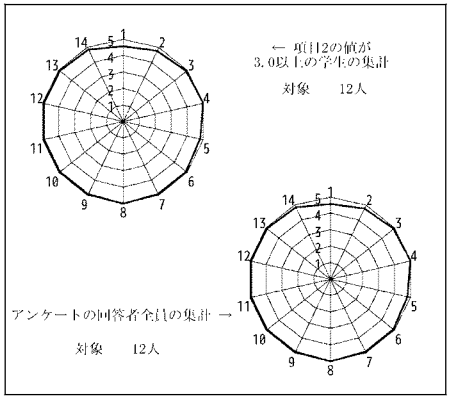
授業の到達目標は、「環境政策のこれまでの発展について説明できる。」「地域ごとの環境問題解決に向けた取組の特徴や、成果に影響した要因について説明できる。」「地域間の環境問題解決に向けた交渉・協働について、特徴や課題について説明できる。」の３点であった。名古屋市のごみ問題に関する講演会を一部の回の授業に振り替えたことについて「実際に取り組んでいる人の話を聞けたのが良い経験になった。」と授業評価の自由記述でも評価する記述があった。過去の事例紹介だけでなく、政策課題への取組をシミュレーションしたゲームの体験でブレイクアウトルームを使用して学生同士のコミュニケーションを実施したことや人々の環境への関心を高めたり行動を促すことを目的に開催されるイベントなどの紹介をしたことも授業評価の自由記述の多くで肯定的に評価されていた。

5段階評価で比較的高い評価（４．３以上）は、「事前に予告された開始時間は守られていましたか」「担当教員の授業に取り組む姿勢に誠実さ、真剣さを感じることができましたか」「オンライン授業中に、教員の声や音声機器の音はよく聞き取れましたか」「教員は学生の理解度に配慮し、また、教科書、配布資料、視聴覚教材、課題、実技などを効果的に使って適切に授業を進めましたか」「オンライン授業中に、授業の妨げになる行為に対して、適切な対処がされていましたか」「質問や相談の機会が、十分に設けられていましたか、あるいは、課題、実習等に対する事前・事後指導は十分でしたか」であった。チャットで届く質問に随時回答したことに対して肯定的な意見と、あとでまとめて答えたり必要な人に向けて最後にしてほしいといった否定的な意見の両方があり、秋学期の授業では何らかの改善をしたい。

総合政策学部 総合政策学科
CROKER, Robert　先生

2020年度Ｑ２　「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名　FIELDWORK METHODS＜国際科目群＞
授業コード　46E01-901
教員名　CROKER, Robert
教員コード　100082
登録人数　24
回答数　12
回答率　50.0%
休講回数　0 回
補講回数　0 回



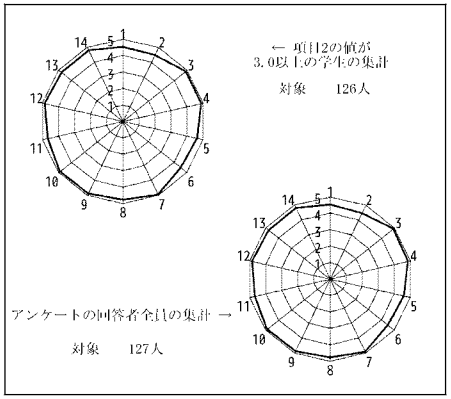
授業評価結果を踏まえた点検・評価

The purpose of this class was to help students develop their social sciences fieldwork research skills. The main research skills developed were finding academic resources online, creating and conducting interviews, creating and analyzing online questionnaires using Google Forms and Sheets, and making a 10-minute group PowerPoint presentation using Zoom, within a mixed methods research framework. Previously this course was conducted in the classroom; this was the first time it was conducted online. Although it required a lot more preparation, the classes went more smoothly online than in the classroom. It was easier to explain and demonstrate research processes through Zoom, and I could monitor and support students' work more easily through Zoom than in the classroom. It was also easy to organize individual group consultation times every few weeks during office hours, and to give feedback on interview questions, questionnaire items, and PowerPoint slides. In their feedback, students wrote that they liked the precise course schedule, authentic online materials, very practical assignments, and detailed feedback on their work, and felt that they had improved their language skills.

総合政策学部 総合政策学科
久村　恵子　先生

2020年度Ｑ２　「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名　組織行動論
授業コード 46K05-001
教員名　久村　恵子
教員コード 100026
登録人数　255
回答数　127
回答率　49.8%
休講回数　0 回
補講回数　0 回



授業評価結果を踏まえた点検・評価

この授業では、組織とそこで働く人々の行動や態度、その関係に関する理論や知見を理解し、これらの理論や知見を用いて社会問題を考えることを目標としている。そのため、組織行動論の主要トピックスについて学術的視点からの理論・知見を、社会問題や日常生活での様々な事象と関連づけながら説明し、組織行動論への理解を深めてもらえるよう努めた。

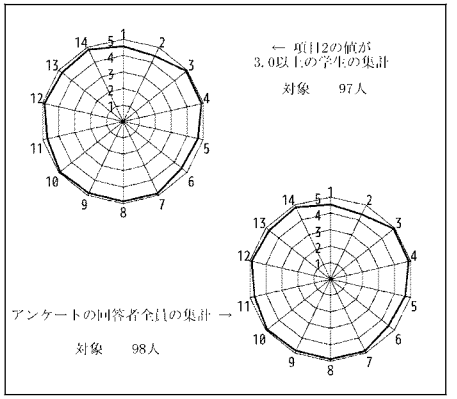
今年度はオンライン授業となりどのような結果になるか興味があったが、設問1～設問14の平均値が4.74（昨年度4.60）、設問3～設問14の平均値は4.78（昨年度4.63）と、変わらず授業運営および全体として肯定的な評価が得られた。授業の到達目標の達成に関する設問も平均値4.4以上であり、ほぼ達成できた。自由記述もいつも以上に多く寄せられ、「資料や説明が分かりやすい、内容が面白い」、「課題の内容やタイミングが適切」、「オンラインでも授業が楽しく、スピードや分量も適切」、「チャットを使った質問タイムが良かった」など肯定的な声が得られた。

ただ、主体的な学習に関する項目（設問2）については、今年度も項目全体で最低値（4.45）であったが、昨年度よりは若干向上した。オンライン授業自体、学生の主体性が必要であり、授業運営を通じてその主体性をいかに継続させられるかが重要であると感じた。その一方、自由記述の中に、レジュメ資料については改善点を指摘する声もあった。今回の評価を踏まえ、次年度の授業内容と構成、運営にさらなる改善を図っていくと共に、秋学期以降のオンライン授業の準備を進めたい。

総合政策学部 総合政策学科
三輪　まどか　先生

2020年度Ｑ２　「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名　人権政策論
授業コード 46K06-001
教員名　三輪　まどか
教員コード 102263
登録人数　253
回答数　98
回答率　38.7%
休講回数　0 回
補講回数　0 回



授業評価結果を踏まえた点検・評価

回答率が40%と程度とやや低めであるが、まずは、このオンライン授業という未曾有の慣れない状況下、受講生の皆さんの熱心な態度に感謝申し上げたい。

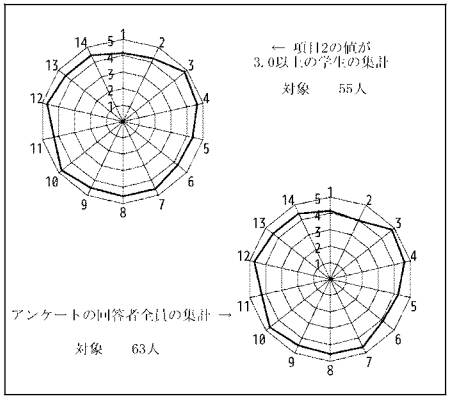
試行錯誤が続き、どうしたら受講生の皆さんの充実度を高めることができるか、を考え取り組んだ結果、全体の満足度（設問14）が4.85、また、質問などの対応（設問12）についても4.91と、大変な高評価を得ることができた。当方の試行錯誤が伝わり、感謝の文字しかない。一方、例年の課題となっている予習復習の時間の確保（設問2）は、毎回のテストを課することでクリアしようと試みたが、4.39とやや低めであり、この点さらなる工夫が必要である。

自由記述の欄を見てみると、資料はPDF化して配付していたが、印刷できるようにして欲しいという要望があった。PDFを4分割で印刷する方法などを授業中に案内したが、それが不徹底であったと思われる。その他、テストが途切れる（Webclassのこと）というものもあり、これは大学の設備の問題として改善を求めたい。その他の自由記述は、どれも身に余る光栄な言葉ばかりで、レジュメ、PowerPointがわかりやすい、説明がわかりやすく、話すスピードがちょうどよい、質問にしっかり答えてもらえる、適切な課題量、ということで、今後も自身で工夫をしながら、学生にメッセージを伝えていきたい。

総合政策学部 総合政策学科
山田　哲也　先生

2020年度Ｑ２　「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名　国際社会と法
授業コード　46L05-001
教員名　山田　哲也
教員コード　100839
登録人数　172
回答数　63
回答率　36.6%
休講回数　0 回
補講回数　0 回



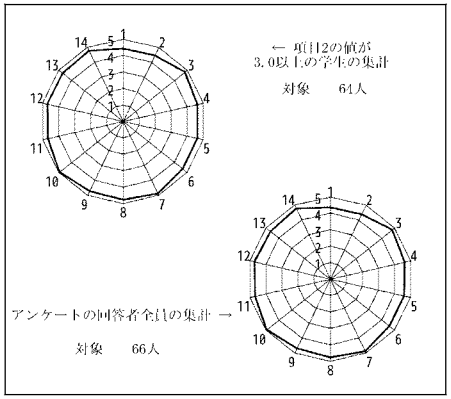
授業評価結果を踏まえた点検・評価

①開講当初は、例年と同じ目標（学習量）を想定していたが、オンライン授業という環境でペースを落とさざるを得ず、結局、例年の8割程度の分量しかこなすことができなかった。
②数値データについては、回答数が少ないこともあってか、通常の授業と同程度の評価である。自由記述でペース配分等について肯定的な意見があったことは、嬉しく感じる。他の講義科目でも同様であるが、板書を多用するため、毎回、画面共有機能を使って白紙のワードを置き、ほとんど逐語的に講義内容（レジュメや教科書に対する補足）を書き込み、授業後直ちに資料DLサーバにアップする、ということを行ったが、これについても肯定的な意見が多かった。また、チャット機能を使った質疑応答も積極的に活用したことについても、肯定的な意見が見られた。他方で、学生側の通信容量や速度の問題については、かなり否定的な意見が強かった。これは、授業時間を短くし、課題・自習の時間に充てさせることである程度は解消できるものの、「課題の多さに対する不満」も聞かれるところであり、オンライン授業のあり方については、改めて検討の余地を感じる。
③今回のアンケート結果を踏まえ、講義形態については大きく変更しないが、チャット機能のさらなる活用を通じた、「参加型」の授業の実施を検討したい。

総合政策学部 総合政策学科
鶴見　哲也　先生

2020年度Ｑ２　「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名　経済政策論
授業コード　46M04-001
教員名　鶴見　哲也
教員コード　102265
登録人数　126
回答数　66
回答率　52.4%
休講回数　0 回
補講回数　0 回



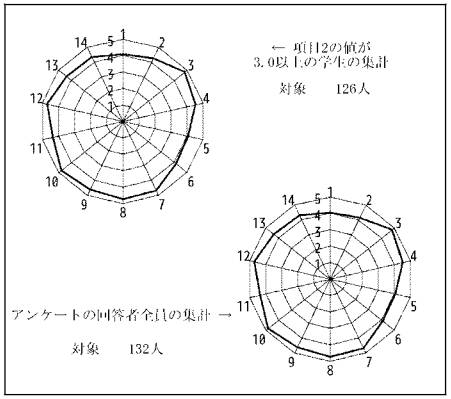
授業評価結果を踏まえた点検・評価

当初掲げた到達目標について、学生から提出されたレポートを確認すると、多くの学生が到達目標に達していると判断できた。授業評価の点数については、項目３から14の平均が4.73となっており、同人数帯の大学全体の平均である4.37および総合政策学部の平均である4.51と比較して高い点数を得ることができ、学生からの評価は比較的高いものであったと考えられる。自由記述欄では講義内容が難解ではなく、かみ砕いた説明が理解につながったというコメントがあり、経済学をかみ砕いて現実の事例を基に説明したことがこの評価につながったのではと考えている。オンラインということもあり、学生の反応が分からない部分はあったものの、チャットで常に質問を受け付けるということにしたところ、積極的に質問が寄せられてきて、その質問を踏まえての講義内容の再構成を意識的に行っていったことも評価につながったのではないかと考えている。オンライン講義であっても学生の反応を的確にとらえていくことで、講義内容の充実を今後も図っていきたい。

総合政策学部 総合政策学科
佐藤　創　先生

2020年度Ｑ２　「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名　国際金融論
授業コード　46N02-001
教員名　佐藤　創
教員コード　103882
登録人数　322
回答数　132
回答率　41.0%
休講回数　0 回
補講回数　0 回



授業評価結果を踏まえた点検・評価

開講当初に設定していた目標と到達については、アンケート及びレポートの結果をみると、おおむね達成できたと思われる。本授業の全体の満足度は4.45であり、全体の平均4.39、また登録者数別の集計（241名以上、本講義は320名あまりの登録）4.41よりも若干良い結果となっている。

オンライン授業という取り組みのなかで、本授業ではレジュメを事前にアップロードし、そのレジュメのなかで穴埋めをさせる方法を採用した。また、通信状況が学生によって異なる可能性を考慮し、30分ごとに、見せたスライドを再投影し、短時間の質問時間を設けた。この方式はアンケート結果の集計および自由記述欄をみると、概して、学生の評判が良かったようである。

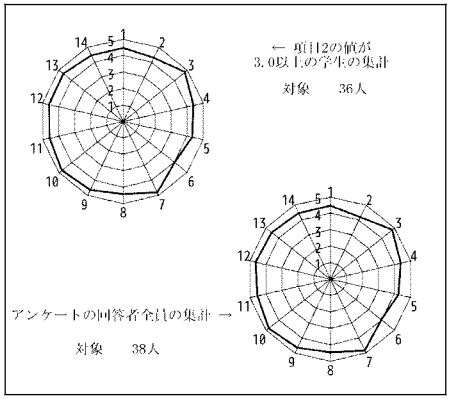
また、期末試験100%での評価を予定していたが、実施できないために、二回のレポートをこれに代わるものとして課した。図書館へのアクセスが限定されている点を懸念していたが、レポート内容およびアンケート結果・自由記述をみると、学生にとっては、もちろん履修生により取り組みの度合いは異なるものの、概して手応えのある自習学習もできたように見受けられる。

オンラインの授業が続く可能性が高く、引き続き、「当該授業の理解度」「自発的な学びの促進」をオンライン授業でも進めるための良い工夫がほかにもないか試行錯誤しながら、Q3,Q4のマスプロ授業をより良い講義にするように努めたい。

理工学部 システム数理学科
松田　眞一　先生

2020年度Ｑ２　「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名　情報を読む1
授業コード　13E07-001
教員名　松田　眞一
教員コード　017566
登録人数　60
回答数　38
回答率　63.3%
休講回数　0 回
補講回数　0 回



授業評価結果を踏まえた点検・評価

・授業目標と目標達成度

本授業の目標は身近な情報についてその見方を深め、情報に基づく考察ができる力を培うことである。その目標達成のため、全部で7回のカード実験を伴う演習のレポートを課した。単位を修得した学生はX,Sを除いた受講生58名中55名であり、合格率は昨年とほぼ同じの94%となった。X1名、S1名は例年より少ないためミスマッチは少ないと言える。A+となった学生は34名で去年より大幅に増えた。これは最終が定期試験ではなく、レポートになったことに起因している。

・授業評価

回答率は例年より少ない6割程度であった。アンケートに答える時間を設けたが、短かったかもしれない。設問3から14において全学平均を下回った項目は3つになり、昨年より減った。差の大きい2つの設問を考察する。

設問4は実験が長引いて時間をオーバーしたことが何回かあったためと思われる。自由記述でも見かけた。Zoomによる演習の時間が予定通りにいかなかったせいである。設問6は到達目標に関する項目であるが、各単元と到達目標の関係はしっかり説明するようにしたため設問5は改善したが、設問6は到達目標が理解しづらかったためと思わる。履修登録が遅れた学生への説明をもっと充実すべきだろう。

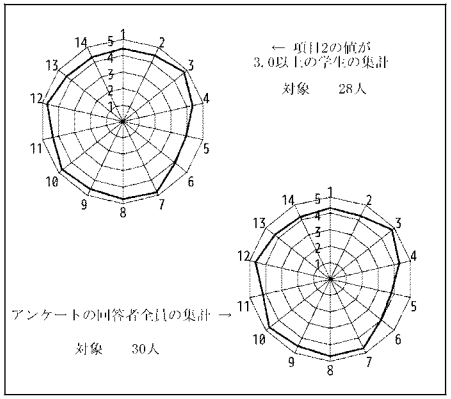
・次年度に向けた改善点

急遽準備したオンライン授業であったが、実験はそれなりにうまくいったと思われる。実験の理解が対面より進まなかった面もあるので改善したい。

理工学部 システム数理学科
小市　俊悟　先生

2020年度Ｑ２　「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名　微積分学II および演習[SS]1
授業コード 50A04-001
教員名　小市　俊悟
教員コード 101691
登録人数　48
回答数　30
回答率　62.5%
休講回数　0 回
補講回数　0 回



授業評価結果を踏まえた点検・評価

①開講当初に設定していた目標と到達の程度について。
理工学部生として、今後、専門科目を学んでいくのに必要な1変数関数の積分法と基本的な微分方程式の解法について理解してもらうことが目標である。到達の程度については、定期試験もなく、判断が難しいところであるが、不可となった学生を除けば、例年と同程度の到達も期待できるところまで、何とか遂行できたのではないかと考える。

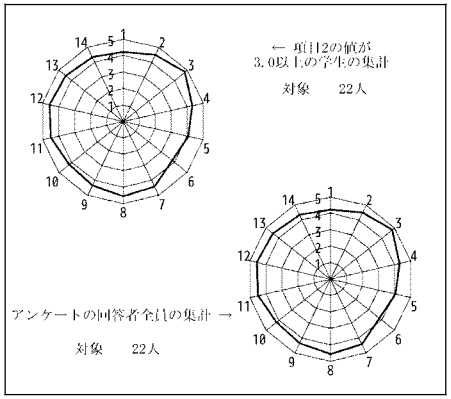
②数値データおよび自由記述等を踏まえての担当科目に関する総合的な自己点検・評価。
オンライン授業となったが、数値データおよび自由記述を見るに、極端に悲観的になるようなことはないように見受けられる。学生の理解度を測ることが難しく、学生の自立（自律）性に頼るような授業にせざるを得なかったが、講義への参加者数などからも、学生もある種の危機感を持って取り組んでくれたと思うので、当初心配していたよりは、円滑に、かつ、それなりの実効性を持って授業を進められたのではないかと考える。自立性の高い学生にとっては、むしろ、このような授業形態の方が効果的とも思えるところさえある。

③次クォーター・学期以降に向けての改善点、今後の抱負、方針など
板書を予定していたものをスライドに切り替えるなど、授業期間中に準備を進めたところも多く、準備不足となった部分があるのは事実で、それに起因する授業進行の不親切さに対するコメントもあったので、可能な限り、余裕ある授業準備に努めたい。

理工学部 システム数理学科
小藤　俊幸　先生

2020年度Ｑ２　「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名　微積分学II および演習[SS]2
授業コード 50A04-004
教員名　小藤　俊幸
教員コード 101907
登録人数　38
回答数　22
回答率　57.9%
休講回数　0 回
補講回数　0 回



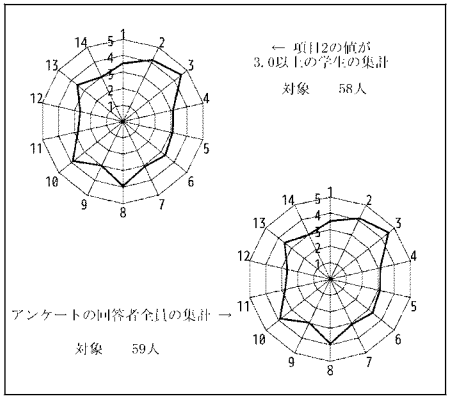
授業評価結果を踏まえた点検・評価

第1クォーターの「微積分学Iおよび演習」に引き続き，微積分学の初歩について学習する入門的な授業であり、小藤俊幸、「考える力をつけるための微積分教科書」、学術図書出版社（2019年）を教科書として使用している。授業は，おおむね1時間を講義に，残り30分を学生が演習問題を解く時間にあてている．積分が中心で，基礎的な微分方程式の解法や広義積分が主な内容である．特に，２年次の「確率と統計」での応用を意図して，広義積分では，正規分布を紹介している．そのように，２年生以降の勉強に役立つことを強調したことが功を奏したらしく，比較的熱心に勉強に取り組んでくれたようである．お互いにオンライン授業に慣れたこともあって，第1クォーターの「微積分学Iおよび演習」と比べると，成績は全体的に良かった．授業に対する意見も「限定された環境の中で熱心に授業をしてくれた」と言った好意的なものが多かった。

理工学部 システム数理学科
白石　高章　先生

2020年度Ｑ２　「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名　確率・統計
授業コード 50A12-001
教員名　白石　高章
教員コード 102104
登録人数　139
回答数　59
回答率　42.4%
休講回数　0 回
補講回数　0 回



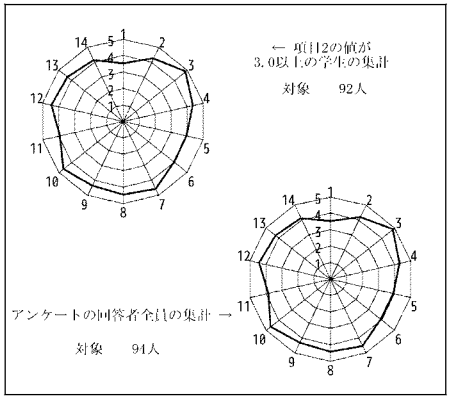
授業評価結果を踏まえた点検・評価

開講当初に設定していた講義内容の目標はすべて達成した。できる限り学生自身が考えるような講義体制にした。具体的な取り組みとして、第 1, 2, 4, 5, 7, 8, 10, 11, 13, 14 回の授業時に 1 時間以内の講義を Zoom で行った。第 3, 6, 9, 12, 15 回のレポートの締切は当日の午前 11 時 5 分とし、自主学習でレポートを完成してもらった。第 1, 2, 4, 5, 7, 8, 10, 11, 13, 14 回のレポートの締切は当日の次の日の午前 10 時 15 分 とした。m=1,2,3,4,5 に 対し第 3m-2, 3m-1 回のレポートの中の４問以内とその他１問の計 5 問以内が評 価に大きく関係する第 3m 回のレポートとして出題した。高校の知識だけでできるやさしい内容の問題以外のレポートの課題は、解答の略解を載せた。詳しい講義資料をみれるようにしたが、ipadの画面共有による講義を最後２回しか行わなかった。理由は、ネットで調べた方法だけではipadの画面共有ができなかった。原因はOOaxiaを通してはできないことが分かり、しばらくしてst001で可能であることが分かったためである。今回の授業アンケートからの学生の意見で画面共有の要求があるので、次回の講義からは１回目からpadの画面共有により講義を進める。さらに授業内容の充実を図る。

理工学部 ソフトウェア工学科
佐々木　克巳　先生

2020年度Ｑ２　「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名　論理と集合
授業コード 50A05-001
教員名　佐々木　克巳
教員コード 018051
登録人数　146
回答数　94
回答率　64.4%
休講回数　0 回
補講回数　0 回



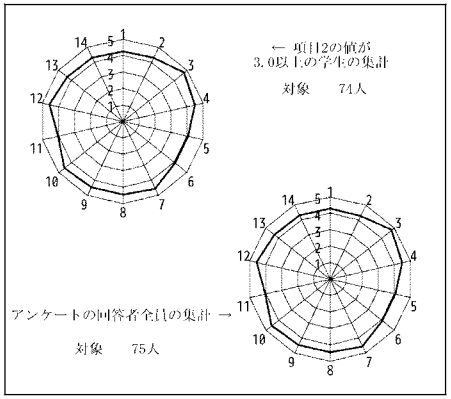
授業評価結果を踏まえた点検・評価

[目標]運営面に絞って述べる．昨年度との大きな違いは，オンライン授業，筆答試験非実施である．オンライン授業であっても，練習問題の略解を含めた講義資料を事前に配布し，その資料に基づく解説を主とした授業運営の方針は継続できると考え，この基本部分はそのままとした．筆答試験に代わる評価方法として，各段階で課題を提出させて評価することとした．課題の解説は，達成度に応じて，復習を意識しながら丁寧に行い，さらに，その課題内容を次の課題にも反映させることで，課題提出が目標達成に反映されるよう心がけた．
[評価]自由記述欄には，例年に比べ多くの意見があった．[目標]で述べた，説明や解説の丁寧さやわかりやすさに対して19件の，課題の解説を含めた復習などに対して7件の肯定的なコメントがあり，[目標]で述べたことが反映されたと考える．とくに，講義資料のページの切替を，そのページの内容を復習してから行うよう心がけたが，この点が反映されたと考える．一方，オンラインでの手書きの文字については，否定的なコメントが13件あり，対応したい．課題内容も，理解に役立ったというコメントがあり，内容は適切であったと考える．その他，質問の時間があってよかった，質問の時間を多くしてほしい，課題を解く時間を入れてほしいなどの意見などがあった．
[今後の計画] Q3以降のオンライン授業において，手書きの文字に対して対応が必要と考える．まずはより丁寧にかくことを心がける．さらに，用いる機種やソフトなどでの対応の可能性を探りたい．授業では，画面の切替時の内容の復習，質問時間を設けることを継続したい．また，教育効果を踏まえ，練習問題を解く時間を適宜設けることも考えたい．この授業が次年度もオンラインとなった場合には，課題内容，授業の進捗，成績評価が，目標達成のためにより効果的に関連付けられるようにしたい．

理工学部 ソフトウェア工学科
横森　励士　先生

2020年度Ｑ２　「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名　アルゴリズムとデータ構造
授業コード 52A01-001
教員名　横森　励士
教員コード 101114
登録人数　169
回答数　75
回答率　44.4%
休講回数　0 回
補講回数　0 回



授業評価結果を踏まえた点検・評価

昨年度の反省点からの対応点
・ノートテイクの場面を，アルゴリズムの動作の記録にした。
・プログラムはノートテイク対象とせず講義資料に載せ，仕組みを紹介した。
・印刷物は白ベースとした。
遠隔授業となった件への対応
・質問対応の時間などを十分に確保し，時間の許す限り対応した。
・実際に動作原理を問う問題を中心として毎回小テストを行った。
・ソートの実行時間計測に関するシミュレーションを最終レポートとした。

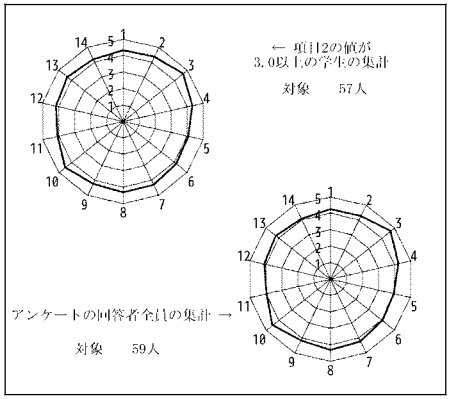
例年と比較してかなり高い結果になったので，必要なことは学生には伝わったかなという感触はある。
本当に理解しているかどうかは，実際にテストをしてみないとわからない。
学生側の私語雑談などがこっちには聞こえてこないので，講義において教員側も優しい対応を取りやすいという点はあったかもしれない。

自由評価の記述欄からは，質問時間をとっていることに対して評価をもらえており，今後も方針を維持したい。
最終課題は，テストを行わないことの代替として作業量が必要な内容をレポートとして課したことを理解してほしい。
授業の進度に関しては，説明をすべき部分とある程度流していい部分とでメリハリをつけたい。
遠隔授業が実質初めてであったので，動作慣れしていないところもあり，次はもう少しうまくやりたい。

理工学部 ソフトウェア工学科
蜂巣　吉成　先生

2020年度Ｑ２　「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名　情報モデリング
授業コード 52B06-001
教員名　蜂巣　吉成
教員コード 019448
登録人数　191
回答数　59
回答率　30.9%
休講回数　0 回
補講回数　0 回



授業評価結果を踏まえた点検・評価

1. 開講当初に設定していた目標と到達の程度について
昨年度は授業で毎回出題する演習問題15%，レポート課題2回35%，定期試験50%で評価をしていたが，今年度はオンライン授業となり定期試験が実施できなかったので，授業で毎回出題する演習問題30%，レポート課題4回70%で評価を行った．授業の進め方はオンラインに合わせて少し変更したが，授業で扱う内容や演習問題，レポート課題については昨年度から大きな変更はなく，到達目標も変更がない．成績評価からは，授業に出席して課題を提出した学生の多くは最初に設定した到達目標に達していた．

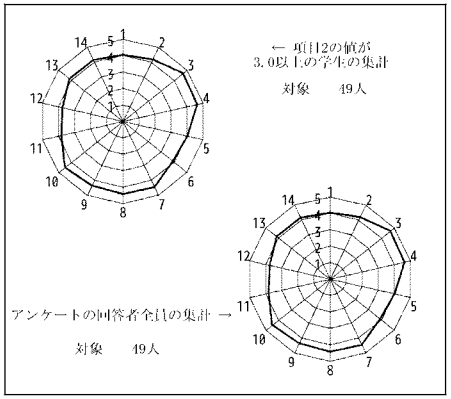
2. 数値データおよび自由記述等を踏まえての担当科目に関する総合的な自己点検・評価
設問1～14の平均は4.22で各設問で4点未満は設問5の3.98，設問11の3.97であり，数値データからは比較的好評だったようである．自由記述欄ではわかりやすかったという意見が7つ，難しかったという意見が1つあった．課題が多いという意見もあったが，授業で毎回出題していた演習問題の内容や難易度は昨年度と同様である．レポート課題も2題は昨年度と同様で，1題は昨年度の演習問題の内容を少し増やしたものである．他の多くの授業でも定期試験の代わりに課題が出題されていたようなので，クォーター全体として多いと感じたのかもしれない．

3. 次クォーター・学期以降に向けての改善点、今後の抱負、方針など
しばらくオンライン授業が続くと思うが，今後も工夫をしていく．特に授業がよくわからなかった学生についてのサポートについて検討したい．

理工学部 機械電子制御工学科
奥村　康行　先生

2020年度Ｑ２　「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名　通信ネットワーク基礎1
授業コード　50A14-001
教員名　奥村　康行
教員コード　101219
登録人数　113
回答数　49
回答率　43.4%
休講回数　0 回
補講回数　0 回



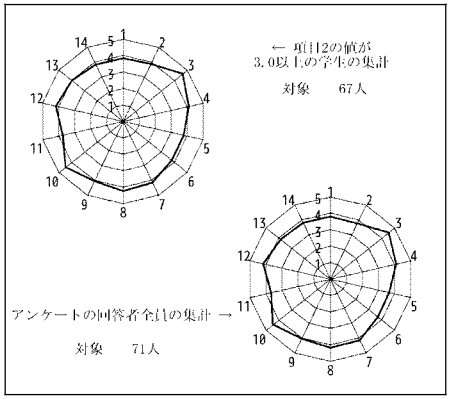
授業評価結果を踏まえた点検・評価

1. 開講当初に設定した授業目標:　通信システムの基礎知識を理解し自分の言葉で説明できるようになってもらうこと。
2. 目標達成度:　約90%以上の受講者が目標を達成した。
3.　担当科目についての授業評価:　評定値は学部科目平均より0.2だけ良い値だった。自由記述のうち改善を希望された項目は、レポート量が多い(1)，板書・説明が早い(2)，質問しずらい(1)であった(カッコ内は指摘した人数)。好意的な意見として，演習の解説がわかりやすい(2)、講義のわかりやすさ(6)、講義ビデオの録画を何度でも見ることができる(4)などがあり、これらは今後も継続する。
4. 次年度の改善方針:　オンライン講義での欠点を少しでも改善するため、講義直後に録画をサーバーにアップしておいた。学生にはこれを伝えておいたので、回を追うごとに出席率は低下し、録画で学習した学生が増えた。ちなみにレポート課題を見ただけでレポートは提出できないように配慮したので、レポートを提出した学生は何らかの形で講義を受けたはずである。板書が早いとコメントした学生も録画を見返したそうである。これまでも講義内容を少しずつ入れ替えてきたが、来年度も最近の技術動向を踏まえて検討する。

理工学部 機械電子制御工学科
杉原　桂太　先生

2020年度Ｑ２　「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名　情報技術倫理
授業コード　52B01-001
教員名　杉原　桂太
教員コード　101115
登録人数　176
回答数　71
回答率　40.3%
休講回数　0 回
補講回数　0 回



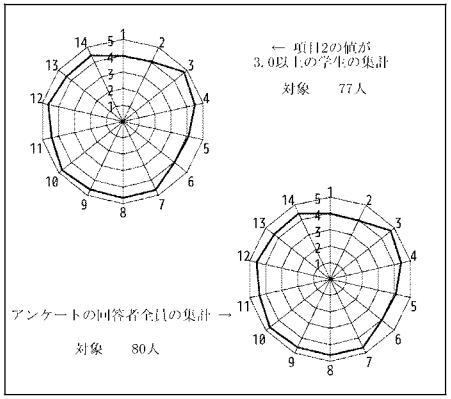
授業評価結果を踏まえた点検・評価

JABEE対応コースでは必修となる本科目について、グローバルに活躍する技術者に求められる専門職倫理の要点を提示し、理工学部の学生が求める理系的な視点にも留意しつつ、これらをオンラインで実現することが目標となった。レーダーチャートからは、著しく評価の低い項目はないものの、項目5、11、13、14は十分な評価とはいえない。項目15では、「授業を始める前に学ぶべきことを先に言ってたから、理解すべき所を学んだ」、「生徒の質問や意見を親身に聞いてくださり、良い対応をしてくださいました。」とある一方、16では、「事例について資料を提示するだけでなく、授業内で少し触れてほしい」ともあった。同「先生がおどおどしている感じだった」は、事情により1回のみ自宅からZoomを用いた点への指摘と思いたい。項目17の「資料が少し固い書き方で分かりづらかったところがありました」は、今後のために非常に参考になった。今回オンラインの授業への評価によって、通常の教室でのできていた事、十分にはできていなかった事について見通しが得られたため、今後のオンライン、対面での講義に活かしたい。

理工学部 機械電子制御工学科
藤井　勝之　先生

2020年度Ｑ２　「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名　機械電子制御工学基礎
授業コード 53A01-001
教員名　藤井　勝之
教員コード 101244
登録人数　128
回答数　80
回答率　62.5%
休講回数　0 回
補講回数　0 回



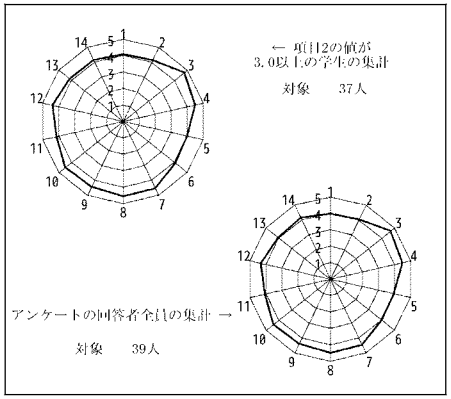
授業評価結果を踏まえた点検・評価

コロナ禍により，オンライン講義の対応を迫られ，15回フルにZoomで90分間の講義を行った．一事で言えば本当に大変だった．しかし，自由記述欄に寄せられた多くのコメントを読んで，いま大いなる充足感に包まれている．昨年度までは教科書を読み進めながら，板書を行うレガシー・スタイルの講義を行っていた．ところがオンラインに対応するため，200ページ以上もある教科書のレジュメを作成する時間的・精神的余裕もない．そこで，活躍されている教育系YouTuberのとある方のご意見を参考にすることにした．それは，講義と板書をしている様子をビデオで撮影するにはピント合わせのカメラマンが必要となるため，書画カメラを使うと良いとのアドバイスであった．（詳しくは2020年7月29日（水）開催の理工学部FD講演会でデモンストレーションした通りである．）Zoom上で教科書のどこを読んでいるのか理解してもらうため，書画カメラに映すのと同時に，補足事項や質問があればその場で数式や図面を書いて説明を行った．電気は直接目で見る事ができないので，初学者にとって数式で表現された物理現象を理解する敷居が高い．そこで，今講義していることが現実ではどのように使われているのか，将来的にどういう意義があるのかを認識させるため，実験機材でデモを行ったり，動画を見せたりした．終わってみると，アンケート結果は昨年度よりも定量的に良くなっていることがわかる．定性評価としては，自由記述欄はほとんどが肯定的なコメントであったため，改善が必要な意見だけを下記に記す．・いろんな参考書があって何を買えばいいかわからない・欠席した次の授業までに、前の授業の内容を自分で補完する必要があったため、授業の進捗状況を資料DLサーバなどで確認できると嬉しかったです。・先生のお使いになっていたランプの光が眩しかったので、すこし資料が見えづらかった。・画面共用しているときに質問しても見られないらしく、そこに対しての質問だったりするのに答えてもらえないのが少し残念。

理工学部 機械電子制御工学科
中島　明　先生

2020年度Ｑ２　「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名　機械工学基礎
授業コード 53B06-001
教員名　中島　明
教員コード 103140
登録人数　153
回答数　39
回答率　25.5%
休講回数　0 回
補講回数　0 回



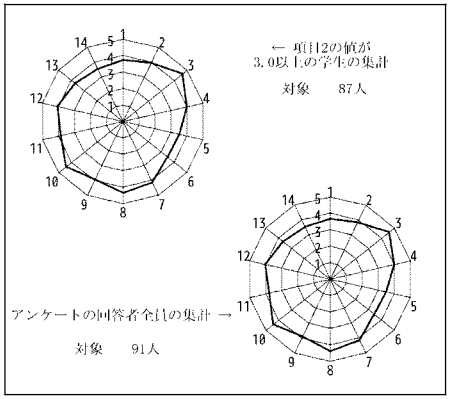
授業評価結果を踏まえた点検・評価

本年度はコロナ禍のため当初と異なる対応を数多く行う必要があった．
まず，もともとスライドを用いた講義形式であったため，授業形態が対面からオンラインに移行されても新たに準備するべき事項が少なかったのは幸いであった．
その一方で，オンライン受講による集中力の低下や聞きこぼしに対するフォローを目的として録画した講義を学生にシェアするようにしたため，動画の編集にかなりの時間が必要となった．
また，今回のオンライン化とは関係なく，昨年度からの改善として，本題の振動工学に入る前の各復習内容に関して習熟度合いを確認する演習を予定していたため，ある程度はレポート形式での成績評価に大してスムーズに対応ができたと思う（準備の時間は相応にかかったが）．
以上，オンデマンドでの授業動画，計3回の復習を目的とした小レポート，最終レポートの準備の成果として，概ね全ての項目で4点以上の評価が得られたのではないかと思われる．
一方で，項目20，21については3点未満と低評価であり，学生は自分の習熟度合いに不安を持っていることがわかる．
この点については改善を行うことが来年度以降に必要であるが，今回課した全てのレポートを自力で解ける学生は本講義の目的を十分に達成していると言え，またそのような学生は少なくとも半数以上はいるため，謙虚な学生が多いと捉えることもできよう．

理工学部 機械電子制御工学科
河野　浩之　先生

2020年度Ｑ２　「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名　データベース[S]
授業コード 53B09-001
教員名　河野　浩之
教員コード 048595
登録人数　245
回答数　91
回答率　37.1%
休講回数　0 回
補講回数　0 回



授業評価結果を踏まえた点検・評価

①開講当初の目標と到達度
　初めての15回分のオンライン講義となったため，過年度の授業構成ではなく，教科書に準拠する構成にすることにした．（Q1で，オムニバス形式の講義は実施した．演習・卒業研究に関しては双方向の授業を実施した）そのため，スライド資料の準備とWebclassでの課題作成に時間を要した．自由記述から見る範囲では，（教科書をほとんど使わなかった学生もいるようであり）スライド資料で目標に達したようである．

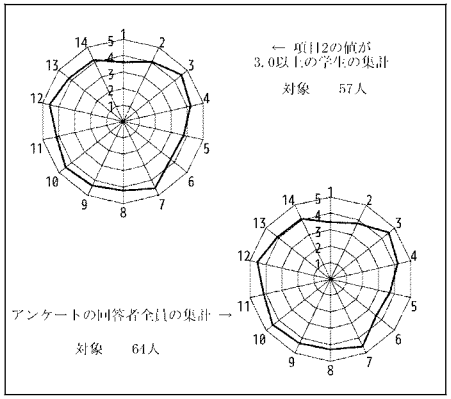
②総合的な自己点検・評価
　学生の到達度を確認する質問項目20に対して2.77，SQLに関する理解度を問う質問項目21に対して2.32とスコアが低かった．特に21のSQLを記述する授業に関しては，SQLを手で書く作業を対面式の授業では実施していたが，オンラインでは学生のノートの記述状況を把握できないため，課題（テスト）が中心となった．演習形式を伴う内容については，今後，他の授業内容などを参考に実施方法を検討する必要があると考えている．
　対面式の授業では授業に関する「雑談」なども取り入れているが，オンラインでは淡々と進めたため，もう少し楽しさが必要なようである．なお，資料提供ならびに課題に関して，適切であるとの自由記述もあった．

③次クォーター・学期以降に向けての改善点、今後の抱負、方針など
　スライドと課題を中心の授業を継続し，雑談なども加えた授業にしたい．

国際教養学部 国際教養学科
VOLPE, Angelina　先生

2020年度Ｑ２　「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名　宗教論[HA・HP]1
授業コード 10A01-002
教員名　VOLPE, Angelina
教員コード 000167
登録人数　110
回答数　64
回答率　58.2%
休講回数　0 回
補講回数　0 回



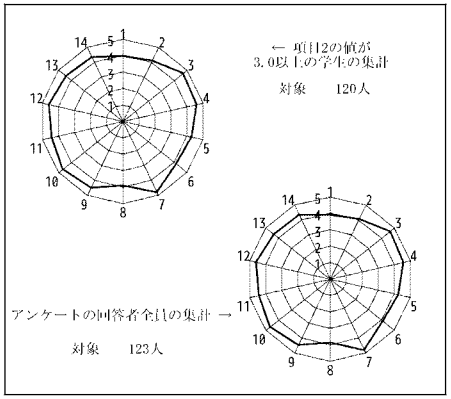
授業評価結果を踏まえた点検・評価

今回の授業評価で最も低い平均値を示したのは、質問1と6に関するものでした。質問1（平均値3.47）「この授業を履修する前、あなたは授業の内容について興味を持っていましたか」に関してですが、学生が最終レポートに正直に書いたように、学生たちの多くは本講義を受けるまで宗教に関して固定観念、または偏見を持っていたと言えます。マスメディアやそれまでの学校教育によって若者の頭の中にあったステレオタイプを正すために、講義の半分を費やす必要がありました。ですが、講義の終盤になると、ほとんどの受講生たちは、宗教学における専門的アプローチの重要性を見出し、（到達目的1）と宗教は間違った点があったとしても、真理への人類の探求の試みであることを理解しました（到達目的2）。質問6（平均値3.58）「あなたはこの授業の到達目標に向けて力がついてきていると思いますか」に関しては、教員と学生がいくら尽力したとしても、オンライン授業には限界があり、好奇心や探求心を養成することは簡単なことではありません。しかし、質疑応答の際に学生たちから質問が挙がったため、学生たちは講義内容を深めることができたと感じています。3つ目の到達目的「キリスト教はまず宗教ではなく、兄弟愛を中心にする人間学であることを発見する」に関してですが、この点は確実に達成されたと思います。多くの学生が最終レポートで「良きサマリア人」を自由選択のテーマとして取り上げ考察したことは、まさにその証拠といえます。
最後に、教員と学生の願いは一致していたと思います。なるべく早く対面授業が再開しますように。

国際教養学部 国際教養学科
MUNSI, Roger Vanzila　先生

2020年度Ｑ２　「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名　民族問題と人間の尊厳5
授業コード　10D08-005
教員名　MUNSI, Roger Vanzila
教員コード　101925
登録人数　188
回答数　123
回答率　65.4%
休講回数　0 回
補講回数　0 回



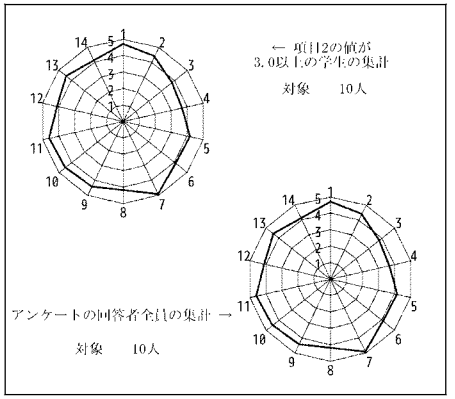
授業評価結果を踏まえた点検・評価

My course on Ethnic Issues and Human Dignity tried to cover human issues from different areas. The specific focus was on Ethnic issues in Africa and Land issues in the Middle East (Israel and Palestine). These two study areas were chosen behind the rationale of their features as far as conflicts are concerned. In addition, We studied the ethnic issues in a contemporary England and the present-day issue of bulling in Japan and southeast Asia.
Because of the Covid-19 I could not organize a mid-term test. It was also difficult to analyze some videos as initially planned. I instead provided students with a lot of reading materials beside the power point files that covered the whole course schedule. I was happy that students cooperated well and read the essential parts of the course. This was reflected in their final reports and various questions during the lessons. I brought a guest lecture to improve their knowledge of human dignity, taking into the relationship between African slaves and cotton in America as a case study.
I have read the critical comments and appreciations of students. I am glad to realize that most students grasped the main points and themes of the course. I will try to reconsider the underlined shortcomings and improve the aspects of this course next year. It is true that the world is changing rapidly and the outline of this course needs some minor adjustments to meet the expectations of students.

国際教養学部 国際教養学科
YARDLEY, Gabriel　先生

2020年度Ｑ２　「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名　英語IIオーラルコミュニケーション[G12
授業コード　11A02-033
教員名　YARDLEY, Gabriel
教員コード　016998
登録人数　19
回答数　10
回答率　52.6%
休講回数　0 回
補講回数　0 回



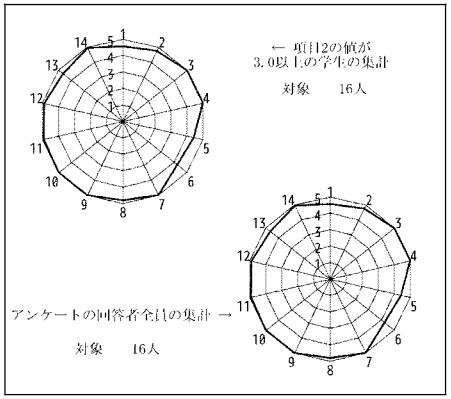
授業評価結果を踏まえた点検・評価

Just over half the class responded to the survey. There appeared to be overall satisfaction with the course in terms of the syllabus, knowledge acquired and the materials created for the class, even if instruction was initially compromised by the instructor's inexperience in creating an effective and appealing online teaching methodology. In response to the lower evaluation given by some students to survey questions 4, 5, 8, 12 and 14, the instructor will review and further refine his teaching methodology. The lower score for Question 3 was slightly surprising given that the twice-weekly OC Zoom class schedule for Q3 was presented in full during the first class of the quarter. Generally, notwithstanding the less than ideal learning conditions, the majority of students worked conscientiously on the various virtual class materials. They particularly worked hard to complete a number of "offline" peer reviews based on analysis and completion of online supplementary materials. Their informative and engaging group class presentations were also a pleasure to observe. As a result of the data gleaned from this survey —and an additional, anonymized, course review completed by the whole class via Zoom— the instructor will endeavour to provide a more virtual learning experience for all students.

国際教養学部 国際教養学科
MILES, Richard　先生

2020年度Ｑ２　「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名　英語IIオーラルコミュニケーション[G15
授業コード　11A02-036
教員名　MILES, Richard
教員コード　101363
登録人数　21
回答数　16
回答率　76.2%
休講回数　0 回
補講回数　0 回



授業評価結果を踏まえた点検・評価

1. Overall, I am very satisfied with the evaluations and with how the Oral Communication II course went. Given that the course suddenly had to be taught online, there was a lot of trial and error involved in teaching it. The students were very positive overall in terms of their comments and the scores they gave the course. The course was designed specifically to help students become more independent speakers, which was extremely difficult to accomplish online, with freshmen students. Students answered with an almost perfect score of 5.00 to question #14, indicating they were satisfied, felt they had achieved a lot, and felt they had improved their speaking and listening skills.

2. The written comments from the students were all positive and reflected particular happiness with the atmosphere in the class (particularly gratifying — given the difficulties with online learning) and the interaction between the teacher and students. Responses to question #4 indicate that the course had been taught at an appropriate level and pace for the students. This was especially pleasing, as there was a wide range in the students' abilities and English level. Many students wrote positively about having an opportunity to speak in English, in a supporting environment.

3. For next quarter/year, I intend to continue trying to find more opportunities for the students to speak in English with each other and with me. I will also be looking for more ways to provide feedback and to challenge some of the more advanced students.

国際教養学部 国際教養学科
北村　雅則　先生

2020年度Ｑ２　「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名　日本語I＜G＞
授業コード　11L01-002
教員名　北村　雅則
教員コード　100212
登録人数　6
回答数　4
回答率　66.7%
休講回数　0 回
補講回数　0 回

レーダーチャートなし
(回答数4件以下のため集計しない)

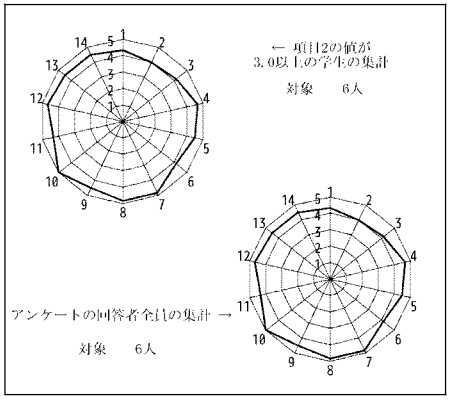
授業評価結果を踏まえた点検・評価

アンケートを行ったが、回答者数が人数を満たさなかったため数値は参照せず、総合的な自己点検評価を述べる。今年度は例年とはまったく違う状況でオンライン授業となった。この授業を受講している学生たちは１年生であり、初めて経験する大学の授業がオンラインであるわけなので、例年と比較すること自体が意味をなさないが、昨年もこの授業を担当した者として、オンライン授業ではどうしても授業の内容が対面授業に及ばなかったことについて受講生諸君に申し訳ない気持ちがある。しかし、限られた環境の中でも最善を尽くし、６つ挙げた到達目標のうち、「１．日本に関係する短めの文章を読み、当該分野の理解に必要な中上級レベルの語彙を理解できる」、「２．読解した文章に使用されている文法表現を理解できる」、「４．書き言葉のスタイルを理解し、適切な文章構成・語彙・文法を用いた小レポートを作成できる」、
「５．授業に参加する上で必要な表現を自然に使用できる」に関しては概ね目標を達成できた。これはオンライン授業であっても積極的に授業に参加してくれた受講生のおかげである。「３．読解した文章の内容を要約できる」、「６．日本に関わる様々な話題に対する調査、考察の結果をプレゼンテーションできる」については、Q3、Q4においても引き続き同一の受講生に対して授業を担当するので、その際に補うこととする。

国際教養学部 国際教養学科
永井　英治　先生

2020年度Ｑ２　「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名　文化と情報1
授業コード 13E05-001
教員名　永井　英治
教員コード 018861
登録人数　17
回答数　6
回答率　35.3%
休講回数　0 回
補講回数　0 回



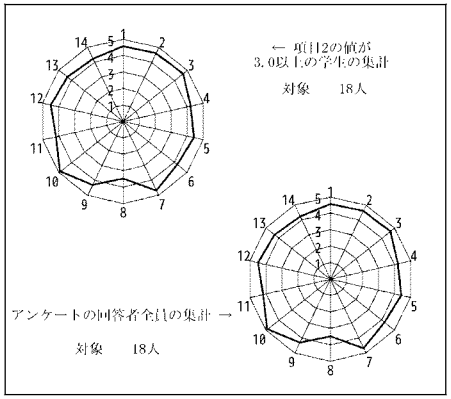
授業評価結果を踏まえた点検・評価

学生のレポートを読む限り、設定した課題は達成されていると考える。学生の評価は、数値では概ね好評で、自由意見に配付資料の文字数が多過ぎるというものがあった。レポートでは詳細に記した配付資料をきちんと読んでいるので、文字数についてあまり改善する必要がないように思う。以下、現時点で予定されているQ3・Q4でのオンライン授業の参考とするべく、今回のオンライン授業の反省と課題を述べておきたい。オンライン授業のためのソフトの操作は、万全ではなかった。ルーティンな運営は問題なく実施できたが、予想しないトラブルには独力では対応できず、情報システム課の支援を得た。現在は、トラブルを経験したことでソフトの基本は理解できたように思うので、今後は支障なく運営できると考えている。オンライン授業の形式そのものにも慣れてきたように考えるが、これは自分の授業だけすればよい教員の感想に他ならず、一日オンラインで授業を聞いている学生の負担を考慮しなければならない。オンライン形式であっても、チャットや挙手など、学生の授業への参加を促す方法はあるので、積極的に利用したい。これは、意識的に利用しないと、講述しなければならないことの前に、つい省略してしまうものでもあるので気をつけたい。配付資料は毎回4～5枚となり、そのほかにPCの画面にパワーポイントで作成した概要を流したが、両方が必要であったかやや疑問である。PC画面に概要のすべてを映し出すのではなく、必要と思われる図表などに限定する方法もあるように思う。改善を試みたい。

国際教養学部 国際教養学科
松永　隆　先生

2020年度Ｑ２　「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名　英語科指導法A
授業コード 15B57-001
教員名　松永　隆
教員コード 015081
登録人数　31
回答数　18
回答率　58.1%
休講回数　0 回
補講回数　0 回



授業評価結果を踏まえた点検・評価

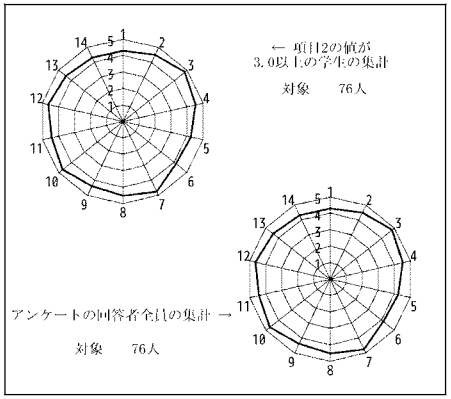
講義概要
教職関連科目としての英語科教育法である。第二言語としての、あるいは外国語としての英語の習得理論と教育の実践的なスキルを習得することを目的とした。実践面では、グループによる教案のディスカッション、模擬授業、ビデオによる授業観察を講義に導入した。レポート１回、教案２回、模擬授業２回を課題として課した。教材収集・教材研究・教材準備にとってコンピューターリテラシーが重要であることも考慮し、提出物はすべてコンピューター利用を義務づけた。

授業がすべてオンラインで行われたため評価は難しいが、項目1から14までの平均値が4.38ということで、数値の上ではまずまずと言える。自由回答記述では、他の学生と意見交換ができた、担当教員の説明がわかりやすかった、事前の予習がズームによる授業の準備になった、などポジティブな回答があり良かったと思われる。

国際教養学部 国際教養学科
村杉　恵子　先生

2020年度Ｑ２　「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名　心理言語学1
授業コード 31E18-001
教員名　村杉　恵子
教員コード 019034
登録人数　153
回答数　76
回答率　49.7%
休講回数　0 回
補講回数　0 回



授業評価結果を踏まえた点検・評価

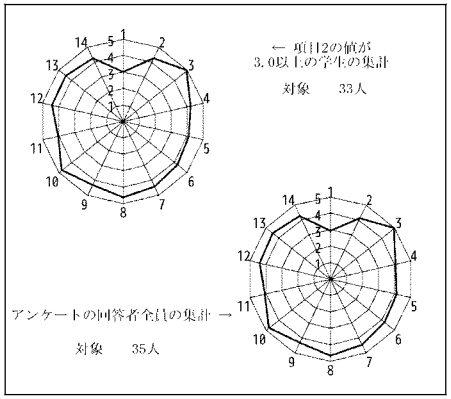
1.　講義目標の根本的な部分は維持しつつ、昨年度に準備していた講義内容については一部、開講前に変更した。Q1の反省に立ち、課題についての学生の負担を減らし、より身近な話題を用いて本質的な部分をわかりやすく説明するように努力した。学生からの提出された課題を見る限りは、この講義の目的はおおむね達成されているように思われる。学生の質問についてCHATを用いて聞くこともできたことは、ZOOM授業の良い点だったように思う。
２．数値に関しては、おおむね、例年と大きく違うものではなかったが、教員の真剣さについての数値と、学生の全体の満足度についての評価の差は小さくない。出席などに関する緩めの対処や説明のわかりやすさを評価する旨の記述がある一方で、出席が厳密だったとか教科書を読んでいるだけであったなどの必ずしも実際の事実とは異なり、他のコメントとは逆のものもあった。ZOOM授業への参加がいろいろな意味で難しい思いをもった学生がいたことの拝察されるところである。改めて遠隔授業の良さと難しさとの両方を認識している。
３．ブレークアウトセッションが役立ったという意見や他の受講生の意見が参考になったという肯定的な反応が授業期間中に得られたことから、時々取り入れていたが、ブレークアウトセッションを行うことに困難さを感じる学生もいたようである。今後は、同機能を用い方について考えていきたい。また、画面共有やハンドアウトを使ってほしいという意見も得られている。授業後半にはそのような要望を取り入れていたが、来学期から、さらにできる限りの改善を重ねていきたい。

PC画面の向こうには、いろいろな事情を抱える学生のいることに、より深く配慮しながら、講義のめざす本質的な部分を伝えることができるように今後も努力をしてまいりたい。

国際教養学部 国際教養学科
後藤　邦夫　先生

2020年度Ｑ２　「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名　ICTリテラシー1
授業コード 48A02-001
教員名　後藤　邦夫
教員コード 016428
登録人数　41
回答数　35
回答率　85.4%
休講回数　0 回
補講回数　0 回



授業評価結果を踏まえた点検・評価

当初の目標は、受講者にとって興味がない科目である前提で、できるだけ興味を持ち、真面目に取り組んでもらうことであった。さらに今年度はビデオ会議システムでPC操作中心の授業実施自体が大きな挑戦であった。結果として、受講者41名中37名がA以上の成績を納めたことから、当初の目標は達成できたと言える。アンケートは最終回の授業中（出席34）に実施し、35の回答を得た。出席者は全員回答したと思われる。

ビデオ会議での授業なので評価が悪いとの予想に反して、設問1（2.94、履修前の興味）以外は平均が4以上と良好な結果であった。設問1以外で下位3つは4（4.09、進行速度）、11（4.09、学習意欲の促進）、2（4.11、主体的参加）である。進行速度は、グループ発表をやめたので、最後のほうでややスローダウンしたことが原因である。学習意欲、主体的参加については、設問1と連動するので、この程度では特に悪いとは言えない。

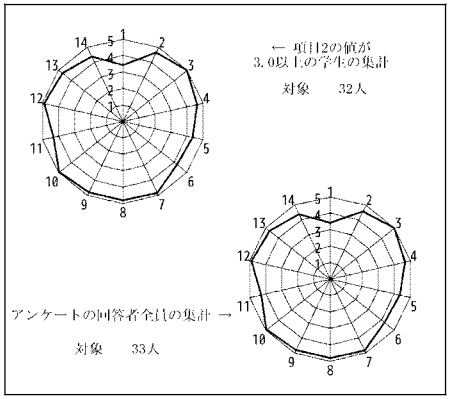
自由記述では、授業の記録ビデオの提供、投票機能（匿名）による理解度の把握など、に肯定的な意見が多かった。教室でのビデオプロジェクタ投影による操作説明より、手元PCでの共有画面のほうが見やすいからであろう。文字チャットの質問をときどき見逃したので一部苦情があったが、ほとんど対応できた。操作に関する個人指導はビデオ会議では無理なので、一旦授業を終り、毎回20分程度の質問時間を設けた。ビデオ会議授業には、記録ビデオだけでなく、教室での巡回質問対応に時間をとられすぎずにスケジュール通りに進行しやすいというメリットもある。

カリキュラム改正で次年度は開講予定がない。受講者諸君の協力もあり、最終年度に最もうまく実施できて幸いである。

国際教養学部 国際教養学科
吉田　敦　先生

2020年度Ｑ２　「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名　ICTリテラシー3
授業コード　48A02-003
教員名　吉田　敦
教員コード　101920
登録人数　40
回答数　33
回答率　82.5%
休講回数　0 回
補講回数　0 回



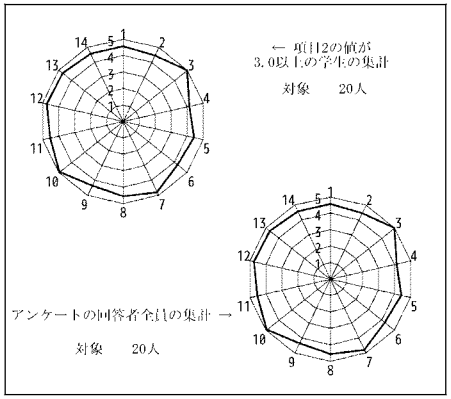
授業評価結果を踏まえた点検・評価

目標としていた内容は実施でき、多くの学生が課題を適切に取り組めた。現在の授業内容の教材は作成してから3年目で、ほぼ内容が固まっており、オンライン授業用にグループでの課題や発表は個人の課題に変更をする程度で済んだ。アンケートでは、全体的な評価は高く、また、自由記述においてもポジティブなコメントを多くもらえた。この授業では、PCを使うことが前提である。教室での対面授業では、個々の学生の画面を見ながらトラブルに対処できたが、オンラインでは学生が相談して来ない限り、状況がわからず、課題の提出状況や提出内容から問題をかかえた学生を見つける必要があり、その点では苦労した。一方、実演を交えながら操作する場合、Zoom で録画をしておき、それを後から見れるようにしたので、学生は取り組みやすかったようで、これまでの対面授業のときより成果があったように思われる。また、学生が課題に取り組むだけの回は、必ずしも Zoom での説明が必要ということではなかったが、前回の課題に関するフィードバックや教材には盛り込まなかった内容などを Zoom で説明するようにしたところ、多くの学生が継続的に参加をしてくれた。オンライン用に変更したことで、最後の方は、やや間延びした感じになったので、もし来年度もオンラインが前提となるなら、少し構成を変更する必要がある。また、教室での対面授業となった場合にも、ビデオの活用など、今回のオンライン化で導入した教材や技術などを利用していきたい。

国際教養学部 国際教養学科
平岩　恵里子　先生

2020年度Ｑ２　「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名　GLS English II2
授業コード　48A06-002
教員名　平岩　恵里子
教員コード　100953
登録人数　23
回答数　20
回答率　87.0%
休講回数　0 回
補講回数　0 回



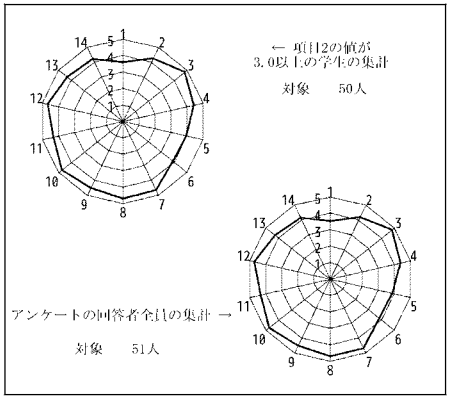
授業評価結果を踏まえた点検・評価

①　本講義は、1年生共通のテキストを使い、世界が抱える様々な課題について（Q２のテーマはジェンダー）英語で読み、理解し、自分の意見を持ち、それを述べることを目標としたが、概ね達成できたのではないかと考えている。テキスト以外の資料として、欧米のメディアが発信する記事も使ったが、現代用語を通じて理解が進み、同時に視野が広がったのではないか。ズームではあったが、ブレイクアウトルーム機能を使うことで英語でのディスカッションにも慣れてきたと感じる。学生同士がお互いの意見交換を通じて学ぶことも多かったようで、そのような学生の協力的な態度に大変助けられた。
②　とは言え、回答項目の６の数値が低く出ている（4.25）。学生が自分の成長を十分に感じることができなかったとすれば、自信を持てるような工夫をすべきだったか。最も低いのは４の4.15。これは、自由記述にも指摘があった、終わる時間が長引くことがあったためと思われる。ディスカッションが面白く展開するときなどは、もっと議論したいと長引かせてしまうことがあり、学生のスケジュールへの配慮が足りなかった点は次に生かしたい。
③　リモート講義ゆえに多くの講義が学生に課題提出を求めていたと思われ、配慮が必要と感じた。次回に向けての改善点は、適切な時間管理と学生が感じている不満やストレスへの配慮、である。

国際教養学部 国際教養学科
斎藤　衛　先生

2020年度Ｑ２　「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名	Special Topics: Global Studies A (Linguistics)1＜国際科目群＞
授業コード	48E06-901
教員名	斎藤　衛
教員コード	018333
登録人数	133
回答数	51
回答率	38.3%
休講回数	0 回
補講回数	0 回



授業評価結果を踏まえた点検・評価

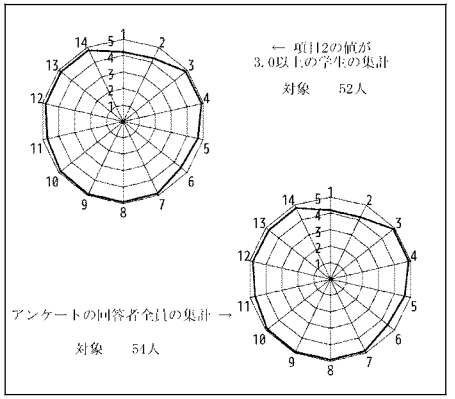
受講者約120名のオンライン授業であったが、オンラインということで大きな問題は生じなかった。Special Topics: Global Studies A (Linguistics) という言語学の最上位の科目であるが、先立つ基礎科目が充分にないところで、上級の内容を英語で教えなければならず、受講生は苦労したのではないかと思う。今年は、オンラインということもあり、英語の講義の後で、日本語で簡単に復習をするようにした。自由記述を見る限り、受講生の評判は良かったようである。対面の授業に戻っても、このパターンを継続することにしたい。また、２回の課題とその解説、質問の時間を適宜設けたことについても、肯定的なコメントが多かった。

今後工夫すべき点としては、ハンドアウトと iPad の使い方がある。オンラインということで、通常より詳しいハンドアウトを用意し、そのハンドアウトを画面共有して、そこにさらに手書きで書き込みをしながら、授業を進めた。まず、詳しいハンドアウトがあることで、講義のペースが早くなってしまうことがあった。また、白板を使用する場合と異なり、書き込みのスペースが限られていることから、書いては消し、消しては書く、ということになってしまい、ノートが取りづらかったというコメントが６名からあった。特にこのコメントを念頭に置いて、これからのオンライン授業に臨みたい。

国際教養学部 国際教養学科
篭橋　一輝　先生

2020年度Ｑ２　「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名	サステイナビリティとエネルギー問題 / Sustainability and Energy Issues
授業コード	48G05-001
教員名	篭橋　一輝
教員コード	102569
登録人数	146
回答数	54
回答率	37.0%
休講回数	0 回
補講回数	0 回



授業評価結果を踏まえた点検・評価

①開講当初に設定していた目標と到達の程度について

開講時に学びの目標として設定されていた事項は、概ね達成された。具体的には、1）世界の電力需要や供給の現状、2）化石燃料と原子力発電の現状と課題、3）再生可能エネルギーの現状と可能性等のトピックを通じて、化石燃料に依存した経済・社会の問題点と今後の改革の方向性について、理解を深めることができた。

②数値データおよび自由記述等を踏まえての担当科目に関する総合的な自己点検・評価

この授業の項目1から14の平均値は4.71、項目3から14の平均値は4.80であった。国際教養学部の平均値と比較して、概ね0.4ポイント程度、相対的に高い評価を得ることができた。自由記述の回答からは、説明が分かりやすかった、授業運営が適切だった、資料が丁寧に作られていた等のポジティブな評価が12件あった（項目15）。その一方、項目16、17では、資料やグラフが細かく時々見づらい時があった、というコメントがそれぞれ1件ずつ寄せられた。全体としては概ね授業の内容に関して好評価が得られたようであるが、中には資料が読みづらい学生がいることも、しっかりと認識しておく必要がある。

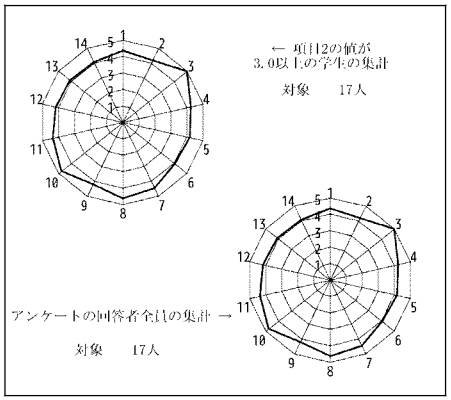
③次クォーター・学期以降に向けての改善点、今後の抱負、方針など

グラフやデータを提示するときには、できるだけ読みやすくなるよう、見せ方の工夫をしていきたい。

国際教養学部 国際教養学科
神崎　宣次　先生

2020年度Ｑ２　「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名	Special Topics: Sustainability Studies B(Environment and Development Studies)＜国際科目群＞
授業コード	48G08-901
教員名	神崎　宣次
教員コード	103280
登録人数	60
回答数	17
回答率	28.3%
休講回数	0 回
補講回数	0 回



授業評価結果を踏まえた点検・評価

1 開講当初に設定していた目標と到達の程度について
シラバスでは学生間での口頭でのディスカッションを通じて議論能力を獲得することになっていたが、Zoomでのオンライン授業化に加えて受講者数の上限設定が35人から60人に引き上げられたことによって、その目標は断念せざるを得なくなった。その代わりに文章でのディスカッションに目標を開講時に切り替えたが、その目標は十分に達成されたと思われる。

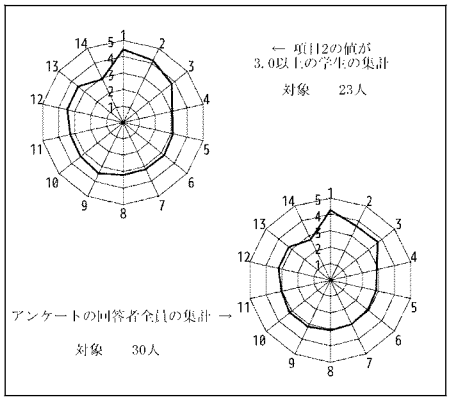
2 数値データおよび自由記述等を踏まえての担当科目に関する総合的な自己点検・評価
授業方法の根本的な設計を変更せざるをえなかったため、自由記述にもあるようにディスカッション運営の細かい点で問題が残った。とはいえ、文書でのディスカッションという方法にはメリットがあると回答している受講者もあり、教員の側としても各受講者のディスカッションへの寄与を客観的に評価するためのデータが手元に残るなど、このやりかた自体にはメリットがあったと考える。

3 次クォーター・学期以降に向けての改善点、今後の抱負、方針など
そのため来年度においても、改良した上で文書でのディスカッションを継続することを予定している。国際教養学部には口頭でのディスカッションを行う授業は他にたくさんあるので、文章でのディスカッションの訓練を積むことによって、これらの授業と相補的に学生のディスカッション能力を向上させる効果を期待できるだろう。

国際教養学部 国際教養学科
安原　毅　先生

2020年度Ｑ２　「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名	Special Topics: Sustainability Studies B(Environment and Development Studies)＜国際科目群＞
授業コード	48G08-902
教員名	安原　毅
教員コード	017905
登録人数	93
回答数	30
回答率	32.3%
休講回数	1 回
補講回数	0 回



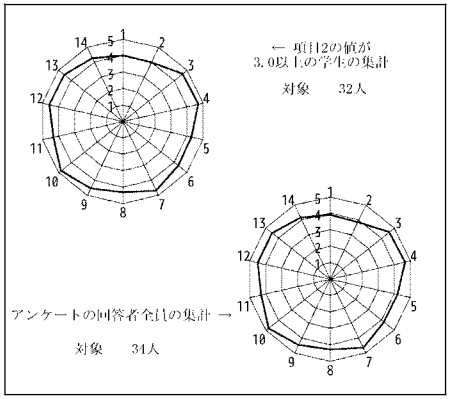
授業評価結果を踏まえた点検・評価

オンラインでの授業をすべて英語で行うのは，担当者にとっても学生にとっても不便が大きかった。まずテキストの準備に手間取ったし，学生各自がテキストをダウンロードしたのか否か確認できないため，授業中にチャットで「何の話か分からない」という質問があった。
授業のテーマには一貫性を保つよう心掛けたつもりで，この点には自由記述でも肯定的な意見が見られた。また毎回質問をだし，返答が来るまで待つようにし，たが，その間席を立った行為が数名の学生からは「やるきがない」ととられたようだ。担当者としては学生もマイクをミュートせずいつでも質問してもらえるほうがよいと考えたが，逆にそのため音声が聞き取りにくい場合があったようだ。幸い採点の対象としたレポート計２回は，ほとんどの学生が真剣に取り組んでくれたようで，レポートの内容を見る限り担当者の主張は学生に理解してもらえたと思えれ，当初の授業目標はある程度は到達できたと考える。

法務研究科 法務専攻（専門職学位課程）
石田　秀博　先生

2020年度Ｑ２　「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名　民事訴訟法B
授業コード　44B26-001
教員名　石田　秀博
教員コード　101939
登録人数　92
回答数　34
回答率　37.0%
休講回数　0 回
補講回数　0 回



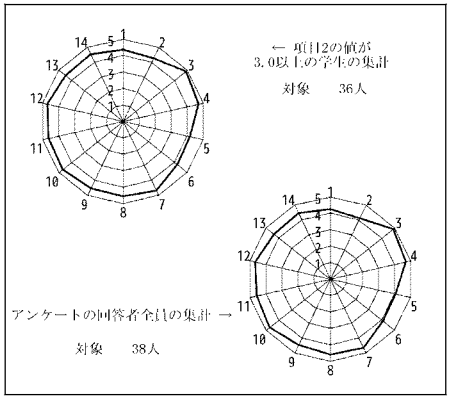
授業評価結果を踏まえた点検・評価

①項目3～14の平均値（4.44）、課題レポートの内容から、開講当初に設定していた目標については、おおむね達成できたと考えている。
②評価項目のうち、設問14（満足度）の評価が4.15と相対的に低かった。ただ、設問13（新しい知識・理解の深化）は4.50と高評価だったので、結局は、民事訴訟法という学習領域に学生の関心を向けるために、授業中、実務的なことも踏まえ、学生の興味・関心が高まるよう工夫していきたい。なお、自由記述欄の記載では、授業の進め方、説明の仕方、学生の自発的参加を促した点などについて評価を受けたが、レジュメの記載に関する形式的な事項（表題をギリシャ数字で書いたので講義の第何回か分りづらかった）で指摘を受けたので、改善したい。また、オンラインによる授業ということで、通信状況が不安定になる点、家庭内で受講しているので、発言がしにくいなどの指摘もあった。今後のオンライン授業においても、より丁寧に、ゆっくりしゃべるなどを継続するとともに（この点については、自由記述欄でも「良かった点」として挙げられていた」）、学生の発言については、例えば、チャット機能を利用する方法などにも留意したい。なお、学生の受講態度は、通常の対面時よりも積極的であったので、今後もその傾向が続くことを期待している。
③②で述べた改善点について、次学期以降留意し、より一層の充実を図っていきたい。

法務研究科 法務専攻（専門職学位課程）
洞澤　秀雄　先生

2020年度Ｑ２　「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名　環境法
授業コード　44C07-001
教員名　洞澤　秀雄
教員コード　102443
登録人数　207
回答数　38
回答率　18.4%
休講回数　0 回
補講回数　0 回



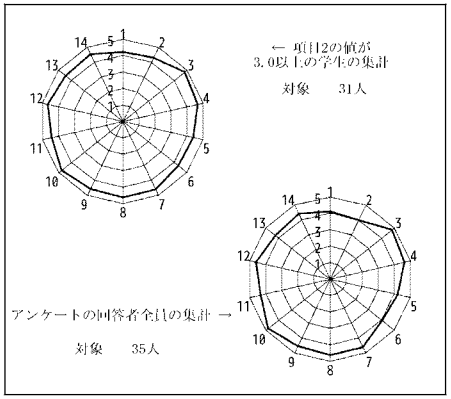
授業評価結果を踏まえた点検・評価

開講当初の目標設定としては、普段の環境問題への関心や知識を法制度と結びつけつつ、さらに発展的な学びをしてゆくことを目標としていた。講義において、レジ袋の有料化、温暖化と石炭火力の問題など身近なテーマや最新の話題を盛り込むことで学生の関心と結びつけた講義ができ、ZOOMのチャット機能を通じた質疑応答を通じて発展的な学びにつなげることができたと考えられ、当初の目標に到達できたと考えられる。但し、到達目標について講義の初回以外には触れることはなかったため、到達目標にかかる設問5の評価が相対的に低くなった。
授業評価における評価は、数値では平均4.5程度で、自由記述においてもよい評価をしていただき、評価していただいたと考えている。オンラインでの大人数の授業は初めてであったため、試行錯誤ではあったが、毎回質問を用意し、時間を設けて学生に考えてチャットに書き込んでもらい、それに対して私からコメントや発展的内容を話すという形式をとった。この授業形式が全体としての良い評価につながったと考えられる。
次クォータにおいても、同様の授業形式で行う予定である。自由記述にもあるように、学生から積極的に意見をもらいながら授業を進めることは学生からも評価される点であるため、ZOOMでのチャットを活用して、双方向での意見交換を授業に組み込んで進めてゆく。

法務研究科 法務専攻（専門職学位課程）
今泉　邦子　先生

2020年度Ｑ２　「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名　有価証券法
授業コード　44C16-001
教員名　今泉　邦子
教員コード　019505
登録人数　144
回答数　35
回答率　24.3%
休講回数　0 回
補講回数　0 回



授業評価結果を踏まえた点検・評価

授業評価アンケートの回答者数は、受講者および期末試験受験者の半数にも満たないものでした。回答していただいた皆様には、お時間をいただきありがとうございました。

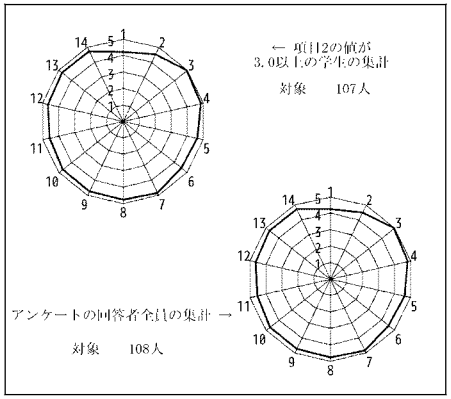
従来、有価証券法の期末試験には短答問題と論述問題を合わせて出題していました。しかしzoomで授業を行うのは今回が初めてであったため、どの程度、授業を通じて受講者に内容を伝えることができるのか不安があったため、今年度の期末試験は短答問題のみとし、授業の到達目標として、授業の始めにWebClassに掲示し周知を図りました。期末試験を採点したところ、ほとんどの受講者が90点以上の成績をとりましたので、有価証券法をしっかり勉強していただけたと思っています。

なお、「60分しゃべり続けられるのはつらい」とのコメントをいただいております。集中して授業を視聴された方のご意見だと思います。教員といたしましては、90分間話を聞かされるのはつらいだろうとの予測から、話を60分程度とどめ、残りを自習時間にしました。また、授業開始時に期末試験問題を開示したため、試験範囲を授業時間内に話終える必要があると考えたため、間断のない話となってしまいました。今後、対応を検討させていただきます。

教職センター 教職センター
大塚　弥生　先生

2020年度Ｑ２　「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名　性と生命における人間の尊厳9
授業コード　10D06-009
教員名　大塚　弥生
教員コード　000065
登録人数　171
回答数　108
回答率　63.2%
休講回数　0 回
補講回数　0 回



授業評価結果を踏まえた点検・評価

設問13（新しい知識の獲得や理解の深まり）が4.72ポイント、設問14（授業満足度）が4.72ポイントであったことから、本講義の目的は達成されたものと考える。設問1（授業履修される前の授業に対する興味）のポイントが4.24と比較的高いことから、受講生が興味・関心を持って参加していたことが見て取れる。この当初のポイントからも上昇がみられることから、受講生のニーズに応えることができていたと思われる。

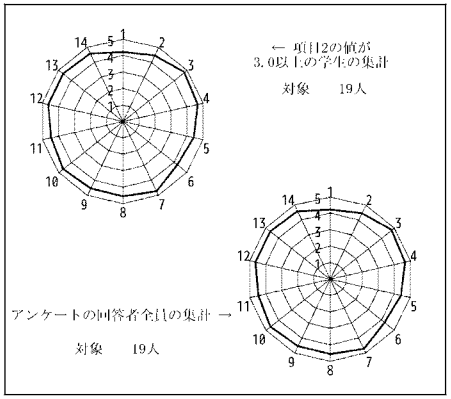
特に、自由記述においては、授業時に毎回ジャーナルを記入することで自身の考えを言語化することや、さらに、受講生のジャーナルをまとめたものを次の授業までに提示し、共有したことが良かったという反応が多く見られた。対面式の授業においても、他者の前で個人の考えを表明することはなかなか難しいことである。しかし、「人間の尊厳についての自身の考えを持つ」という本講義のねらいにおいては、他者の感じ方や考えを知ることは重要である。この取り組みは、今後も続けていきたいと考える。

課題としては、オンラインにおいて受講生の質問をどのように扱っていくかという点がある。講義中にチャット機能で個人的に質問を投げかけてくる受講生に対してその場で対応することによって、他の受講生からは「何が起こっているのかわからない」「授業が止まって困る」という反応があった。そのため、質問は声を出して伝えてもらい全体で共有するようにしたが、そうすることで「質問しにくい」という声もあった。今後もオンラインでの授業が続く場合には、両方の機能を併用するルールを考えていきたい。

教職センター 教職センター
宇田　光　先生

2020年度Ｑ２　「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名　学校教育心理学1
授業コード　15A05-001
教員名　宇田　光
教員コード　100494
登録人数　34
回答数　19
回答率　55.9%
休講回数　0 回
補講回数　0 回



授業評価結果を踏まえた点検・評価

教職課程の必修科目で、回答数は19名。BRD（当日ブリーフレポート方式）を多用した講義をしている。項目３から14の平均値は4.58である。レーダーチャートでも、大きな落ち込み部分はない。全体としては、まずまず満足であるという回答を得た。また今回はオンラインでの授業であったが、従来の対面での同科目と大差はなかった。

個別の自由記述では、「良かった点」として以下のようなものがあった（原文のまま。重複する内容のものは一部、割愛している）。

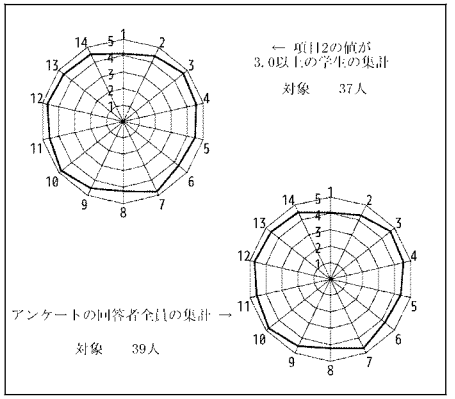
レポートのコメントがついていてよかったです。／宇田先生が工夫をたくさんしていていい人だった。／自分で調べたり考えをまとめる時間があったこと。／Q1.Q2を通してじっくり学ぶことができた。／課題に取り組む時間が授業内で適切に設けられていた。／視聴覚資料を使って、オンラインでも分かりやすい講義だったこと。

一方、「改善すべき点」については特に自由記述はなかった。ただ、「授業環境」について、「第一回目の授業でいきなり自宅学習だったので困った」、「PDFを印刷する際、カラー背景だとインクを多量に使ってしまうのでなるべく白地にして貰えると嬉しいです」などの回答があった。オンライン授業で生じた独自の問題であり、秋学期の授業では注意したい。

教職センター 教職センター
米津　直希　先生

2020年度Ｑ２　「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名　学校カリキュラム論1
授業コード　15A06-001
教員名　米津　直希
教員コード　104277
登録人数　53
回答数　39
回答率　73.6%
休講回数　0 回
補講回数　0 回



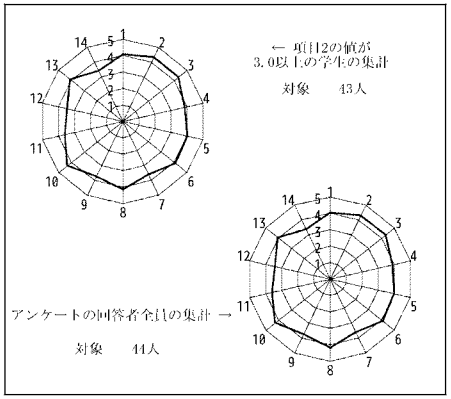
授業評価結果を踏まえた点検・評価

①本講義の目標については、毎回の課題や確認テスト等において知識の定着や各自の考察を促すことによって十分に達成することができたと考えている。
②全般的に、設問の平均値についてはすべて4以上であり、ある程度充実した授業を行うことができたと考える。特に得点の高かったのは、授業に対する誠実さや学生への向き合い方の部分だったため、本学の学生と直に接していない1年目の報告者としては、信頼関係構築において必要な振る舞いが出来ていたのではないかと思料する。
③一方で、ネット環境への配慮としてzoomの授業回数を減らしたことについては、評価する声もあったが批判的な意見もあった。後期以降、学生のネット状況を考慮しつつ、zoomでの授業を増やしていくことを検討したい。
また、内容については暗記事項が多すぎたという意見があった。学生の要望を受けて穴埋め式のレジュメにしたことでそういう印象になったと思われる。集中力の保持や、教員採用試験のための学習のために穴埋め式を望む声もあるため、こうした方法は継続しつつ、授業内で考えたり受講生同士で検討しあう時間を作る機会を考えたい。
受講者同士での交流を望む意見は授業内においても見られたため、意見交流の機会などを検討したい。

教職センター 教職センター
笹尾　幸夫　先生

2020年度Ｑ２　「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名　道徳教育指導論1
授業コード　15A07-001
教員名　笹尾　幸夫
教員コード　103858
登録人数　76
回答数　44
回答率　57.9%
休講回数　0 回
補講回数　0 回



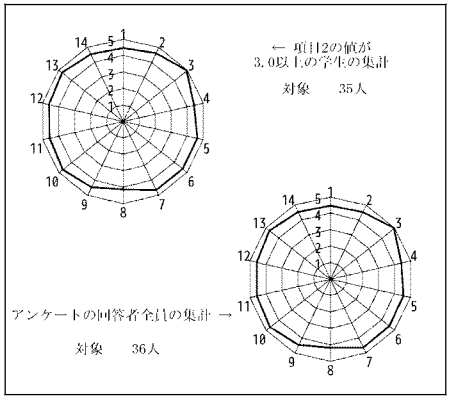
授業評価結果を踏まえた点検・評価

①Q1では当初、私自身がZOOMの扱いに不慣れなため、説明文を付したパワーポイントの講義資料で学生が自主学習できるようにしたが、このために学生による話し合い活動をさせることができなかった。しかし、Q２ではZOOMによる授業とし、学生による模擬授業や話し合い活動など、対面授業とほぼ同様の内容で実施することができた。
②評価の値は、平均が3.92であり、前年度より大きく低下した。この理由として、春学期の講座であるがQ1とQ2で講義形式を変更したこと、ZOOMの授業は60分のため90分の講義より早口になってしまったこと、授業ごとに提出させた簡単なレポートが学生には負担であったこと、学生による班での話し合い活動の機会が少なかったため学生による模擬授業の準備が特定の生徒に偏っていたことなどが考えられる。
③秋学期も同じ内容の講座があるので、初めに学生の通信環境を調査し、環境が十分でないものへの配慮を考えたい。秋学期は例年、春学期より受講人数が少ないので、学生の表情も見て指導するとともに、授業ごとのレポートは授業時間内に提出させることにより、学生の負担感を減らしていきたい。

教職センター 教職センター
五島　敦子　先生

2020年度Ｑ２　「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名　学校教育概論2
授業コード　15A18-002
教員名　五島　敦子
教員コード　101282
登録人数　39
回答数　36
回答率　92.3%
休講回数　0 回
補講回数　0 回



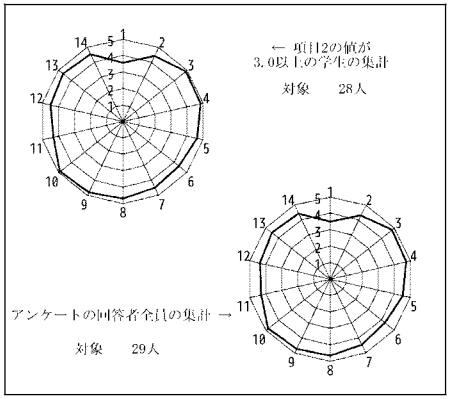
授業評価結果を踏まえた点検・評価

1.　授業目標の達成度・点検・評価
受講者数39、アンケート回答数36と、高い回答率（92.3%）であったが、設問5、6、13がそれぞれ、4.58、4.61、4.71であったことから、目標を十分に達成したと考えられる。また、設問3、4、7、9、11がすべて4.4以上であることから、オンライン講義でありながら、学生とのコミュケーションがとれた機能的な授業運営ができたと思う。自由記述でも、「教育熱を強く感じた」「ちゃんと授業目標を達成しようという、教員側の意思が伝わってきた点が良かった」「グループディスカッションを常に行うことで、他の受講者の意見を聞き、知識を深められた。また、対面の時と近い環境で、対話形式の授業を受けることができた。」「先生の準備が万端なこと」「小テストを行ったり、ブレイクアウトルーム、動画の利用など、様々なリソースを使った授業でとても充実していました」「今まで学校教育の歴史に関する知識はほとんどなく授業についていけるのか不安でしたが、とても分かりやすく深く考えさせられる授業で大変身になりました。」など、肯定的意見が多数寄せられた。
２．今後の改善点・抱負・方針
「課題の量が絶妙だった。家から出ることなくしっかりと学ぶことができた。」と学習成果を高く評価する学生がいる一方、「毎回の小論文が大変だった」「課題の文字数が多かった」「先生と学生の意識の差が開いていく気がした」など、負担に感じている学生もいるように、学生間の差が大きいことが課題である。従来は、ウェブクラスのルーブリック相互評価や自己学習の小テストなどを活用してきたが、通信料量の問題から、ウェブクラスへのアクセスが制限されているため、今後に向けて差を埋める方策を考える必要がある

情報センター 情報センター
栗原　寛明　先生

2020年度Ｑ２　「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名　情報倫理（再履修者用クラス）
授業コード　10C01-107
教員名　栗原　寛明
教員コード　103522
登録人数　46
回答数　29
回答率　63.0%
休講回数　0 回
補講回数　0 回



授業評価結果を踏まえた点検・評価

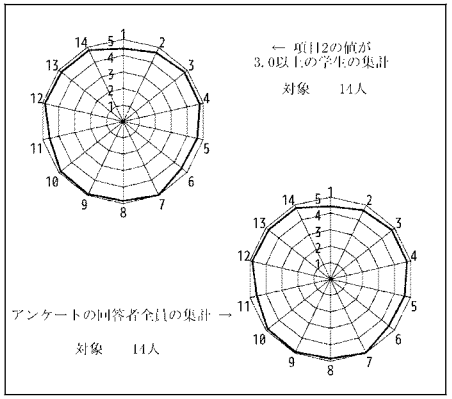
本科目の到達目標は、情報ネットワークの拡大に対応した社会的ルールを知っている、情報ネットワークにおけるプライバシーの重要性を理解している、様々なコンテンツは知的財産権によって保護されることを理解している、の3点であった。最終レポートを含むすべての課題を提出し、積極的に授業に取り組んだ受講生については、到達目標をおおよそ達成しているとみなしてよい。

授業はe-learningとZoomによる対面授業を組み合わせて実施した。e-learningで学習した内容に関して理解度を確認するために準備された課題に取り組むことと、対面授業において他の受講者が提出したレポートを読んで評価することで理解を深めるようになっている。e-learningの教材と課題の分量は適切であり、しっかり取り組んだ受講生は取り上げられたテーマに対して十分に理解を深められたと思われる。一方で、e-learning教材の大半にアクセスした記録がなく取り組み状況が芳しくない受講生が少なからず見受けられることは非常に残念である。e-learning教材は対面授業に参加する上で基礎となるものであるため必ず取り組んでほしい。対面授業では、他者のレポートを十分に読み込み自分自身がレポートを執筆した際には着目できなかった観点に気付くことができるように、レポートの相互評価に十分な時間を確保するように努めた。情報通信技術の進化や社会の変化などにより我々を取り巻く状況は刻々と変化するため、教材には含まれない最新の話題や出来事を継続的に取り上げていく必要がある。

外国語教育センター 外国語教育センター
ELLIOTT, Darren　先生

2020年度Ｑ２　「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名　英語IIオーラルコミュニケーション[FB]1
授業コード　11A02-001
教員名　ELLIOTT, Darren
教員コード　101579
登録人数　22
回答数　14
回答率　63.6%
休講回数　0 回
補講回数　0 回



授業評価結果を踏まえた点検・評価

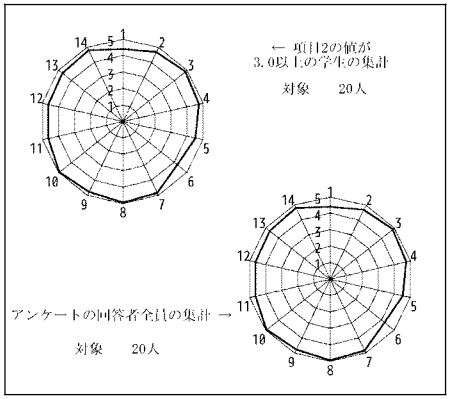
This was obviously a challenging quarter, particularly for the first year students who were unable to form social bonds and acclimate to the university culture in the ways that they usually would. I have made a great effort to be approachable, flexible, and to develop rapport with and between students, so it was especially gratifying to receive a perfect score for the question "Do you sense that the instructor in charge of the course displays sincerity and determination in his or her approach to teaching the course?"

Although only one student stated their dissatisfaction, I could understand why my score for Q11 (Was there appropriate guidance and provision of information in order to encourage the students to want to learn, to proactively participate in class and become involved in the learning process?) was weaker. Not all technical issues are under my control, but by offering more consistent and timely support, I hope that students will be better able to prepare for live classes, and communication between classmates will consequently become smoother.

外国語教育センター 外国語教育センター
OTTOSON, Kevin 先生

2020年度Ｑ２ 「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名	英語IIオーラルコミュニケーション[FB]2
授業コード	11A02-002
教員名	OTTOSON, Kevin
教員コード	103121
登録人数	22
回答数	20
回答率	90.9%
休講回数	0 回
補講回数	0 回



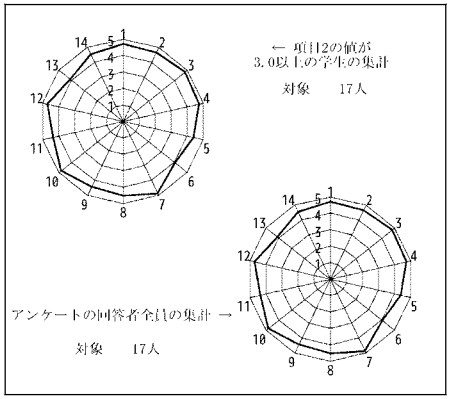
授業評価結果を踏まえた点検・評価

1) To a limited extent the goals for this class were achieved. Due to the online teaching situation, I found it difficult to monitor or assess some of the goals in regards to their speaking proficiency. Of course, the students had opportunities to interact with each other through breakout rooms. However, it was difficult to monitor their ability to use conversation strategies, vocabulary, and fluency in real time. The students were able to give presentations on a variety topics from 3-5 minutes. By the end of the year, they should be able to give presentations and in engage in conversations with their classmates up to seven minutes. So we are working toward that goal gradually.
2) Suprisingly, the scores were quite high. According to the survey, the satisfaction of the class was quite high (4.80). I think this was due to their wonderful classmates. One of the scores that was kind of particularly low, was in regards to 11 (4.65). I admit that I could have provided better support and guidance for the students.
3) To address point 11 and point 6, I will work toward providing more support, guidance to help the students improve and also notice their improvement in quarters 3 and 4.

外国語教育センター 外国語教育センター
TAYLOR, Jamie 先生

2020年度Ｑ２ 「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名	英語IIオーラルコミュニケーション[FB]3
授業コード	11A02-003
教員名	TAYLOR, Jamie
教員コード	104100
登録人数	22
回答数	17
回答率	77.3%
休講回数	0 回
補講回数	0 回



授業評価結果を踏まえた点検・評価

The goals for this course included improving students' communication skills and ability to talk about common topics and have conversations on a variety of themes.

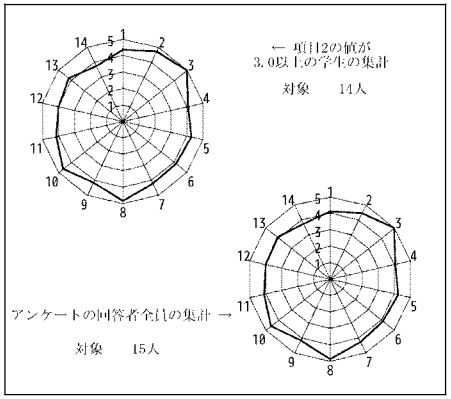
This course was more challenging to teach than usual due to classes being held online. However, Q2 went more smoothly than Q1, and I expect Q3 and Q4 to continue to improve as the students and I become more used to having class online. Although there are some technical issues with the online courses and some things to tweak in future terms, it looks like the course is generally on track.

For Q3, I hope to be able to conduct more real-time conversation tests and have the students use Zoom (or other online means) to collaborate more on group projects, as we used to do in face-to-face classes. I think this will be easier to do now that everyone is used to the flow of the course and understands how online courses work.

外国語教育センター 外国語教育センター
ELMETAHER, Hosam 先生

2020年度Ｑ２ 「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名	英語IIオーラルコミュニケーション[FB]4
授業コード	11A02-004
教員名	ELMETAHER, Hosam
教員コード	104289
登録人数	21
回答数	15
回答率	71.4%
休講回数	0 回
補講回数	0 回



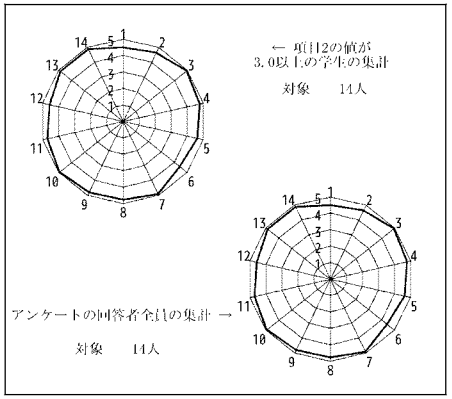
授業評価結果を踏まえた点検・評価

This class was designed to develop students' oral fluency skills. The students have worked in teams to complete weekly assignments. Each assignment includes lots of interactions and academic research. Group and individual feedback were provided through both Webclass and Zoom. Based on the class evaluation, students very much enjoyed the teamwork opportunities and have confirmed their academic English and research skills development. To maintain such development in the next quarters, and as per students' request, the amount of communication, interaction, and assignments were increased.

外国語教育センター 外国語教育センター
LOTT, Danielle 先生

2020年度Ｑ２ 「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名	英語IIオーラルコミュニケーション[FB]5
授業コード	11A02-005
教員名	LOTT, Danielle
教員コード	103593
登録人数	22
回答数	14
回答率	63.6%
休講回数	0 回
補講回数	0 回



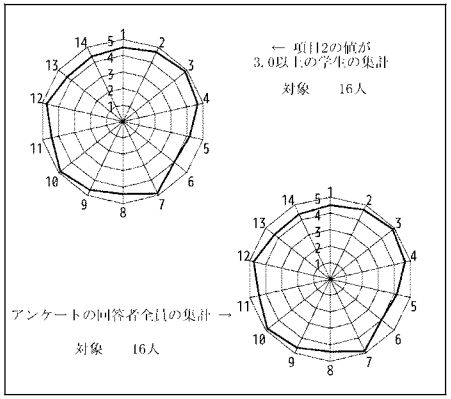
授業評価結果を踏まえた点検・評価

1)The goals were a) To have students develop knowledge of CV strategies, grammar pitfalls, and common questions for given topics b) To give students the chance to use this knowledge in weekly conversation (ZOOM) c) To deal with issues and questions in a timely manner d) To allow students to see and learn from each other's presentations. These were achieved.
2) I think that students who completed the online materials demonstrated knowledge of their content through their responses and quizzes, though some assignments remained challenging. Based on the survey's numerical data, from the students' point of view, the course was a success. From their comments, I saw that most were happy with the course, but some students did notice a few mistakes in the materials.
3) The student who noted the mistakes also noted that if the courses weren't online they wouldn't have happened, which I agree with. There are many small problems that can be hard to catch until after materials have already been published on Webclass. Per students' comments, next semester I will double check for mistakes and I will make questions that are easier to talk about available to students during ZOOM lessons.

外国語教育センター 外国語教育センター
BROADBY, Deborah 先生

2020年度Ｑ２ 「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名	英語IIオーラルコミュニケーション[FB]6
授業コード	11A02-006
教員名	BROADBY, Deborah
教員コード	103594
登録人数	22
回答数	16
回答率	72.7%
休講回数	0 回
補講回数	0 回



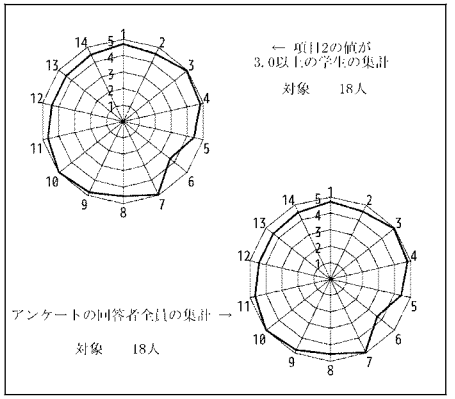
授業評価結果を踏まえた点検・評価

Being online for the Q2 was again both an interesting and complex situation for both students and me. However, I felt that the goals were much more defined and more assessable for the students in Q2. I believe that these goals were transparent for everyone and very attainable. Students were able to achieve these goals to a high standard, which was pleasing. Based on the numerical data, I did feel that there is a huge room for improvement. Therefore, in Q3 I hope to create a more student based learning environment by setting the parameters and enforcing active learning through both online and offline assignments.

外国語教育センター 外国語教育センター
FILER, Benjamin 先生

2020年度Ｑ２ 「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名	英語IIオーラルコミュニケーション[FB]7
授業コード	11A02-007
教員名	FILER, Benjamin
教員コード	103850
登録人数	21
回答数	18
回答率	85.7%
休講回数	0 回
補講回数	0 回



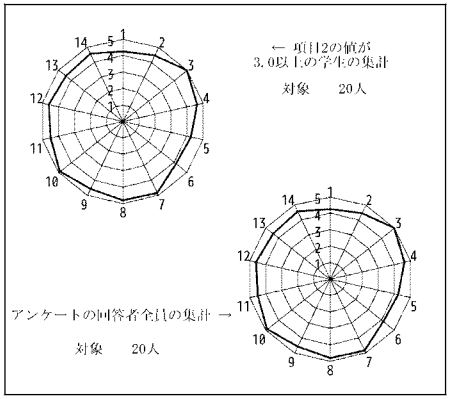
授業評価結果を踏まえた点検・評価

The goals of this course were undoubtedly affected by the nature of the remote learning method of teaching we were forced into using during the spring semester.
My major goal was to make sure that all the students could have a chance to use their English in as much of a common active way as possible. Unfortunately, this goal was not met in Q1. Therefore, once I began preparing for Q2, I made sure to include ample time for communicative activities in live Zoom classes. These opportunities gave the students the chance to utilize the conversation strategies and vocabulary that they had been working on with the WebClass activities I had prepared. This combination of one lesson a week focused on input through a variety of WebClass activities to be followed up by output in the form of speaking tasks on Zoom seemed to be successful.
The comments from the students appear to back this up as there seemed to be a greater deal of student satisfaction with the course in Q2 than Q1.
Moving towards the autumn semester, I am starting to think about how to build on the positives of Q2 and prepare a higher quality course. I think the main difference I will aim to introduce will be to include some groupwork projects, to promote a little more independent learning and give the students a chance to get to know each other further.

外国語教育センター 外国語教育センター
都築　千絵　先生

2020年度Ｑ２　「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名	英語IIオーラルコミュニケーション[B15
授業コード	11A02-012
教員名	都築　千絵
教員コード	103924
登録人数	20
回答数	20
回答率	100.0%
休講回数	0 回
補講回数	0 回



授業評価結果を踏まえた点検・評価

① 学びの場はオンラインに移っても教室で行われる授業と同様レベルに、設定していた目標におおむね到達したと感じている。今回初めて学生が英語力で分けられていないクラスだったので、上級レベルの学生を飽きさせず、下級レベルの学生が付いてこれる授業を心がけた。

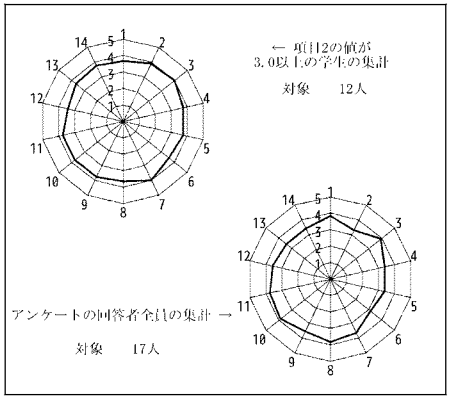
②　授業評価の数値は、4.5以上の項目が多かったのは良かったと思う。しかし、以前の授業評価で数値が低くなりがちな授業の到達目標に関する項目に改善が見られなかったのは残念だった。Zoom授業内でシラバスにある到達目標を何度も指摘する時間が取れなかった。次回は、学生に今やっていることが、到達目標のどれに関係するのかを尋ねるなど、もっと積極的に到達目標を意識させることを考えたい。自由記述では、学生間のコミュニケーションができる場としてZoomの授業が良かったと感謝の言葉を書く学生が多く、ブレイクアウトルームを使って、ペアワークやグループワークを多く取り入れたことは良かったと思う。課題の量に関して、多すぎると記述した学生が5人いる一方で、２人はちょうど良い量と書き、自己学習とZoomのバランスが良かったという学生も2人いた。量的には、教室での授業とほぼ同じ量だが、予習も提出するシステムを重荷に思う学生がいたのだと思う。

③毎日課題の作成と評価やフィードバックに追われるQ2だったが、学生の満足度をほぼ維持でき、「丁寧」だと書かれたのは報われた感じがする。Q3、Q4もオンライン授業なので、準備を十分して、学期内は評価とフィードバックに専念できるようにしたい。

外国語教育センター 外国語教育センター
LEAR, Christopher Adam　先生

2020年度Ｑ２　「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名	英語IIオーラルコミュニケーション[B11
授業コード	11A02-018
教員名	LEAR, Christopher Adam
教員コード	104290
登録人数	20
回答数	17
回答率	85.0%
休講回数	0 回
補講回数	0 回



授業評価結果を踏まえた点検・評価

1. Aside from the goals set out in the course syllabus, I had a few personal goals I set due to the unique nature of courses this year.
My first goal was to give the students a relaxed online atmosphere which would then ramp up in difficulty in the second quarter. I tried two styles of assigning coursework and found that releasing work a little at a time seemed to keep students better on task.
My second goal was to give the students opportunities to practice English whenever they wanted. I held voluntary Zoom lessons at the designated class time for students to freely join but found that this resulted in days with low numbers.

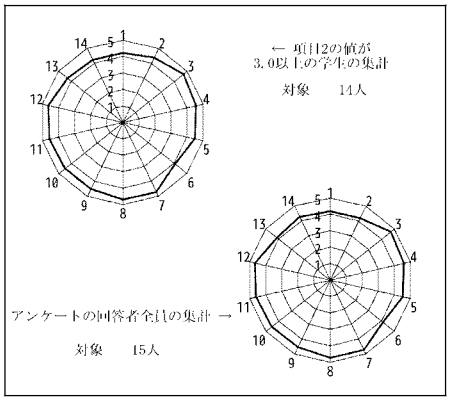
2. Since this is my first year at Nanzan, I am unsure what the average scores have been typically for the course, but I feel the students were not so satisfied with the course and the way it was organized. It seems it did not engage them enough and did not help with their motivation levels. I would like to address this for the second semester.

3. Looking forward, I am going to see about reducing the online coursework load and emphasizing Zoom classes more to try and reengage students and, more importantly, help build their confidence when speaking English.

外国語教育センター 外国語教育センター
GAGNON, Greg 先生

2020年度Ｑ２ 「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名	英語IIオーラルコミュニケーション[P]1
授業コード	11A02-020
教員名	GAGNON, Greg
教員コード	103474
登録人数	18
回答数	15
回答率	83.3%
休講回数	0 回
補講回数	0 回



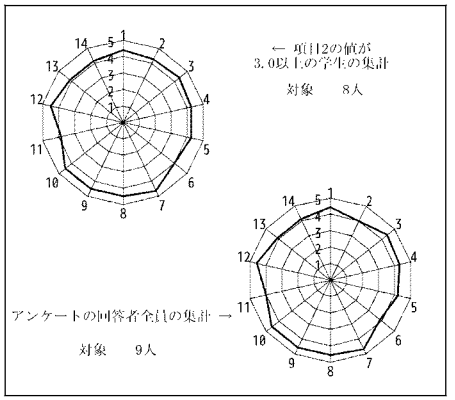
授業評価結果を踏まえた点検・評価

The course evaluated by my students in 2020 Q2 was English II: Oral Communication[P]1,11A02-020. The goals for the course were: assisting students to find ways to express themselves, using various topics of Japanese society; to be able express their ideas, and foster critical thinking skills; and be able to discuss issues in Japanese society, in a thoughtful way. In Q2, students took part in discussions, in a Zoom meeting class. At times, the whole class gave their opinions about various subjects,and at times they were able to have debates with each other in break-out rooms.
The average for similar classes was 4.41, with my class having an overall average of 4.47, which is above average. I was happy to see that the students were positive in their experience with the class, many of them expressing their enjoyment, and many also noting that they felt empowered to use their English language skill in order to express their ideas about issues.
I asked students to give me suggestions about future topics for Q3 and Q4, receiving many good ones to use. I will, as a matter of professional development,find new ways to manage a Zoom class and offer challenging topics for good discussion.

外国語教育センター 外国語教育センター
KUMAI William N. 先生

2020年度Ｑ２ 「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名	英語IIオーラルコミュニケーション[G]1
授業コード	11A02-032
教員名	KUMAI William N.
教員コード	000204
登録人数	15
回答数	9
回答率	60.0%
休講回数	0 回
補講回数	0 回



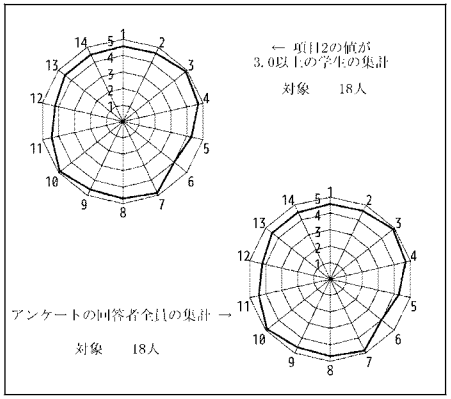
授業評価結果を踏まえた点検・評価

The desired intent of the class mainly aimed at having students achieve some facility in understanding conversation while simultaneously covering topics of interest in Global Liberal Studies. Here, understanding conversation, rather than using conversation, has become necessary because students were mainly on WebClass, and ZOOM attendance was designated optional in order to establish fairer conditions for students whose digital communication means were suspect or missing. On WebClass, students were creating virtual conversations through self-written discussion questions and answers about video listening assignments; on the whole, students succeeded in this endeavor (as can be ascertained from the comments). The evaluation numerical data shows good numbers in all categories. Students may have had difficulty in realizing their progress in conversation, but the cause can be pinned on the WebClass format. Since ZOOM was optional, active class participation was mainly found on WebClass. Therefore, in future classes, ZOOM will become a mandatory feature of the class. At this point in time most students should have sorted out their data connections which will enable all to participate.

外国語教育センター 外国語教育センター
HOWREY, John 先生

2020年度Ｑ２ 「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名 英語IIオーラルコミュニケーション[G13
授業コード 11A02-034
教員名 HOWREY, John
教員コード 100371
登録人数 18
回答数 18
回答率 100.0%
休講回数 0 回
補講回数 0 回



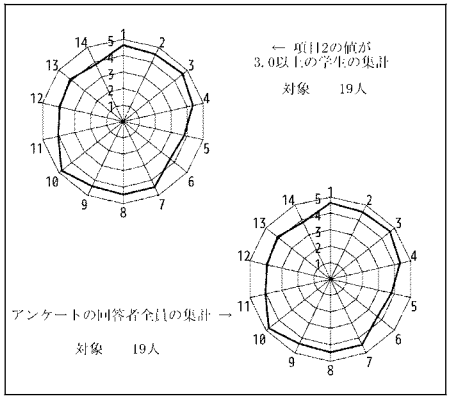
授業評価結果を踏まえた点検・評価

This course is designed to give students more fluency and confidence speaking in English over a variety of topics with an emphasis on building conversation skills, discussion skills, and presentation skills. Students did Webclass activities, weekly Zoom sessions, and three presentations. I was quite happy with the feedback, especially since the course was online and we could not meet face to face.
Students were glad that they could talk to classmates on Zoom and get to know each other. They felt I had considered the difficulties they might have with using technology and that I gave them enough time to complete materials and a variety of ways they could ask questions or get feedback. They enjoyed my instruction videos. Some of them were glad that Zoom was optional while others wished that Zoom was held twice a week. In Q1, I specified clear dates for each week and in Q2 I simply wrote down week 1, week 2, etc. for when to complete materials. Two students struggled with understanding when exactly they should complete Webclass materials, so I will be sure to include specific dates on all activities in Q3 and Q4, rather than just say "by the end of week 2". If I have sufficient time, I will also make more instructional videos.

外国語教育センター 外国語教育センター
CAHILL, Kathleen 先生

2020年度Ｑ２ 「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名 英語IIオーラルコミュニケーション[G14
授業コード 11A02-035
教員名 CAHILL, Kathleen
教員コード 104291
登録人数 21
回答数 19
回答率 90.5%
休講回数 0 回
補講回数 0 回



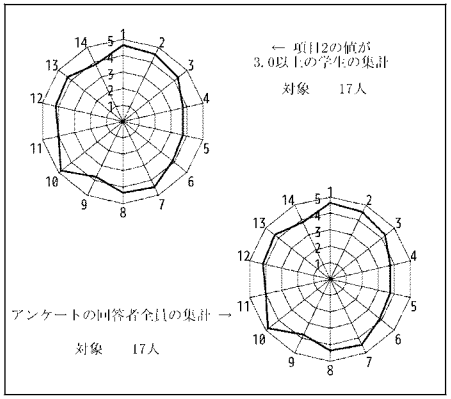
授業評価結果を踏まえた点検・評価

Goals were set with the idea that teaching would be face to face. I believe that some goals set towards developing listening and reading skills may have been met. Listening tasks were set so that students could do them as many times as needed until they were satisfied with their marks. This gave students plenty of opportunities to practice until they could achieve the score they desired. Speaking and Communications goals could not be met due to having to move all of the classes online.
With this being an extremely difficult year for students, I believe it is unfair to evaluate harshly on anyone. Students were given scores much higher than if we were in class. But I had to be soft because I was learning everything new as well. With short notice about how classes would be conducted for both quarters, it was a scramble to create content, provide that content, and expect students to know how to use. I was learning through mistakes in the creation process, so how could I expect students to get it on the first try? With students constantly uploading work, there was simply no time to provide feedback on the content of written assignments, but a general assessment of how thoroughly it was completed. Which, compared to how I normally grade written work, felt almost arbitrary.
Thinking ahead, I want to try to do my best to simplify the work for students because I think they were overloaded in Q1 and Q2.

外国語教育センター 外国語教育センター
BAILDON, MARTIN 先生

2020年度Ｑ２ 「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名 英語IIリテラシー[FB]3
授業コード 11A06-003
教員名 BAILDON, MARTIN
教員コード 102326
登録人数 23
回答数 17
回答率 73.9%
休講回数 0 回
補講回数 0 回



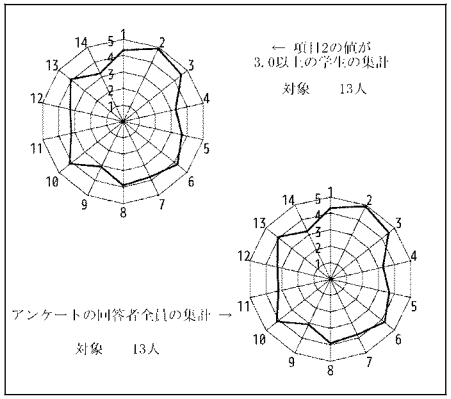
授業評価結果を踏まえた点検・評価

I believe the majority of the students fulfilled to goals of the class, specifically in the reading section where most students attained the maximum scores for both of the reading websites. Students who submitted multiple drafts of writing assignmnets before the final submission achieved better success than those who submitted one or less. With regards to the numerical data, I am pleased students recognised my sincerity in delivering the class (Q7) problems online were solved efficiently (Q10). I accept that I can improve material for referencing including model essays and be more concious of language used during lessons (Q 4, 9). The course attainment targets were at the head of the relevant Webclass page (Q5, 6). This was accessible throughout the course and students were required to read this. The grade weighting of the course were also on the Nanzan DL server. I am unsure why all students could not understand these targets. Comments referred to the amount of work, yet 3 hours of 'class-time' and 3 hours of 'work outside class' each week was considerd during the design of the course. Other repondents commented on the little time before notice for Zoom lessons or the relevant URL, yet the schedule for Zoom lessons is on the Nanzan DL server and this was adhered to. The URL link was the same each class although I sent a reminder several minutes before the lesson start. I am unsure why students did not know the schedule or URL link.

外国語教育センター 外国語教育センター
TIDMARSH, Andrew 先生

2020年度Ｑ２ 「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名 英語IIリテラシー[FB]5
授業コード 11A06-005
教員名 TIDMARSH, Andrew
教員コード 104101
登録人数 21
回答数 13
回答率 61.9%
休講回数 0 回
補講回数 0 回



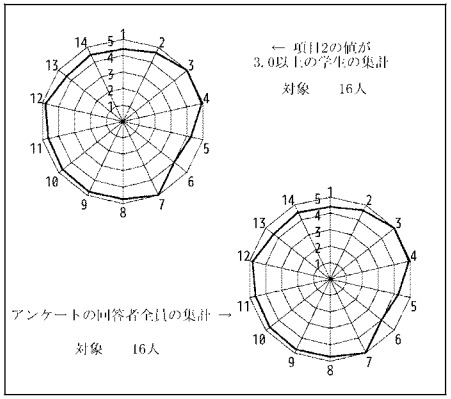
授業評価結果を踏まえた点検・評価

Two of the main goals of this course were to enable students to effectively write five paragraph essays with increasingly accurate English, and to improve their critical thinking abilities. I made these goals clear to the students on a number of occasions in multiple formats. Most students have improved their accuracy and essay-writing capabilities, but only a few have developed their critical thinking skills. It is unfortunate that a large number of students on this course failed to pay attention to my comments for improving their writing, in some cases submitting final drafts identical to the first draft. It is also unfortunate that when I offered live feedback and help sessions for students, only two students attended.
It is clear that the students faced one too many challenges for Q1/Q2. It is hard for them to transition away from high school style English writing and move towards academic English. It is obvious that learning online has made this hard for them. In the following quarter we will do more creative writing activities and look at making feedback sessions mandatory.

外国語教育センター 外国語教育センター
石崎　保明　先生

2020年度Ｑ２　「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名　英語IIリテラシー[G]2
授業コード　11A06-033
教員名　石崎　保明
教員コード　102444
登録人数　19
回答数　16
回答率　84.2%
休講回数　0　回
補講回数　0　回



授業評価結果を踏まえた点検・評価

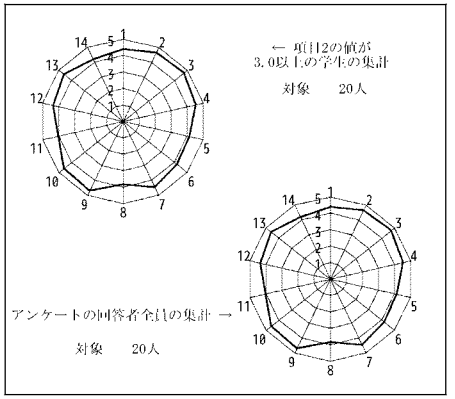
私が今回授業評価を受けた科目は、国際教養学科1年生に対する英語共通教育科目であり、主にアカデミック・ライティングの育成を主眼とした科目です。コロナ禍でのオンライン授業という性質上、対面授業と比べてグループワークなどに十分な時間をとることができなかった反面、ライティング指導については、より細かな個別指導ができる見込みのもと、多くのエッセイ課題に取り組んでもらうとともに、異なるタイプのエッセイについても、その構造や個々の受講生の課題に対して詳細に説明することができました。自由記述欄では、回答者から学習効果を実感できたというコメントを多くいただきました。

今回の結果は、昨年度同時期に同じ科目に対して実施した授業評価とほぼ同水準でした。毎講義回のスライドを読めば誤解なく課題に進めるよう配慮し、また、質問がしやすくなるよう、zoom講義中はもちろん、すべてのスライドの最初と最後に遠慮なく質問してほしい旨の周知を図りましたが、数値や自由記述を見るかぎり、その意図を受講生は十分にくみ取っていただけたと考えます。相対的に設問5と6の評価が低くなっており、昨年度の同時期の科目よりも0.34、0.47低くなっています。スライドではどのような課題をするかの説明は毎回行いましたが、なぜその課題をするのか、という到達目標の周知が不十分だったので、今後は毎回のスライドに明記することによって、周知をしていきたいと考えています。

外国語教育センター 外国語教育センター
中田　晶子　先生

2020年度Ｑ２　「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名　英語IIリテラシー[G]6
授業コード　11A06-037
教員名　中田　晶子
教員コード　055624
登録人数　21
回答数　20
回答率　95.2%
休講回数　1　回
補講回数　1　回



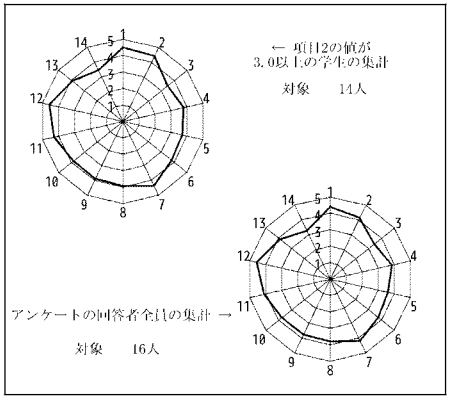
授業評価結果を踏まえた点検・評価

①この授業は、英語のreadingとwritingを中心とする1年次必修科目で、Q1に引き続き批判的な読解力と、複数のパラグラフを用いた短いエッセイを数種類の書式に従って書く力をつけることが目標であった。zoomを用いた初めてのオンライン授業であったが、ほぼ全員が所期の目標に到達した。
②数値データでは、項目１から14の平均が4.39、項目3から14の平均が4.37、開講主体の平均をわずかながら上回る数値となった。
今回高評価となったのが項目９の4.70であった。視聴覚教材の効果的な使用が評価されたためであろう。対面授業での板書に代えてPPTを多用して説明を行った。例年、授業でエッセイの書式ルールの説明をした後課題とし、提出されたエッセイの問題点を指摘して合格となるまで再提出させている。対面授業では返却時に簡単に説明をするが、今回はWebClassのコメントやメッセージを用いての指導となった。例年は書き直しが多い学生でも3回を超えるケースは少ないが、今回は5回以上書き直す学生が多く、学生・教員ともに苦労した。自由記述には、writingの説明のわかりやすさと課題についての個人指導を評価したものが多かった（16名）。
③WebClassのシステムを使用してのwriting指導は難度が高いことがわかったが、学生同士の自発的な学び合いの機会がzoom授業では少ないことも一因であろう。対面授業ではエッセイ返却時の待ち時間を利用して学生同士で疑問点を話し合っていることが多かったが、zoom授業ではその機会がない。この授業では、全員がビデオをオンにして参加していたが、それでも対面授業のように親しくなる機会が少ないこともわかった。グループワークも実施したが、対面授業に比べてはるかに効率が悪いため実施回数が少なかったことも影響したと思われる。writingの個人指導と学生のピアラーニングの改善を今後の課題とする。

外国語教育センター 外国語教育センター
丹羽　牧代　先生

2020年度Ｑ２　「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名　英語IIリテラシー[G]7
授業コード　11A06-038
教員名　丹羽　牧代
教員コード　055715
登録人数　20
回答数　16
回答率　80.0%
休講回数　0 回
補講回数　0 回



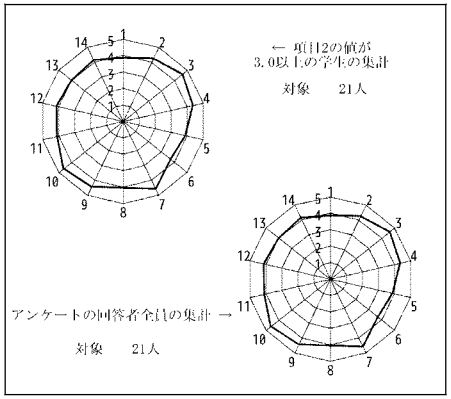
授業評価結果を踏まえた点検・評価

総合的には、オンライン授業もある程度慣れてきた状況であると考えていたが、やはり想定外のことが種々発生し、さまざまに対応しなければならないクォーターであった。以下具体的に記述する。到達目標については学年を通してその期に学ぶべきことが統一されている。また初回、2回目あたりで何をいつまでにすべきであるかの明示もする。したがって、何を目指すかについてはあまり誤解の余地はないはずであるが、意外に到達目標や授業への理解度への評価が高くないことなどが数値からわかり、これには戸惑いを覚えた。結果としての受講者の到達度も、「それぞれに構成の違う3種類の英文エッセイを書けるようになる」という目標に対して達成できているものがほとんどであり、むしろ例年より受講者の取り組み度や完成度・熱心度は高いと思われるので、なおさらであった。これは、この科目が新一年生を対象とするものであったことがひとつの要素であろうと考えている。大学の学びではオンラインであろうがなかろうが「答え合わせをする」「正解を教えてもらう」というものではなく、それは語学科目であっても同様なのであるが、そのような自律的な勉強の姿勢をまだ身に着ける途上の一年生には対面授業であれば手取り足取り「答え」を教えてもらったはずなのに、という発想があるのかもしれない。例年ならば縦横の学生同士のつながりやキャンパスの雰囲気などから「大学生らしい学び方」の情報交換ができるのに、それがなかったことも大きいであろう。であれば、次期以降については、学生に欠けているであろう発想や、一年生ならではの思い込みなどをこちらもさらに想定した上で、授業内容だけでなく学びのフレームのようなものをもっと折に触れて織り込んでいくべきだと感じた。オンラインだから欠けてしまうことや学生が不安になることを、さらに想像して補ったうえで構成しなければいけないようである。

外国語教育センター 外国語教育センター
KLUGE David E.　先生

2020年度Ｑ２　「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名　英語IIコミュニケーションスキルズ[HA, HP, HJ]8
授業コード　11A10-008
教員名　KLUGE David E.
教員コード　100398
登録人数　22
回答数　21
回答率　95.5%
休講回数　0 回
補講回数　0 回



授業評価結果を踏まえた点検・評価

The goals at the start of the quarter were to improve the students' listening, speaking, and reading skills.

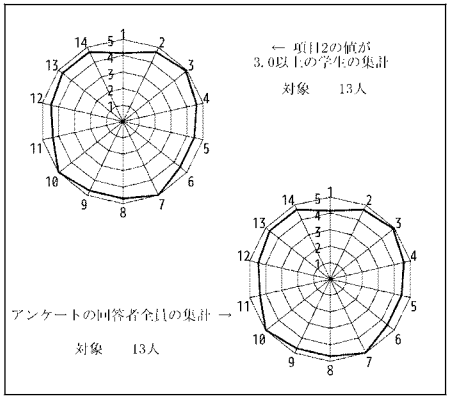
I was concerned with this evaluation as it was the first time to have live online classes each lesson and I was not used to the technology. For question #3 (Starting Time) students gave a 4.62. For question #4 (Content/speed of lesson appropriate), they rated it 4.38. Question #7 (Teacher serious and sincere) was rated 4.57. Students rated technical issues in question #9 (Teacher considered student level and used appropriate materials) as 4.43 and #10 (Teacher took appropriate measures for online class) as 4.62. Students felt they learned new knowledge (4.00) and were overall happy (4.14.) The students commented that lessons were fun (“I could practice English while having fun”), There were opportunities to speak with students and the teacher (“We had many opportunities to communicate with other students and teacher,” “There was an opportunity to talk with the teacher one-on-one every hour.”), and the class was student-centered (“There was a lot of group work, and there was independence by proceeding with the class centered on students.”), and the atmosphere of the class was good (“Talked in English on difficult topics,” “The amount of tasks was appropriate,” Teacher created an atmosphere so that I could enjoy the lessons.” “The teacher taught me gently.”)

The area that needs to be improved in the next quarters was that of goals, with the two questions related to goals rated the lowest, 3.90 and 3.71.

外国語教育センター 外国語教育センター
OLIVERO, Regis 先生

2020年度Ｑ２ 「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名 フランス語II＜H＞1
授業コード 11B02-001
教員名 OLIVERO, Regis
教員コード 104119
登録人数 18
回答数 13
回答率 72.2%
休講回数 0 回
補講回数 0 回



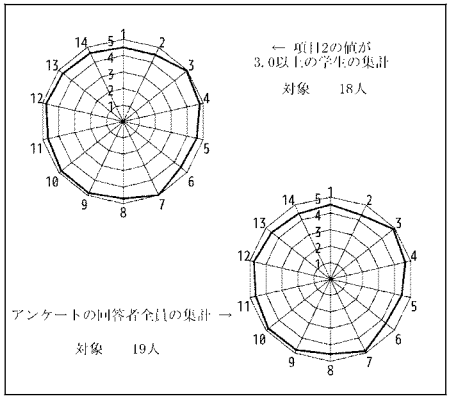
授業評価結果を踏まえた点検・評価

Under this year's special circumstances and due to the fact that all courses were online, it could have been difficult to teach to a group of beginners but eventually the program has been completed and the goals were achieved.
Although you can not expect the same conditions online, this group proved to be very adaptable and motivated. I was able to conduct oral exercises and listening comprehension tasks and the students were quite responsive during the lessons. They also did well with their homework and the assignment online, which helped to strengthen their grammatical and vocabulary knowledge. By doing so, we could focus more on communication skills and practice during the lessons.
It is important to make sure that the students understand what to do and which standard is expected from them. After some adjustments in the Q1, the Q2 was about to stabilize the learning environment.
Since the learning conditions will remain the same in the next quarter, I expect the students to get better, more self-confident and their progression should follow accordingly. I will hopefully be able to conduct more dynamic classes, make them work in groups and be gradually proactive.

外国語教育センター 外国語教育センター
梶浦 直子 先生

2020年度Ｑ２ 「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名 ドイツ語II＜E・B＞1
授業コード 11C02-006
教員名 梶浦 直子
教員コード 102557
登録人数 25
回答数 19
回答率 76.0%
休講回数 0 回
補講回数 0 回



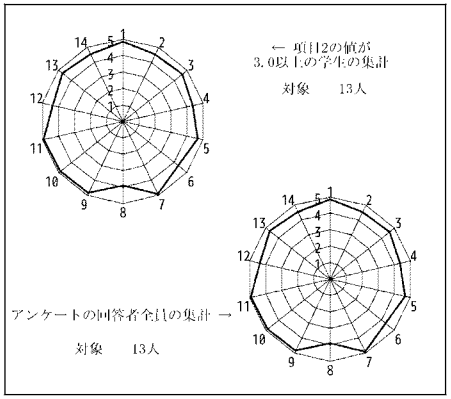
授業評価結果を踏まえた点検・評価

この授業では、学習者同士が協力しながら、発見的、自律的にドイツ語を学ぶことにある。オンライン授業という多くの学習者にとって初めての授業形態という状況の中でも、学習者は非常に積極的に授業に参加したと感じており、自由記述においても「他生徒との交流があること」「話し合いの機会が多かった」と協働学習に対する評価が多くみられた。ここからも学習者の積極性を感じ取ることができ、おおむね学習目標を達成したと言えよう。
項目2「受講に際して、予習や復習を含め、主体的に授業に参加し、内容を理解しようとする努力をしましたか。」の評価が4.32と低いのは、教科書のコンセプトに基づいて授業では復習を重視しており、予習をしないようにアナウンスしていることに要因があると考えられる。
項目6「あなたはこの授業の到達目標に向けて力がついてきていると思いますか。」4.32と項目14「全体として、あなたはこの授業に満足しましたか。」の評価が4.42とやや低いことから、今後の授業においては、学習の到達度を客観的に把握する機会を取り入れたい。学習日誌を取り入れ、学習を振り返る機会を設けているが、今後はできるだけ教師側だけでなく、学習者同士でフィードバックする機会を増やしていきたい。
また、オンライン授業ということで各学生のネット環境に差があることに気を配っていたが、授業に参加できなかった場合には、より配慮するように努めたい。

外国語教育センター 外国語教育センター
LANDEROS NERI, Sergio Gustavo 先生

2020年度Ｑ２ 「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名 スペイン語III[FS]2
授業コード 11D03-006
教員名 LANDEROS NERI, Sergio Gustavo
教員コード 103688
登録人数 13
回答数 13
回答率 100.0%
休講回数 0 回
補講回数 0 回



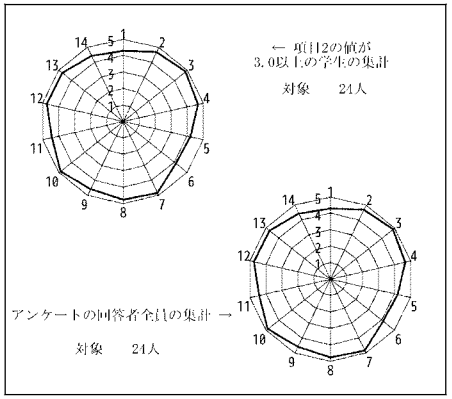
授業評価結果を踏まえた点検・評価

Evaluation report for class 11D03 006 (FS)2. 2nd. quarter. Prof. Sergio Neri
We were specially working on developing a communicative competence that allows students to be able to do some shopping in Spanish. In order to achieve that students learned to: Describe and evaluate objects, more specifically, merchandise. Ask for prices and let others know the price of a merchandise. To use the numbers including hundreds, thousands and millions, which is useful in the case of conversion of currencies from the Spanish speaking countries into Japanese yen. To express obligation or need. Students also learned to describe their daily habits in relation to health. To ask for and give advice about physical activity and proper nutrition. The entire course was carried out on line. Since the class was for first-year students, and considering they have not had any previous class at university level, neither they had on-line courses at high school, it was difficult for them to adjust to the new learning environment at the beginning. They were not able to produce much oral comunication during the tasks. Nevertheless, little by little, they were catching up by the end of the 2nd quarter. As for the results of the survey, as it can be interpreted in the graph, the answers of the students were positive compared to the media. In the next quarter, I'll keep working with every student in pairs, in order to help them develop communicative skills and to avoid possible issues derived from the long time they don't speak Spanish during the summer holiday.

外国語教育センター 外国語教育センター
虞 萍 先生

2020年度Ｑ２ 「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名 中国語II＜J・P＞6
授業コード 11F02-024
教員名 虞 萍
教員コード 101432
登録人数 30
回答数 24
回答率 80.0%
休講回数 0 回
補講回数 0 回



授業評価結果を踏まえた点検・評価

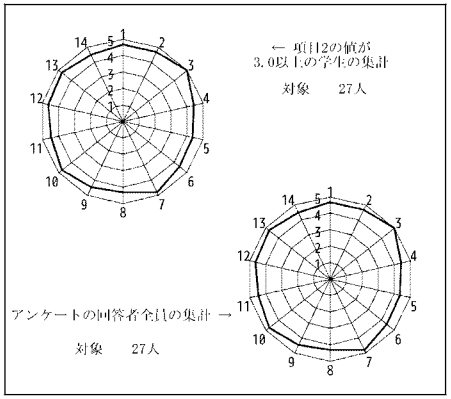
オンライン授業は教師にとっても、学生にとっても初めての試みであります。最初は学生の学習効果についてやや気になっていましたが、ほとんどの学生はZoom授業や課題を真面目に取り組んでくれたため、開講当初に設定していた目標はおおむね達成しました。今学期も学生から高い評価を得ています。設問15「この授業の良かった点、評価できることは何ですか」について、例年より多くのコメントをいただきました。具体的には、「自主学習の時間で学んだことを、Zoomを利用して理解度を確認されていた点がとても効率が良くていいなと思いました。」「発音チェックで一人ずつ指導して貰えるところが良かった。」「先生が一人一人に発音の確認をしており、とても丁寧だったこと。」「自習で行ったことをZoomで反復で行ったので理解が深まった。」「課題のなかで間違えやすい問題を授業で解説していた点がよかった。」「オンライン授業にて、発音の確認を先生がしてくれたところがよかった。」「1回1回で全く別の内容をやるわけではなくて、前回までに学習したことをときどき出しながら私たちが忘れないような授業をしていたことがよかった。」「課題でミスが多かった点を復習する時間を設けていただけたので、とても理解が深まった。」などなど多くのコメントをいただきました。

オンライン授業であるため、学生の学習効果は自身の自主学習能力に左右されるところがあると考えられます。引き続き学生にとって有効なオンライン授業教育方法を模索したいと思います。

外国語教育センター 外国語教育センター
陸　心芬　先生

2020年度Ｑ２　「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名　韓国朝鮮語II＜E・B＞
授業コード　11G02-004
教員名　陸　心芬
教員コード　101225
登録人数　30
回答数　27
回答率　90.0%
休講回数　0 回
補講回数　0 回



授業評価結果を踏まえた点検・評価

Q2の授業目標であった基礎文法の習得や基礎会話ができることについてはおおむね達成したといえる。学生による授業の評価は設問項目の平均値4を超えており、評価にもそれが現れていると思われる。

この授業の良かった点としては「毎回の復習で覚えやすい」「先生の丁寧な説明」「実践的な練習が多い」「毎回の課題のプリントで理解を深めた」「ズームがあること」「一人一人に質問してみんなが理解しているかを確認」「授業の最後に質問する時間を設けたこと」「実際にブレークアウトセッションとかで練習」「授業のスピードが早く無かったため、着実に韓国語の知識を得た」などがある。

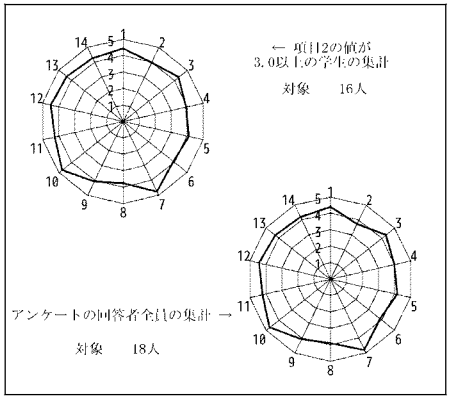
この授業で改善点や困ったことがあるかについては「もう少し授業の進度を挙げてほしい」「急にあてられると緊張してしまう」「先生の声と被って他の生徒(早く韓国語を復唱する学生)の声が聞こえて、正しい発音が聞き取れなかったり、発音の違いが難しいけど、1度しか読まれなかったりするときがあった」「先生の発音だけをもっと聞きたい」などがある。

今回初めてのオンライン授業の実施で、PPT資料とレジュメを用いてオンライン授業に取り組んだが、対面授業よりは進度の遅れが出ているものの、学生の理解度や教員の伝達力はむしろ上がったように思われる。今後これらを参考しながら改善していきたい。

外国語教育センター 外国語教育センター
佐々木　陽子　先生

2020年度Ｑ２　「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名　異文化との接触5
授業コード　13A02-005
教員名　佐々木　陽子
教員コード　019695
登録人数　29
回答数　18
回答率　62.1%
休講回数　0 回
補講回数　0 回



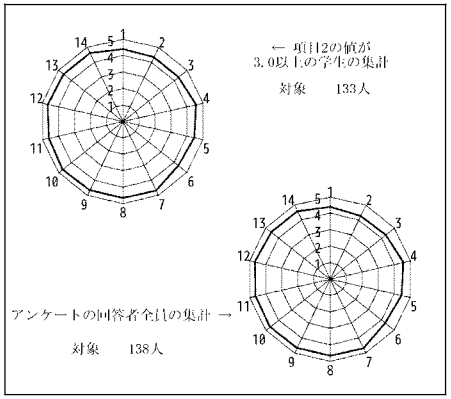
授業評価結果を踏まえた点検・評価

評価の高かった項目は、上位から順に7教員熱意、10授業中の指導方法、12質問相談や課題など教員との交流、3時間の厳守、13新しい知識や理解の獲得、となっており、他項目についても（4授業進行と構成の適切さ、5授業到達点の理解、9学生への配慮と資料適切さ、11学習意欲を引き出す指導、14授業全体の満足）の各項目で平均４点を上回り、全体として安定した評価を受けた。学生の理解度を確認する匿名アンケートを随時行いその集計結果をフィードバックさせるなど、学生理解に応じた調整をしたことで、遠隔授業の欠点である双方向性を補完したことが功を奏したと考えられる。　一方、6力が付いた実感、８オンライン音声の聞こえやすさ、という二点では平均４点を下回っていた。定期試験が学内筆記で行えなかったことや、通信障害に起因する画像や音声のズレがあったことが原因と考えられ、いかにこれらの点を修正するかが課題である。　自由回答は「現地撮影写真が多数示され、現実について詳しく知ることができてよかった。映像や資料がふんだんに使用され、視覚的に興味を惹かれた。貴重なものがたくさん見れて、実体験の話も聞けた。動画や先生が現地で撮影された写真を多く用いていたことで、現地の様子を捉えやすかった。普通に日本で生活していては絶対に知ることのなかった細かい情報まで教えてもらえて、非常に身になる授業でした。専門的分野において自分じゃ到達できない深い内容まで扱うため、今まで知らなかったような事も知ることが出来た。自分では分からないレベルの高い内容の動画や現地の動画を先生が解説してくれるため深い学習理解に繋がった。」など写真映像資料に対しての評価が高かった。　改善点として90分授業の２連続設定は時間が長すぎる、授業の延長は困るという指摘が一件あった。授業が終わる時間ぎりぎりに質問が来るなど、解散指示については教室以上に明確さが必要だと思われた。情報センターをはじめ学内事務支援と、受講生の熱心な聴講がなければ、ZOOM授業は成立しなかったと思われ、改めて感謝したい。

体育教育センター 体育教育センター
飯田　祥明　先生

2020年度Ｑ２　「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名　スポーツ科学論2
授業コード　12D08-002
教員名　飯田　祥明
教員コード　103610
登録人数　334
回答数　138
回答率　41.3%
休講回数　0 回
補講回数　0 回



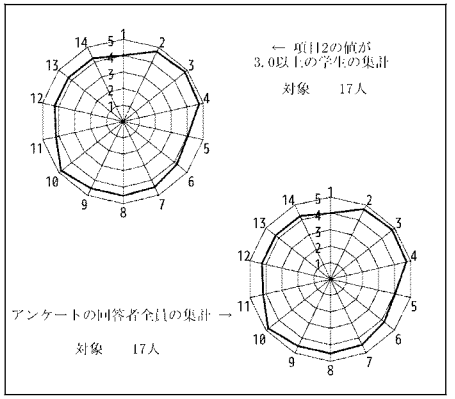
授業評価結果を踏まえた点検・評価

①開講当初に設定していた目標と到達の程度について
本科目の特性上、各学問分野を深く専門的に習得することは難しいが、トレーニング科学・生活習慣とスポーツの関係・人間の運動の仕組みについては重点的に説明を行い、受講生の知識や関心を広げることができたと感じている。また、最終レポートではスポーツ科学を用いた実践報告をおこなう学生も多く、スポーツ科学知識の活用という目標を達成できている受講生も多く見受けられた。
②数値データおよび自由記述等を踏まえての担当科目に関する総合的な自己点検・評価
全体的な数値データとしては平均4.5以上の項目が多く、受講生の満足度を高めることができたと自己評価している。自由記述では、肯定的な意見の例として「チャットで全員に意見を求める形式が良かった」「内容が分かりやすかった」「黒背景のスライドにするなど視聴負担への配慮があった」「毎回のリアクションの負担が適切だった」「休憩時間があるのがよかった」といった内容が目立った。改善が必要な点としては「レポートの内容説明のタイミングが遅かった」「１回授業開始が遅れた」「家庭騒音が気になった」「共有画面の切り替え回数が多い」などがあった。諸々の改善すべき点はあるものの、今後の工夫でより受講生の満足度を高められると考えている。
③次クォーター・学期以降に向けての改善点、今後の抱負、方針など
初めてのオンラインでの講義だったが、非常に多くの今後に活かせるフィードバックを得ることができた。特に改善したい点はレポート課題の内容説明を早いタイミングで実施することである。それにより実践課題の準備期間が延び、ますますレポートの質が向上すると期待できる。また、在宅での授業も続くため、家庭での環境整備にも努めたい。

体育教育センター 体育教育センター
中路　恭平　先生

2020年度Ｑ２　「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名　スポーツ科学演習A
授業コード　12D10-001
教員名　中路　恭平
教員コード　015255
登録人数　19
回答数　17
回答率　89.5%
休講回数　0 回
補講回数　0 回



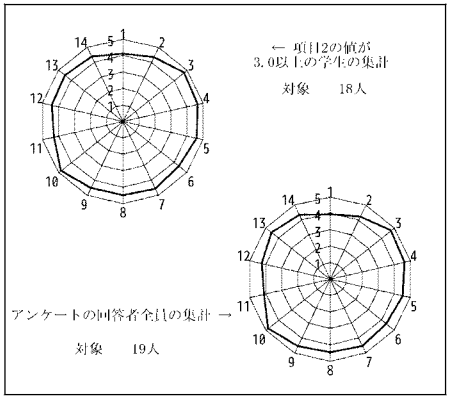
授業評価結果を踏まえた点検・評価

当授業は、スポーツを振興させようとする組織体に求められるマネジメントの理論や現実の社会現象を踏まえ、人々をスポーツの場に引き込むためのしかけ作りを学んでもらおうという意図を持って開講している。しかし、今回、コロナウィルスの影響からか、登録変更期間が２週間も取られ、その間に学生の登録変更が繰り返されるという事態がおきた。このことによって、履修学生の半数が入れ替わり、授業の目的や方針を何度も説明せざるを得なかった。講義DLサーバにガイダンス資料を掲示しておくことで補足したが、学生の評価をみると１，５がやや低いことから、開講意図が学生に十分に伝わっていなかったかもしれないと思われる。
授業の進行に関しては、zoomの機能をフルに活用し、ブレークアウトセッションを使って学生同士のグループワークを中心に進めた。また、投票システムを使い、履修学生のネット環境や、運動実施状況等についてアンケートを実施、情報共有するなどして、学生の相互関係理解を深めることを意識した。そうしたことが、８．９．１０の評価の高さにつながったと考える。自由意見でも、学生同士のコミュニケーションが取れたことを評価する意見が多かった。毎回、次回の課題を提示し、それについて事前に下調べすることを要求したが、欠席者にその課題が伝わっていなかったことから、DLサーバに毎回の改題を提示しておくことが有効な方法であると思われた。

人文学部 人類文化学科
岡本　耕平　先生

2020年度Ｑ２　「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名　地誌概論1
授業コード　12B11-001
教員名　岡本　耕平
教員コード　049502
登録人数　70
回答数　19
回答率　27.1%
休講回数　0 回
補講回数　0 回



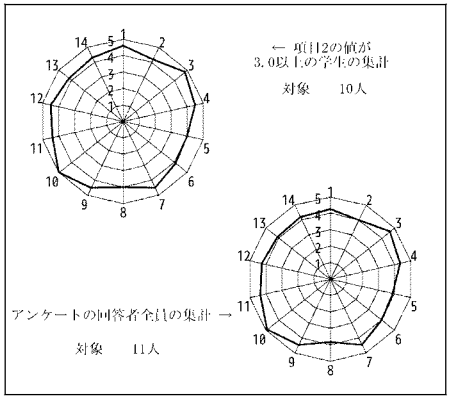
授業評価結果を踏まえた点検・評価

①当初掲げた授業の到達目標は次の通りである。
１．自分たちが生活する名古屋大都市圏について、多面的に考察できるようになる。
２．自然地理学および人文地理学の基礎的知識と考え方を習得している。
３．学術論文を読み、その内容に対する自身の考えを文章として適切に表現できる。
これらのうち3については、例年ならば、名古屋圏を扱った論文を読むというレポート課題を課すが、今年度はオンライン授業となり、毎週課題を与えることとし、毎回の課題の分量を下げたため、学術論文を読むという目標は達成できなかった。一方上記の1と2の到達目標は概ね達成できたと考えられる。学生からの授業評価においても、項目５および項目６で全学平均値以上の評価は受けた。
②学生からの授業評価で、全学平均値をかなり下回った項目は、項目1と項目２である。受講学生の5分の1近くが、受講前には、この授業の内容に興味を持っていなかったことを示している。これはシラバスの内容にも原因があるかもしれないが、地歴科や社会科免許状取得など何らかの理由のため、もともと興味のない地理学関係の授業を受講したとも考えられる。
③学生からの授業評価でもう一つ悪かったのは、項目12である。これはオンライン事業に慣れておらず、ZOOMのチャット機能などをうまく使用できなかったことが原因の一つとして考えられる。次回からは改善したい。

人文学部 人類文化学科
久保田　進一　先生

2020年度Ｑ２　「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名　人間と機械4
授業コード　13E04-004
教員名　久保田　進一
教員コード　104075
登録人数　29
回答数　11
回答率　37.9%
休講回数　0 回
補講回数　0 回



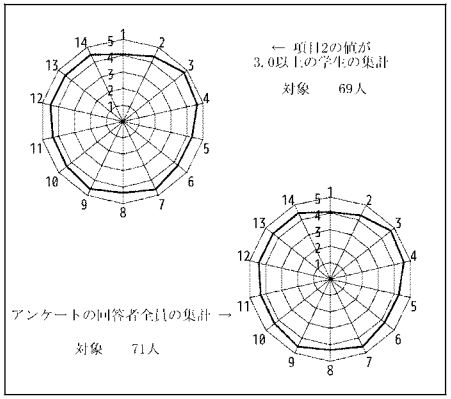
授業評価結果を踏まえた点検・評価

①開講当初に設定していた目標と到達の程度については、レポートの採点の結果から判断して、概ね達成できたのではないかと思われる。この授業では人間と機械を対比させることによって、「人間とは何か」という問いを深めることを目標としており、その目標は達成されたと思われる。
②今回は新型コロナウイルスの影響で、zoomを使ってのオンライン授業となった。初めての試みのため、当初はどのように授業を進めて行ったらよいのかわからず、試行錯誤であった。学生がビデオ・オフにしていたため、学生の顔を見ることはできず、コミュニケーションがうまく取れていたかどうか心配であったが、学生の自由記述を見ると、一人づつ指名して学生に質問をしたり、意見を聞いていったのが良かったようである。初めてのオンライン授業としての試みであったが、概ね良かったのではないかと思われる。ただし、やはり直接顔を合わせていないところで、学生がどの程度理解しているのか、その場ではわからない点がオンライン授業の問題点であると思われる。
③今後の授業の改善点としては、今回、映像資料を使えなかったため、今後は映像資料も使えるようにしたい。また、今後もより一層、学生とのコミュニケーションを通して、学生に自ら考えてもらう授業を行っていきたいと思う。

人文学部 人類文化学科
菅沼　文乃　先生

2020年度Ｑ２　「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名　現代の文化人類学
授業コード 22C10-002
教員名　菅沼　文乃
教員コード 150333
登録人数　191
回答数　71
回答率　37.2%
休講回数　0 回
補講回数　0 回



授業評価結果を踏まえた点検・評価

①開講当初に設定していた目標と到達の程度について
開講当初に設定していた到達目標は、(1)社会における老い・高齢化にまつわる諸問題、(2)それらの諸問題に文化人類学が果たす役割、について受講生の関心を深めさせることであった。このために、講義内容を要点をふまえ振り返る時間を都度設けること、講義で使用したスライド資料の配布、（2）についてとくに人類文化学科以外の学生にむけて文化人類学に関する知識の解説を多く盛り込むこと、により学生の理解を促し、ほぼ達成することができた。

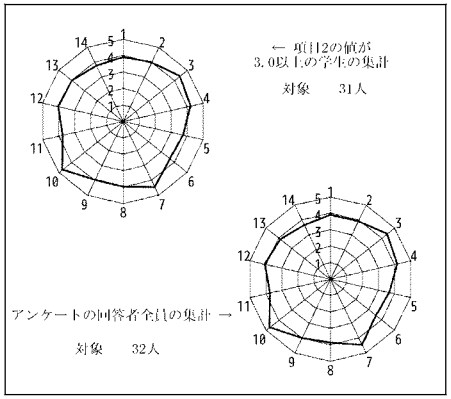
②数値データおよび自由記述等を踏まえての担当科目に関する総合的な自己点検・評価
学生の理解については、前年度と比較しある程度の改善は見られたが、学生の関心を高めるテーマ・資料提示、情報提供、課題設定について引き続き改善の余地がある（アンケート設問項目(5)(6)）。また、オンライン授業にあたっての環境、適切な機器の使用について不十分であったことが感じられる(アンケート設問項目(8)(10)(16)(17))。

③次クォーター・学期以降に向けての改善点、今後の抱負、方針など
講義での質問内容、リアクションペーパーの反応等をふまえて、学生が関心を持つ話題を積極的に取り入れ、より適切に資料を用いることで講義への興味心を高める。学生がそれぞれの関心・目的に応じて積極的に参加できるような講義内容をめざす。

人文学部 人類文化学科
伊藤　正人　先生

2020年度Ｑ２　「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名　東アジア考古学C
授業コード 22C40-001
教員名　伊藤　正人
教員コード 104262
登録人数　71
回答数　32
回答率　45.1%
休講回数　0 回
補講回数　0 回



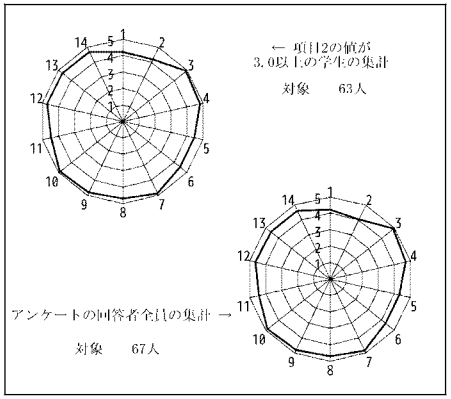
授業評価結果を踏まえた点検・評価

①縄文時代・文化に関する基礎的な知識を確認し、各自が興味を深めてほしいと考えたが、受講者の反応を把握することが困難で、設定したプログラムを淡々と進行させたと感じている。もともと一定の達成度・具体的目標を設定してはいないので、各自の問題意識のあり方を最終課題の記述意識・内容によって評価することとなった。
②アンケートの回答者が受講者の半数に満たない状況は、批判的・否定的評価が相当数を占めることを予測させる。構成や進行速度に大きな不満が示されなかったことも、未回答者より総じて肯定的であろうが、大きく見直す必要はないものと考える。評価を受けた部分が画像の多用や講義資料の量であることを見れば、説明の内容等には不足が大きく、工夫の余地があると思われる。
③講義目的と各回の内容との関わりなど、全体的な構成と意義を受講者が理解しやすいように伝えたい。その理解が前提にあれば、画像や講義資料の利用・作成意図の理解も深まり、各自の受講成果の向上も期待できる。

人文学部 人類文化学科
坂井　信三　先生

2020年度Ｑ２　「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名　地域の文化と歴史(アフリカ)
授業コード　22C47-001
教員名　坂井　信三
教員コード　034264
登録人数　134
回答数　67
回答率　50.0%
休講回数　0 回
補講回数　0 回



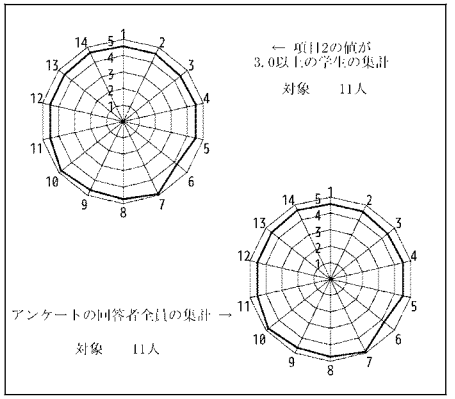
授業評価結果を踏まえた点検・評価

今回は初めてのオンライン授業で、始める前は大きな不安があったが、結果としては全体としてうまくいったと思っている。
授業の準備には通常の対面授業よりずっと多くの時間を割いて資料作りをし、話す内容を昨年までより20%ほど減らした上で、ノートをほぼ完全に作ってから授業に臨んだ。そのため、昨年までの授業と比較すると情報量は必然的に減ることになったが、密度は高くなったと思う。
そこでオンラインでの理解度を上げるために、パワーポイントのスライド以外に、スライドに合わせて話す内容のノートを、ほぼそのまま資料としてアップし、学生がダウンロードして利用できるようにした。また、ファイルの重さの制限のためにパワーポイントにもりこめない画像やグラフなどは、別途、図版資料としてWebclassにアップするようにした。その結果、授業後に学生に求めたリアクションや、学生による授業評価の結果を見てわかるとおり、理解度は十分高く維持できたと評価している。
以上のような対策を取ったおかげで、高校までの歴史でほとんど触れることのないアフリカ史について、基本的知識にもとづく一定の理解をもつという開講当初の講義目標は、満足いく程度に達成されたと考えている。
私の担当する授業はこのQ2だけなので、今後の改善点などはない。

人文学部 日本文化学科
土谷　薫　先生

2020年度Ｑ２　「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名　からだとことばII
授業コード　24C07-001
教員名　土谷　薫
教員コード　064352
登録人数　23
回答数　11
回答率　47.8%
休講回数　0 回
補講回数　0 回



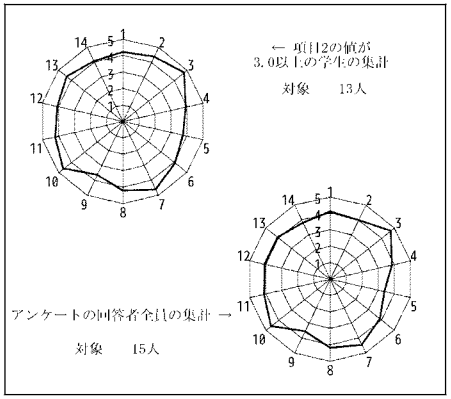
授業評価結果を踏まえた点検・評価

①今年度はオンラインで授業を行うということで、授業内容については非常に悩んだ。人と人とが出会い、直にふれあい、声を出し、自分を表現していくという授業である。対面ではない以上できないことはたくさんある。では、できることは何か？　今回は、学生に伝えたいことを厳選する必要があった。「自分と向き合う」「自分のからだ・声・表現に新しく出会う」「自分とは異なる新しい見方、考え方を知る」この三点については自学自習の資料を厳選すること、ZOOMで学生全員の顔を見ながら、意見交換できたことも非常に良かったと思う。
②学生からの自由記述の中で「先生からのフィードバックを個々にもらえた点」というものがあった。毎回の授業の感想レポートにコメントを返したこと、ZOOMでなるべく一人ひとりの声を聴くようにしたことが良かったのではないかと思う。個々を意識して授業を行うことの大切さを今回は特に強く感じた。
③手探りでの授業であったが、一人ひとりの声がZOOMを通してもしっかり伝わってくることが実感できた。舞台でこそなかったが、全員で一つの詩、一つの戯曲に取り組みオンライン上での上演ができたことは、今後の（オンラインでの）授業の可能性を非常に広げてくれた体験であった。舞台表現が制約を受けている今、授業においても可能性を追求していきたい。

人文学部 日本文化学科
四辻　秀紀　先生

2020年度Ｑ２　「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名　日本美術史
授業コード　24C27-001
教員名　四辻　秀紀
教員コード　100351
登録人数　39
回答数　15
回答率　38.5%
休講回数　0 回
補講回数　0 回



授業評価結果を踏まえた点検・評価

１　新型コロナ禍によってzoomによるオンライン授業となった今期は、各回の内容をPDFに作成し中継形式で授業をおこなった。当初の目標と到達の程度については、多少時間が押してしまったが、おおよそ達成できたのではないかと思う。

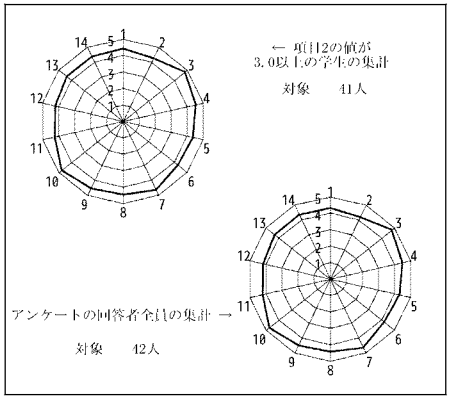
２　講義内容が時に早口になる、スライドでの送りが早くメモが取り辛い時があったとの指摘があり、これについては今後留意していきたい。また、この授業だけパソコンが熱くなってしまうとの指摘については、本講義が画像をかなり多く使用している点、そのうちの画像自体の画素数が高いものが若干含まれていたためと思われるが、これに対しても対応していきたい。またレポートのテーマの一つ（選択式）に美術館展示内容に関する出題があり、コロナ対応や他の設問とのバランスについて懸念する意見があったが、それぞれ当方が考慮の上対応した。授業時にスライドで写した資料もレジュメとして配布して欲しいとの要望があった。特別に撮影した画像などを含む資料配布は困難であるが、学生諸子の理解をより深めるための努力は重ねていきたい。

３　新型コロナが終息するのかどうかで今後の対応が異なっていくと思うが、オンライン授業が継続されるのであれば、授業内容の変更を視野に入れ、検討していきたい。

人文学部 日本文化学科
伊藤　伸江　先生

2020年度Ｑ２　「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名　和歌文学研究
授業コード　24C28-001
教員名　伊藤　伸江
教員コード　103266
登録人数　72
回答数　42
回答率　58.3%
休講回数　0 回
補講回数　0 回



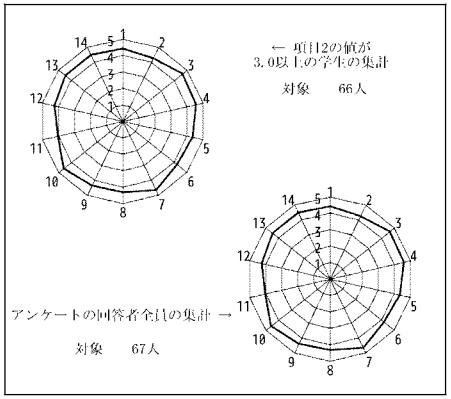
授業評価結果を踏まえた点検・評価

この授業は、鎌倉時代までの和歌を集めた百人一首から和歌を選び、時代ごとの和歌の様相や特徴ある技法を学ぶことで、学生が日本の詩歌の歴史に触れ、そこから日本文化のあり方を考察し、自らの言葉で表現することができるようにすることを目標に置いた。15回の講義では、定型を守りながら多くの内容を盛り込むために、いかなる技法が発展してきたかを説明し、歌どうしを比較対照して見せた。それにより、学生は、講義受講前と比べ、的確に和歌を分析する視点を得られたようである。さらに、オンライン講義であるため、予め置いておく資料は、わかりやすいように、非常に注意を払って作成した。加えて、口頭での説明で、資料の要点を無駄なく伝えられるように、説明内容に関しても、伝え方を吟味して、常に意識しつつ述べていくようにした。そして、うまく伝わったかを、学生たちのリアクションペーパーを読むことで検証した。リアクションペーパーは、理解したことがわかる書きぶりであり、さらに質問も多く伝えてくれ、必要なものについては、次の回でさらに説明して理解させることができた。現実に学生集団の前での講義の形ではない新たな形式でやった手応えとして、知識の伝達はなしえ、考察を共有することも、リアクションペーパーによってできたと感じている。見えない学生を意識しての語りかけは、相手の反応が目で見えないぶん内容勝負なので、オンライン講義となったことで、改めて講義の仕方をさらに練ることができ、有益であった。

人文学部 日本文化学科
佐藤　綾佳　先生

2020年度Ｑ２　「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名　女性と近現代文学
授業コード　24C38-001
教員名　佐藤　綾佳
教員コード　104258
登録人数　116
回答数　67
回答率　57.8%
休講回数　0 回
補講回数　0 回



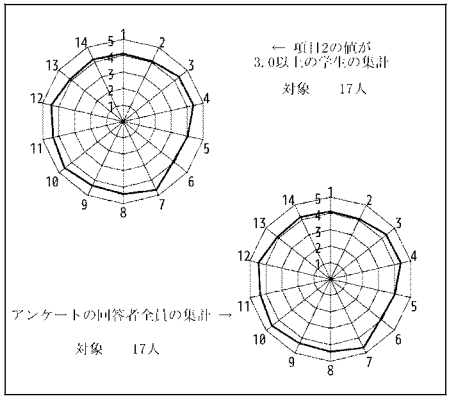
授業評価結果を踏まえた点検・評価

①本講義は文学作品を通して明治以降の女性の生き方を見た。その上で文学作品を解釈し、それを表現することや文章表現を読む力を付けることを目標とした。期末レポートにおいて講義では扱っていない作品を読解し、どのように解釈したかを論じさせた。大半の受講生が作品の時代背景を理解した上で、自分なりの解釈が出来ていたため、明治以降の女性の生き方について理解する点において目標はおおむね到達できた。
②数値データは全体的にまずまずであった。女性に着目して文学作品を読むことが新鮮、女性の生き方を文学作品を通して学べた点が面白いなど、興味を持って講義を受けてくれた学生が多かったと思われる。また、文章表現の一つ一つを細かく解釈した点が良いとのコメントもあったが、その反面、細かい解釈が意見の押しつけのように感じた学生もおり、読解力のある学生は自分なりの解釈を持った上で講義を聞いているため、どこまで解釈を伝えるかが難しいところである。
③内容が濃いにも関わらず授業時間いっぱい行う（計画では60分だったが、質問に答えているうちに90分になってしまった）、授業の速度が速いなど指摘があった。これも言いたい、あれも言いたいという思いから、学生の理解を妨げる形になってしまった結果になってしまったため、１回の講義に扱うテーマを絞ったり、作品を複数回に分けて扱ったりするなど、じっくりと時間を掛けて講義を行うように、計画し直したい。

人文学部 日本文化学科
宮地　朝子　先生

2020年度Ｑ２　「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名　言語分析B
授業コード　24C51-001
教員名　宮地　朝子
教員コード　102059
登録人数　41
回答数　17
回答率　41.5%
休講回数　0 回
補講回数　0 回



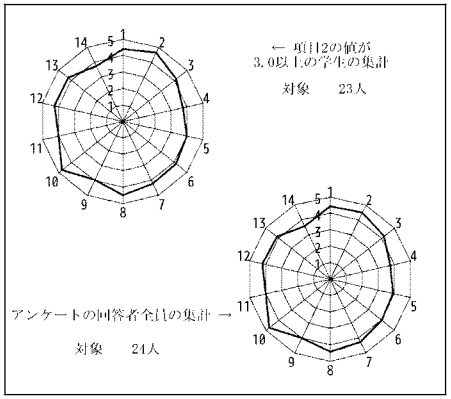
授業評価結果を踏まえた点検・評価

評価の平均値は(1)-(14)が4.29、(3)-(14)が4.32であり、いずれも昨年度比−0.5ポイント、全体の平均もやや下回る結果となった。特に、項目(1)(2)、(5)(6)で値が低かった。
本授業科目では、「日本語」を相対的にとらえ言語現象として分析課題とおもしろさを見いだすという目標を掲げ、実践的に練習問題に取り組む中で到達を促しており、昨年度まではこれが高評価を受けていた。「良かった点」として、「質問をこまめに聞いてくれた。また授業に興味を満ちやすい工夫もされてよかった」「不思議だと思う言葉の使い方について…（中略）アプローチの仕方を知ることが出来て良かった。」「とても受け入れやすい授業だった。楽しかった。」「専門的な用語がありながらも、わかりやすく「日本語」という言語について学ぶことができた。」「課題の紹介が、非常にモチベーションに繋がりました。」などがあった。方針が奏功した感想ともいえる。
一方、課題は例年同様の回数・分量を課し、90分2コマオンライン講義を行う週も設けた。「オンラインはただでさえストレスのある授業なのに縦コマで授業90分しっかりやるのは正直耐えられなかった」「少し課題が多かった気がします。」などのコメントがあった。例年の方法と内容の維持を目指すあまり、オンライン開講下での受講生の負担に対する配慮が不十分であったと思う。猛省したい。

人文学部 日本文化学科
永澤　済　先生

2020年度Ｑ２　「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名　日本語研究史
授業コード　24C57-001
教員名　永澤　済
教員コード　103687
登録人数　45
回答数　24
回答率　53.3%
休講回数　0 回
補講回数　0 回



授業評価結果を踏まえた点検・評価

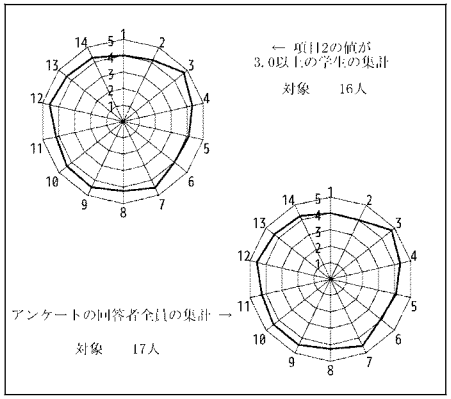
(1) 数回の課題および最終テスト（記述レポート）の結果から判断して、上位２割の学生は目標に対して100%の到達度であった。その他の学生の大半も目標の70%程度に到達した（日本語（史）を客観視する力を習得）ものの、授業の最終目標である「研究史」の十分な理解に至っていない点に課題が残った。

(2)(3) 自由記述欄の、良い／改善すべき点の回答を見ると、授業や課題への解説を「丁寧」と好意的に捉えた学生がいる一方で、自習スライド（音声付）や課題の量・スタイル・難易度に不満をもつ学生の声が少なくない。この結果を、教員としては次のように解釈している。解説や課題の意図をよく理解できた学生にとっては「丁寧」と映ったのに対し、そうでない学生には、教材過多で意欲をそがれたり冗長に感じたりしたのであろう。これは、数値データの結果もおそらく同じで、内容を深く理解した学生は好意的に捉えている一方で、理解に至らなかった学生は非常に不満を感じているとみられる。学生の最終成績をみると、本授業の属する「日本文化学科」の学生の目標到達度が高い傾向にあるが、これは当該分野に対するもともとの知識や関心が影響しているであろう。今後は、多様な学科専攻の学生に配慮し、それぞれに達成感を得られるよう、工夫したい。なお、ネットワークへの負荷を考慮し、音声付き自習スライドを作ってみたが、分量やダウンロードの不便さ等の点で不評だった（かえってネットワークに負荷をかけた面もあるかもしれない）ので、全てZoomでやった方がよかったかと思う。

人文学部 日本文化学科
鹿島　央　先生

2020年度Ｑ２　「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名　日本語の音声教育
授業コード　24C69-001
教員名　鹿島　央
教員コード　044164
登録人数　37
回答数　17
回答率　45.9%
休講回数　0 回
補講回数　0 回



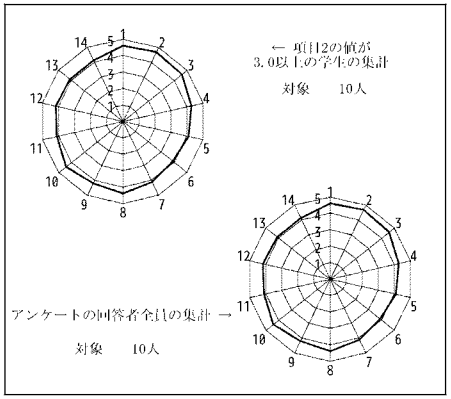
授業評価結果を踏まえた点検・評価

音声に関する授業では、受講生側の機器の精度にもよると思いますが、対面授業での音声聴取よりも聞き取りやすかったのではないかと感じました。こちらの音声にも多少難点がありましたが、比較的良い評価が得られているようです。ただ、受講生の顔も見えませんし（受講生の名前すらでていません）、反応がわからないのが一番困りました。本当にその場にいるのかさえ分からない状況でした。理解度については、復習クイズを授業前に行い順番に指名して答えてもらっていたことと、最終課題で理解度がうかがい知れるような設問も設けました。各回の授業内容は資料サーバーに授業後に挙げていましたが、これがよかったという受講生もいましたが、ここをみればいいと考える受講生もいたのではないかと思い、本当に7復習として使われていたのか疑問に思うところもありました。全般的には、双方向のコミュニケーションという点では心もとない感じでした。教員生活の最後がこのような形の授業形態となり、対面授業との違い、あるいは授業の本質を考えさせられる機会となったことはよかったと思っています。

外国語学部 英米学科
クマイ　恭子　先生

2020年度Ｑ２　「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名　英語翻訳法1
授業コード　31E23-001
教員名　クマイ　恭子
教員コード　101131
登録人数　25
回答数　10
回答率　40.0%
休講回数　0 回
補講回数　0 回



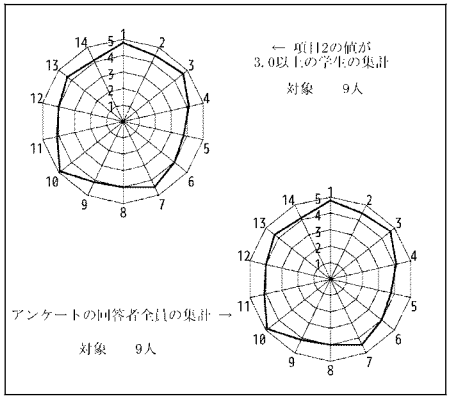
授業評価結果を踏まえた点検・評価

英語翻訳法のクラスでは、訳の巧拙よりも原文（英語）の理解の増強を主眼とした。翻訳の教材は様々な範囲のものを課したが、中でも英語を読み解くという視点から、小説の翻訳に重点を置いた。翻訳は書くことが主体なので、Webクラスには向いているのではないかと思う。内容に応じて数回ズームクラスを行った。学生からは他の学生の翻訳ももっと知りたいという声があり、第４クォーターではその点に留意してZoomクラスを増やそうと考えている。
　今回は普段と違い遠隔授業という形を取ったので、毎回の課題についてフィードバックを全体に流し、学生の名前を呼びかけるようにするなどコミュニケーションの点で配慮した。反省点としてはもう少しグループディスカッションの時間を確保することが挙げられる。全体的には翻訳とは何かを学び取ってくれたようなのでほっとしている。

外国語学部 スペイン・ラテンアメリカ学科
HOPKINS Mariella　先生

2020年度Ｑ２　「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名　スペイン語III[FS]1
授業コード　11D03-005
教員名　HOPKINS Mariella
教員コード　103653
登録人数　13
回答数　9
回答率　69.2%
休講回数　0 回
補講回数　0 回



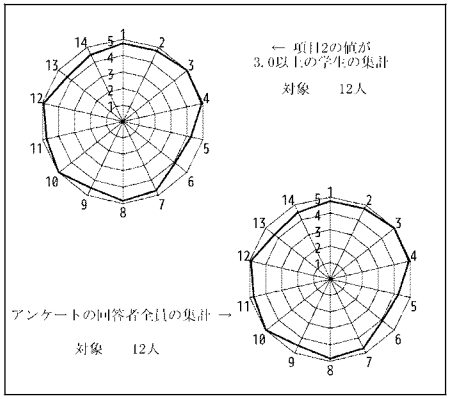
授業評価結果を踏まえた点検・評価

(1) En este segundo trimestre en vista de los acontecimientos por la pandemia originada por el COVID-19 nos vimos en la necesidad de replantear de una manera muy realista los objetivos que debian alcanzar los alumnos, sin alejarnos de la propuesta original. Teniendo como referencia estos puntos anotados anteriormente los resultados alcanzados por los alumnos han sido muy satisfactorios lo que nos hace reflexionar sobre el esfuerzo que han realizado al ser clases virtuales.
(2)En relacion a la autoevalucion del curso es muy importante mencionar que los alumnos de esta clase alcanzaron una media de nota "A" que nos permite apreciar que independientemente de las circunstancias que nos han tocado vivir el esfuerzo por parte de los estudiantes ha sido consistente. Es importante mencionar que continuaremos dando mayor enfasis a los objetivos que se deben cumplir en cada unidad y asi como tambien los objetivos de cada clase. Resaltamos que el WEBCLASS ha sido de mucha ayuda para los alumnos porque ahi señ alamos los objetivos, desarrollo y tareas que los alumnos deben resolver por cada clase.
(3)En el siguiente trimestre (Q3) reforzaremos la interaccion en las clases virtuales utilizando todas las herramientas que para tal fin nos brinda la plataforma "ZOOM" e insisteremos que los alumnos tengan mayor particpacion en las clases virtuales por medio de presentaciones, sesiones de grupo, etc..

外国語学部 フランス学科
HERGOTT, Florian 先生

2020年度Ｑ２ 「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名 フランス語ワークショップB1
授業コード 33B03-001
教員名 HERGOTT, Florian
教員コード 101725
登録人数 24
回答数 12
回答率 50.0%
休講回数 0 回
補講回数 0 回



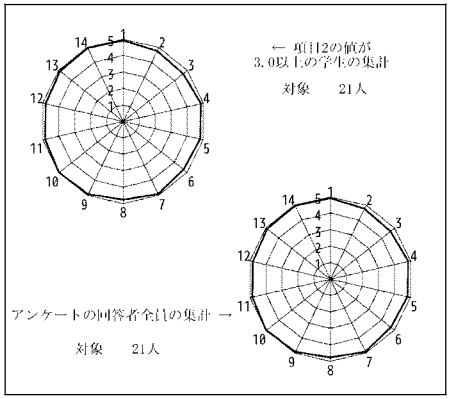
授業評価結果を踏まえた点検・評価

The lowest ratings were primarily for understanding the course objectives.
I will make sure to explain in a more understandable way the educational objectives of the activities carried out in class.

外国語学部 フランス学科
LAUTIER Fabien 先生

2020年度Ｑ２ 「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名 コミュニケーション特論A
授業コード 33C01-001
教員名 LAUTIER Fabien
教員コード 104047
登録人数 34
回答数 21
回答率 61.8%
休講回数 0 回
補講回数 0 回



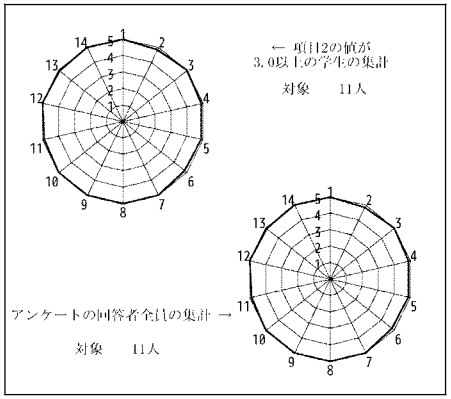
授業評価結果を踏まえた点検・評価

After watching the results of the enquiry that has been done in my class, i have been glad to read that the students enjoyed the way i taught them french and they could progress a bit along the second quarter. For me, it has been a bit difficult at the begining because of the amount of students in the class and on zoom the organization is completely different.
I could notice that games were really effective with this students even on Zoom. Therefore, i'll organize more games for the next semester.
I have one critics about the "scary" video i used, i'll be more cautious about it and telle them when it will be scary even if i thought it was the funniest part (most of the students liked the video).
In conclusion, i think the students enjoyed the way i taught them french and how i tried to help them. However, even if the students seem to enjoyed the class, there are some points i need to improve.

外国語学部 フランス学科
清水　ベアトリックス　先生

2020年度Ｑ２　「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名　フランス語実践演習B
授業コード　33C06-001
教員名　清水　ベアトリックス
教員コード　047845
登録人数　18
回答数　11
回答率　61.1%
休講回数　0 回
補講回数　0 回



授業評価結果を踏まえた点検・評価

The goal of this course was to deepen students' mastery of the written French language.
Each week, students went through 4 types of practice:
-grammar exercises
-questions regarding a document in French, including videos to motivate students' interest and make up for the loss of practice in French that they normally get when attending classes on campus.
-a short essay on a theme related to the document to express one's opinion
-a short dictation integrating vocabulary learned from the study of the document
During our weekly Zoom session, a substantial amount of time was spent reviewing and explaining major mistakes in the different exercises. Students received a personal file containing the revision of their essays and could share their questions with the instructor. The contents of the Zoom meetings, and all the answers to the different types of exercises were uploaded on WebClass. The instructor was always available by mail to answer students' problems or questions.
Reading the comments made by the students, it seems that the organization of the course and its contents met their expectations, especially the personal attention that they felt they got from the instructor.

外国語学部 アジア学科
張　静萱　先生

2020年度Ｑ２　「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名　中級中国語III会話1
授業コード　35C05-001
教員名　張　静萱
教員コード　048047
登録人数　9
回答数　3
回答率　33.3%
休講回数　0 回
補講回数　0 回

レーダーチャートなし
(回答数4件以下のため集計しない)

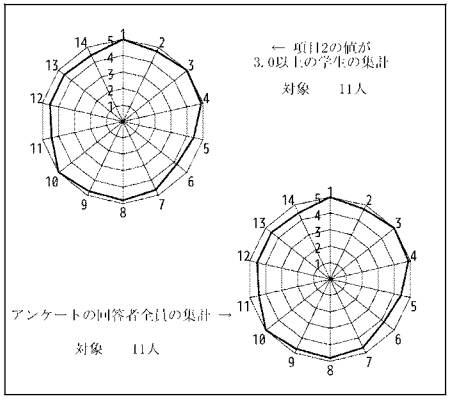
授業評価結果を踏まえた点検・評価

この授業は、中国語Ⅲ会話ということで、教科書の内容が多いため、先ず学生の皆さんに事前学習をしっかりとしていただいたうえで、授業に臨むようにと、また中国への留学経験のある、とない学生の状況に合わせ、配慮しながら、教科書で習った知識を生かした会話の練習の授業を進めてきました。アンケートを見れば、皆さんからは、けっこう高く評価され、開講当初に設定していた授業の目標におおむね到達したと思われます。
「教科書をよむことにだけ集中するのではなくて、自由に会話する時間があってよかった」などの評価されたところを今後も引き続き、努力し、さらに学生全員の学習意欲を引き出すように工夫を凝らし続けていくと同時に、学生の中国語やまたその背後にある中国文化などに対する興味がわいてくるように授業内容をもっと充実にし、受講者全員が満足度の高い、よりよい授業運営を続けて努力していく所存です。

外国語学部 アジア学科
趙　晴　先生

2020年度Ｑ２　「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名　中級中国語III会話2
授業コード 35C05-002
教員名　趙　晴
教員コード 100960
登録人数　24
回答数　11
回答率　45.8%
休講回数　0 回
補講回数　0 回



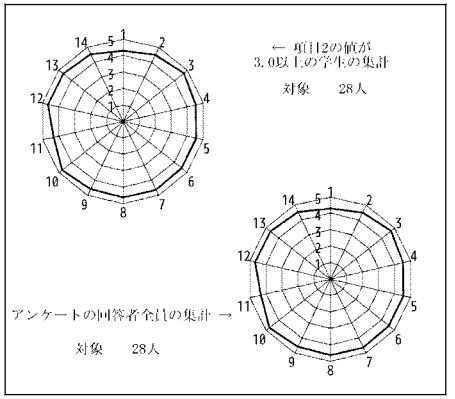
授業評価結果を踏まえた点検・評価

アンケートの結果を見る限りでは、開講当初に設定していた目標にほぼ到達したと思われます。
オンライン授業で学生たちもいろいろ不慣れな操作を克服し、よく頑張ったと思います。受講態度も真面目で、真剣に考えながら取り込んでいました。皆さんのおかげで、授業は順調に進めました。私は”真谢谢你们！”と言いたいです。
また”単語の使い方や類語まで教えて下さって、勉強になった。”や”教科書以外の用法も丁寧に説明して下さって、より実践的な中国語を知ることができた。”など評価してくれて、嬉しく思います。オンライン授業は教員にとっても初めてのことなので、不安な気持ちは学生の皆さんと同じです。学生からの評価は励みになりました。
問題点は”テキストを画面共有をしてほしい”と”もっと会話、発言する機会がほしい”という要望がありました。秋学期ではできるだけ学生の要望に応えたいと思います。
今年はたいへんな年ですが、共に支えあって乗り越えていきましょう。同学们加油！

経済学部 経済学科
西　一夫　先生

2020年度Ｑ２　「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名　データ処理入門5
授業コード 40B03-005
教員名　西　一夫
教員コード 103655
登録人数　44
回答数　28
回答率　63.6%
休講回数　0 回
補講回数　0 回



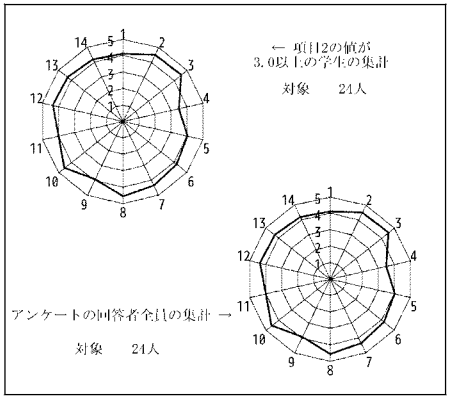
授業評価結果を踏まえた点検・評価

今回も回答学生の人数が少ないため、参考データとして評価報告を行う。
データ処理入門の到達目標として下記の点を掲げた。
『ワードとエクセルの基礎を習得し、データを分析することにより、何かを発見する力とそれをプレゼンテーションする力をつける。』
この目標に対しては、授業評価項目No５（この授業の到達目標を理解することができましたか。）においては４．５７であり、概ね達成できたと思われる。
また、No６（あなたはこの授業の到達目標に向けて力がついてきていると思いますか。）も４．５７の評価となっているため、概ね達成できたと思われる。
No８の（オンライン授業中の教員の声や音声機器の音の聞き取りについて）は評価値４．６４であったが評価２の学生が1名いることから、講義中の確認をさらに徹底していく必要がある。
自由記述において「PC（OS）の違いによってショートカットキーの操作が違うため人によっては操作できずに混乱する」という記述があるため、オンライン授業についてはiOSのショートカットも把握しておく必要性を感じた。
コロナ禍におけるオンライン授業で、学生も不便で孤独な学業を続けざるを得ないが、Q3においてもさらに学生の立場に立った講義を心掛けたい。

経済学部 経済学科
荒深　美和子　先生

2020年度Ｑ２　「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名　経済統計入門1
授業コード　40D05-001
教員名　荒深　美和子
教員コード　049353
登録人数　44
回答数　24
回答率　54.5%
休講回数　0 回
補講回数　0 回



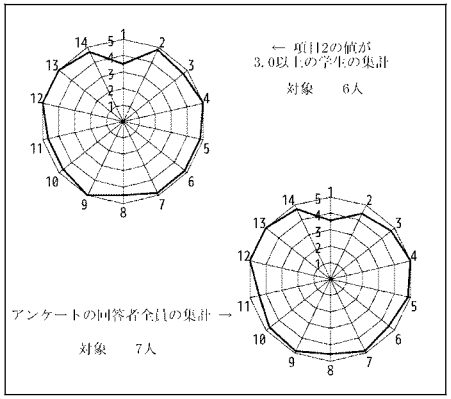
授業評価結果を踏まえた点検・評価

本科目は「統計学」をパソコンのExcel上で学んでいく入門科目である。今回、履修者44名中アンケートに回答したのは24名であり、回答率55%による結果で授業評価を行う。ここでは、各設問に対して「はい（5,4）」と「いいえ（2,1）」の割合を使って評価していく。オンライン授業であるため、授業に関する質問等がある場合は、チャットあるいはマイクのミュートを外し、いつでも授業を止めるように指示して、授業を進めるようにした。しかし、実際に学生からの質問等による中断のほとんどがチャットによるものであり、設問4の授業の進行速度が適切である54.2%、適切でない37.5%という回答結果であった。設問8では100%の学生がよく聞き取れたということなので、授業時間内に質問の機会を増やし、単元ごとに、できるだけ全員が理解できたかどうかのチェックをしていきたい。配布プリントの内容に復習しやすいように操作手順なども盛り込み、授業中に使っている教員のファイルを講義資料上に置いておくことで、自主的な学習の機会をさらに促進し、それぞれの知識が本当に身につく授業を目指したい。設問13の「新しい知識を得て理解が深まった」では87.5%、設問14の「全体として満足」では70.8%の学生がそう思うとの結果から、さらに学生が授業へ積極的に参加できる授業構成にしていきたい。

経済学部 経済学科
園田　正　先生

2020年度Ｑ２　「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名　農業経済論B
授業コード　40D53-001
教員名　園田　正
教員コード　102233
登録人数　35
回答数　7
回答率　20.0%
休講回数　0 回
補講回数　0 回



授業評価結果を踏まえた点検・評価

開講当初に設定していた目標は，①中国の農業を取り巻く問題の変遷を，経済発展と関連づけて理解できるようになる，②これまでに採用されてきた農業政策を経済学的観点から理解できるようになる，③中国と日本の農業問題の類似点，相違点について理解できるようになる，というものであった。これらの三つの点については，中国が経済発展を進める中で，農業生産体制を地主制，私有制，合作社・人民公社制，農家生産責任制と変遷させてきたこと，その中で農民がどのような生活水準にあったかを学び，中間レポートと期末レポートの成績から，相応の理解が得られたものと考える。授業評価集計とレーダーチャートから，アンケート回答者は少ないものの，設問１以外の評価は平均4.5程度以上であり，全体としての満足度も4.71であったため，良好な評価が得られていると考えられ，細かい修正点は必要かもしれないが，基本的には現在の講義方法を継続していけばよいと考える。

経済学部 経済学科
大塚　雄太　先生

2020年度Ｑ２　「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名　経済学史A
授業コード　40D66-001
教員名　大塚　雄太
教員コード　104256
登録人数　6
回答数　1
回答率　16.7%
休講回数　0 回
補講回数　0 回

レーダーチャートなし
(回答数4件以下のため集計しない)

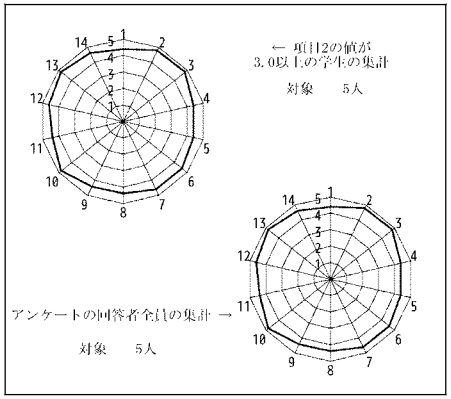
授業評価結果を踏まえた点検・評価

本講義は、経済学という学問の生成と発展の歴史を、19世紀半ばまでを対象とし、思想的・社会的背景を踏まえてたどるものであった。経済学説のみに焦点をあてるのではなく、それを成立させる思想史的展開の解説にも相当の時間を割いた。こうしたコンセプトに対する受講生の反応はきわめてよく、また優れており、講義中盤の小レポートには講義内容を吸収するのみならず、独自の視点を立て、問題を発掘し、それを展開するという姿勢が見られた。
登録者数が少なく、またコンスタントに出席する学生も限られたが、最終レポートを提出した学生のレポート内容は高い水準にある。到達目標に記した、経済学の諸類型、歴史的展開への理解は十分に達せられており、かつ現代社会を読み解く視座を獲得するという目標に関しても、古典的世界から現代社会のあり方を相対化する論点を多く引き出し得ている。他学部からの受講生もあったが、人文学との重なりを意識した内容であったため、専攻分野と経済学・社会科学との接続にも寄与しえたものと考える。アンケートは十分な回答数が得られなかったが、毎回のリアクションを見る限り、受講生は講義に積極的に参加してくれたものと思う。
学生からは個別に、本講義のオンライン形式はよかった、レジュメも文字や文章の書き方が工夫されていてとても読みやすかったとの声が寄せられたため、基本線を維持しつつ、学生からの声を定期的に取り入れ、次クォーターのなかで生かしたい。

経済学部 経済学科
森川　信子　先生

2020年度Ｑ２　「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名　時事英語A2
授業コード　40E06-002
教員名　森川　信子
教員コード　100136
登録人数　19
回答数　5
回答率　26.3%
休講回数　0 回
補講回数　0 回



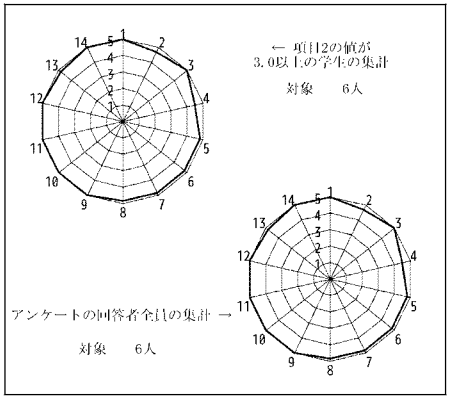
授業評価結果を踏まえた点検・評価

コロナ対応で急遽始まったオンライン授業でした。さまざまな制約がある中で最善を尽くしたつもりではいましたが、授業アンケートでは、対面授業のときとあまり変わらない結果でしたのでほっとしています。オンラインでの集中力の持続時間を考慮して、計画していた授業内容の一部を割愛したり自主学習に回したりしたことは、オンライン授業で残念だった点ですが、良かったと思う点もありました。オンライン授業への参加を能動的にすることを目的に、予習と復習にあたる課題を提出することを課していたことについてです。毎回の予習の提出は受講生にとって負担が大きすぎるかもしれないと懸念しながら始めましたが、やってみると、ほとんどの人が全回提出でき、不満も出ませんでした。予習を提出してもらうことによって、分からない人が多い箇所を正確に把握して授業で解説することができ、受講生からもよくわかって良かったという声がきかれました。またスライドも役立ったようです。次クォーターに向けて改善したい点は、評価方法です。定期試験（筆記試験）ができない場合でも、最終レポートで試験に近い評価ができるようだとわかったので、より適切な成績評価となるように修正したいと思います。

経済学部 経済学科
太田　幸治　先生

2020年度Ｑ２　「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名　経営学総論B
授業コード　40F02-001
教員名　太田　幸治
教員コード　103267
登録人数　20
回答数　6
回答率　30.0%
休講回数　0 回
補講回数　0 回



授業評価結果を踏まえた点検・評価

①開講当初に設定していた目標と到達の程度について。
　ZOOMを用いたオンライン講義であったが、当初設定していた目標を概ね到達できた。

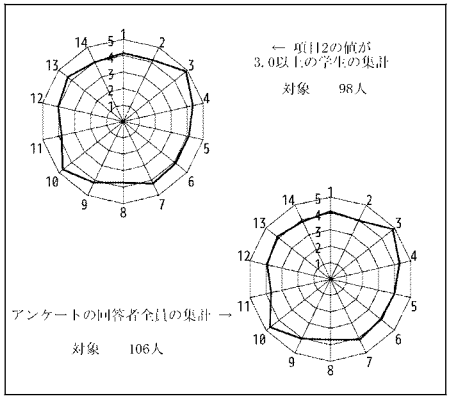
②数値データおよび自由記述等を踏まえての担当科目に関する総合的な自己点検・評価。
回答者数が少なかったが、非常に高い評価を頂いた。今年度はZOOMを用いた双方向のオンライン講義であり学生と教員、学生同士の濃厚接触ができなかった。それゆえ本講義の個性の発揮も八掛けであったと自己評価している。しかし、学生からは大会評価をいただけたことを嬉しく思う。
本講座の受講生は講義に実に協力的であった。ZOOMでも全員が顔を出してくれたし、講義中の教員からの問いかけに、学生は主体的に答えてくれた。また比較的重めの課題を多く出したが、嫌な顔をひとつせず、その課題にも取り組んでくれた。
当講座の高い評価は学生諸君の講義への協力なしには得られなかった。
教員とともに講義を盛り上げてくれた学生たちに感謝する。

③次クォーター・学期以降に向けての改善点、今後の抱負、方針など
受講生と話ししていてわかったことは、「オンライン講義の良さは自宅で受けられるゆえ、寝坊できることのみ」ということ。次年度以降は学内で対面講義がしたい。

経営学部 経営学科
斎藤　孝一　先生

2020年度Ｑ２　「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名　会計原理A
授業コード　40F16-001
教員名　斎藤　孝一
教員コード　018259
登録人数　155
回答数　106
回答率　68.4%
休講回数　0 回
補講回数　0 回



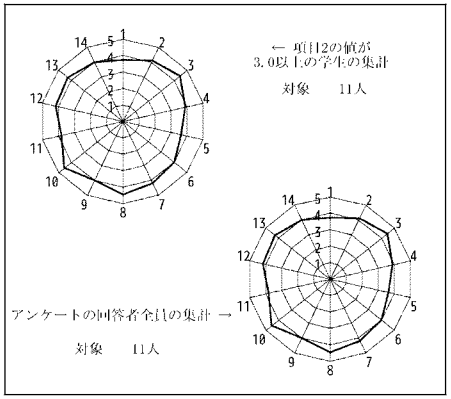
授業評価結果を踏まえた点検・評価

　本科目は、会計情報を作成するための方法である複式簿記の仕組みを中心に、貸借対照表、損益計算書、キャッシュ・フロー計算書などを取り扱った。アンケートの結果は、設問1～14の平均値が4.10、設問3～14の平均値が4.11であった。設問（4）「授業の構成や進行速度は適切であったか」の平均値は4.32であった。設問（6）「授業の達成目標に向けて力がついてきていると思うか」の平均値は3.94であった。設問（14）「全体としてこの授業に満足したか」の平均値は3.87であった。設問（12）「質問や相談の機会が十分に設けられていたか」は3.92であった。これらの中で設問（４）以外は3点台であるので、改善の余地があると考えられる。また、設問（1）「授業の内容に興味を持っていたか」に１を付けた学生が2.83%、２を付けた学生が6.60%いたことと、設問（2）「予習・復習を含め、主体的に授業に参加し、内容を理解しようとする努力をしたか」に１を付けた学生が2.83%、２を付けた学生が4.72%いたことは残念なことである。何とか会計の面白さを伝えていければと考えている。

経営学部 経営学科
岡田　昌也　先生

2020年度Ｑ２　「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名　内部監査論
授業コード　42C38-001
教員名　岡田　昌也
教員コード　101623
登録人数　36
回答数　11
回答率　30.6%
休講回数　0 回
補講回数　0 回



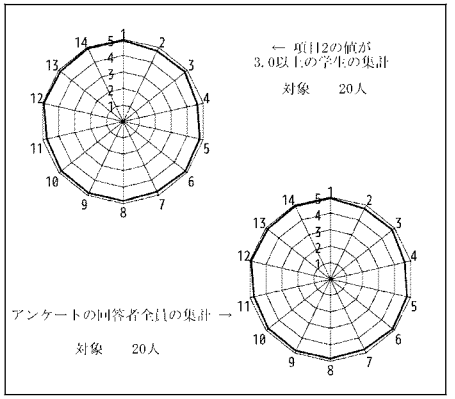
授業評価結果を踏まえた点検・評価

授業目標は、現在の内部統制の標準モデルであるCOSOモデルの理解とそれを利用した内部監査制度の理解である。もともと内部監査というのは一般的には馴染みがないため、「監査」の意味を理解し、監査の手法について説明した。
授業は初めてのオンライン授業であり、生徒の画像はOFFの状態での講義であったため、反応が全く分からず、発言を求めても誰も反応を示さない状態であった。
授業評価としては項目１から14までの平均が4.09、項目３から14までの平均が4.12であり、内部監査という全く馴染みのない科目としては、十分な結果かと思っている。
今後の改善点としては、学生からの発言が出やすい環境を作りたいが、オンライン授業がしばらく続きそうであり、工夫が必要である。特に内部監査は、明確な回答があるものではないため、理解を深めるためにもディスカッション形式が適していると思われるが、過去はあまり学生からの反応がなかったので、今後の課題として取り組みたい。

経営学部 経営学科
小澤　和弘　先生

2020年度Ｑ２　「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名　情報基礎1
授業コード　42D01-001
教員名　小澤　和弘
教員コード　103586
登録人数　50
回答数　20
回答率　40.0%
休講回数　0 回
補講回数　0 回



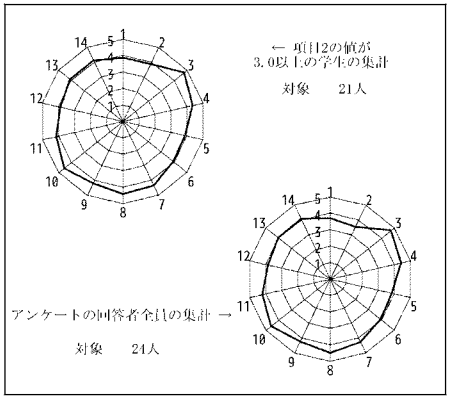
授業評価結果を踏まえた点検・評価

本授業は、情報処理機器の基本的な操作方法、文書作成、表計算処理の基本技術の習得を主な目標とし、コンピュータによるMicrosoft WordやExcelの演習を中心に授業を実施した。
学生による授業評価は、概ね高評価であり、授業目標もほぼ達成できたようである。自由記述には、「WordやExcelの基本的な操作が身につき、ためになった」「あまりExcelを使ったことがなかったが、前より確実に力が身についた」「少しずつ力をつけられるような内容になっていて、一緒に取り組んでくださるのでわかりやすかった」「生徒のペースに合わせて授業をしてくれるので理解が深まった」などのコメントがみられ、知識や技術を効果的に習得できており、授業の進行も概ね良好だったようである。
次年度においても、本年度の授業内容を踏襲しつつ、主体的にコンピュータ操作の特徴や利点をより深く理解し、実用的な技術が身につけられる授業を展開できるよう努力していきたい。

法学部 法律学科
三上　佳佑　先生

2020年度Ｑ２　「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名　法律学概論
授業コード 44A13-001
教員名　三上　佳佑
教員コード 103637
登録人数　147
回答数　24
回答率　16.3%
休講回数　0 回
補講回数　0 回



授業評価結果を踏まえた点検・評価

今回の講義は、コロナ禍に伴い、オンラインかつリアルタイム配信という極めて異例の形式で行われたため、その非常措置的性質とのかかわりで、どこまで適切な形で授業評価報告ができるか甚だ不安でもあるが、感じたことを率直に書くこととしたい。

①開講当初に設定していた目標と到達の程度に関しては、十分以上のものとなった。公法と私法の関係性、各法分野を講義担当者の専門とする公法学的問題関心から掘り下げた講義内容は、学術的にも高度なものとなったが、学生アンケートが示すように、学生の学問的関心を相当程度刺激したようである。

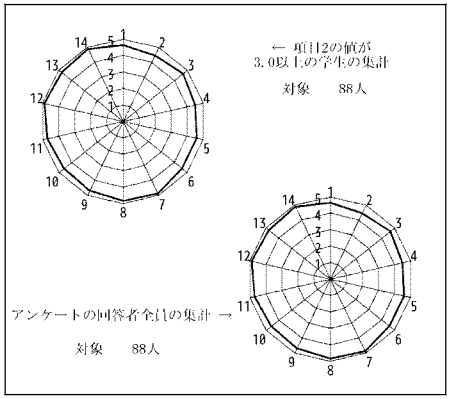
②数値データや自由記述欄を見る限り指摘できることは、授業内容に学生が満足し、オンライン形式という非常措置にも関わらず、不満度は低いということである。また、今回は非常緊急の状況につき、対面で行っていたコロナ以前のレジュメ方式で、レジュメを「画面共有」するという如何にも工夫に乏しい形で行うことになった。しかし、パワーポイント等を用い、「見易さ」の代わりに「内容の詳細高度性」を犠牲にしていなかったことが、講義のレヴェルと学生満足度の高さに却って裨益していたのは、幸運でもあり、皮肉でもあった。大いに今後の参考としたい。

③②の経験を参考とし、さしあたって、資料の見易さの改善を検討したい。

法学部 法律学科
萩野　貴史　先生

2020年度Ｑ２　「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名　刑事政策
授業コード 44B12-001
教員名　萩野　貴史
教員コード 104269
登録人数　381
回答数　88
回答率　23.1%
休講回数　0 回
補講回数　0 回



授業評価結果を踏まえた点検・評価

この授業の到達目標はシラバスに記載のとおりである。これらの目標到達度を測る小テスト等を実施したが、想定よりも平均点などが高かったことからすると、一定程度目標は達成できているのではないかと推測する。（オンライン授業という想定外の事態にもかかわらず）こうした結果になったことは偏に受講者の皆さんの集中力・努力の成果であろう。

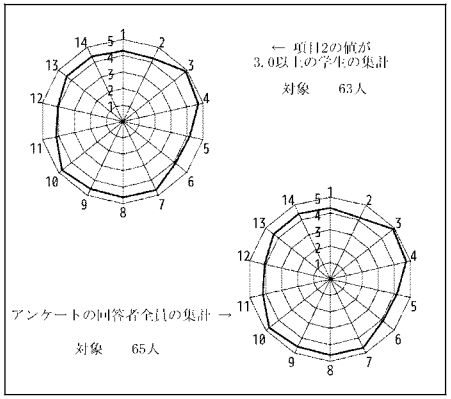
今年度は、自分にとっても初めてのオンライン授業ということで、手探り状態で進めていた点は否定できない。こうした中で、一定の評価をいただけたことはとても嬉しく思う。ただし、「担当教員が目指した試みが上手くいった」というよりは、今年度の受講者の皆さんが、積極的に授業に参加し、質問を投げかけてくれたことにより、（担当教員にとっては偶然的に）「良い授業の雰囲気となった」ことが高評価につながっているというのが自己分析である。

以上のような自己分析からすると、今年度受講者の皆さんに御礼を申し上げるとともに、今年度と同じようにやれば来年度以降もうまくいくというものではないと感じる。また、小テストの難易度を始めとして、いくつかの課題もいただいた。１つ１つなるほどと感じるものであり、改善すべき点としてしっかりと認識し、改善策を検討したい。また、アンケートに未回答の方がかなり多いので、受講者の意見の実態をよりいっそう把握するための努力も試みたいと思う。

法学部 法律学科
柴田　洋二郎　先生

2020年度Ｑ２　「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名　労働法B
授業コード　44B28-001
教員名　柴田　洋二郎
教員コード　104265
登録人数　199
回答数　65
回答率　32.7%
休講回数　0 回
補講回数　0 回



授業評価結果を踏まえた点検・評価

本講義では、以下の2点を到達目標とした。【1】労働法の基本概念や重要なルール（条文・判例法理）を理解している、【2】具体的な事例に【1】をあてはめて結論を導くことができる。これを踏まえて、講義では法制度の説明や近年の法改革にとどまらず、設例や実際の裁判例を多く用いることを心掛けた。そのうえで、成績評価課題では、事例問題および講義範囲を網羅した複数の問題（選択式）を出題した。回答をみる限り、多くの受講生がこれらの目標を達成していると感じている。

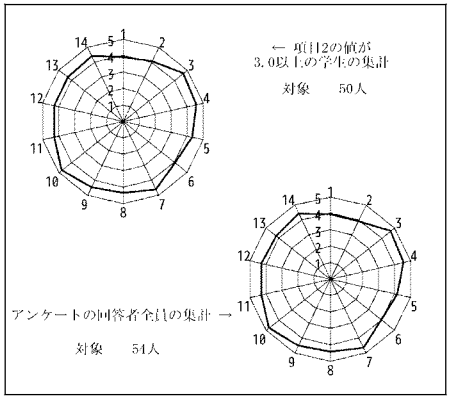
自由記述欄では、「良かった点、評価できること」に多くのコメントをいただいた。自身の励みとなるとともに、オンライン化に備えて新たに取り入れた試みについて、自分でも反応が気になっていた点をプラスに評価していただいたことは参考になった。今後も改善のうえ継続していきたい。反面、「改善したほうがよいと感じた点」「困ったこと」にいただいたコメントについては、真摯に改善を目指したい。

プラスに評価していただいた点は、維持しながらさらなる改善を目指すこと、改善すべき点として指摘された点は、自分なりに再考し、修正を加えることが、今後の抱負・方針となる。

法学部 法律学科
荒木　隆人　先生

2020年度Ｑ２　「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名　政治学原論B
授業コード　44B41-001
教員名　荒木　隆人
教員コード　103862
登録人数　237
回答数　54
回答率　22.8%
休講回数　0 回
補講回数　0 回



授業評価結果を踏まえた点検・評価

①開講当初に設定していた目標と到達の程度について

本講義の到達目標としては、現代の政治学の主要な課題である一国家内の多文化共存についての方策を学ぶことであり、具体的にはカナダ、オーストラリア、イギリスの多文化主義やカナダ・ケベック州での間文化主義について、それぞれの理念と政策を理解できるようになることであったが、受講者の定期試験の採点結果から判断すれば、おおむね上記の目標を達成できていると言える。

②数値データおよび自由記述等を踏まえての担当科目に関する総合的な自己点検・評価。

授業全体についての平均値は4.41であり、自由記述ではゆっくり丁寧な説明でわかりやすかったとの回答があり、受講生はおおむね本講義に満足を感じているように思われる。

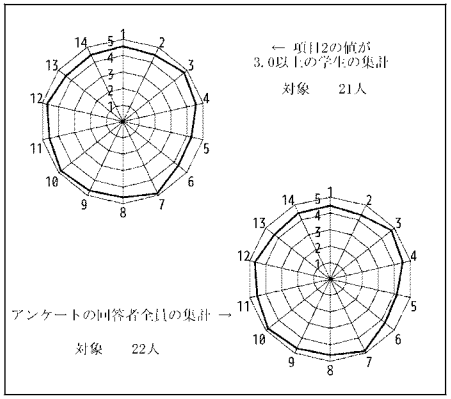
③次クォーター・学期以降に向けての改善点、今後の抱負、方針

本講義は、ZOOMによるオンライン授業であったが、ネット環境により音声が途切れ途切れになることがあったとの自由記述による回答もあったので、次回オンラインになる場合何らかの改善ができないかと思っている。

法学部 法律学科
尋木　真也　先生

2020年度Ｑ２　「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名　国際法各論B
授業コード　44C10-001
教員名　尋木　真也
教員コード　104091
登録人数　87
回答数　22
回答率　25.3%
休講回数　0 回
補講回数　0 回



授業評価結果を踏まえた点検・評価

オンライン授業で教員側に不手際があるなかで、忍耐強くご協力いただいた学生のみなさんに、感謝申し上げます。今学期は、授業の約半分を新型コロナウイルス対策に関する国際法の講義に充てたため、学生の了承を得たうえで、シラバスの内容を大きく変更しました。他方で、この授業の到達目標は、実践性と日本の対外政策を主軸としていたため、現在進行形の問題を多く取り上げることで、目標は一応達成できたと思っています。

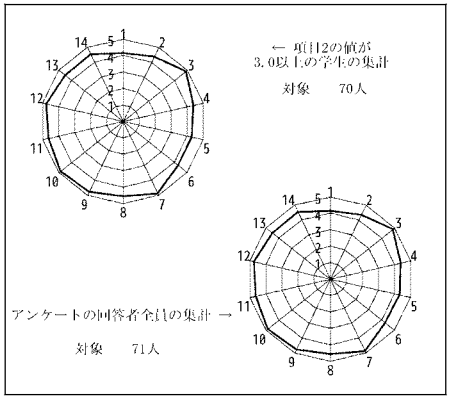
形式面については、学生からチャット等で不備を指摘していただき、改善を重ねた結果、評価としては肯定的な回答をいただくことができました。内容面については、身近なテーマに関心をもてたとの自由記述がある一方で、数値的には15%ほどの学生の評価が５段階の3でした。

この結果をもとに、より多くの学生に満足してもらうため、テーマの選定や論点の適切な整理、教材（レジュメ、資料、パワーポイント、動画等）の改善等に、一層努めていきます。また、今回のコロナ禍のもとでの経験を活かし、ICTを活用しつつ、自主性を尊重した課題提示なども心がけていきたいと思います。

法学部 法律学科
大原　寛史　先生

2020年度Ｑ２　「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名　債権法総論
授業コード　44C12-001
教員名　大原　寛史
教員コード　104297
登録人数　269
回答数　71
回答率　26.4%
休講回数　0 回
補講回数　0 回



授業評価結果を踏まえた点検・評価

本アンケートに対して真摯に検討し、回答および個別コメントをよせてくれた受講生に感謝している。こういった受講生の積極的な関与のおかげで、講義内容を反省し、次の講義において改善に取り組むことができる。

①については、一定程度達成できたと感じている。もっとも、講義においては重要ポイントについて丁寧な説明を心がけたために、講義時間の関係上、受講生の自学自習に委ねたものも存在した。

②についても、ある程度の評価が得られたと感じている。肯定的なコメントについては、受講生が好意的に受け容れてくれたからこその評価と思えるものがほとんどであったと考える。甘えることなく、よりブラッシュアップを行いたいと考えている。他方で、批判的なものについては、いずれの内容も講義および受講生へのフィードバックにおいて説明のうえ、担当者自身も配慮しながら受講生に理解を求めた内容であったが、担当者の能力が及ばず、理解が得られなかったと反省している。

③については、担当者自身が今後本学で非常勤講師を担当することがあれば、受講生のコメントを真摯に受け止め、よりよい講義としていけるように精進したい。課題は多いが、とりわけ講義資料の分量の削減（オンラインでのリアルタイム型講義のため、できるかぎり詳細な資料を作成していたが、よりスマートなまとめ方が求められる）および講義時間配分マネジメントの再検討に取り組みたい。

総合政策学部 総合政策学科
澁谷　英樹　先生

2020年度Ｑ２　「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名　数量的アプローチ1
授業コード　46E07-001
教員名　澁谷　英樹
教員コード　151974
登録人数　10
回答数　2
回答率　20.0%
休講回数　0 回
補講回数　0 回

レーダーチャートなし
(回答数4件以下のため集計しない)

授業評価結果を踏まえた点検・評価

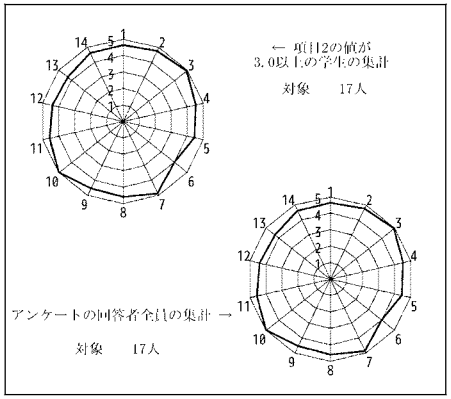
本講義はおおむね開講当初に予定していた内容に沿って進行することができた。もちろん、新型コロナウイルス感染症の影響により大きな影響を受けたため、軌道修正を行わざるをえなかった。特に、コンピューターを取り扱えるレベルに差があるため、その対応により多くの時間を割いた。それでもなお、最終的には機械学習・テキストマイニングを含めた先端的な内容を取り扱うことができ、学生からのレポートも受け取ることができたため、目標としていた授業レベルには達することができたといえる。

授業アンケートについては授業中にも周知を行ったものの、回答者は２人にすぎなかった。これは、受講・レポート提出・アンケート回答を全てオンラインで完結するには私が大学内のシステムを完全に把握していなかったことによる。回答ではいずれの回答者からも高評価を受けたものの、私としては学生の質問に対応するための時間の配分が不安定になったり、授業の進捗が不安定になったりする影響があったと自覚している。本講義はプログラミングを利用して挑戦的な分析を試みたが、もう少し学生に工夫を求める余地を増やすべきである。また、学生からの需要次第ではあるが、将来を見越せばRではなくPythonによる授業に変えてもよいかもしれない。

国際教養学部 国際教養学科
GIBBON, Benhanan　先生

2020年度Ｑ２　「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名　GLS English II7
授業コード　48A06-007
教員名　GIBBON, Benhanan
教員コード　104318
登録人数　20
回答数　17
回答率　85.0%
休講回数　0 回
補講回数　0 回



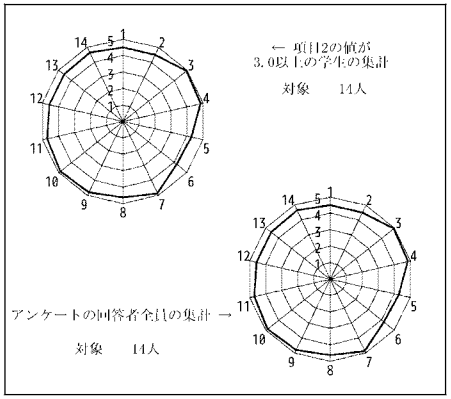
授業評価結果を踏まえた点検・評価

(1) I informed my students at the start of the course that their goals were to:
・ achieve a higher level of oral proficiency in academic contexts; [I believe they have successfully acquired useful phrases/expressions that have raised their oral proficiency] ・ acquire additional strategies to enable coherent and rational self-expression with appropriate discourse; [I believe they have definitely practiced this skill and have demonstrated increased competency during class]
(2) I was pleased to see that my scores were decent. I particularly value that the question relating to sincerity and seriousness of attitude of the teacher in charge scored 4.88. My knowledge, attitude and awareness of the emotional and social aspects of learning perhaps helped this score. Equally, I was surprised about my lowest score of 4.0 concerning students' estimation of gaining strengths toward the goals of the class. In the future, I must reinforce and reassure students of their good progress mid-course.
(3) It seems that I must design a more reactionary criteria and scoring system whereby students can receive instantaneous feedback of their skill gains, during the course, opposed to simple releasing marks at the end of the quarter. I will achieve this with the use of peer-to-peer rubric feedback tasks which will allow students to collect comments on performance at more regular intervals.

共通教育 仏語
NISHINO, Aurelie　先生

2020年度Ｑ２　「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名　フランス語IV[FF]3
授業コード　11B04-006
教員名　NISHINO, Aurelie
教員コード　103640
登録人数　23
回答数　14
回答率　60.9%
休講回数　0 回
補講回数　0 回



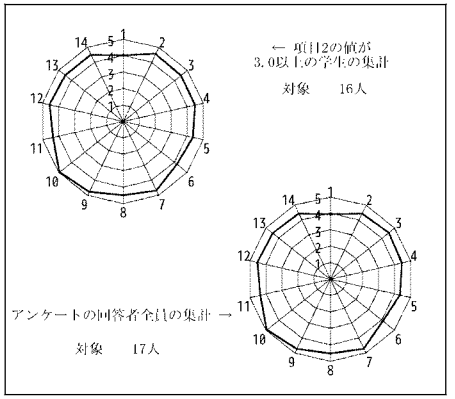
授業評価結果を踏まえた点検・評価

1. The goals were to reach level A1 at the end of the quarter 1 in speaking, listening, writing and speaking. At the end of this quarter, we globally managed to reach it. The students, in this exceptional situation, managed to stay focused and studied very hard to reach that level.
2. I though the quarter went well because the students get used to the online lesson.
3.　I will take in consideration the results and will try to explain the goal of the lesson more clearly. I will try also to make smaller groups but because of the time it takes to go through the small groups while online, it is difficult to do small groups.

共通教育 中国語
李　香善　先生

2020年度Ｑ２　「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名　中国語II＜Ｓ・全＞
授業コード　11F02-028
教員名　李　香善
教員コード　103871
登録人数　39
回答数　17
回答率　43.6%
休講回数　0 回
補講回数　0 回



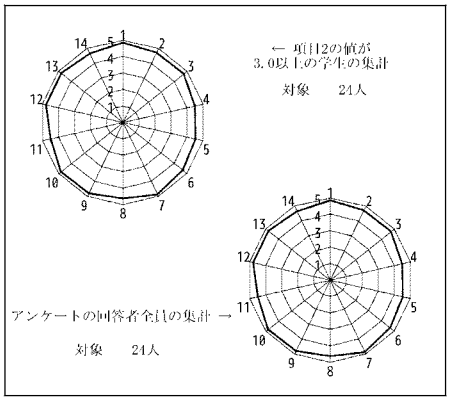
授業評価結果を踏まえた点検・評価

月曜日（5限）と木曜日の（5限）の中国語を担当していますが、個別学生を除いて、殆どの学生が課題提出やZoom授業出席に積極的でした。
Q2においては、新たな授業形式に学生も担当教員の私もだいぶ慣れてきて、Q1より授業効果が断然アップしたと思います。
Zoom授業の際は、ミュートを外し、ビデオ有りにしていますが、40人近い人数のクラスであって、一人一人の発音チェックを行う時、他の学生にやる事は提案するものの、しかしその課題に集中して取り込んでいるかどうかの確認が難しく、この解決策として、Q3においては、クラスを半分に分けて、時間をずらして20人ずつそれぞれ40分授業を行おうかと思っています。
クラスには高学年の再履修生が多いので、教員から常に出席や課題提出をしっかり出来るよう注意を促しながら、より効果的な授業を目指して頑張っていきたいと思います。

共通教育 中国語
高　文軍　先生

2020年度Ｑ２　「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名　中国語II発音・聴力1
授業コード 35A02-001
教員名　高　文軍
教員コード 100767
登録人数　35
回答数　24
回答率　68.6%
休講回数　0 回
補講回数　0 回



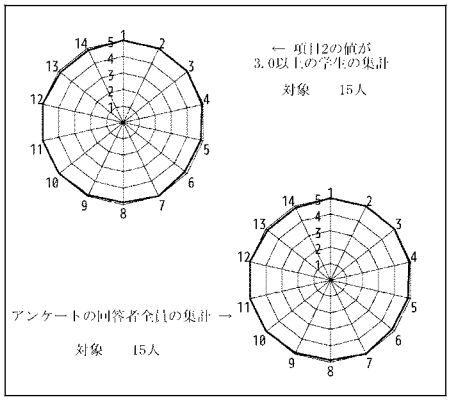
授業評価結果を踏まえた点検・評価

開講当初に設定していた目標はほぼ達成していると思えます。今年は、教員も学生も特別な状況に置かれて、いつものやり方と違う方法で対応しなければなりません。試行錯誤を経て、「オンライン授業」と「新入生」という二つの特徴を把握し、それの応対に工夫しました。具体的に、①テキストと同時に、毎回ちゃんとPPTで作った授業資料を使い、音声と文字合わせたネット教材の可視化を図って、学生には理解しやすいものでした。②PPT教材に、限られている時間内毎回復習、課題点検、新しい内容の導入と解説、練習、次回宿題指示などを取り込んで、効率よく運んできました。③語学授業なので、学生にただの受け身ではさせず、課題提出に発音の内容も課し、語学力アップにつながっている。④オンライン授業で、学生は質問があっても友人にも聞けない状況を鑑、授業後に質問応答する時間を設けって、有効な方法だと思います。総じて、今回は学生の満足度の高い授業をやり遂げたと思います。学生の自由記述をみると、「自分の発音を提出し、評価されることは今の自分の頑張りを評価されることであるのでやる気アップに繋がった。」「授業は前回の復讐から始まり、ポイントを確認してから今日の内容に移る、という構成で授業が行われていた。」「とても分かりやすく、オンラインだったが質が高かったと思えた。」「先生が熱心に中国語を教えてくださる点」など。改善点としては、合理的な時間配分です。

共通教育 中国語
梁　文　先生

2020年度Ｑ２　「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名　中級中国語I読解2
授業コード 35A09-002
教員名　梁　文
教員コード 103872
登録人数　34
回答数　15
回答率　44.1%
休講回数　0 回
補講回数　0 回



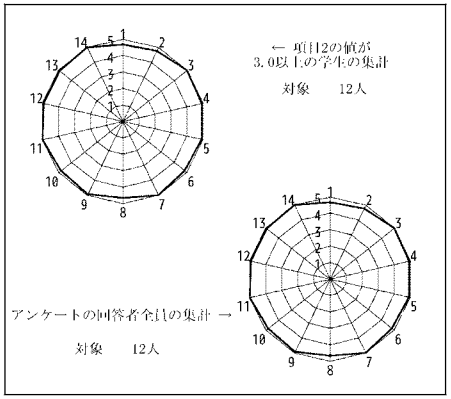
授業評価結果を踏まえた点検・評価

① 開講当初に設定している目標にほぼ到達していると考えています。オンライン授業の参加度や課題の完成度は毎回95%に達し、授業内容の理解も良好だと思います。
② 数値データおよび自由記述等を踏まえての担当科目に関する総合的な自己点検・評価について。授業評価集計は項目1から14の平均は4.94となっており、項目3から14の平均は4.93となっています。学生からの意見は以下の通りです：「先生から一対一の質問で力がつきました」、「授業の進め方が良かった」、「楽しく授業受けられました」これらは、オンラインだからできたことです。さまざまな音声や媒体を対面授業よりもオンライン授業中に自由に使えましたので、授業へ対する意欲を高めることができたと考えられます。
③ 次クォーター・学期以降に向けての改善点、今後の抱負、方針などについて、②にある学生の評価にたいし、学生から以下の意見もありました：「語学の授業なので、オンラインだと対面の時よりも分かりにくいところがありました」。この点について、もしオンライン授業が続く場合、また工夫したいと思います。

共通教育 日本語
鈴木　照　先生

2020年度Ｑ２　「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名　日本語II(読解)1
授業コード　11L09-001
教員名　鈴木　照
教員コード　103293
登録人数　17
回答数　12
回答率　70.6%
休講回数　0 回
補講回数　0 回



授業評価結果を踏まえた点検・評価

この授業では、アカデミックリテラシーとしての文章や図表などの正確な内容把握の方法を習得すること、またそのために必要な中級レベルの語句や表現の意味・用法、文法知識など習得することを目標とし、読解教材や新聞、グラフなどを用いて、語彙や表現、文法の学習をするとともに、それらの内容の読み取りや文章の要約を行った。また、理解を深めるためにグループでの話し合いも取り入れた。

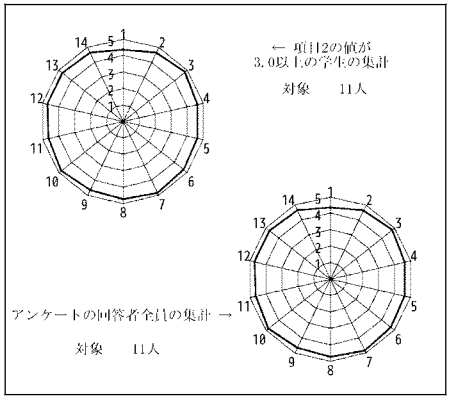
コース開始時には、慣れないオンライン授業に加え、初級とは異なる日本語学習の授業形態への対応に苦慮する様子が見られた。しかし、コース終了時には、学習した文法や語句、表現を概ね正確に使用し、文章等を理解した上で、理解した内容を自分の言葉でまとめ直すこともできるようになり、目標は概ね達成できたものと思われる。学生自身も日本語が上達したこと、理解が深まったことを実感しているようである。（設問6平均値4.83、設問13同4.92）ただ、自由記述には、試験ができなかったため上達を実感できないという声もあった。オンライン授業で個々への配慮が難しい中、授業に集中できない学生がいたことも確かである。

次学期もオンライン授業であるが、今学期の経験を踏まえ、運営方法や配付資料等を工夫しながら、学生がより興味を持って学習に取り組めるよう、授業を運営していきたい。

共通教育 日本語
蒔田　雅子　先生

2020年度Ｑ２　「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名　日本語II(表現技術A)1
授業コード　11L10-001
教員名　蒔田　雅子
教員コード　102042
登録人数　23
回答数　11
回答率　47.8%
休講回数　0 回
補講回数　2 回



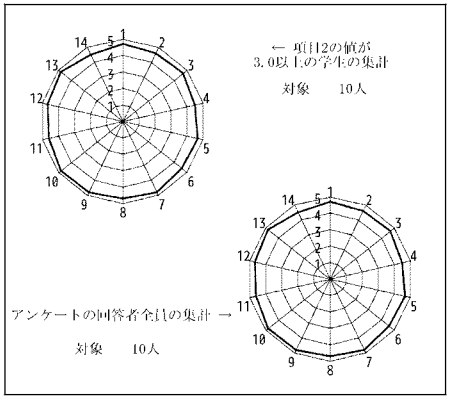
授業評価結果を踏まえた点検・評価

本科目は初級の日本語学習を終えた留学生が、社会的な問題について、論理的にわかりやすい言葉で伝える力を習得することを目指した口頭表現の授業である。そのため、図表を含む資料の読み取りや選択についての講義・演習を行い、学生が客観的な資料を読んで理解した上で適切な資料を選択し、構成を考えて自分なりの考えを述べたり、他の学生の発表を聞いて質問したり、意見を出し合ったりする活動を中心としている。
今期はオンライン授業であったため、ブレイクアウトセッションを利用した学生のディスカッションをどのように把握するかが大きな課題となった。対面授業とは異なり、教員が参加したセッションで話し合われていることしかチェックできず、全体の様子を把握することが難しかったため、どのような話し合いが行われたかをグループ、あるいは個人で報告する課題を科した。学生にとっては積極的に発言しなければならないうえに課題も多く、大変だっただろうと思うが、評価を見ると、「質問や相談の機会が十分に設けられ」、「新しい知識や能力を得て、理解が深まり」、「力がついてきている」という評価が得られたことは良かった。一方で、グループで相談しながら、資料を調べて構成を考え、発表するという練習の後の個人発表では準備時間が短かったという意見もあった。グループ発表と個人発表の配分の再考が必要であると考える。

共通教育 日本語
三輪　志保　先生

2020年度Ｑ２　「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名　日本語II(表現技術B)1
授業コード　11L11-001
教員名　三輪　志保
教員コード　103665
登録人数　17
回答数　10
回答率　58.8%
休講回数　0 回
補講回数　0 回



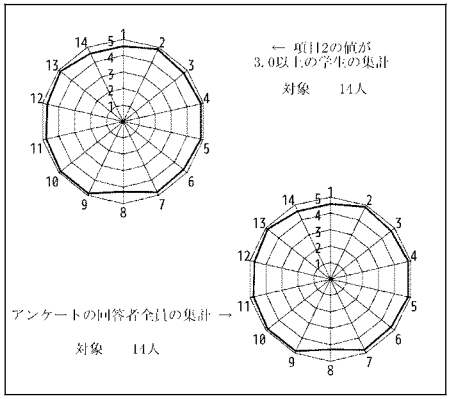
授業評価結果を踏まえた点検・評価

① この科目では、作文、レポートの基礎知識を理解し、表現したいことを正しい文で書けるようになること、また、研究計画書の作成に必要な表現や形式が身につくことを目標としていた。最終的な到達目標は、習得した基本的な表現を使用して、研究計画書を書くことだった。 ほとんどの学生が、作文、レポートの基礎知識を理解し、書きことば表現で文章を書くことができるようになった。また、最終課題である研究計画書の作成においては、必要な表現や形式の習得には学生の能力によって差があったものの、その課題に対し努力する姿勢は全員に見受けられ、当初の目標がほぼ達成できていると感じられた。ただ、研究計画書の作成に必要な表現の実質的な運用や内容に関しては、個人差が顕著に表れた。
② 学生からの授業評価平均値を見ても、全てにおいて4ポイント台後半であり、また、コメントでも、「たくさん新しいことを学ぶことができた」「書く練習ができた」「説明が非常に丁寧で詳細だった」など、学生にとって理解しやすかったというコメントがあり、授業内容に関しては評価できると言っていいと思われる。ブレイクアウト・セッションを毎回活用していたこともあり、学生同士で話し合うピアワークも理解を助けたと考えられる。
③先学期の反省点として、運用能力の個人差を極力減少させるために、全体フィードバックにかける時間を毎回確保することを挙げていた。少々授業内容が予定より遅れたこともあったが、毎回授業開始直後に復習から始めていたため、学生の理解が深まったと思われ、評価できる。しかし、個別フィードバックはオンライン授業であることもあり、十分ではなかったと思われるため、来学期はさらに、ブレイクアウトセッションを活用し、また、学生に質問できる環境（毎回授業後のコメントシートの提出など）を作り、改善を試みたい。

共通教育 日本語
牧野　由美　先生

2020年度Ｑ２　「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名　日本語III(表現技術B)1
授業コード　11L15-001
教員名　牧野　由美
教員コード　100727
登録人数　19
回答数　14
回答率　73.7%
休講回数　0 回
補講回数　0 回



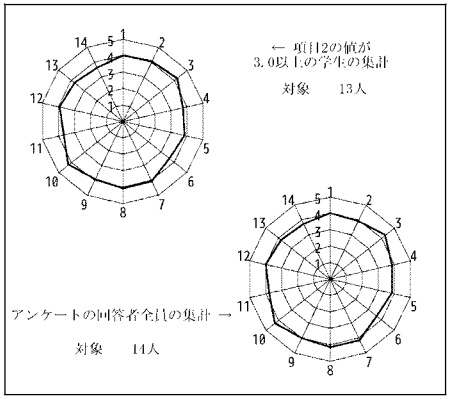
授業評価結果を踏まえた点検・評価

① 授業の目標は、レポート・論文にふさわしい文章表現および、文法的に正しい文で的確に述べたい内容を表現できる文章力の習得であった。オンラインでは、授業中に作成した短文をその場で直すという教室活動ができなかったため、提出されたものを添削したのちの時間をおいてのフィードバックとなってしまい、文法的正確さの指導では課題が残った。しかし、多くの文型・表現練習と作文課題を通じで、基本的なレポートの形式・表現・文型等を用いてレポートを仕上げることができるようになり、受講生の多くが目標とするレベルに到達したと考えられる。
② オンラインでは、教室授業より学生の反応がわかりにくく、また時間も限られたため口頭での指導が十分に行えなかったが、その分、課題の添削および配付資料や提示資料の作成を丁寧におこなうことを心がけた。設問４、設問９などへの回答を見ると、この点について学生の満足度も高いようである。
③ 今学期のオンライン授業の経験を活かし、より学生の実力向上につながるような授業となるよう、内容の見直しを行って次学期に臨みたい。

共通教育 共通
浅野　幸治　先生

2020年度Ｑ２　「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名　宗教に見る人間の尊厳4
授業コード　10D01-004
教員名　浅野　幸治
教員コード　100779
登録人数　40
回答数　14
回答率　35.0%
休講回数　0 回
補講回数　0 回



授業評価結果を踏まえた点検・評価

学生にかなり申し訳なく思うところがある。私のほうでは学生の様子が見えないので、非常にやりにくかった。学生にとっては、まず課題図書の入手が難しかったようである。どうしてかはよく分からない。第１クォーターや第３クォーターに比べて、第２クォーターや第４クォーターの科目の教科書は、購入が不便になっているのでは、と感じている。南山大学で教科書を購入しない場合、アマゾンなどの通販で購入するよう、学期初めに学生に連絡する。次に、学生に見せようと思っていたDVDをZoomミーティングの画面共有で見せることができなかった。解決法はまだ見いだせていない。

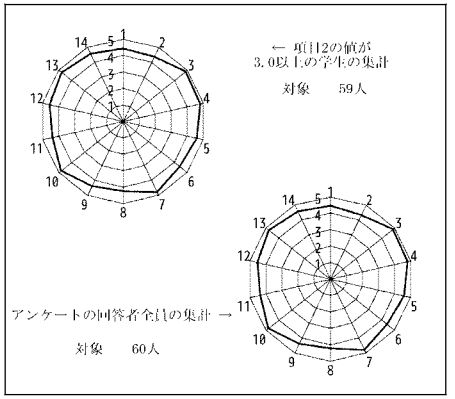
授業評価の数値はそれほど悪くないようにも思われるけれども、他の科目はもっと高い数値を出しているようなので、誠実に頑張る必要を感じている。以下が、改善計画である。

第４クォーターでは、もう少し上手に遠隔授業を行う必要がある。まず、学生に顔を見せてもらう。毎回、授業内で出席をとって、学生に参加してもらう。学生名簿を入手する。

共通教育 共通
三谷　竜彦　先生

2020年度Ｑ２　「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名　性と生命における人間の尊厳4
授業コード　10D06-004
教員名　三谷　竜彦
教員コード　102441
登録人数　116
回答数　60
回答率　51.7%
休講回数　0 回
補講回数　0 回



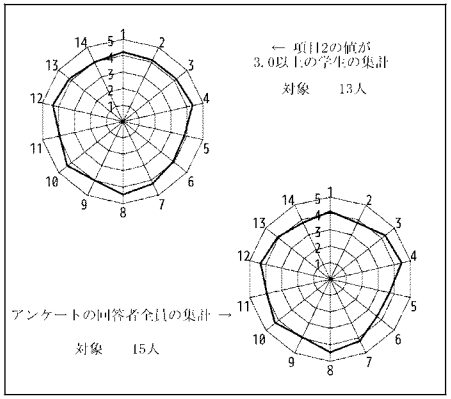
授業評価結果を踏まえた点検・評価

②受講生数は116名、回答者数は60名（回答率52%）でした。設問3～14の平均値は4.60で、「人間の尊厳」科目全体の平均（4.62）とほぼ同じでした。いつも最も重要視している設問13（「…新しい知識…」）および設問14（「全体として…」）の数字は、4.77および4.55で、やはり「人間の尊厳」科目全体の平均（4.59および4.56）とほぼ同じでした。これらのことから、①開講当初の目標はおおむね達成されており、したがって③今後も大枠的には（基本的な路線としては）今の授業の内容・方法を継続していってよいのだろうと思っています。ただし今回のような遠隔授業方式における問題点（教室内のスクリーンに流した動画の画面をPCカメラで映して見せるという方式での、動画の見にくさ・聞こえにくさ）については、何とかできるなら何とかしたいところです（現状では、私の持っているディスクを再生できるPCが、南山大学に存在ないようですし、私もそういうPCを所有していません）。この点については学生からも、改善すべきとの多くの意見をいただきました。学生からこれだけの声があるのですから、設問8および9の点数が例年よりかなり低かったことの、大きな要因だと推測されます。～～の事情でこうした動画視聴方式だということは、最初の授業の時に伝えたつもりではいますが、何度も繰り返し事情を説明すべきだったかもしれません。自分としても好き好んでこういう動画視聴方式を採ったわけではないだけに、大変悔しく、申し訳なく、思っています。

共通教育 共通
星　揚一郎　先生

2020年度Ｑ２　「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名　哲学B2
授業コード　12A02-002
教員名　星　揚一郎
教員コード　100986
登録人数　36
回答数　15
回答率　41.7%
休講回数　0 回
補講回数　0 回



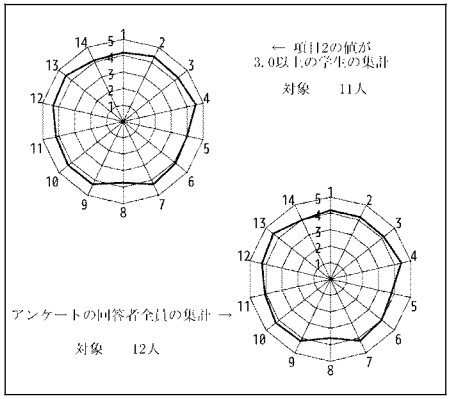
授業評価結果を踏まえた点検・評価

シラバスで予告した内容について、忠実に、オンライン授業で行いました。１時間につきA4で５枚の資料をもとに（印字した場合、学生の負担になるので５枚以上にならないようにという大学の指示による）、Zoomで授業をし、その場で、毎回、質問も丁寧に受け付けました。「教員が本当に存在するのかどうかわからない」という、遠隔授業にありがちな不満・不安のないように、毎回の授業に関して、写真付きで、関連した社会・世界情勢と哲学・思想を結びつける活きた話もいたしました。通学したことのない一年生に対して、南山大学の写真をお見せしたりもしました。意図を汲んでくださった学生は、対面授業と同等以上に満足していただけたのではないかと思います。レポート作成のルールに則って自ら哲学してみるという期末レポートでは、みなさん、十分に、思索のあとを残してくださいました。一方、きちんと授業を聴いていない方や、消費者マインドの学生は、遠隔かどうかにかかわらず一定数います。全学的、全国的な対応が必要かと存じます。Q1、Q2は、資料の作成とZoom授業で精一杯でしたが（毎回、通常の倍の授業があるためです）、Q4の大陸哲学では、より学生とコミュニケーションをとって、こちらの意図と内容が伝わるようにいたします。「哲学」の授業にパワーポイントが有効か疑問に思っています。通常の文書で十分ではないでしょうか。論理力（読み書きの力）をつけることも、哲学の授業のひとつの目標として掲げていました。

共通教育 共通
池田　洋子　先生

2020年度Ｑ２　「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名　美術B1
授業コード　12A06-001
教員名　池田　洋子
教員コード　044362
登録人数　37
回答数　12
回答率　32.4%
休講回数　0 回
補講回数　0 回



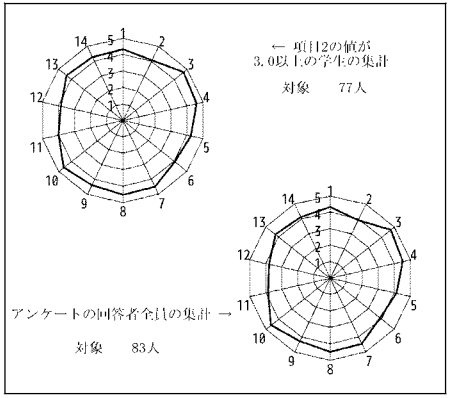
授業評価結果を踏まえた点検・評価

絵画の見方を学習し、個々の作品を理解すると同時に、日本の美術の史的展開を認識できるようにする。
毎回、作品の見方に従い全員に質問し、次第にほとんどの学生さんがその方法で描かれているものを理解できるようになり、作者ごとの違いを認識できるようになった。学生さんたちは、同じようにしか見えなかった日本絵画の違いを理解していき、絵画作品の傾向が次第に変化していっていることに気付き、絵画を通して日本美術が展開していることを認識していった。
数値データおよび自由記述等
数値データは、当初は授業内容に興味がなった学生も、毎回の授業で目標に向けて力がついてきたと感じていたことがわかった。毎回の配布プリントも役立っていたようである。「絵画の解説が理解でき、技法・特徴が理解できた」という自由記述から考えらることは、オンライン画面を一人一人が注視していたことがよく分かった。教室でスライド全員に向けて写すより今回授業形式が美術講義にはより適合していたようである。
次学期以降に向けての改善点、今後の抱負、
更に、学生さんたちに意欲を持って講義に臨んでもらうよう工夫をして、より積極的な参加ができるように改善したい。次期以降は今回同様に、全員に学習に参加していただき、理解度を増やして次のレベルの作品解釈の方法へと進んでいけるように望みたい。

共通教育 共通
大橋　真砂子　先生

2020年度Ｑ２　「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名　西洋史B1
授業コード　12B08-001
教員名　大橋　真砂子
教員コード　100233
登録人数　197
回答数　83
回答率　42.1%
休講回数　0 回
補講回数　0 回



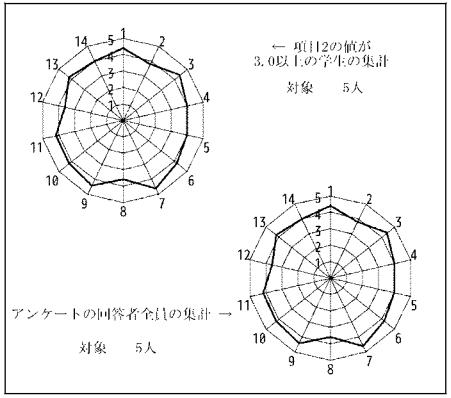
授業評価結果を踏まえた点検・評価

この授業は中世ヨーロッパにおける「王の旅」という特定のテーマについて扱い、史料をどのように読み解き、それらをどのように解釈するか、といった観点から、他の研究者たちの論考と突き合わせながら説明を進めていった。シラバスに提示した内容をほぼ扱うことができたと考えている。学生のコメントからは、若干「わかりにくい」という批判もあったが、WordとPowerPointの資料の内容および音声による説明がわかりやすい（「高校世界史を履修していなくても理解できた」など）、という好意的なコメントもそれなりに見られた。今年度は新型コロナウィルスの影響で急遽Zoomによる授業となり、担当者が不慣れなことによる影響もみられたので、今後はそうした点を改善する必要があろう。画面がPowerPoint資料のスライドのみであったことで、「集中力が続かなかった」という指摘もあった。履修者数が多い科目であるため、大学から動画の使用が制限されていたことを周知する必要があったかもしれない。

共通教育 共通
柴田　陽一　先生

2020年度Ｑ２　「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名　人文地理学2
授業コード　12B09-002
教員名　柴田　陽一
教員コード　104342
登録人数　9
回答数　5
回答率　55.6%
休講回数　0 回
補講回数　0 回



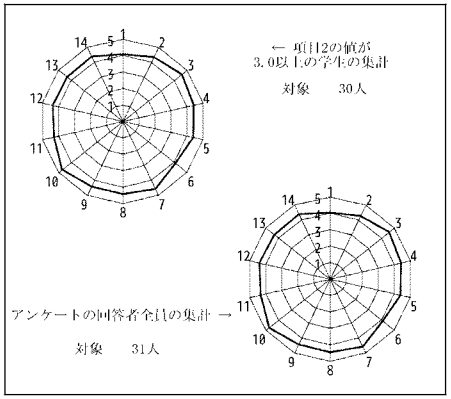
授業評価結果を踏まえた点検・評価

①これまでしたことのないZoomを使ったオンライン授業（ライブ形式）だったが、開講当初に設定していた目標をおおむね達成したと考えている。Zoomで画面共有しながら進める方が、普段の教室でパワーポイントを使った授業よりも、図・表・写真・文章のどこを説明しているのかを明確に伝えられるようである。学生が提出した課題や期末レポートを読み、そのように感じた。また、2コマ続きという時間設定のおかげで、回によって濃淡のある授業内容をスムーズに伝えることができた。②アンケートの数値データと自由記述を見ると、「例が多くあり、理解しやすい」とか「面白かった」とおおむね良い評価であるにもかかわらず、設問8・12が4.0以下で全体評価（平均値）の足を引っ張る形になっていた。設問8はオンライン授業において教員の声や音声機器の音がよく聞こえたかというものである。この授業は本務校か自宅から行っていたが、たまに（おそらく自宅の）ネット環境が不安定だったことは否めない。自由記述にも「音割れがひどくて全く聞こえないことが、何度かあった」とあり、申し訳ない思いである。設問12は質問や相談の機会、課題に対する事前・事後指導に関するものである。自由記述に「先生のやり取りがしやすかった」ともあるが、以後気をつけたいところだ。③この先もオンライン授業が続くのならば、自宅のネット環境を改善せねばならないだろう。また、質問や課題に対する指導の時間をこれまで以上に設けていきたい。

共通教育 共通
佐藤　久美　先生

2020年度Ｑ２　「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名　地誌概論2
授業コード　12B11-002
教員名　佐藤　久美
教員コード　102924
登録人数　101
回答数　31
回答率　30.7%
休講回数　0 回
補講回数　0 回



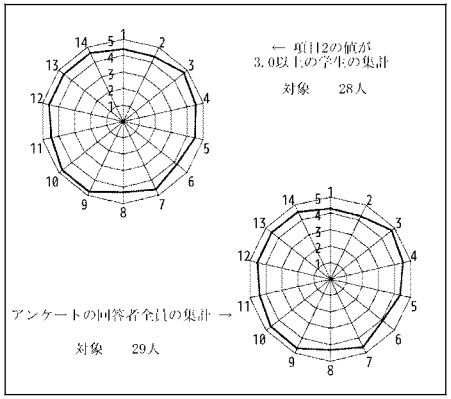
授業評価結果を踏まえた点検・評価

Zoomを利用したリアルタイムのオンライン授業は初めての講義方法であり、授業の組み立て方や手順などで戸惑いもあり、最初の方の授業では学生にも迷惑をかけたように思う。対面授業であれば教室内で、準備したDVDなどの映像を見せることができるが、オンラインでは映像を駆使することができなかったのが残念であった。それにもかかわらず、自由記述では肯定的なコメントが多かったことに安堵した。毎回の学生のレポートを読んでから次の講義内容を決めていたので、シラバスとは違ってしまた部分もあった。しかしながら、講義の内容からより深く学びたいことについて、文献等をもとに各受講生がしっかりと書いてくれていた。図書館で本を探し出して借りることが困難であるという声があったので、ネット上での文献の検索方法などについてのアドバイスを行った。出席の取り方、レポートの内容などについては、講義内で伝えていたので、きちんと授業に出ていた学生は理解していたと思われる。次のquarterでの授業では更なる工夫を行いたい。

共通教育 共通
三野　義尚　先生

2020年度Ｑ２　「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名　地球科学A1
授業コード　12D06-001
教員名　三野　義尚
教員コード　102236
登録人数　105
回答数　29
回答率　27.6%
休講回数　0 回
補講回数　0 回



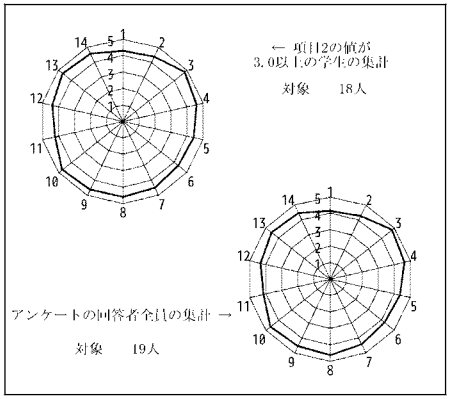
授業評価結果を踏まえた点検・評価

海洋学を通して地球環境問題の理解を深めることを目標とした。物理・化学・生物分野の基礎知識から最新の観測技術まで幅広い内容を扱い、最終的に地球環境に対する気候変化や温暖化、人間活動の影響について科学的に解説した。地球規模の大きなスケールの現象を説明するため、講義では映像資料を多用した。また授業で得た知識をアウトプットする機会として小テスト（ミニレポート）を授業毎に実施した。休講0回、補講0回であり、予定していた授業内容のほとんどを解説することができた。項目3-14の平均値は4.50で、全開講科目および基盤科目の平均を上回っていた。ただし到達目標の達成度に関する設問6のスコア（4.07）が他の設問よりも極端に低かった。今回は例年よりもミニテストの頻度をあげて「講義内容の理解度」を確認するための機会を増やしたが、昨年度よりもスコアが下がった。ミニテスト自体の点数は低くなかったので、このテスト結果から「理解できなかった」と思う学生が増えたとは考えにくい。これまでは自由筆記回答で実施していたが、今年度はオンラインのためWebClassを活用した選択回答式で行った。この違いが理解度の実感に影響したのかもしれない。次回の授業形式がどうなるかわからないが、オンラインの場合でもミニテストの形式を再考・変更する予定である。音声に関わる設問8のスコアもやや低く（4.31）、これは設問17のコメントで指摘があったように、学生さんのミュート設定を厳しく指示しなかった事が原因だと思う。次回はしっかり対処するつもりである。映像資料と講義スライドのリンクは評価されているようなので（設問15コメント）、引き続きうまく活用していきたい。また今回はオンライン授業で学生さんの顔が見えないもの、チャット・メールを介して学生さんからの意見・要望を例年にくらべて多くもらい、その対応について評価されていた（設問15コメント）。これは質問・相談に関する設問12のスコアが前回よりも高かった事と一致していた。授業形式に関わらず、今後も学生さんの意見を聞くことのできる機会を増やしていきたいと思う。

共通教育 共通
金森　大成　先生

2020年度Ｑ２　「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名　地球科学B2
授業コード　12D07-002
教員名　金森　大成
教員コード　103294
登録人数　73
回答数　19
回答率　26.0%
休講回数　0 回
補講回数　0 回



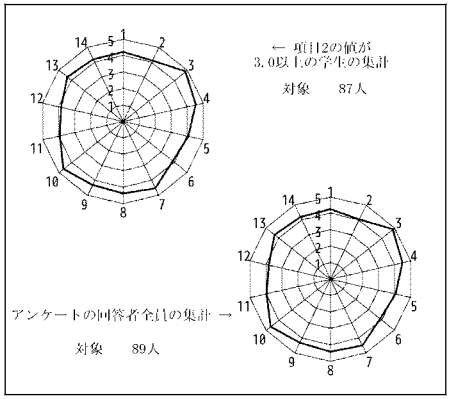
授業評価結果を踏まえた点検・評価

今年度はオンライン形式の講義に変更になったが、当初予定していた、対面形式の講義用の講義内容の修正や、講義資料の工夫などを通じ、シラバスに記載していた通りの講義目標及びその到達ができたと考えている。また、オンラインでの講義の開始前に講義資料を受講生が見れるようにしたため、インターネット環境に不具合があったり、受講するデバイスによる視聴のしづらさなどを考慮した講義ができ、受講生の理解度も深まったと考えている。このことは本アンケートの設問別の数値にも現れていると考えている。また、自由記述や設問1及び設問13,14の比較から本講義の目標設定が妥当であり、受講生も新たな知識等を身につけることができたと考えている。今後の課題等については、身近な自然環境問題や現象を本講義では扱っているが、より受講生が興味をもつ現象を積極的に入れていくことが改善点だと考えている。また、今年度はオンライン講義だったため、受講生の表情等が見えず、少し専門的な話題などでは一度の説明で理解できているかを講義中に判断することができず、繰り返し説明することがあり、そのことをもどかしく感じる受講生がいたこともあり、来年度もオンライン講義になるなら、改善する必要があると考えている。

共通教育 共通
横山　輝雄　先生

2020年度Ｑ２　「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名　科学技術論B
授業コード　12E06-001
教員名　横山　輝雄
教員コード　015149
登録人数　128
回答数　89
回答率　69.5%
休講回数　0 回
補講回数　0 回



授業評価結果を踏まえた点検・評価

1.設定していた目標と到達の程度
　クリティカルシンキングの技法のうち、自分の見解の決定については、おおむね理解されたようであるが、対立する議論の扱いについては、それに比べると十分ではなかった。

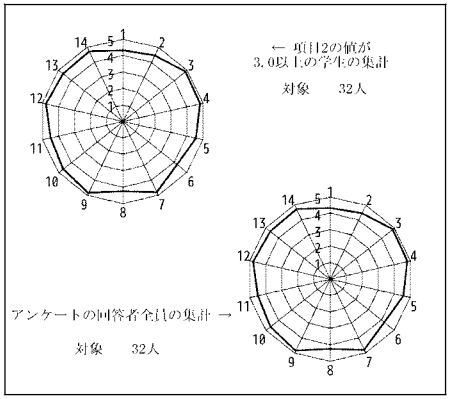
２．データ・自由記述等を踏まえた総合的自己点検・評価
　今回全１５回すべてをオンライン講義とした。一方通行的になり、これまでのような対面授業で実施してきた双方向性がなくなり、授業評価の点数が低くなるのではないかと懸念されたが、「授業評価集計」の点数でみるかぎり、４．２７－４．２９であり、低くはなっていない。自由記述でも肯定的評価が多かった。

３．今後の改善点・抱負・方針
　今回ようなオンライン型授業が今後も続くのかどうか不明であるが、通信方式の改善が必用と思われる。今回Q2に実際にやってみて、Ｑ１のときのような「自主学習」もなくなり、改善が進んではいるが、まだ一方向であり、双方向的ではない。Web Class　も利用が制限されている。他大学のように大画面を利用できるようにすることなどを含め通信機械の整備と、それに対応できるための学生の状態確保のための支援が必要であろう。

共通教育 共通
山田　幸代　先生

2020年度Ｑ２　「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名　文化の比較1
授業コード　13A01-001
教員名　山田　幸代
教員コード　101367
登録人数　77
回答数　32
回答率　41.6%
休講回数　0 回
補講回数　0 回



授業評価結果を踏まえた点検・評価

「ケルトの文化圏およびアイルランドの歴史と文化について知識を得ることでアイルランドに対する興味を引き出す」という授業目標は、達成できたと思われる。自由記述欄には「アイルランドについて映画を使って詳しく学べたことがよかった」などのコメントがあった。

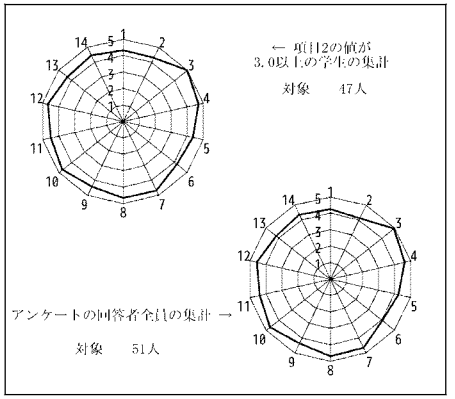
オンライン授業でも映画・ドキュメンタリ映像・音楽などの教材を視聴することには好意的な感想が寄せられていた。「アイルランドの歴史や文化について映像や映画を使い説明をしていたことで、特に歴史について理解しやすかった」、「毎回の講義で扱う内容が1年生にも理解しやすいものだったので、慣れないリモート授業でも取り組みやすかった」などのコメントがあった。

「改善すべき点」については「授業内で扱う内容が多く、一回の授業での情報量がとても多いと感じた」という意見があった。今期から急遽オンライン授業になったがこれまでの対面授業と同じ情報量を保とうと努めるあまり、詰め込みすぎたかもしれない。ただ今後は学生もオンラインの操作に慣れると思うので、個人の理解度に配慮しながら調整したいと思う。オーディオ機器について「講師の声が小さく、聞き取りづらい時があった」というコメントが数点あり、大変申し訳ないと思う。今後はマイクの音量に気をつけたい。

共通教育 共通
小沢　優子　先生

2020年度Ｑ２　「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名　芸術をめぐって3
授業コード　13A04-003
教員名　小沢　優子
教員コード　101168
登録人数　135
回答数　51
回答率　37.8%
休講回数　0 回
補講回数　0 回



授業評価結果を踏まえた点検・評価

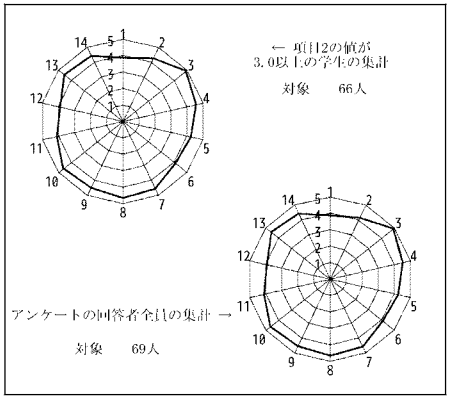
オンライン授業だったのでCD、DVD、ピアノが使えず、音楽作品を実際に聴くことなく西洋の芸術音楽の歴史を論じていったが、「音楽鑑賞をすることはできなかったが、授業後自分で音源を聴き、復習できるよう教えてくれて不便さは感じなかった」「実際に曲を聴くことはできなかったが、聴くべき曲がリストアップされ、より興味が持てた」という自由記述があり、少し安心している。また、「音楽に対する教養が身についたと感じた。面白い発見ばかりで楽しかった」「初心者でもわかりやすかった」「音楽大学でしか学ばないような音楽の専門的な知識を得ることができた」などの記述もあり、西洋の芸術音楽を歴史を通して興味深く受けとめてもらえたのではないかと思う。

アンケートの設問は、設問1～14の平均が4.44、設問3～14の平均が4.48。授業の満足度を問う設問14が4.35。全体的に昨年度よりも良い結果だったが、設問６は4.06と依然として低い。授業の到達目標に対する自覚と達成感をどのようにしたら高めることができるのかを今後も考えていきたい。

共通教育 共通
山田　亮子　先生

2020年度Ｑ２　「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名　ヨーロッパとの出会い3
授業コード　13B04-003
教員名　山田　亮子
教員コード　104283
登録人数　99
回答数　69
回答率　69.7%
休講回数　0 回
補講回数　0 回



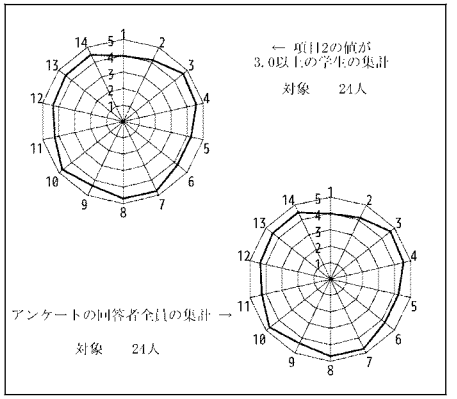
授業評価結果を踏まえた点検・評価

目標２「ＥＵが直面する諸問題について自ら考える力が身につく」は15回の授業の前半の受講で達成できる。開講中最も印象に残ったことを書いてもらったが「イギリスのＥＵ離脱」「経済格差」「難民危機」「ポピュリズム」について多くの学生が強い印象を受けていた。大半の学生がこれらの問題を期末レポートのテーマとした。総じて、ＥＵには良いイメージしかなかったが、授業を聴いてＥＵのデメリットを知り、ＥＵのイメージが変わったと論じていた。授業では単一市場の恩恵による経済発展という統合のメリットも話した。しかし「経済発展についてより具体的に知りたかった」と書いた学生がいたように、単一市場のメリットについて具体的な説明が十分ではなかった。その結果、ＥＵのデメリットを強く印象付けてしまったと感じる。デメリットの印象を強くした結果、イギリスはＥＵの貢献国だったから損をした、自由な移動で問題が生じたから離脱に至った等、マイナス思考のレポートを多く目にした。こうしたレポートには、後半に解説したヨーロッパ統合の平和への効果や理念への言及がなかったが、ＥＵの問題を受け止め、レポートのテーマとして取り組んだ学生は、ＥＵの諸問題について自ら考える力が身についたと言える。目標１「ＥＵはヨーロッパの平和と繁栄を目的とし、課題を克服しながら統合を続けていることを理解する」は、後半の受講で達成できる。期末レポートの中には、後半の受講で得られた知識も取り入れ、ＥＵのメリットとデメリットをバランスよく論じるものもあった。経済的恩恵も含め、ヨーロッパの平和と共存に貢献するＥＵ統合のプラスの面を、授業内容から自ら読み取り、前向きに論じるレポートにはＡ評価を付けた。受講生99名中Ａ評価はＡ+も含め29名になる。この数字は授業評価の設問６「到達目標に向け力がついているか」に対する集計結果で、５を選んだ割合が28.99%であることと重なる。授業の前半と後半の知識をバランスよく取り入れ、２つの目標を達成した人の割合が約29%になると考えられる。今後、この割合が100%に近づくよう授業内容を考えていく。

共通教育 共通
堀江　未央　先生

2020年度Ｑ２　「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名　異文化の理解2
授業コード　13C01-002
教員名　堀江　未央
教員コード　104284
登録人数　55
回答数　24
回答率　43.6%
休講回数　0 回
補講回数　0 回



授業評価結果を踏まえた点検・評価

①開講当初に設定していた目標と到達の程度について、おおむね到達できた。オンラインでの取り組みであったが、学生たちは協力的で、Zoomのトラブルの有無などを教えてくれスムーズに授業を進められた。対面授業よりも学生との距離はずっと近かったように感じる。毎回のコメントペーパーで音声・ビデオの品質や授業速度、授業内容についての感想や要望を出してもらい、次の授業で返答することを繰り返し、学生たちが関心を失うことなく、意欲的に授業参加している様子をうかがうことができた。

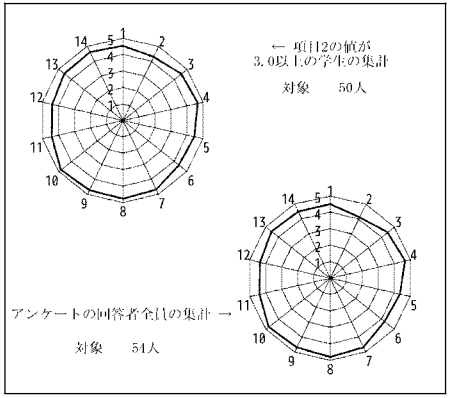
②数値データおよび自由記述等を踏まえての担当科目に関する総合的な自己点検・評価。
設問1以外のすべての項目について4以上の評価が出ており、丁寧な授業を行った甲斐があったと感じる。予習復習に関する項目4がやや低いが、本授業では学生にアクセス可能な情報の非常に少ない少数民族を取り扱っており、またオンラインで他の授業も課題過重になっていることを考慮し、事前・事後学習としての課題を課さなかった。

③次クォーター・学期以降に向けての改善点、今後の抱負、方針など
大人数の講義形式のオンライン授業を初めて経験したが、Zoomを使用すれば可能だという実感を持った。今後の改善点としては、期末レポートをもう少し授業内容と深く関連させたものにすると、学生たちの到達度もより上がったと予想できるので、そのように工夫したい。また、授業の内容がやや多いという自由記述があり、次からは改善していきたい。

共通教育 共通
山口　佐和子　先生

2020年度Ｑ２　「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名　社会の諸相2
授業コード　13C04-002
教員名　山口　佐和子
教員コード　103067
登録人数　148
回答数　54
回答率　36.5%
休講回数　0 回
補講回数　0 回



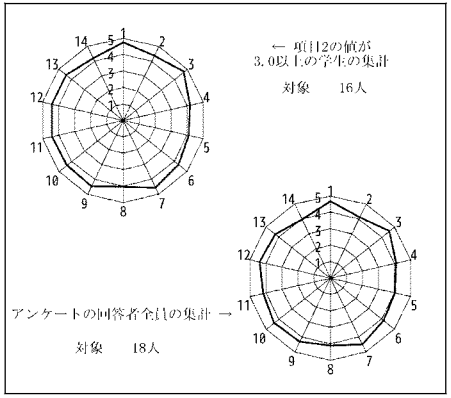
授業評価結果を踏まえた点検・評価

①「授業到達目標が理解できた（設問5）」は4.37であり、全体平均4.19を上回ることができた。「到達目標に向けて力がついてきている（設問6）」については4.26であり、これも全体平均4.10を上回ることができた。さらに、「授業を通し新しい知識を得、理解が深まった（設問13）」においては4.63であり、これもまた全体平均4.39を上回ることができた。したがって、これらの値から、大よそ当初の目標に到達できたものと判断する。
②数値データに着目すると、学生の受講態度も含めた授業の全体的評価（設問1～14）は4.51で、全体平均4.39、学際科目平均4.37、登録者数別平均4.38のすべてを上回ることができた。また、授業の運営に関する評価（設問3～14）は4.54で、これにおいても、全体平均4.43、学際科目平均4.40、登録者数別平均4.42のすべてを上回ることができた。自由記述では、「課題が適切であった」、「課題の説明が細かく丁寧で、学習を進めやすかった」、「生徒に配慮した授業の進め方だった」、「資料の情報提供や専門用語の解説集などサポートがしっかりなされていた」、「わかりやすく授業がまとめられていた」、「教科書に沿った授業で内容を理解しやすかった」、「話が上手く興味を持って講義を聴けた」など多くのポジティブなコメントが寄せられた。
③次のクォーターにおいても、学生の信頼を得、学生が社会に出てから役立つような「実践的知識の獲得」と「理論の学習」いう両輪を意識しながら講義を進めていきたい。

共通教育 共通
成田　靖子　先生

2020年度Ｑ２　「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名　自然環境と生物
授業コード　13D04-001
教員名　成田　靖子
教員コード　100250
登録人数　50
回答数　18
回答率　36.0%
休講回数　0 回
補講回数　0 回



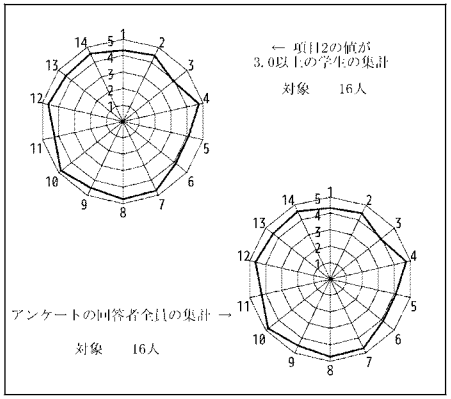
授業評価結果を踏まえた点検・評価

①開講当初に設定していた目標と到達の程度について
　シラバスでは前半を「ヒトと微生物との関わり」を扱う計画であった。その後新型肺炎ウイルスが蔓延し始めたため新型肺炎ウイルスにテーマを絞り、後半に回した。新聞やニュースで扱われるが説明不足と考える専門用語や検査などについて理解できるように授業を進めた。しかし、時間不足のため伝えたかったすべてを扱うことはできなかった。
②数値データおよび自由記述等を踏まえての担当科目に関する総合的な自己点検・評価
　質問3～14の評価は4.25であった。自分に科す授業の評価目安を4としているので、一応満たしたと考えている。授業内容の区切りのつくところで適度に休憩を挟んで授業を進めた。その都度、質問を受け付ける時間を設けたところ、他の受講生の目を意識する必要は無いからであろうか、いくつかの質問があり、学問のやりとりという貴重な経験をした。
③次クォーター以降に向けての改善点、今後の抱負、方針などについて
　質問14（授業に満足したか）に対しての数字は4を切り3.94であった。新型コロナウイルスの扱い方がやや専門的すぎたせいかもと考えている。3Qでは文理融合の観点から、更なる工夫を凝らす所存である。

共通教育 共通
成瀬　翔　先生

2020年度Ｑ２　「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名　ことばとは2
授業コード 13E02-002
教員名　成瀬　翔
教員コード 103262
登録人数 37
回答数 16
回答率 43.2%
休講回数　0 回
補講回数　0 回



授業評価結果を踏まえた点検・評価

開講当初に設定した以下の到達目標については、授業計画通りにおおむね達成できたと思われる。

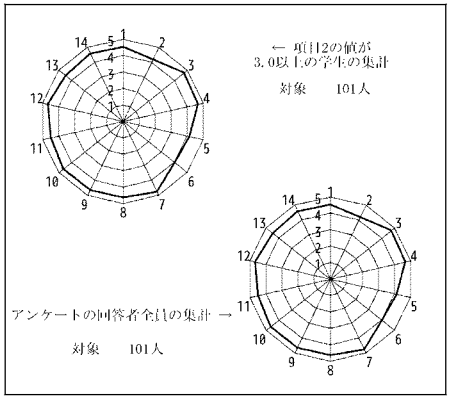
1. 19世紀末から現代にいたる哲学者たちが議論してきた言語についての哲学的議論の内容を理解することができる。
2. 人間の言語活動の多様性に対する興味関心を深めることができる。

今年度ははじめてのオンライン授業ということもあり、授業準備や資料作成などに手間取ることが多かった。そのため、学生に対する負担も少なくなかったと思われる。その一方で、興味関心をもってくれた学生もいたようで、教師としてとても喜ばしく感じている。
　今年度の反省点としては、効率的な事前事後学習の課題を提示し、より学習効果を高めていきたいと考えている。また、ディスカッションや質疑応答が不十分であったとも思われる。今後は今年度の反省を生かして、十分な質疑応答の時間を確保していきたい。また、スライドや映像資料なども工夫し、学生の興味関心を満たすような授業を行っていきたいと思う。

共通教育 共通
井上　寛雄　先生

2020年度Ｑ２　「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名　情報社会の構造1
授業コード 13E06-001
教員名　井上　寛雄
教員コード 102683
登録人数 220
回答数 101
回答率 45.9%
休講回数　0 回
補講回数　0 回



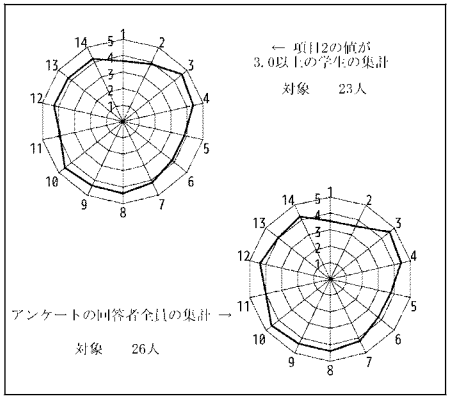
授業評価結果を踏まえた点検・評価

初めてのオンライン講義ということで開始当初は不安もあったが、結果として例年と比べても遜色のない講義ができ、学生からの評価も高く、良かったと思われる。映画を題材とした講義ということで、オンライン上で動画を使用できなければ、普段の講義が全くできなくなる可能性があったが、Q2開始までにオンライン環境を迅速に整えていただいた、大学側の尽力のおかげで、ほぼ問題なく進めることができた。講義の前半ではZOOMの使い方に習熟していないために、学生から教えられて操作を修正しなければならない場面もあったが、これも後半になるにつれて講義を円滑に進めることのできる新たな手法を取り入れる余裕も出てきた。このコロナ禍がいつまで続くかはわからないが、来年もオンラインということになれば、今回の知見を生かしさらに良いものとしたい。またこれまではあまり積極的に大学のオンラインシステム使用してこなかったが、今回学生との対応や評価をするにあたって、大きな利便性を見いだすことができたので、今後の講義のあり方を見直す機会としたい。

共通教育 共通
大野　波矢登　先生

2020年度Ｑ２　「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名　科学の諸相2
授業コード　13E08-002
教員名　大野　波矢登
教員コード　100625
登録人数　68
回答数　26
回答率　38.2%
休講回数　0 回
補講回数　0 回



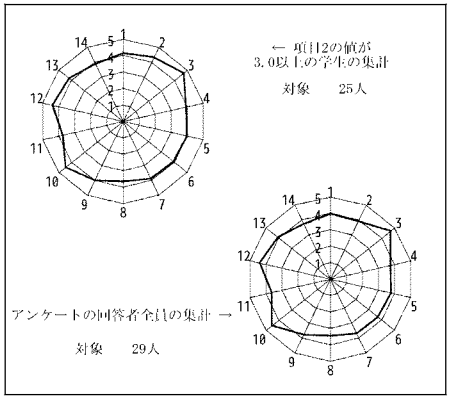
授業評価結果を踏まえた点検・評価

①この授業の目標は、西欧の科学革命期の世界観・人間観、科学と宗教の関係、科学知識と科学者の活動の特徴、科学技術が社会に及ぼした影響等を知り、近代科学の成立とその思想的背景について理解を深めることであった。目標達成度は、2回の小レポートおよび最終レポートの合計の平均が84.6点であったことから、85%程度であると思われる。
②アンケート結果については、項目番号10以外のすべての設問の値が学際科目の平均値を下回っており、全体的に改善が必要であることが分かる。特に、設問1が3.54、設問2が3.58、設問5が3.81、設問6が3.77となっており、授業の到達目標の説明、予習や復習を含めた主体的な学習を促すための指示、授業内容に対する興味の喚起といった点で取り組みが不十分であったことが分かる。そのため、受講者の側も、何をどう学習すればよいのかが分からないとか、学習の効果が実感できないといった印象を持ったのではないかと思われる。
③今後の改善点として、第一に、授業の到達目標、授業時間内および時間外に行うべきことを明確に示し、適切な指導と情報提供を行うことによって、学生が学習意欲を持ち、自主的に学習できるようにすること、そして第二に、授業での話し方や配布物の作り方を工夫することによって学生が理解しやすい授業を行うことを心がけていきたい。

共通教育 共通
鯨井　秀伸　先生

2020年度Ｑ２　「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名　博物館学B
授業コード　15M02-001
教員名　鯨井　秀伸
教員コード　103690
登録人数　50
回答数　29
回答率　58.0%
休講回数　0 回
補講回数　0 回



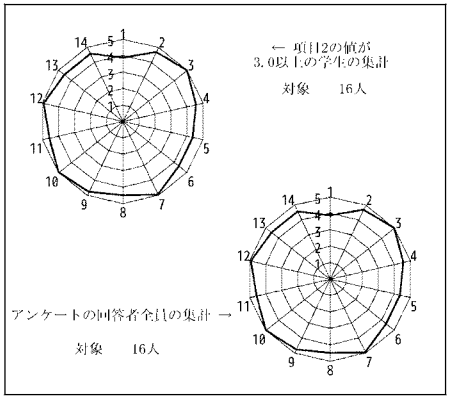
授業評価結果を踏まえた点検・評価

１．大学のガイドラインに沿って準備したが、開講当初に予定していた目標については、ほぼ達成できたと考えている。
２．当初の講義は、最初に講義資料を読んで確認してもらい、その後音声によって講義内容を説明する方法をとったが、学生の直接的質問を受けることがおろそかになったため、講義内容を学生に確認してもらったのち、チャット形式で学生の質問にできる限り答えるという方法に変更し、全授業をその方法で行った。学生の質問にはその場で直接答えることができたと思うが、音声で応答することも工夫すべきだったかもしれない。講義内容はできる限り視覚的に理解しやすいものを準備したが、ほぼ受け入れてもらえたと思うが、アンケートの内容を見ると、まだ改善の余地はあるかもしれない。
３．全体的な講義の進行方法について、チャットでの質問への回答と、音声による説明とを時間を振り分けて実施することも工夫する必要を感じた。

共通教育 共通
木幡　智子　先生

2020年度Ｑ２　「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名　情報資源組織演習II2
授業コード　15P11-002
教員名　木幡　智子
教員コード　103854
登録人数　30
回答数　16
回答率　53.3%
休講回数　0 回
補講回数　0 回



授業評価結果を踏まえた点検・評価

本来、辞書のようなツールを使いながら学生が演習を行う授業ですが、大学図書館にあり共有で使うツールであるため、今期の授業ではやり方を変更せざるを得ませんでした。ツールの使い方に重点をおき、演習を進めたため、ツールについての理解は深まったと思いますが、実際に使えるようになったのかについては判断が難しいかったです。今期の学習環境下における目標については概ね達成できたと思います。

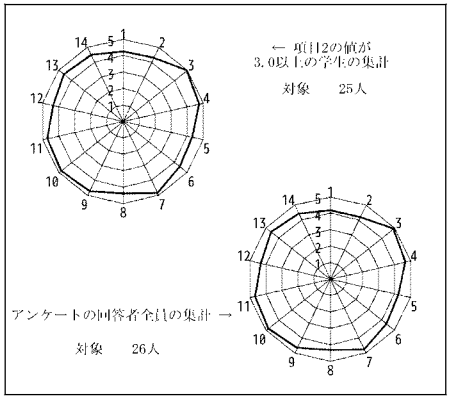
数値データでは概ねうまく授業運営できていたかと思います。WebClassの機能が充実していたことで、学生からの質問にも応えやすく、演習における個別指導も例年と変わらず行えました。自由記述では早口であることや音声の乱れについての指摘があり、気をつけるべき点であると再認識しました。

今期、ツールが使えないという、演習としては非常に大きな変更がありましたが、第１クォーターで電子的に使える代わりの教材を作成していたため、それほど不満もなく学習を進めてもらえたように思います。また、通常授業とは時間の使い方が代わり、より学生の疑問に応えられるようなやり方ができたのではないかと思います。学生の学習状況を把握し、一人ひとりの疑問を解決していけるような演習を目指していきたいと思います。

共通教育 共通
吉田　文　先生

2020年度Ｑ２　「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名　キリスト教芸術B(典礼音楽)II
授業コード　21C10-001
教員名　吉田　文
教員コード　102447
登録人数　70
回答数　26
回答率　37.1%
休講回数　1 回
補講回数　0 回



授業評価結果を踏まえた点検・評価

①
到達目標は、以下の様に設定した。
1. キリスト教典礼音楽への理解が深まっている。
設問５と６ではやや低めの平均値の結果が出たが、学生たち自身にとっても未知の分野の話が多々あったことと思うが、その為に学生の自己評価としての到達度の目安が明確でなかったことに関連しているのではないか。
設問9以降に於いては比較的良い結果となっていることから考察すると、学生による評価の結果は、おおむね授業に対して肯定的なものであると思われる。授業ごとに行っている振り返り用紙の記入事項からも、学生の授業への理解度と経験値は深まっていると考える。

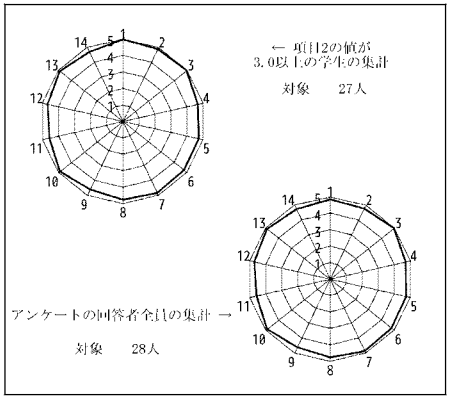
②
評価の中で比較的値の低い２の項目に関しては、シラバスに記載されているように、常に講義の内容は各自で予習復習し、また演習する作品とその他の作品も積極的に親しむようにすることとしている。特に決まった予習・復習の課題は与えていないが、学生自身が自分で検索・調査できるような手がかりを十分に与え、主体的に学びたいと思う学生は知識を深めていったようである。

③
オンライン授業の進め方に関して当初は戸惑ったが、オンラインならではの特徴を活用する方法を取り入れながら、より良い講義を構築していきたい。

共通教育 韓国朝鮮語
金　由那　先生

2020年度Ｑ２　「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名　韓国・朝鮮の言語と文化IV
授業コード　35C29-001
教員名　金　由那
教員コード　101171
登録人数　65
回答数　28
回答率　43.1%
休講回数　0 回
補講回数　0 回



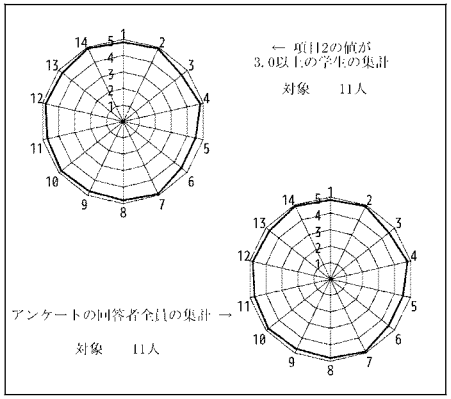
授業評価結果を踏まえた点検・評価

この授業では、バランスよく朝鮮・韓国語を学べるように、基礎文法の学習だけではなく日常会話の練習や平易な文章の講読も行なった。併せて、文化・歴史・社会事情など背景的知識を学習することにより朝鮮・韓国語世界の諸相を理解し、国際的視野の涵養を図る一歩とし、「朝鮮・韓国語に触れる」ことを目標に講義を展開した。
その結果、全体的に好意的評価をしていたように、概ね授業の目標は達成できたと考えられる。自由記述欄に、「読む資料だけではなく、動画のリンクも掲載されていたので、動画を見ることで理解が深まったと思います。また、グループセクションも活用して、オンラインだけど講義を一方的に聞くわけではなく、能動的に授業に参加することができたことも良かったです。」、「資料も見やすく、書き込みながら説明してもらえたので分かりやすかったです。」、「実際に話したこと。会話ができたこと。」などの評価があった。
今後の改善点は「全体的に課題が多すぎてこの授業も課題が多かったのでとても負担に思った。」とマイナスの記述もあった。
次学期以降の授業でも、今学期の授業方法を踏襲してもっといい授業ができるように努力を続けていきたい。

教職センター 教職センター
成田　健之介　先生

2020年度Ｑ２　「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名　社会・地歴科指導法A1
授業コード　15B45-001
教員名　成田　健之介
教員コード　101555
登録人数　20
回答数　11
回答率　55.0%
休講回数　0 回
補講回数　0 回



授業評価結果を踏まえた点検・評価

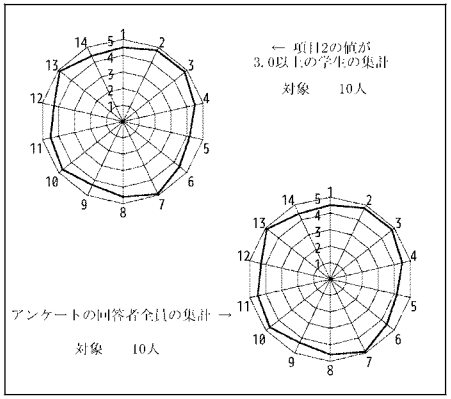
本講義は，講義や演習，模擬授業等を通して，中学校社会科・高等学校地歴科における実践的な授業力の基礎を養うことを目標にしている。前半の社会科・地歴科の学習指導要領の基本的な目標及び内容の理解や「主体的・対話的で深い学び」の理解を中心とした理論編については，Power Pointのスライドを共有した講義形式の中に，チャット機能による質問や感想の投稿によって双方向性を取り入れた。後半の，演習的要素の高い模擬授業作りの学修では，Zoomのブレイクアウトルームの機能を活用してグループでの授業案検討の機会を作った。模擬授業の演習では，履修生全員に対して学校現場におけるオンライン授業を想定した模擬授業を実施した。

数値データからは，項目1から項目14の平均が4.76，項目14「全体としての満足度」は4.91であった。今回は項目2「受講に際して、予習や復習を含め、主体的に授業に参加し，内容を理解しようとする努力」が4.91とこれまでの学生評価に比べると高い。また，項目12「質問や相談の機会が，十分に設けられていましたか，課題，実習等に対する事前・事後指導は十分でしたか」が4.82であり，自由記述からも「オンライン上でもチームで授業を作って，実際に授業をするということができていて良かった。」や「先生に質問，意見をしやすい環境を形成してくれた。」，「コミュニケーションがとりにくいオンライン授業でも，円滑に授業が進むように，指示は何度か繰り返したり，時々反応ボタンを使って反応をみていたところが良かった。」という記載があったことから，オンライン授業でのデメリットは克服できていたと考える。一方で，教育現場で実際の授業することを心配して「Q3、Q4はコロナの影響で難しいかもしれないが，可能であれば対面を希望します。」という意見も見られた。本年度は，Q3以降も基本的にはオンライン授業が継続されるが，オンライン授業の中で，学生との双方向のコミュニケーションを重視した授業運営に努めたい。

教職センター 教職センター
上野　裕章　先生

2020年度Ｑ２　「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名　国語科指導法B
授業コード　15B54-001
教員名　上野　裕章
教員コード　103859
登録人数　19
回答数　10
回答率　52.6%
休講回数　0 回
補講回数　0 回



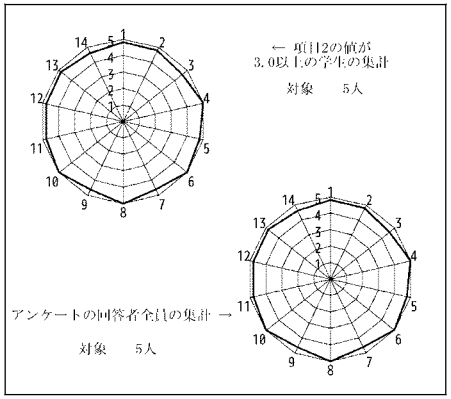
授業評価結果を踏まえた点検・評価

①当初の目標はほぼ達成できたと考える。ただ、これまで対面授業で紙資料を学生に配布していたが、オンライン授業で電子データに制限されたため、十分に資料を提供できなかった。
②数値の高いものは、問７「担当教員の授業に取り組む姿勢の誠実さ、真剣さ」が４．９０、問１３「この授業を通して、新しい知識を得たり、理解が深まった」が、４．９０であった。オンライン授業の制限の中で、学生は、気を緩めることなく真面目に授業に取り組んでくれたと感謝している。他方、数値の低いものは、問９「学生の理解度に配慮し、教科書、配布資料、視聴覚教材などを効果的に使って」が４．３０、問１２「質問や相談の機会が十分に設けられていたか」が４．３０であった。①に記したように、対面授業では配布していた資料が、電子データ化しなければならないために十分に提供できなかった。また、質疑応答や相談を受ける時間が十分に確保できなかったことを反省している。
③質疑応答や相談を受ける時間を十分に設け、教師になるにあたってのさまざま疑問を解決していきたい。

教職センター 教職センター
服部　文彦　先生

2020年度Ｑ２　「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名　商業科指導法A
授業コード　15B73-001
教員名　服部　文彦
教員コード　103205
登録人数　5
回答数　5
回答率　100.0%
休講回数　0 回
補講回数　0 回



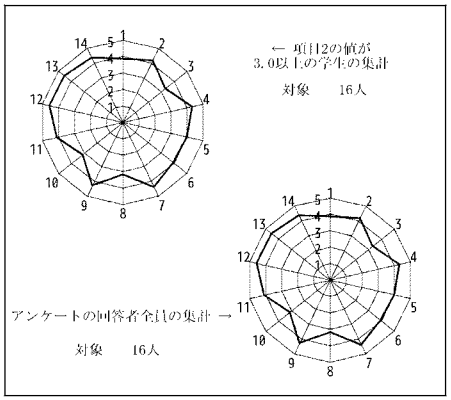
授業評価結果を踏まえた点検・評価

商業科指導法は、教職課程のため黒板の書き方等の指導もあり教員採用試験の2次対策も兼ねており、また教員として、講師として採用されても授業に関して即戦力にある指導をしているが、今回のコロナに関しての対策としてzoomでの遠隔授業により本来の授業形態が取れず教員の講義では対応できない学生が授業をしていく中で各自個別的に指導を行うことが難しい現状であった。
今回の授業形態の変化に対応して、黒板に該当する小さなホワイトボードで学生に授業をしてもらったが、中々初めはどのように相手に書くことや相手に説明することをすればいいのかが難しく学生をお互い意見を交わしながら創意工夫していった。やはり対面授業での黒板の指導に関して言えば声の大きさや笑顔等はいつも各自録音して講義室の後ろに置いて教室の最後尾を想定して教室の後ろの生徒でも聞こえる音量や話すスピードを測定していたので、今回の関しては厳しい状況ではあるが、話すスピードに関しては各自の学生の携帯電話で録音することで対応ができたが、教室の最後尾の測定ができないのが厳しい。
しかし、このような厳しい状況の中で学生は、どのようにしたら生徒にわかる説明やホワイトボードの書き方の創意工夫をしており皆で良い授業を作る努力に関して楽しく授業を展開できたので、今後の後期の授業をさらに良いものにしていきたい。

外国語教育センター 外国語教育センター
岩城　奈巳　先生

2020年度Ｑ２　「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名	英語IIオーラルコミュニケーション[B12
授業コード	11A02-009
教員名	岩城　奈巳
教員コード	049601
登録人数	21
回答数	16
回答率	76.2%
休講回数	0 回
補講回数	0 回



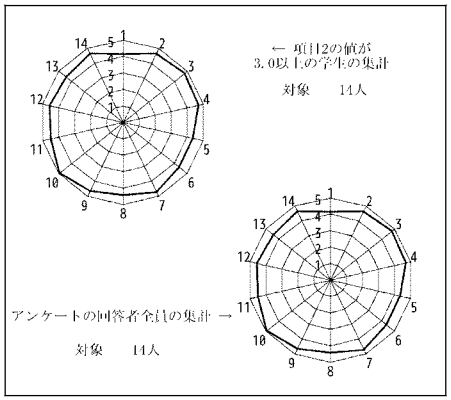
授業評価結果を踏まえた点検・評価

手探り状態で開始した新学期だがQ2に入るころには学生も（私自身も）オンライン授業に慣れ課題提出率もあがり、質問も寄せられるようになり、安心して進めていく事が出来た。顔を見て伝えることができないもどかしさはあるが、学生が懸命に課題に取り組む姿は感じることができた。毎回課題を授業日の火曜日・金曜日に出し、次の授業までに提出というルーティンを早々に根付かせたのも良かったと感じる。発音の聞き取り、リーディング、間違い探し、文章作成など多義に渡る課題に学生も柔軟に対応していた。また、ボーナスポイントとしてウェブ上のリーディング教材、洋楽のリスニング教材を取り入れ、時間がある学生はこちらも真剣に取り組んでいた。学生の反応はどのようなものか心配であったが、「知識の定着はものすごくあったと思う。ほかの授業より実践的でやりがいがあった」、「主に日常の会話に役立つ内容が多いので今後活用できると思いました」、「文法の間違い等を自分で見つける力をつけるだけでなく、新しい表現の仕方なども身につけることができた」など前向きなコメントが多く安堵した。一方、「文章で答える問題の解答例を多めに出してほしい」「動画の送信方法が難しい」など、対面ではないために生じる問題点の指摘もあった。Q3でも引き続き同じ形態で、更に工夫を加えながら実施していきたい。

外国語教育センター 外国語教育センター
HERSCHLER, Brian　先生

2020年度Ｑ２　「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名	英語IIオーラルコミュニケーション[B13
授業コード	11A02-010
教員名	HERSCHLER, Brian
教員コード	100552
登録人数	21
回答数	14
回答率	66.7%
休講回数	0 回
補講回数	0 回



授業評価結果を踏まえた点検・評価

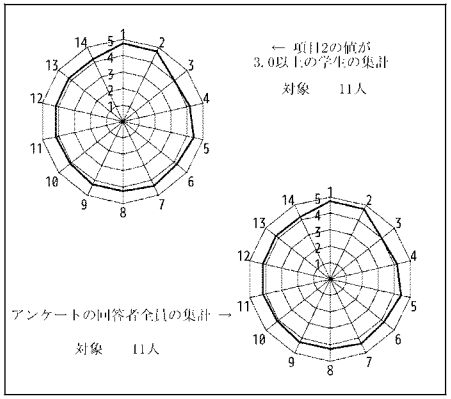
The students were highly satisfied with the class. In positive remarks, many mentioned how kind I am :) and one comment that stood out said I choose topics the students were interested in--nice to have that kind of affirming feedback. Another student was quite pleased with the listening HW I gave, commenting that they were poor at listening but could succeed. They liked how I gave them freedom to decide for themselves what to listen to and how much to do (I gave a recommended minimum). One also commented how warm the class (Zoom) atmosphere was. They felt equally treated, they said, 'regardless of individual English skills.' They were happy to have had many opportunities to talk. I guess I succeeded.

In student suggestions for improvement, one commented that they would like to have the Zoom notification/prep for class given earlier than the night before. That is very understandable. I thought that myself.

外国語教育センター 外国語教育センター
VEGEL, Anton 先生

2020年度Ｑ２ 「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名	英語IIオーラルコミュニケーション[B14
授業コード	11A02-011
教員名	VEGEL, Anton
教員コード	103503
登録人数	20
回答数	11
回答率	55.0%
休講回数	0 回
補講回数	0 回



授業評価結果を踏まえた点検・評価

1. My main goal for this semester was to make a system that could be maintained throughout the semester. Because the semester started as “emergency teaching,” I had to change a lot without wanting to sacrifice too much. I took my experience taking online classes and tried to balance my syllabus and curriculum with that. I decided to make PowerPoint videos as a lecture while actively responding to students’ needs.

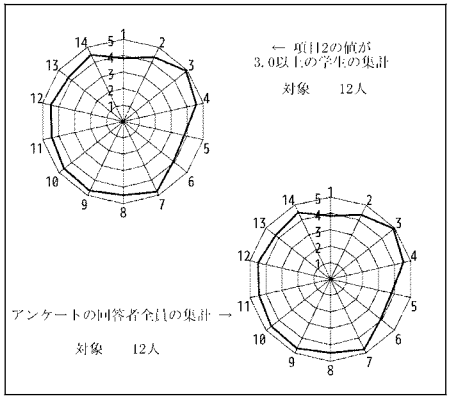
2. Based on the data, I think I am happy with the overall score distributions. The weakest answers were to Question 6 and 13 — thoughts and feelings about skill development. This is an issue I have tried to develop and address, but there is a natural problem with the time and practice necessary for skill acquisition which is exacerbated by the online methods.Students did however answer quite positively to the delivery, methods, and materials used in Question 9. This suggests that while students want to feel more like they are developing their skills, they are happy with the methods used.

3. I find it particularly difficult to address some of these issues within the continued limitations of remote learning, but I have made amendments to my Q3 syllabus. I have made submitting assignments much easier while also holding Zoom “Office Hours” to give students more opportunities to get direct feedback while balancing assignments to be more practical for remoteness.

外国語教育センター 外国語教育センター
大竹 万里 先生

2020年度Ｑ２ 「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名	英語IIオーラルコミュニケーション[B16
授業コード	11A02-013
教員名	大竹 万里
教員コード	047084
登録人数	20
回答数	12
回答率	60.0%
休講回数	0 回
補講回数	0 回



授業評価結果を踏まえた点検・評価

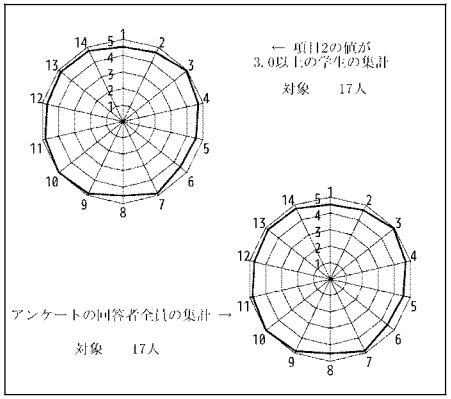
火曜日のオンライン授業では、スピーキング力を高めることを目標とし、スピーキングのストラテジーの説明とその応用に充てた。ペアまたはグループでの発話練習をおこなった。また、金曜日は自主学習日とし、リスニング力と語彙力向上を目標とした。講義資料としてディクテーション、文法等の練習問題や関連資料を提示し、自主学習が単調にならないように工夫をした。わかりやすく、取り組みやすい課題内容の設定にも心がけた。

授業評価の設問３から１４の平均数値データが４．４５、学生の授業に対する全体的な満足度については４．５０であった。記述欄のコメントに、「多すぎず、少なすぎない課題の量」、「課題の手助けとなる情報を与えてくれた点」とあり、それぞれの学生の学習環境を確認しながら課題の量の調節と課題を取り組みやすいものにするために、説明や関連情報を提供したことが評価されたと理解する。また、「学生の質問に丁寧に詳しく解説してくれた」点を挙げる複数回答があり、学生とのコミュニケーションはとれていたと考える。改善点として、「ブレイクアウトルームは２人組の方が話しやすい」ことや、「ブレークアウトセッションに接続できなくなることがあった」との授業環境の問題も指摘された。対応と準備に心したい。第３クオーターでは、火曜日、金曜日共にオンライン授業を展開し、学生の自主学習を促すべく、引き続き講義資料の工夫に取り組みたい。

外国語教育センター 外国語教育センター
佐藤　ゆかり　先生

2020年度Ｑ２　「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名　英語IIオーラルコミュニケーション[B17
授業コード　11A02-014
教員名　佐藤　ゆかり
教員コード　047605
登録人数　20
回答数　17
回答率　85.0%
休講回数　0 回
補講回数　0 回



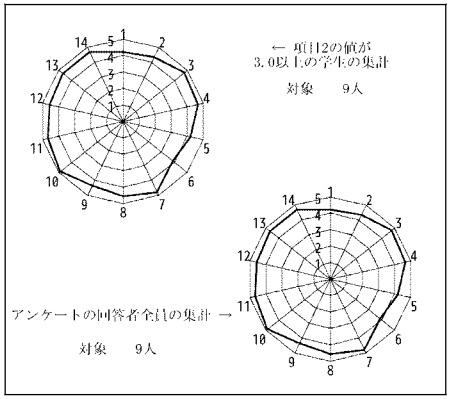
授業評価結果を踏まえた点検・評価

①オンライン授業での1年生授業なので，とにかく学生同士の接点を増やし，参加型の授業をこころがけた。また，耳できくだけでは，把握しにくい大切なことは，丁寧にパワーポイントをつくり，周知するように努力した。オンラインでありながらも，プレゼンテーションを目標にした。教室での物理的緊張が無い状態で，デリバリースキルをアップする絶好のチャンスととらえた。
②学生がおおむね各項目満足しているようで安心した。特に，オンラインにもかかわらず「身についた」「力がついた」と感じている学生が多いことは喜ばしいです。シラバスは途中で進度調整をようすることもあったが，毎回の授業でその都度アジェンダを説明出来たので，支障はすくなかった。
③飽きのこないように，またＱ１，Ｑ２とは違ったことをまた考えたい。内容に深みを持たせた上で，様々な社会トピックについて考え，知り，その上で自分の考えをまとめて発表したり，話し合ったりするような授業を計画している。

外国語教育センター 外国語教育センター
LENIHAN John　先生

2020年度Ｑ２　「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名　英語IIオーラルコミュニケーション[B18
授業コード　11A02-015
教員名　LENIHAN John
教員コード　045070
登録人数　20
回答数　9
回答率　45.0%
休講回数　0 回
補講回数　0 回



授業評価結果を踏まえた点検・評価

The class in question here has been challenged by the new world created by the lingering coronavirus but I am sure that we are all doing our part to give our students the best educational experience that we can. Though we are basically doing all activities online and it was not really possible to include all the activities that we normally would in this first-year required English class, the objectives remained the same — to improve listening and speaking skills, to further develop basic vocabulary and easy, every day idioms. we used a variety of materials, some of which I used before. Others were language-learning websites that the students mostly found interesting and challenging.

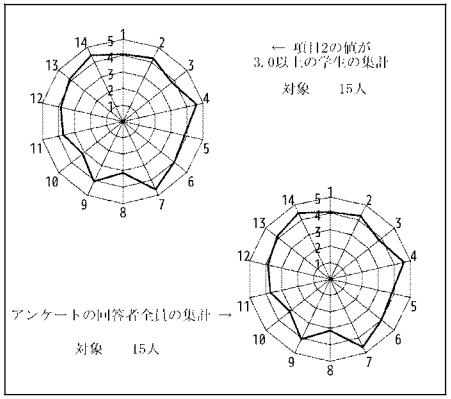
Another problem caused by the virus that was not addressed before the start of the school year was assigning the proper level to each student. This resulted in this class having a wide variety of student levels and not the low class level that we have had in years past. Thus, I would fully expect that some students think the course load is too easy while others will feel that it is too demanding. I asked the students and received all levels of responses.

We will keep the same students for next semester so we can expect to have the same problems of various levels. However, the goals for the class will remain the same and the teacher as well as the students are searching for more creative ways to meet our goals.

外国語教育センター 外国語教育センター
BINFORD, Paul 先生

2020年度Ｑ２ 「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名	英語IIオーラルコミュニケーション[B110
授業コード	11A02-017
教員名	BINFORD, Paul
教員コード	046037
登録人数	20
回答数	15
回答率	75.0%
休講回数	0 回
補講回数	0 回



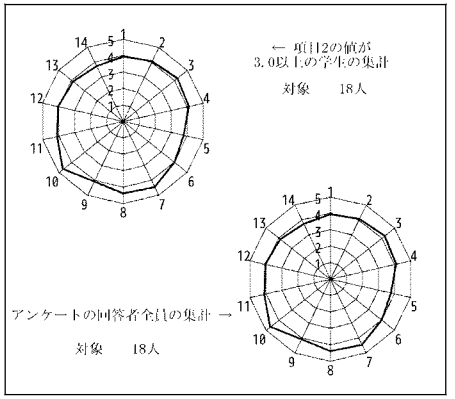
授業評価結果を踏まえた点検・評価

It was indeed an unusual quarter, not only at Nanzan but at the other schools where I work. Quarter One, working with WebClass, was a learning challenge for me, as well as for the students. By the end of Quarter One, both the students and myself had a pretty good handle on WebClass, so Quarter Two went quite a bit more smoothly. It is an Oral Communication class, which requires, in the classroom, face-to-face speaking practice. Of course, that is impossible in the online learning environment. We used a website that provides listening activities related to relevant topics by native English speakers. In Quarter Two, we also used the chat function and the students were able to communicate directly with one another, although by text rather than speaking. In Quarter Three, my intention is to use a textbook and there will be more pair practice with that, and I will introduce zoom lessons so they can more or less speak face-to-face, on a screen. According to the radar chart, the students responses were generally positive. Without an English translation of the questions, it was impossible for me to understand the questions. The responses were in the 3-5 range, so I think it went pretty well considering all the obstacles.

外国語教育センター 外国語教育センター
PALISADA Eloisa 先生

2020年度Ｑ２ 「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名	英語IIオーラルコミュニケーション[B112
授業コード	11A02-019
教員名	PALISADA Eloisa
教員コード	055830
登録人数	20
回答数	18
回答率	90.0%
休講回数	0 回
補講回数	0 回



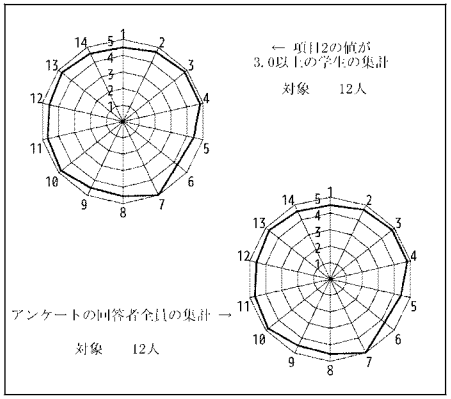
授業評価結果を踏まえた点検・評価

This course, English Oral Communication for Business freshmen majors aimed to improve their overall ability to use spoken English for communication. The online classes carried out during this pandemic crisis through a combination of real-time using Zoom platform and on-demand through WebClass were truly challenging. Despite that, it is safe to say that we have achieved to a satisfactory extent the course goal (82%). New to the use of online technology, glitches and mistakes happened but we all learned in the process. Based on the students' overall impressions they appreciated the opportunities to communicate in English among themselves and with the teacher. These have taken place mostly during Zoom meetings. They are happy their speaking skills have improved. Students were exposed to authentic, natural conversations, and listening materials. This class composition is so diverse as to their level of English. Thus, some have rated themselves low in their active participation, understanding, completion of assignments, that reduced their overall satisfaction. They valued the teacher's sincerity, kindness, seriousness in helping them understand the lesson. As a teacher, I need to consider their level of understanding, pace, and give them prompt and sufficient pre-instructions and feedback. The textbook seemed to be so easy for them so I need to device tasks appropriate for them. Moreover, I have to layout clearly the tasks they need to accomplish, how, and the time limit for submission.

外国語教育センター 外国語教育センター
高野　洋子　先生

2020年度Ｑ２　「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名　英語IIオーラルコミュニケーション[G16
授業コード　11A02-037
教員名　高野　洋子
教員コード　104147
登録人数　22
回答数　12
回答率　54.5%
休講回数　0 回
補講回数　0 回



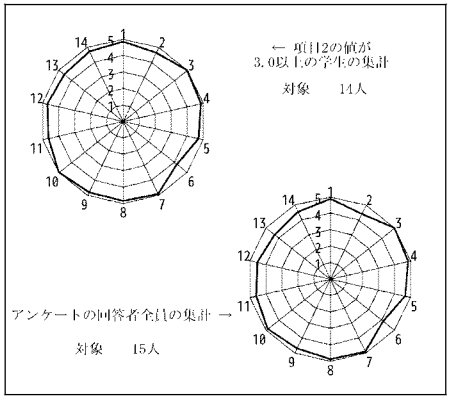
授業評価結果を踏まえた点検・評価

Remote teaching に決定になったので　TEDをみてSKILLSを伸ばすツールを使用しながら、自分の意見を英語で話す機会を増やせた。
また話し合う機会を増やすために毎週２回９０分のZOOMレッスンで指導して生徒は　話すことが得意になった　生徒の自信がついていく姿は喜びでした
　スピーチの時間をどんどん長くしていき、CRITICAL THINKINGの時間も増やしました・この結果考えることが得意になったと生徒からコメントが来ました
　後期は違う生徒を指導しますが、方針は同じなので　それぞれの生徒の特性をいかして　SKILLSを伸ばす手伝いをしていきます

外国語教育センター 外国語教育センター
GONZALEZ　DIAZ, Alejandra　Maria　先生

2020年度Ｑ２　「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名　英語IIオーラルコミュニケーション[G17
授業コード　11A02-038
教員名　GONZALEZ　DIAZ, Alejandra　Maria
教員コード　103652
登録人数　21
回答数　15
回答率　71.4%
休講回数　0 回
補講回数　0 回



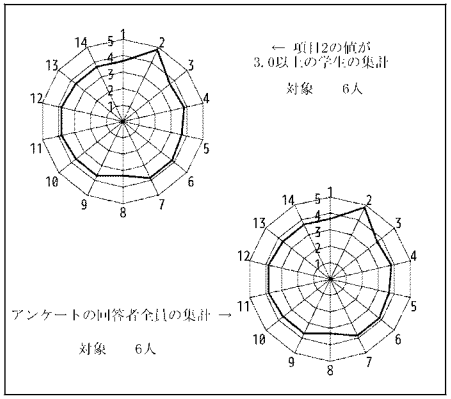
授業評価結果を踏まえた点検・評価

The goal of the class is to build up English oral communication skills in students so that they are prepared to speak in public, give presentations to different kinds of audience, and overall to strengthen their self-confidence when they express themselves orally in English. The class allows them to think critically and discuss topics with fellow students. We achieved successfully our goal as all the students lost their shyness and could express their ideas in English even if they did minor mistakes. Their progress was quite notorious and they gained self-confidence.
As it is an online oral communication class we used Zoom breakout rooms and introduced Flipgrid tasks. It was first time for them to use Flipgrid so probably some students felt it was difficult at first, but actually all their responses were beyond the expectations of the teacher. They were full of confidence in talking about their assigned topic.
In the future I will continue promoting more group work as they really enjoy it (plus it is a good way for them to become friends in the online situation). I will assign simple Flipgrid tasks especially for them to enjoy and not make them feel it is difficult.

外国語教育センター 外国語教育センター
JONES William M.　先生

2020年度Ｑ２　「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名　英語IIオーラルコミュニケーション＜再＞1
授業コード　11A02-040
教員名　JONES William M.
教員コード　100263
登録人数　8
回答数　6
回答率　75.0%
休講回数　0 回
補講回数　0 回



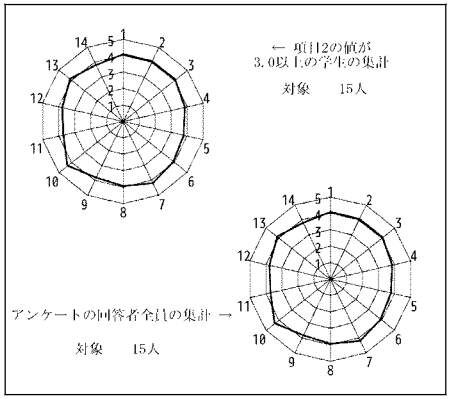
授業評価結果を踏まえた点検・評価

Six of the seven repeating students took part in answering the questionnaire and the students ranged from 2nd year to 5th year. From undergrad and grad stats class, this is an extremely small sample size even though all but one student answered. The results are much lower than usual, but not unexpected given that we are required to do distance learning. Some of the students comments were regarding the PDF uploads and there were many as the course was on-demand with limited ZOOM meetings. I suspect if the server allowed for teachers to upload PDFs and other documents in a logical and organized fashion, i.e., per class, instead of just alphabetical order, the students would have an easier time finding the materials. Instructor is thinking of away around this technical limitation as all the other unis where he teaches allows files to be uploaded and easily found on a per class basis. In Q3 and Q4, Instructor will use ZOOM more frequently, but only the audio function and not the video function as many students have legitimate concerns regarding privacy issues and Nanzan is very strict with privacy. Now that Instructor has a base questionnaire, an A/B comparison will be possible in the future. As always, Instructor will try his very best to ensure Ss receive a rewarding education, even though it is through distance learning.

外国語教育センター 外国語教育センター
NICKSICK, Thomas　先生

2020年度Ｑ２　「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名　英語IIリテラシー[B]3
授業コード　11A06-010
教員名　NICKSICK, Thomas
教員コード　102113
登録人数　21
回答数　15
回答率　71.4%
休講回数　0 回
補講回数　0 回



授業評価結果を踏まえた点検・評価

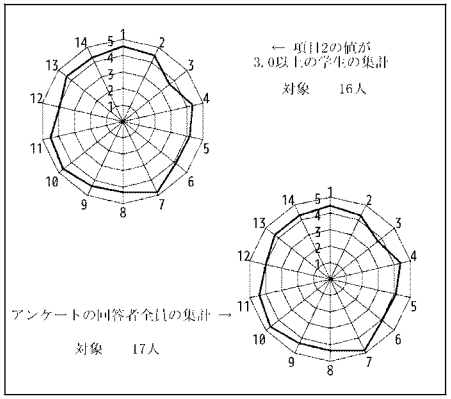
The purpose of this class is to improve students' reading and writing skills. Activities include extensive and intensive reading tasks. Students also learn how to write clearly and effectively. To accomplish this, students develop skills in planning, organizing, and developing ideas. Most of the students' assignments were provided on WebClass.

The instructor was not as successful as in the past. When asked if the instructor dealt appropriately with issues that could have interfered with the class delivery, the rating was 4.33. When asked if the instructor displayed sincerity and determination in his approach to teaching the course, the rating was 4.20. When asked if the students acquired new knowledge and deepened their understanding through this course, the rating was 4.13. When asked if the students were satisfied with the course, the rating was 3.80. When asked if the guidance and information that was offered encouraged the students to want to learn, the rating was 3.73. When asked if there were enough opportunities to consult the instructor before and after assignments, the rating was 3.80. When asked if students understood the course target, the rating was 3.80.

外国語教育センター 外国語教育センター
HAYES, Mary 先生

2020年度Ｑ２ 「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名 英語IIリテラシー[B]4
授業コード 11A06-011
教員名 HAYES, Mary
教員コード 103625
登録人数 20
回答数 17
回答率 85.0%
休講回数 0 回
補講回数 0 回



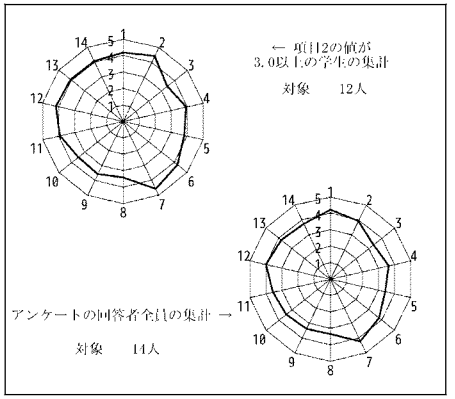
授業評価結果を踏まえた点検・評価

1. The goals of the class were to develop reading and writing skills, involving a combination of resources, such as intensive reading and writing guidance using a text book in weekly live classes online, reading and writing assignments on webclass, extensive reading of ebooks, completion of Mreader quizzes online and essay writing. Outcomes were positive on the whole, as word count reading goals were reached in almost all cases. Students improved written expression through regular timed writing and all members succeeded in planning,organizing and formatting one (or more) essay, a formal email and one book report which were submitted by email. Students worked together in groups to make a very successful powerpoint presentation of their research during the live session.
2. The numerical data shows that there was a fairly high level of satisfaction with the course in general. Attendance at Zoom classes was excellent and was an important component of the class in terms of motivation. Some comments show that there was confusion about the assignments which were not sufficiently clear or that there was too heavy a workload.There was a wide disparity of level and some optional assignments were available for the high achievers. However, the class worked hard and efficiently in general.
3. In the coming quarters, I hope to increase the efficiency of the zoom lessons, by providing opportunities for members to do more group assignments, share their written work and present their responses more often.

外国語教育センター 外国語教育センター
NIXON, Richard Mark 先生

2020年度Ｑ２ 「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名 英語IIリテラシー[B]5
授業コード 11A06-012
教員名 NIXON, Richard Mark
教員コード 103559
登録人数 20
回答数 14
回答率 70.0%
休講回数 0 回
補講回数 0 回



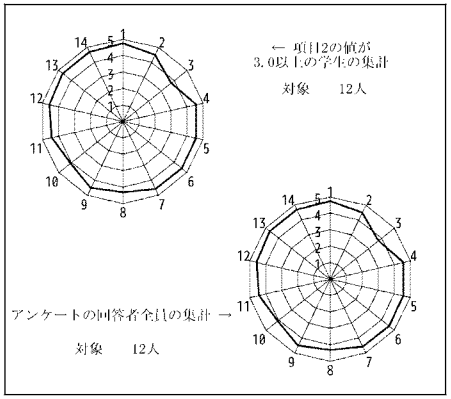
授業評価結果を踏まえた点検・評価

For the most part I believe that a majority of the goals set for the course at the beginning were achieved. The evaluation of the course by the students seems to be be generally positive. Thinking ahead to Q3 I shall attempt to provide the students with activities that build on what we have already done in the second quarter in order to advance the students' literacy skills. The students appear eager and willing to keep working and I'd like to continue to progress their writing and reading skills. In particular I would like to advance in the type of writing that students do so that they are able to write in a more argumentative style. Students will also be asked to read more in Q3.

外国語教育センター 外国語教育センター
BONDOC, Jeffree 先生

2020年度Ｑ２ 「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名 英語IIリテラシー[B]7
授業コード 11A06-014
教員名 BONDOC, Jeffree
教員コード 103469
登録人数 20
回答数 12
回答率 60.0%
休講回数 0 回
補講回数 0 回



授業評価結果を踏まえた点検・評価

Quarter 2 for this year was challenging. Doing online lessons for the first time was post new challenges and limitations for what I could achieve and what I expected from the students.

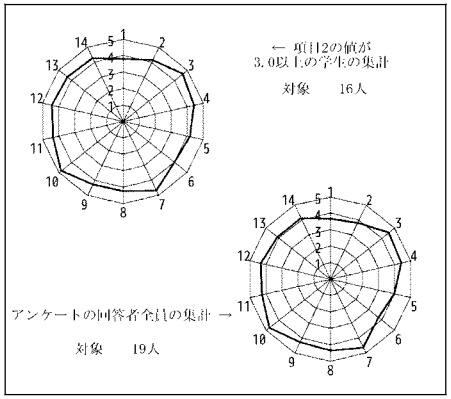
The course goals were fairly achieved. This course is a literacy course focusing of reading and writing. The reading part was done fairly well with me uploading appropriate work online for the students to do. Students, for the most part could understand what was expected from them. However, with the writing component it was not as straight forward. Teaching how to write online was challenging. Student tried very hard to follow instructions. One point in particular that was challenging was providing feedback on the student's drafts.

Thinking towards the next semester, especially for the writing component, I will provide a rubric for the students to look at as to provide better feedback on their writing drafts.

外国語教育センター 外国語教育センター
橘爪 真理 先生

2020年度Ｑ２ 「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名 英語IIリテラシー[B]10
授業コード 11A06-017
教員名 橘爪 真理
教員コード 104272
登録人数 20
回答数 19
回答率 95.0%
休講回数 0 回
補講回数 0 回



授業評価結果を踏まえた点検・評価

本年度はプレイスメントテストが実施できなかったため、それぞれの学生の英語能力や授業に対する意欲や姿勢が非常に異なり、授業における個々の目標設定と展開が大変難しいと感じている。約8割の生徒は目標通り理解できているようだが、能力に差がある生徒にとっては不十分であったようである。

このクラスは全体的に英語学習に対して少し積極性に欠け英語習得に困難を感じている学生がやや多いため、全員が理解できるように丁寧にゆっくりとしたスピードで授業を展開していった。そのため、能力が高い学生には退屈感があったようであるが、一方英語に苦手感を持つ学生にとっては授業をこなしていくことそのものに困難を感じており課題が負担のようであった。個々の学生の理解を伸ばしそれぞれが直面している問題に個別指導しようと努力したが、オンラインの指導方法に技術的に未熟な部分がありさらに工夫が必要である。

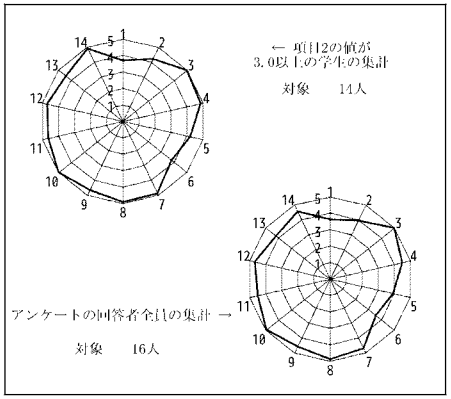
授業形態としては音声だけでなく視覚的にも理解を深め、他の生徒と交流する機会も設けながら、授業資料、授業形態を工夫してきたことはある程度効果があったようであるが、学生の能力的な差への対応、また資料提供のタイミングなど改善していく必要がある。

今後もその時々の生徒の理解度を丁寧に測りながら授業展開、および個別対応を原則とし、全体指導の中で学生本人の目標設定も重視しながら、授業内容、資料、課題を整えていく。

外国語教育センター 外国語教育センター
山田　秀子　先生

2020年度Ｑ２　「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名　英語IIリテラシー[B]11
授業コード　11A06-018
教員名　山田　秀子
教員コード　103595
登録人数　20
回答数　16
回答率　80.0%
休講回数　0 回
補講回数　0 回



授業評価結果を踏まえた点検・評価

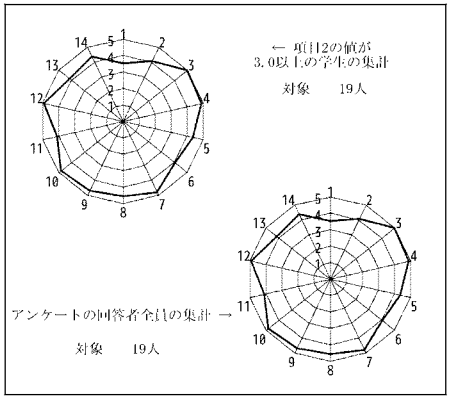
開講当初に設定していた目標は概ね達成できたと思う。講義計画に提示した学習内容・範囲の9割以上を扱い、全員が必須課題をすべて終えることができた。学生・教員ともに、オンライン授業と自習の併用に慣れてきたと感じる。

アンケートでは、自分に力がついてきていると思うかを問う項目6の平均値が最も低かった。このアンケートとは別に集めた授業の感想を参照すると、ライティングでは個々の指導が受けられるため勉強になったという回答が多かったが、リーディングについては難易度の受け止め方がさまざまであった。今年度は英語能力別のクラス編成ではないため学生間の能力差が例年より大きいことが要因の一つだと考える。特に能力が高い学生にとっては教材が易しく、オンライン授業中の回答時間が長かったと思われる。今後はこのような学生向けに追加の問題を提示するなどの対応をしていく。次に平均値が低かったのは、授業の到達目標を理解することができたかを問う項目5であった。開講時に詳細な年間到達目標を配布して口頭でも説明しているが、このアンケート結果から、目標の再確認を折に触れて行う必要があることが分かった。また、自由記述の回答からは、オンライン授業中に携帯電話をさわる、説明を聞いていない、問題を解いていない学生がいることが分かった。授業内の活動を小刻みにする、ペアやグループでの活動を増やすなど、授業の進め方を再検討して改善を図りたい。

外国語教育センター 外国語教育センター
平出　優子　先生

2020年度Ｑ２　「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名　英語IIリテラシー[B]12
授業コード　11A06-019
教員名　平出　優子
教員コード　102521
登録人数　20
回答数　19
回答率　95.0%
休講回数　0 回
補講回数　0 回



授業評価結果を踏まえた点検・評価

英語IIリテラシーの授業はライティングとリーディングから構成される。Q2のライティングの目標は、書くための準備としてmind mapの技術を使えるようになること、Writing about your activities, Writing about your dayという自分に関する内容についてパラグラフの構造を理解したうえで200語以上の首尾一貫した1つのパラグラフが書けるようになること、基本的なエッセイのフォーマットが使えるようになることの3点であった。パラグラフの構成を理解した上で各ドラフトを書くよう繰り返し説明した結果、上記３つのゴールについて全員が到達できたと考える。Q3では人物描写と自分の経験談という2つの内容で、複数のパラグラフから成るライティングを練習する。

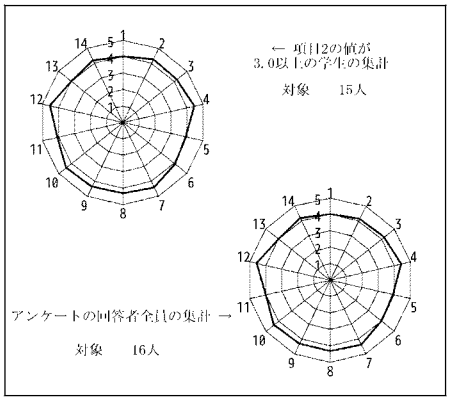
Q2のリーディングの目標は、流暢に英文を読むための様々な読解方略を効果的に使えるようになること、Extensive Readingにおいて目標語数に到達し、MReaderでクイズに答えること、Vocaburay の知識を増やすことの3点であった。提出された課題の出来が非常によく、また、MReaderの集計でもほとんどの人がクリアしていたので、目標は十分に到達できたと考える。

本年度はオンライン授業で様々な制限があったにもかかわらず、授業評価の高い数値や学生からの前向きなコメントを受け、Q2も混乱なく無事に終わることが出来たと実感し安堵している。Q３では難易度を上げ、更なるadvanced skillが身につくよう指導したいと考えている。

外国語教育センター 外国語教育センター
MOORE, Douglas 先生

2020年度Ｑ２ 「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名 英語IIリテラシー[P]9
授業コード 11A06-028
教員名 MOORE, Douglas
教員コード 100954
登録人数 18
回答数 16
回答率 88.9%
休講回数 0 回
補講回数 0 回



授業評価結果を踏まえた点検・評価

This was, of course, a difficult semester with the coronavirus raging around the world and Nanzan doing lessons online as a result. This did cause some major changes from what was originally planned to be taught in class but the prep time was sufficient so the Web Class was ready to go.

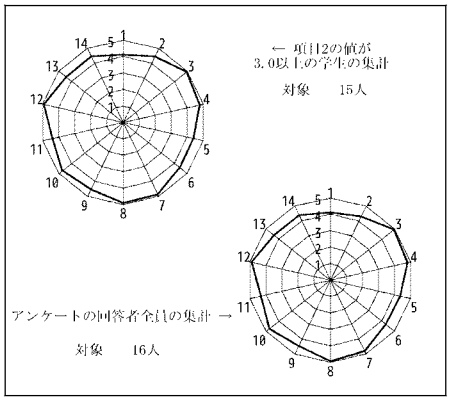
Overall the students did well in the class when they got more used to the Zoom meetings and submitting via email. unfortunately this took some students good amount of time to get used to. The students seemed to be on board with the changes and overall did quite sell in the class, though final evaluations have not yet been carried out.

Next semester will also be online, or at least that is the plan now, but there will need to be some adjustments to the course to focus activities more carefully and raise the bar of student expectations.

外国語教育センター 外国語教育センター
鈴木 愛 先生

2020年度Ｑ２ 「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名 英語IIリテラシー[P]10
授業コード 11A06-029
教員名 鈴木 愛
教員コード 103596
登録人数 19
回答数 16
回答率 84.2%
休講回数 0 回
補講回数 0 回



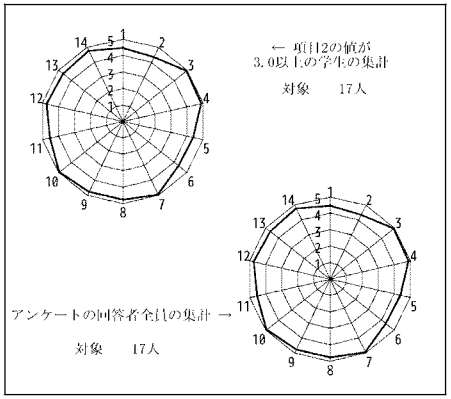
授業評価結果を踏まえた点検・評価

Reading goals: students will be able to read the main idea of a reading. Writing goal was to be able to write a paragraph on their personal topics. For reading goals, I feel that most students were able to achieve this goal. For writing goals, I also think that most students were able to achieve this goal. It was their 1st time in their life to write a 150-word-paragraph in English. I am sure that they put a lot of effort in it.
Reflecting on the student evaluation, I am satisfied by their evaluation and comments. It seems that most students were able to learn a lot of new things in this quarter especially on writing. I feel comfortable to say that students have gained skills to write a good paragraph and what a good English paragraph looks like. Although they need improvements in grammar, their writing in overall has improved.
For next quarter, since they got used to writing a paragraph in English, I would like to extend it to an essay with three paragraphs. I would like to focus on essay coherence with each paragraph with a topic sentence and supporting sentences. I would like to use many pair and group works so that students will be able to learn from each other.

外国語教育センター 外国語教育センター
水野　眞紀　先生

2020年度Ｑ２　「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名　英語IIリテラシー[G]3
授業コード 11A06-034
教員名　水野　眞紀
教員コード 101981
登録人数　19
回答数　17
回答率　89.5%
休講回数　0 回
補講回数　0 回



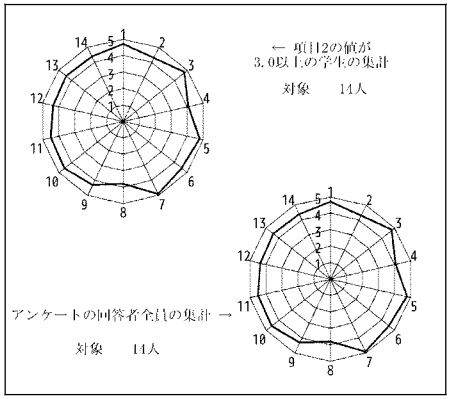
授業評価結果を踏まえた点検・評価

(1) ライティングの目標は概ね達成できた。リーディングはオンデマンド、ライティングはZoomで行ったことによる。これまではリーディングとライティングを1週ごとに行い、コンテントと言語の両面からきめ細かい指導ができたが、今回は複雑なライティングを重点的に指導した。何とか2稿ずつ、2種類のエッセイを正しい構成で書けるようになった。しかし、リーディングはテストの答え合わせや要約を提出させるのが精いっぱいで十分な指導ができたとは言えない。
(2) しかしQ13とQ14の数値から、学生は新しい知識を身につけ、理解が深まり、満足している。自由記述でも、資料も見やすく、教員のフィードバックにより良く理解できたとある。一方、Q2、Q5、Q6の数値が比較的低いのは、クラスメートも知らない授業では、積極的に英語で発言したり、よく理解できなくても質問できなかったりしたのではないか。わからないまま過ぎてしまった、課題の説明は日本語でしてほしいとの要望もある。また課題もかなり減らしたつもりだったが、多かったという学生がいた一方で、例年より少ないので十分な技能や知識が身に付けられたのか不安だという学生もいた。
(3) 困難ではあるが、個別指導を心がけたい。ただでさえ負担が大きい授業がオンラインで数十倍以上に膨れ上がった。学生、教員双方の負担を減らしつつ、効率的な授業運営をすることが急務である。

外国語教育センター 外国語教育センター
木下　薫　先生

2020年度Ｑ２　「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名　英語IIリテラシー[G]8
授業コード 11A06-039
教員名　木下　薫
教員コード 104328
登録人数　23
回答数　14
回答率　60.9%
休講回数　0 回
補講回数　0 回



授業評価結果を踏まえた点検・評価

This course aimed to cover (1) structure of a short academic essay, (2) descriptive essay, (3) narrative essay, (4) practical writing, (5) intensive reading, (6) vocabulary in context, (7) other reading techniques such as scanning for details, making inferences, and critical analysis of passages. These goals were achieved thoroughly through online classes and various assignments.

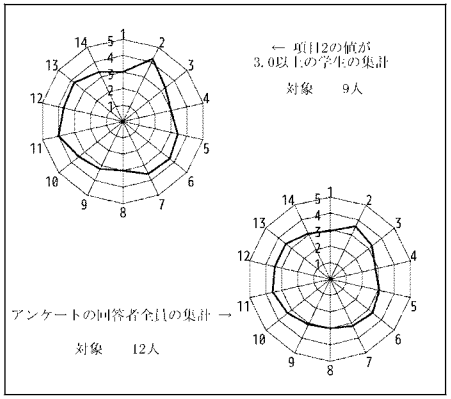
I utilized the materials provided in the textbook selectively with a focus on vocabulary building in context. I interacted with my students with support through Zoom sessions and emails when delivering class content and answer student's questions. The assignments were adequate in the amount and timing with clear rubrics for evaluation. I felt that I needed to become more familiar with the diverse functions of Zoom.

I will explore how I can engage students in group discussions more effectively during Zoom sessions while staying on track with the lesson goals. In response to the complaints about poor Internet connections on my side, I will be teaching from a new location with better WiFi access from Q3. I hope that will reduce the technical challenges.

外国語教育センター 外国語教育センター
島　禎子　先生

2020年度Ｑ２　「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名　英語IIリテラシー[B]13
授業コード　11A06-043
教員名　島　禎子
教員コード　045559
登録人数　20
回答数　12
回答率　60.0%
休講回数　0 回
補講回数　0 回



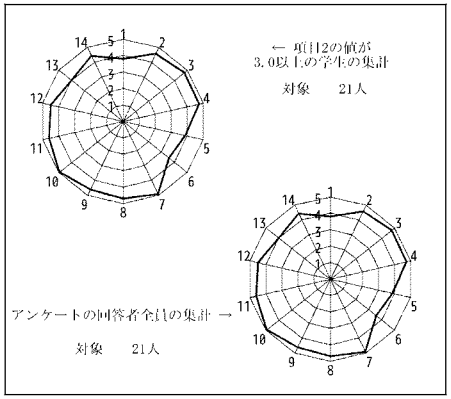
授業評価結果を踏まえた点検・評価

すべての授業をオンラインで行うのは、私自身にとって初めての経験で、率直に言って諸事考慮しながら授業を進めるというより、WebClassやZoomの使い方の技術面の習得に追われ、ようやく少し余裕が出てきたのはQ2の中盤に差し掛かったころだった。LiteracyのためZoomより自習、課題重視の授業方法をとった。
オンライン授業の利点として、「自分のペースで課題等進められる点」「自分の好きな時間に課題が取り組めること」など挙げた学生がいた一方、設問4/9の進度の適切性、学生の理解度への考慮については、2や1と答えた学生が相当数いたことから、一定以上の英語力がある学生にとっては時間に縛られず自由に取り組めるオンラインは心地よいが、ある学生にとって特に課題量が増えたQ2はフラストレーションが蓄積されていったのではないかと推測する。
今年度はstreamed classではなく、mixed classのため課題量を減らすことは考えていないが、Q3-4は原則自由参加のZoomによる授業をもう少し増やし、日本語による補足説明やQ&Aの時間を設け等、slow learnersの負担軽減も考慮しつつ、より多くの学生が心地よく学べる環境を整えていきたい。

外国語教育センター 外国語教育センター
SCRUGGS, Edward　先生

2020年度Ｑ２　「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名　英語IIコミュニケーションスキルズ[HA, HP, HJ]6
授業コード　11A10-006
教員名　SCRUGGS, Edward
教員コード　101864
登録人数　22
回答数　21
回答率　95.5%
休講回数　0 回
補講回数　0 回



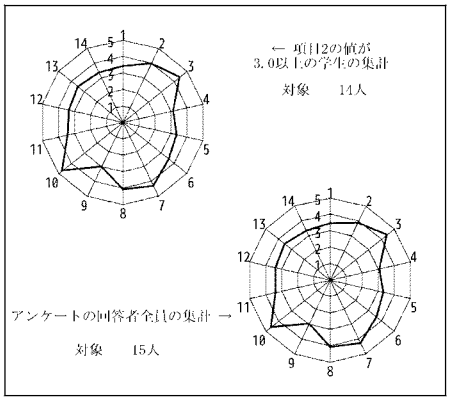
授業評価結果を踏まえた点検・評価

First of all, I want to sincerely thank my students for such a kind and positive evaluation. I certainly am appreciative of their comments, and find them to be insightful and of value to bettering my work in the future. This term on online learning has been challenging to us all.
There were two areas indicating some potential for improvement. I shall address them separately.
Question #7 speaks to the value of the course description. I do tend to “customize” the stated plan as the semester progresses in hopes of better serving the needs of each class as we get to know each other. While I do believe this to be a fundamentally sound policy, I see now that I should be more attentive to telling students that we are making some unscheduled changes. I shall certainly be more aware of this in the future.
Question #14 deals with the amount of time spent in individual consultation and questions. I too wish we had more time for this. The class size severely restricts this, but I shall make every effort to prioritize some more class time for open questions and counseling in my future classes.
Again, I am most grateful to have had the opportunity to meet and work with such motivated students. Thank you!

外国語教育センター 外国語教育センター
LANDSBERRY, Lauren　先生

2020年度Ｑ２　「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名	英語IIコミュニケーションスキルズ[HA, HP, HJ]10
授業コード	11A10-010
教員名	LANDSBERRY, Lauren
教員コード	103626
登録人数	22
回答数	15
回答率	68.2%
休講回数	0 回
補講回数	0 回



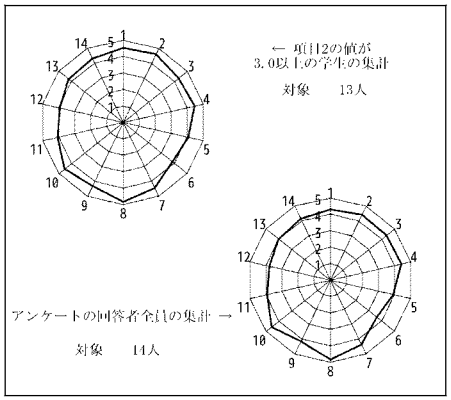
授業評価結果を踏まえた点検・評価

This year has been a challenging time for everyone. Both teachers and students have had to learn so many new LMS and applications. Some of the students seemed to struggle with the amount of work that they had to do on Webclass while others finished early. Whilst I gave extentions to the students having trouble I didn't think I could cancel some of the assignments as others had already finished. While I plan to have a weekly Zoom in Q3 I think I am going to make this an optional activity for the students. Zoom is great for highly motivated students but for others I have found it extremely challenging. A number of the students also had trouble understanding some of the activities so I am thinking to have a Zoom office hour where they can come and consult with me about anything they don't understand. I hope we are all a little more accustomed to this environment for Q3.

外国語教育センター 外国語教育センター
SIMMONDS Brent　先生

2020年度Ｑ２　「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名	英語IIコミュニケーションスキルズ[FA, FF, FS, FG]10
授業コード	11A10-016
教員名	SIMMONDS Brent
教員コード	103050
登録人数	20
回答数	14
回答率	70.0%
休講回数	0 回
補講回数	0 回



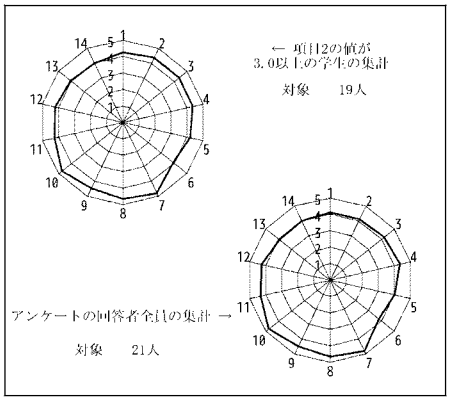
授業評価結果を踏まえた点検・評価

Online teaching was a new experience for me and a new learning experience for many of the students. This presented several difficulties especially, getting used to new platforms and applications. Input from the course coordinators was invaluable in this respect. It gave me an opportunity to reflect on my own teaching methods.
I would like to thank the students for their patience and understanding during the first two semesters. I received several email, in English asking for clarification of certain points.
　In the next semester, I will set clearer goals to create a more inclusive learning environment. Zoom will be used each week for speaking activities and clarification of tasks which in turn should create an environment for a greater degree of autonomous learning.
As we will be online for the rest of the academic year, students will be based in many areas of Japan. I want to utilize this in a positive way, students will be able to share experiences from their local environments which in turn will develop their language skills.

外国語教育センター 外国語教育センター
DRYDEN, Laurence　先生

2020年度Ｑ２　「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名	英語IIコミュニケーションスキルズ[FA, FF, FS, FG]9
授業コード	11A10-024
教員名	DRYDEN, Laurence
教員コード	101482
登録人数	21
回答数	21
回答率	100.0%
休講回数	0 回
補講回数	0 回



授業評価結果を踏まえた点検・評価

The anketo results suggest that students were generally satisfied with the course and with the online format of classroom meetings.

Students rated all but two of the the 14 questions at 4.0 or higher, indicating that they were content with the pace of the class meetings and the overall structure of the course. Students also expressed their appreciation for the teacher's efforts on their behalf to help them understand the course material.

In the written comments, students indicated their satisfaction with the online features of Zoom, the software by which every class meeting was conducted during both quarters 1 and 2.

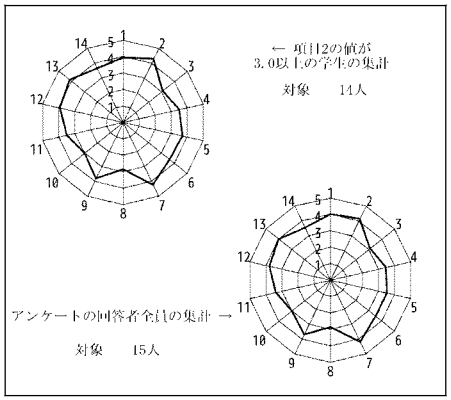
Several students said they enjoyed the frequent sessions in breakout rooms where they could talk to different groups of partners. Many indicated that in this way they had learned to communicate with classmates in English. Some students wrote that they had made friends thanks to this course.

In quarters 3 and 4 the instructor will continue to find ways to help the students cover the course material in a friendly online setting.

外国語教育センター 外国語教育センター
McCANDIE, Tanja　先生

2020年度Ｑ２　「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名	英語IIコミュニケーションスキルズ[E13
授業コード	11A10-027
教員名	McCANDIE, Tanja
教員コード	102688
登録人数	21
回答数	15
回答率	71.4%
休講回数	0 回
補講回数	0 回



授業評価結果を踏まえた点検・評価

The point of this class is speaking and listening. It is difficult to assess that students are reading as they report they are. It is also difficult to help students with speaking when many refuse to attend Zoom sessions. Those that attend do not always speak nor turn on their camera.

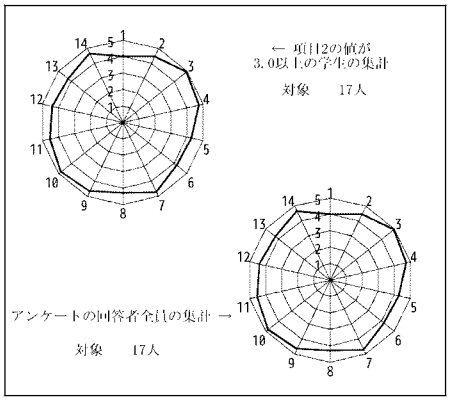
I realize for many professors they can teach via Zoom as they lecture but this is difficult for language classes.

At this point I am not really sure how valid a reflection this survey is because I don't feel I had the time to prepare for online lessons again - much like in April. I have concerns that we were told to ONLY use Zoom after lessons had started. I think for language classes this is really unacceptable to expect just Zoom and I think it was poor leadership to tell us after the classes started. I have more ideas about what to do for the next term based on this quarter and hopefully student will be more accepting of using Zoom - less than 1/3 of the class attended the Zoom classes.

外国語教育センター 外国語教育センター
伊藤　実里　先生

2020年度Ｑ２　「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名	英語IIコミュニケーションスキルズ[E14
授業コード	11A10-028
教員名	伊藤　実里
教員コード	045542
登録人数	21
回答数	17
回答率	81.0%
休講回数	0 回
補講回数	0 回



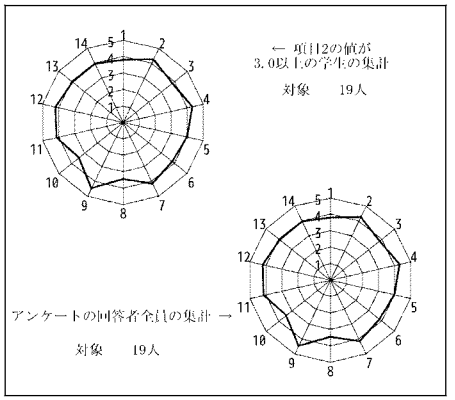
授業評価結果を踏まえた点検・評価

授業目標については、Q1～Q4を通しての目標を掲げているので、現時点までの分としてはおおよそ達成できた。ただし、通常の対面授業のようなペアでの会話練習とその学習成果の確認はできなかった。今期の最後に録音する課題を試すことができたので、これを活用したい。また、全授業がオンラインになり、通常よりも提出課題が多くなっていることにまで当初気が回らなかったので、Q3以降は配慮したい。日常的にSNSを使う世代の人たちはカメラを使用して知り合いたいだろうと思っていたが、カメラ使用には否定的な人が圧倒的に多かったことは意外だった。ネット環境のこともあるのでカメラなしを継続する予定である。基本的にライブ形式のZoom授業を行ったが、ブレイクアウト機能を使って2-3名ずつで話し合う時間は好評であったことがわかり、これからも活用したい。同じ科目の別のクラスではブレイクアウトの時間が短かったというコメントがあったので、今後はもう少し時間をかけようと思う。直接会って知り合う機会が限られた状況では、少人数にブレイクアウトしたときにスムーズに話し始めるまでに時間もかかるのだと思う。そのことも含め、教員としても不慣れなオンライン授業でいろいろなことを試す状況に履修者の皆さんが協力してくれて可能になった作業も多く、感謝している。ダウンロードサーバとWebClassの使い分け、予定や変更の周知など、不慣れで不便をかけてしまった点については修正したい。

外国語教育センター 外国語教育センター
LANGER Daniel　先生

2020年度Ｑ２　「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名	英語IIコミュニケーションスキルズ[E15
授業コード	11A10-029
教員名	LANGER Daniel
教員コード	101438
登録人数	21
回答数	19
回答率	90.5%
休講回数	0 回
補講回数	0 回



授業評価結果を踏まえた点検・評価

I think we did a fairly good job of meeting the class objectives. I would still like to have more reading done outside class, but I have been tentative about pushing the students. I am pleased with the number of activities provided by the speaking textbook, and feel that students have responded well to the structure and variety provided.

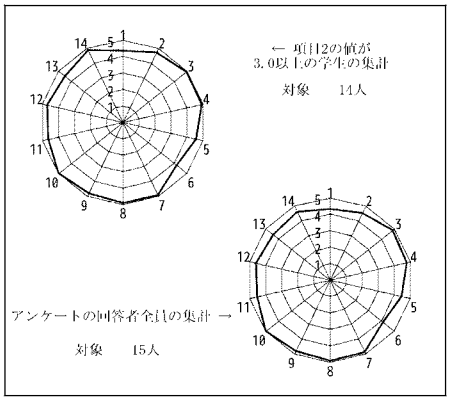
The comments were very positive in tone, but some students noted that they would have appreciated having face-to-face classes (I used WebClass, but did not use web camera technology). I would guess that the absence of face-to-face classes led to some of the answers being, in my mind, of questionable relevance. For instance, Question 10, which asks if the teacher was careful about monitoring cell phone usage and student lateness - a correct answer would have been “not applicable” (unfortunately not possible with this questionnaire), but most students simply gave me an average score. A few other questions have similar problems.

I may be using web camera technology in the final quarters. If I do, I hope the students are patient while any wrinkles of the delivery system are ironed out.

外国語教育センター 外国語教育センター
LANGLEY, Patrick 先生

2020年度Ｑ２ 「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名	英語IIコミュニケーションスキルズ[E18
授業コード	11A10-032
教員名	LANGLEY, Patrick
教員コード	104288
登録人数	20
回答数	15
回答率	75.0%
休講回数	0 回
補講回数	0 回



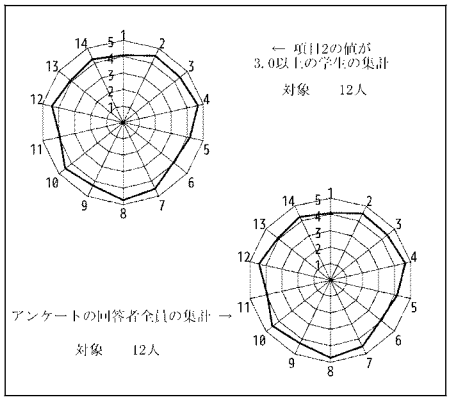
授業評価結果を踏まえた点検・評価

The feedback from the student in Q2 was mostly positive. They seem to be enjoying the class and are reacting well to the mixture of WebClass and Zoom session. They are steadily improving their English ability and I am looking forward to seeing them progress further in the next two quarters. They have achieved the goals set so far (using communication strategies and developing their extensive reading skills). In Q3 and Q4 I will further emphasize their communicative and reading goals and give clear benchmarks as to how they will be assessed. The feedback from this class has been useful in refining their curriculum and updating their syllabus to reflect this.

外国語教育センター 外国語教育センター
内川 元 先生

2020年度Ｑ２ 「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名	英語IIコミュニケーションスキルズ[E12
授業コード	11A10-036
教員名	内川 元
教員コード	101922
登録人数	20
回答数	12
回答率	60.0%
休講回数	0 回
補講回数	0 回



授業評価結果を踏まえた点検・評価

この授業はリーディングとオーラルコミュニケーションの授業で、前者はオンラインでも充分対応が可能でしたが、後者をオンラインで行う方法に関しては当初かなり悩みました。

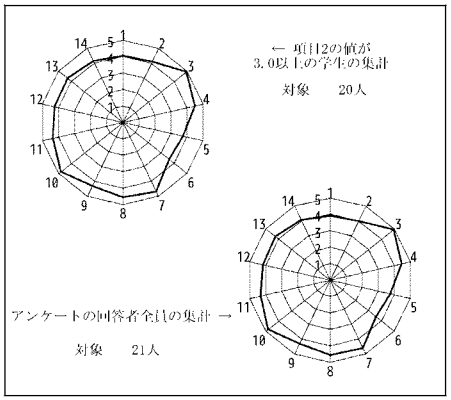
Zoomの機能を使って生徒にペアワークをさせることは可能なものの、対面の授業と違って生徒全員の取組を概観することができず、様子を見ながら必要に応じてアドバイスを与えたり、質問を受けたりすることができません。よって例年行ってきた決められた時間英語と身振り手振りだけでコミュニケーションを続けさせるというメインのアクティビティーの実効性が下がることが予想されました。そこでZoomによる全体指導を行わず、その代わりにセルトレーニング用のマテリアルを公開した上で、マンツーマンの会話指導を1人1回7～8分、学期中に3回行いました。これに授業6回を使い、残りは希望者対象の追加指導と学期末の会話テストに使いました。1回10分以下、1人3～6回の指導でしたが、準備の仕方を細かく指導したのも功を奏したようで、テスト時までにはっきりわかる伸びを見せた生徒が多く、予想以上に個人指導の効果を感じることができました。

生徒のコメントを見ても、個人指導にしたことで指導を受ける時間が減ったことに対する不満は見当たらず、個人指導を選択したのは良い判断だったと考えていますので、残りの学期も同様の形式で授業展開をしたいと思います。

外国語教育センター 外国語教育センター
柴田　直哉　先生

2020年度Ｑ２　「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名	英語IIコミュニケーションスキルズ[J16
授業コード	11A10-042
教員名	柴田　直哉
教員コード	102751
登録人数	21
回答数	21
回答率	100.0%
休講回数	0 回
補講回数	0 回



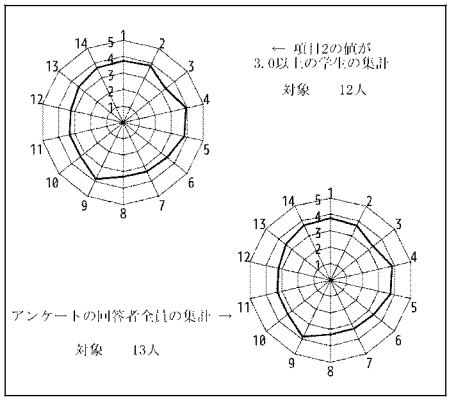
授業評価結果を踏まえた点検・評価

①新型コロナウイルスの世界的蔓延により、Zoomを用いてのオンライン講義を行ってきたが、多読活動及び会話活動に関する目標が完全に到達することができなかったと感じている。特に多読活動においては図書館が利用できないことからE-Booksを用いて行い、M-Readerを使って内容理解度テストを受けるように促したが、学生が読んだ本がM-Readerに登録されていなかったり、Book Reportを提出させた場合も要約と感想に書かれていることが浅慮であるものが多かったりしていた。
②初めてオンラインを通して講義を行った年であったため、できる限り学生たちの興味・関心が継続するトピックを導入したり、話合わせたりしたが、学習者の自己評価を参考にする限り到達目標に到達したと感じている学生は少ないことが分かった。この事からより自己評価をする機会を与えたり、学習目的・目標をより明確にさせる必要があるだろう。
③次クォーターもオンラインで行われることから多読活動における困難性は継続する可能性がある。そのため、学習者にいくつかアクセスできる本を紹介することや、特定の物語を読むことを課題として与え、ディスカッションさせる等の活動をしていきたい。

外国語教育センター 外国語教育センター
SWEETLOVE, Douglas　先生

2020年度Ｑ２　「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名	英語IIコミュニケーションスキルズ[J13
授業コード	11A10-061
教員名	SWEETLOVE, Douglas
教員コード	102522
登録人数	21
回答数	13
回答率	61.9%
休講回数	0 回
補講回数	0 回



授業評価結果を踏まえた点検・評価

①The goals of the course were largely achieved. I was able to teach both the reading and the conversation ends of the course, so I was able to be flexible about time management and scheduling. However, there are obvious limitations due to the current situation. I am looking forward to getting back into the classroom!

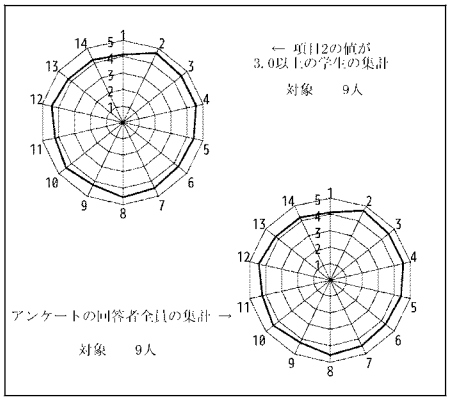
②I was not unhappy with the results. However, we have to take into account a couple of factors. First of all, I believe that students are given the same survey for every course. If so, this makes it difficult to get any valid information from the results. Students who see the same survey for all classes will not spend much time or effort to fill it out. and won't consider their answers very carefully. I suggest that each department give their own survey, based on criteria that are important to that department.

③Given the current health pandemic, there isn't really much we can do differently. I worry that the students will become tired and maybe a bit depressed by having to stay home for so long. I will try to maintain closer contact with the students and make them feel like they are getting personal attention. This is a stressful situation for them and I want to help them in any way I can.

外国語教育センター 外国語教育センター
FOX, Aaron 先生

2020年度Ｑ２ 「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名	英語VIコミュニケーションスキルズ<全>1
授業コード	11A14-017
教員名	FOX, Aaron
教員コード	103869
登録人数	17
回答数	9
回答率	52.9%
休講回数	0 回
補講回数	0 回



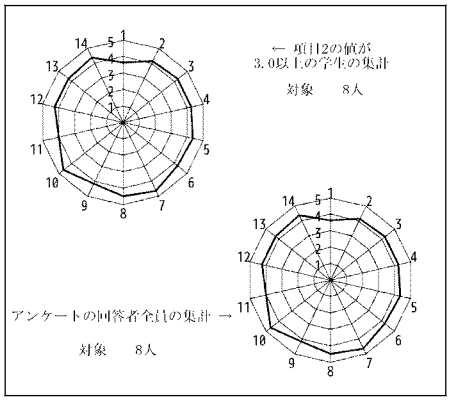
授業評価結果を踏まえた点検・評価

Despite of the challenges posed by the change to online lessons, students did well to meet the overall goals of the course as set out in the class objectives. It was a challenge to change over to online teaching. There is still much to learn about this way of teaching, but with each lesson, it gets better. I will continue to learn more and to refine teaching strategies for online classes in the coming quarters.

外国語教育センター 外国語教育センター
BLOWER, Luke 先生

2020年度Ｑ２ 「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名	英語VIコミュニケーションスキルズ[S]10
授業コード	11A14-026
教員名	BLOWER, Luke
教員コード	104287
登録人数	18
回答数	8
回答率	44.4%
休講回数	0 回
補講回数	0 回



授業評価結果を踏まえた点検・評価

It is difficult to write a review of this class without mentioning the extreme circumstances this course was carried out in.

With the whole course moving online, the immediate goal was to ensure that students knew what was expected of them. The ongoing goal was then to keep students motivated even without meeting face-to-face.

Due to the online nature of this course the reading section became a little different to the speaking/listening half of the course. Reading of course entails a lot of 'self-study' time. This meant that the 'live' zoom classes became kind of 'checkpoints' to find out where the students were up to with their study, then they would be left to get the study done in their own time.

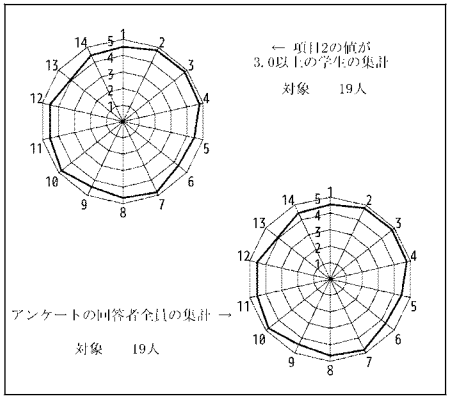
Fortunately, technical problems did not become a significant barrier to the flow of the course. However, deadlines and attendance were less strictly observed, as long as the students communicated effectively.

Going forward, as Q2 will also be online, there will be a continuation of motivating the students with continual monitoring and encouragement.

外国語教育センター 外国語教育センター
酒井　美納江　先生

2020年度Ｑ２　「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名　英語IIリーディング＜全＞3
授業コード 11A24-005
教員名　酒井　美納江
教員コード 046060
登録人数　28
回答数　19
回答率　67.9%
休講回数　0 回
補講回数　0 回



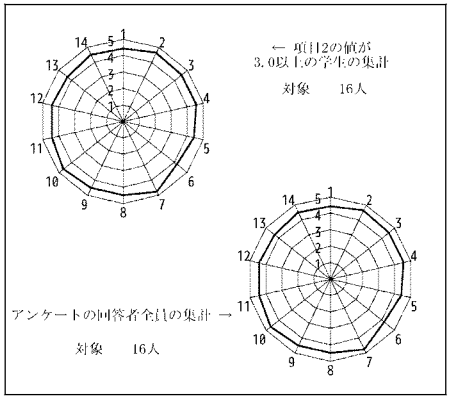
授業評価結果を踏まえた点検・評価

Webclassで課題を行う学習を中心に、zoomでの授業を３回行いフォローする形をとった。教材については、受講する学生の英語運用能力に差があるようだったので基本的な教材を用いた。さらにデジタル疲れを考慮し、ゆとりをもって課題を行える様な締め切り日を設定した。いくつかの論説文を読む課題は、９割以上の学生がすべて合格点で終えており、もう少し難易度をあげてもよかったか、と考えている。図書館電子リソースを利用した多読の活動では、「楽に、多くの本を読むこと」という目標のみを提案し比較的自由に行ってもらった。明らかに簡単すぎる本を選ぶ学生もいなくはなかったが、それぞれ適切な語数の本を選んでいたようだったので、自主的な学習の習慣が多少なりともついたのではと思う。zoomでの授業数が少なかったので、アウトプットの活動が中心になってしまったが、自由記述で指摘のあったように、実際に読むための技術を練習する機会を与えられたらよかったかと反省している。次のクォーターでは、教材のレベルを上げることと、zoomの授業の回数を増やすことを実施し、よりきめの細かいフォローを行っていけたらよいかと考えている。

外国語教育センター 外国語教育センター
VIADO Cora　先生

2020年度Ｑ２　「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名　英語IIリスニング＜HA, HP, HJ＞1
授業コード 11A26-001
教員名　VIADO Cora
教員コード 100553
登録人数　24
回答数　16
回答率　66.7%
休講回数　0 回
補講回数　0 回



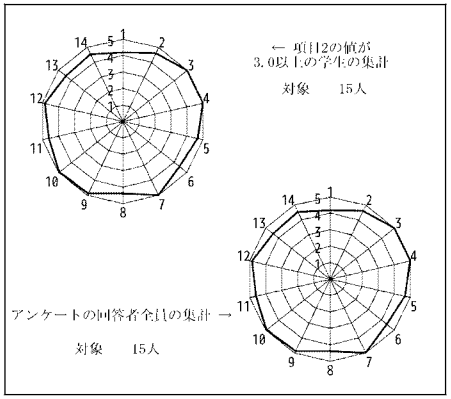
授業評価結果を踏まえた点検・評価

This class was conducted remotely using WebClass, Zoom, and the Online Practice component of the textbook. The purpose of this course is to help students actively comprehend spoken messages, work out implied meanings, and develop organized points of view. Listening texts included audio items, pronunciation exercises, listening activities, and conversations to promote student interest and exposure to English. The overall positive responses of the students' evaluation of the course indicate their satisfaction with the content and dynamics used in the class. The item with the highest rating (Q7: 4.75) pertains to the students' appreciation of the efforts made by the teacher in providing a suitable learning environment. The item with the lowest rating (Q6: 4.19) indicates the students' slight dissatisfaction with their progress in learning. Students were glad to have the chance to see their classmates and teacher during the Zoom sessions, and to get immediate feedback from the teacher. In particular, students enjoyed listening to the different speeches of their classmates. Overall, the students were quite satisfied with the class this quarter (Q14: 4.50).

外国語教育センター 外国語教育センター
加藤　尚子　先生

2020年度Ｑ２　「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名　英語IIリスニング＜B＞1
授業コード　11A26-005
教員名　加藤　尚子
教員コード　103630
登録人数　24
回答数　15
回答率　62.5%
休講回数　0 回
補講回数　0 回



授業評価結果を踏まえた点検・評価

①開講当初に設定していた目標と到達の程度について。
今学期は新型コロナウィルスの影響で、遠隔授業という新しい講義を行いました。従って、当初の目標は学生が安心して十分な授業を受けるという事でした。その為メールでの連絡だけではなく、zoomを通して学生とのコミュニケーションをとり質問などを重点に置いて授業をしました。その為学生の不安を取り除き授業ができたと思います。しかしながら、インターネットの接続関係で音質が不安定でした。

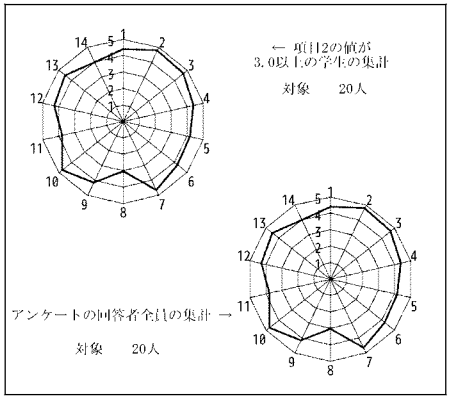
②数値データおよび自由記述等を踏まえての担当科目に関する総合的な自己点検・評価。
自由記述が今回はいつもより多く書いていただきました。学生の理解度はもちろんですが、身体と精神状態を確認しながら授業を行ったので学生が疎外感を感じずに授業に参加できたのを喜ばしく思います。その一方で学生のスケジュールを考慮して提出日を長く設定したのがかえって、学生にとって分かりにくくしてしまったのも判明致しました。

③次クォーター・学期以降に向けての改善点、今後の抱負、方針など
引き続き学生の身体、精神状態を考慮しながら、コミュニティーを密に摂りオンラインでの授業の向上に努めていきます。また、教材が面白かったという事でしたので、引き続き面白さの上に学生の探求心を刺激するような教材を作成して参ります。

外国語教育センター 外国語教育センター
木田　パルビン　先生

2020年度Ｑ２　「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名　英語IIリスニング＜B＞2
授業コード　11A26-006
教員名　木田　パルビン
教員コード　102322
登録人数　22
回答数　20
回答率　90.9%
休講回数　0 回
補講回数　0 回



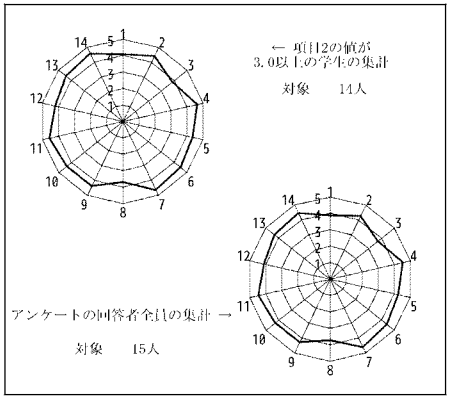
授業評価結果を踏まえた点検・評価

The listening course was a task-based approach to develop listening skills, and strategies necessary for effective communication in English. The topics in the textbook included a variety of real-life situations. The lessons were taught and practiced through the following steps: presentation of new vocabulary and an overview of the topic. Then students listened to the audio sound uploaded on the webclass and did the exercises in their textbooks. The answers were checked during zoom meetings. The writing assignments on the topics enabled the students to use the vocabulary and expressions as well as the information learned. During the question/answer sessions the instructor tried to encourage the students to use their background knowledge, imagination, combined with the new information learned from textbook to engage them in critical thinking.

外国語教育センター 外国語教育センター
KHONDAKER, Taslima 先生

2020年度Ｑ２ 「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名 英語IIリスニング＜全＞13
授業コード 11A26-011
教員名 KHONDAKER, Taslima
教員コード 103598
登録人数 24
回答数 15
回答率 62.5%
休講回数 0 回
補講回数 0 回



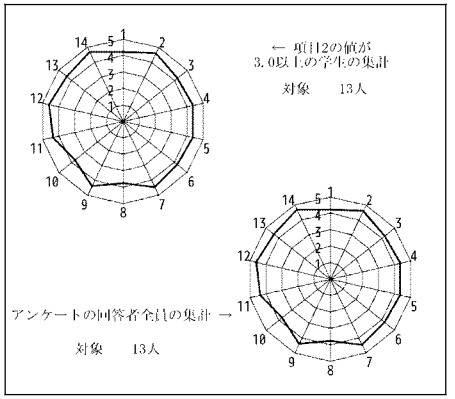
授業評価結果を踏まえた点検・評価

The purpose of this course was to help students actively comprehend spoken messages, work out implied meanings, and develop organized points of view. I took fifteen classes without any make-up. I planned both self-study classes as well zoom classes. I want to address to the following aspects in the course evaluation materials. Regarding Participation in the Class (Q1 to Q2) compared with the scores of 4.30 and 4.43 the scores of this course was 3.87 and 4.27. Regarding Evaluation of the Course in General (Q3 to Q7), compared with scores of 4.58, 4.47, 4.22, 4.12, and 4.66 the scores for this course was 3.73, 4.53, 4.27, 4.40, and 4.60. Regarding Evaluation of the Class Management (Q8 to Q12), compared with scores of 4.35, 4.43, 4.67, 4.34, and 4.43 the scores of this course was 3.73, 4.27, 4.27, 4.47, and 4.13. Regarding Overall Evaluation (Q13 to Q14), compared with scores 4.37 and 4.33 for all courses, the scores of this course were 4.33 and 4.47. As to Overall Impression of the Course (Q15 to Q17), to Q15 the students were satisfied with group work however, to Q16, students were unable to clearly listen to the CD from the CD player that I used during zoom classes; to Q17, I could not complete the class work within 40 minutes as such the students had to join the class again and so that we could complete the 90 minutes class. I had to use 90 minutes because it was a listening course and the listening tasks were very impotrant.

外国語教育センター 外国語教育センター
松見 誌野 先生

2020年度Ｑ２ 「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名 英語IIリスニング＜全＞5
授業コード 11A26-017
教員名 松見 誌野
教員コード 104166
登録人数 24
回答数 13
回答率 54.2%
休講回数 0 回
補講回数 0 回



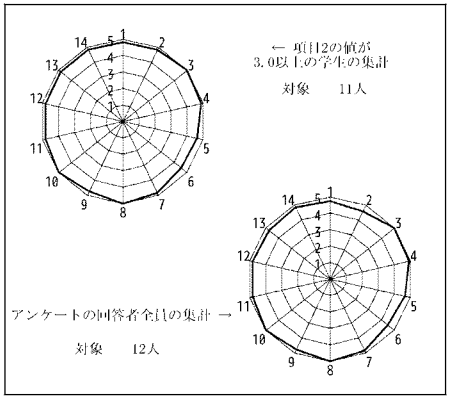
授業評価結果を踏まえた点検・評価

①開講当初に設定していた目標と到達の程度について：自然な2者の会話を聞き、内容理解ができるようになることを目標として設定した。Q6の「あなたはこの授業の到達目標に向けて力がついてきていると思いますか。」の問いに対し、平均値が4.23であったことから、概ね当初設定した目標に向けて力がついてきていると感じている受講生が多いと思われる。
②担当科目に関する総合的な自己点検・評価：初めてのオンライン授業で、私自身も受講生も試行錯誤しながら進めていった。WebClassのオンライン単語テスト実施の際は、トラブルも発生したが随時受講生とオンラインで解決することが出来、良かったと思う。
③今後の抱負：オンライン授業に私自身も受講生も慣れてきたので、Q1Q2の良かった点を維持しながら、新たな取り組みも入れていきたいと思う。オンライン授業ではペアワークやグループワークが出来ないので、単調になりがちなので、洋楽ディクテーション等を取り入れ、受講生が飽きずに学習できるよう工夫したい。

外国語教育センター 外国語教育センター
加藤　普由子　先生

2020年度Ｑ２　「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名　英語II翻訳＜全＞1
授業コード　14A06-001
教員名　加藤　普由子
教員コード　101654
登録人数　18
回答数　12
回答率　66.7%
休講回数　0 回
補講回数　0 回



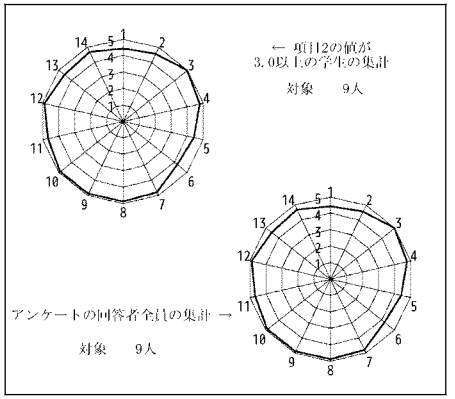
授業評価結果を踏まえた点検・評価

対象学生数18名のうち回答者数は12名であるため、6割強の評価であることを前提とする。今期はすべてが遠隔授業となり、対面授業にはない懸念があった。たとえば学生の参加、パソコンなどの機器の活用である。対面であれば互いの翻訳から学ぶアクティビティを実施するが、学年や学部がそれぞれ異なる初対面の学生同士をネット上で適切につなげる手段が思い浮かばなかった。全員がパソコンを持っているかもわからず、Microsoft Office製品等の使い勝手も不明であった。そのような状況下にあって、学生は授業内容に関心を持ち、主体的に参加し、内容を理解しようと努力したと、学生が自身を評価している（設問１と２の平均値は4.75と4.58）。実際、授業の様子から学生の主体的姿勢は実感できた。結果として、項目3から14の設問に対する平均値が4.83であり、また、設問14の全体満足度も4.83であることから、授業に対する期待におおむね応えられたのではないかと思う。
具体的には、月曜日を自主学習にあて、課題提出後の木曜日をZoom授業で提出課題のチェックや質疑応答にあてた。出来る限り、個々の学生の翻訳に言及するように努めた。また、Zoom授業で対応しきれなかった質問等については、WebClass内に質疑応答欄を設け、授業後でも対応できるようにした。自由記述回答にはこれらの点が良かったとの回答がある。Q3以降も遠隔授業の可能性が高い。Q1とQ2での経験を活かしていきたい。

外国語教育センター 外国語教育センター
IWASKOW, Roman　先生

2020年度Ｑ２　「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名　Special Topics in English: Contemporary Japan C2
授業コード　31C23-002
教員名　IWASKOW, Roman
教員コード　104145
登録人数　25
回答数　9
回答率　36.0%
休講回数　0 回
補講回数　0 回



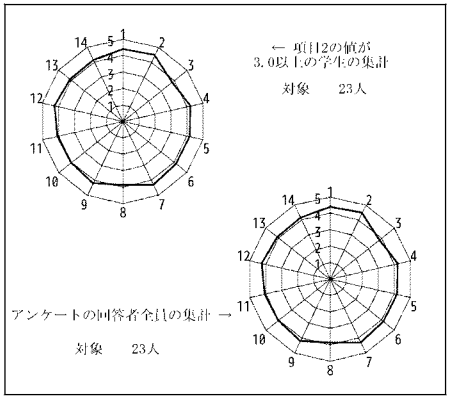
授業評価結果を踏まえた点検・評価

1. I followed the original syllabus that I submitted for Q2 and was able to complete the course as planned despite the handicap of working online, and having to make adjustments to the actual delivery, but was able to use Zoom every week to record attendance and explain instructions for the week's lesson. Worksheets which would have been done in class based on the videos shown had to be submitted as homework instead. Where students would normally have made two poster presentations in class, it was necessary to get them to present instead using the programme, Flipgrid. The students were able to perform well given precise instructions. The main drawback was the inability to hold a regular test based on the information taught throughout the course. Students were able to access worksheets for answers which they normally would not have been able to do in the classroom. The main purpose of the course was to make students aware of their own culture as invariably most turn their attention to western culture having little if any awareness of the richness of their own. Ideally this will enable them to be better prepared to explain their culture and avoid embarrassing silence when quizzed abroad, in particular.
2&3. Based on students' comments I achieved my goal. Ideally I will upgrade some worksheets to be more appropriate to their level.

外国語教育センター 外国語教育センター
MOORE, Jonathan 先生

2020年度Ｑ２ 「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名 ビジネス英語B1
授業コード 40E05-001
教員名 MOORE, Jonathan
教員コード 101410
登録人数 44
回答数 23
回答率 52.3%
休講回数 0 回
補講回数 0 回



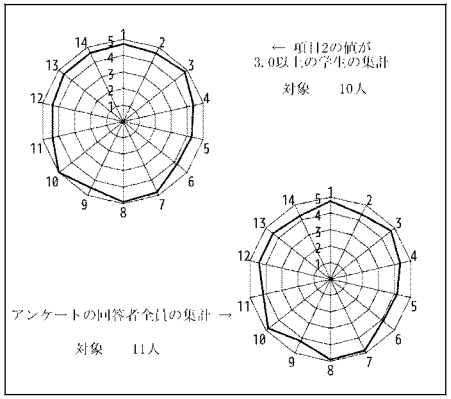
授業評価結果を踏まえた点検・評価

This quarter was taught online because of the COVID-19 pandemic. The overall scoring of the set of questions was very positive. Students were engaged in the lessons. Students were self-motivated to prepare for classes and projects, do assignments and review. They showed interest in English and realized the importance of English in the workplace. A syllabus was uploaded along with other materials for students. PowerPoint lectures were uploaded for students. The class was adjusted to the student's needs and level. The research and preparation of the projects and assignments outside of class was especially useful for independent and developmental learning. Effort was made to give each student individual consultation and instruction online. Students seemed very interested in acquiring communication skills for the workplace and knowledge of the business world. Students felt that they were able to acquire new knowledge, techniques and skills. Overall, students were very satisfied with the class.

外国語教育センター 外国語教育センター
VENEMA, James 先生

2020年度Ｑ２ 「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名 GLS English II8
授業コード 48A06-008
教員名 VENEMA, James
教員コード 102707
登録人数 21
回答数 11
回答率 52.4%
休講回数 0 回
補講回数 0 回



授業評価結果を踏まえた点検・評価

In general, I felt that the goals outlined at the outset of the course were met. Presentations and discussions are more challenging online than face to face. However, with the cooperation of the students and the use of Zoom technology, we were able to have relatively successful student presentations and discussions.